

第 2 部 研究発表関係

1. 学会等における研究発表テーマ調べ (総長)

総長

- 001 *Nimura Y*: Pancreatic cancer- Portal vein resection, When and How. Is it really useful? Pancreas Cancer, 2008, (Rome, Italy), [Lecture]
- 002 *Nimura Y*: Resectable pancreatic cancer - Evidence-based medicine review: Extended resections and lymphadenectomy: Interpretation. Pancreas Cancer, 2008, (Rome, Italy), [Plenary session]
- 003 *Nimura Y*: Diagnosis and treatment on Klatskin tumor. Shanghai Hepatobiliary and Pancreatic Surgery Forum, 2008, (Shanghai, China), [Lecture]
- 004 *Nimura Y*: HCC with bile duct invasion: Preoperative management and surgery. 6th International Meeting: Hepatocellular Carcinoma: Eastern and Western Experiences, 2008, (Seoul, Korea), [Special lecture]
- 005 *Nimura Y*: Does radical resection improve survival in gallbladder cancer? 2nd Biennial Congress of the Asian-Pacific Hepato-Pancreato-Biliary Association, 2009, (Bangkok, Thailand), [Special lecture]
- 006 二村雄次: 胆道外科 ゼロからの出発 ―梶谷流名古屋道場の軌跡―. 第93回日本臨床外科学会北海道支部総会, 2008, (函館), [特別講演]
- 007 二村雄次: 胆道学会のこれからの進むべき道. 第44回日本胆道学会学術集会, 2008, (名古屋), [理事長講演]

2. 学会等における研究発表テーマ調べ (病院)

病院長

- 001 篠田雅幸：院内がんとDPCからのQIの抽出。厚生労働省がん研究助成金「地域がん専門診療施設ソフト面の整備拡充に関する研究」研究班, 2008, (千葉)
- 002 篠田雅幸、安藤暢敏、加藤抱一、小澤壯治、清水秀昭、中村 努、青山法夫、栗田 啓、福田治彦他：術前補助療法の功罪-胸部食道がん術前術後化療第Ⅲ相試験 (JCOG9907) -. 第62回日本食道学会学術集会, 2008, (東京), 「シンポジウム」
- 003 H.Igaki, N.Ando, H.Kato, M.Shinoda, H.Shimizu, T.Nakamura, S.Ozawa, H.Yabusaki, N.Aoyama, A.Kurita, H.Fukuda : A randomized trial of postoperative adjuvant chemotherapy with cisplatin and 5-fluoruracil versus neoadjuvant chemotherapy for clinical stage II/III squamous cell carcinoma of the thoracic esophagus (JCOG 9907). American Society of Clinical Oncology, 2008, (アメリカ シカゴ)

消化器内科部

- 001 Sawaki A : Utility of endoscopic ultrasound guided fine needle aspiration for gastric submucosal tumors. BIT's Annual WORLD Cancer CONGRESS-2008. 2008. (Shanghai) [口演]
- 002 Sawaki A : Diagnosis and treatment for pancreatic cancer. Curso International de Endoscopia. 2008. (Colombia) [口演]
- 003 Sawaki A : Diagnosis of gastric submucosal tumor using EUS-FNA. Curso International de Endoscopia. 2008. (Colombia) [口演]
- 004 Sawaki A : Seguimiento a largo plazo de tumores stromales del tracto gastrointestinal. Curso International de Endoscopia. 2008. (Colombia) [口演]
- 005 Yamao K : Primer on EUS FNA. How I do it and when I use (and don't use) EUS FNA? 16th International Symposium on Endoscopic Ultrasonography. 2008. (San Francisco) [口演]
- 006 Yamao K : Interventional EUS. EUS-guided choledochoduodenostomy. 16th International Symposium on Endoscopic Ultrasonography. 2008. (San Francisco) [口演]
- 007 Hara K, Mizuno N, Takagi T, Sawaki A, Goto H, Yamao K. EUS-guided biliary drainage for the patients with malignant biliary ducts obstruction. 16th International Symposium on Endoscopic Ultrasonography. 2008. (San Francisco) [口演]
- 008 Sawai Y, Sawaki A, Mizuno N, Hara K, Takagi T, Nakamura T, Tajika M, Kawai H, Yamao K. Cyst Fluid Analysis of Pancreatic Cystic Lesions ; The Role of Endoscopic Ultrasound-Guided Fine Needle Aspiration (EUS-FNA) . 16th International Symposium on Endoscopic Ultrasonography. 2008. (San Francisco) [示説]

- 009 Takagi T, Hara K, Mizuno N, Sawaki A, Shimizu Y, Yamao Y. Door Knocking Method : A useful new technique for obtaining adequate sample in EUS-FNA. 16th International Symposium on Endoscopic Ultrasonography. 2008. (San Francisco) [示説]
- 010 Yamakita K, Sawaki A, Mizuno N, Hara K, T.Takagi, Nakamura T, Tajika M, Kawai H, Yamao K. Analysis of K-ras Point Mutation in Pancreatic Mass Lesions Using Endoscopic Ultrasonography-Guided Fine Needle Aspiration. 16th International Symposium on Endoscopic Ultrasonography. 2008. (San Francisco) [示説]
- 011 Sawaki A, Mizuno N, Takagi T, Hara K, Kobayashi Y, Sawai Y, Nakamura T, Tajika M, Kawai H, Yamao K : Diagnostic impact of endoscopic ultrasound guided fine needle aspiration for gastric submucosal tumors. UEGW2008. 2008. (Vienna) [示説]
- 012 Sawaki A : Diagnostic utility of endoscopic ultrasound guided fine needle aspiration for gastric submucosal tumors. Korean-Japan GIST meeting. 2008. (Seoul) [口演]
- 013 Mizuno N, Vikram B, Hara K, Takagi T, Sawaki A, Shimizu Y, Yamao K : Interventional EUS on pancreatobiliary diseases. "state of art lecture". The 8th Korea-Japan joint symposium on Gastrointestinal Endoscopy. 2009. (Seoul) [口演]
- 014 澤井勇悟、澤木 明、水野伸匡、石川英樹、伯耆徳之、高木忠之、中村常哉、田近正洋、河合宏紀、高山玲子、武田洋平、重川 稔、小林佑次、清水泰博、山雄健次：膵嚢胞性疾患に対する嚢胞液腫瘍マーカー測定および細胞診の意義。第94回日本消化器病学会総会。2008。(福岡) [口演]
- 015 近藤 哲、山雄健次：胆膵画像診断の進歩、第94回日本消化器病学会総会。2008。(福岡) [司会 (シンポジウム)]
- 016 重川 稔、山雄健次、仲田文造：切除不能膵癌に対する超音波内視鏡下生検 (EUA-FNA) 標本を用いた遺伝子発現解析の有用性。第94回日本消化器病学会総会。2008。(福岡) [パネルディスカッション]
- 017 伯耆徳之、澤木 明、山雄健次：進行消化器癌の集学的治療 (肝癌を除く) 局所進行膵癌に対する化学放射線療法の意義。第94回日本消化器病学会総会。2008。(福岡) [ワークショップ]
- 018 田近正洋、谷田部恭、中村常哉、河合宏紀、横井太紀雄、澤木 明、水野伸匡、高木忠之、澤井勇悟、小林佑次、山雄健次：大腸composite adenoma-carcinoid tumorの臨床病理学的特徴。第94回日本消化器病学会総会。2008。(福岡) [示説]
- 019 清水泰博、佐野 力、山村義孝、平井 孝、金光幸秀、伊藤誠二、望月能成、小森康司、安藤公隆、加藤智行、二村雄次、山雄健次：術後成績からみた膵管内乳頭粘液性腫瘍 (IPMN)の手術適応の再検討 長期経過観察後に切除した症例の経過を含めて。第108回日本外科学会定期学術集会。2008。(長崎) [シンポジウム]
- 020 細田和貴、山雄健次、谷田部恭：超音波内視鏡下穿刺吸引

- EUS-FNAによる微小検体での膵腫瘍診断の分子生物学的マーカーの有用性の検討. 第97回日本病理学会総会. 2008. (金沢) [口演]
- 021 高木忠之、水野伸匡、山雄健次：Sonazoidを用いた膵疾患に対する造影EUSの試み. 第94回日本消化器病学会総会. 2008. (福岡) [シンポジウム]
- 022 澤木 明：GIST診断と治療. FUKUOKA GIST SEMINAR. 2008. (福岡) [特別講演]
- 023 坪井順哉、中村常哉、河合宏紀、田近正洋、澤木 明、水野伸匡、高木忠之、澤井勇悟、小林佑次、杉森聖司、松本和也、山雄健次：食道浸潤を認め、化学療法を行ったH.pylori陰性胃MALTリンパ腫の1例. 第108回日本消化器病学会東海支部例会. 2008. (岐阜) [口演]
- 023 山北圭介、中村常哉、河合宏紀、田近正洋、澤木 明、水野伸匡、高木忠之、澤井勇悟、小林佑次、杉森聖司、松本和也、坪井順哉、山雄健次：食道浸潤を認め、化学療法を行ったH.pylori陰性胃MALTリンパ腫の1例. 第108回日本消化器病学会東海支部例会. 2008. (岐阜) [口演]
- 025 田近正洋、中村常哉、河合宏紀、澤木 明、水野伸匡、原和生、高木忠之、澤井勇悟、小林佑次、松本和也、杉森聖司、山北圭介、坪井順哉、山雄健次：当施設における大腸陥凹性腫瘍の頻度と特徴. 第69回大腸癌研究会. 2008. (東京) [一般演題]
- 026 武田洋平、山雄健次、高木忠之：悪性下部胆管狭窄に伴う閉塞性黄疸に対する超音波内視鏡下胆道ドレナージ術. 第75回日本消化器内視鏡学会総会. 2008. (横浜) [一般演題 (ミニビデオシンポジウム)]
- 027 山雄健次、入澤篤志：Interventional EUSの進歩. 第75回日本消化器内視鏡学会総会. 2008. (横浜) [司会 (シンポジウム)]
- 028 高山玲子、水野伸匡、山雄健次：当院におけるEUS-FNAの現状とTherapeutic EUSへの応用. 第75回日本消化器内視鏡学会総会. 2008. (横浜) [シンポジウム]
- 029 石川英樹、細川武彦、山雄健次：十二指腸乳頭部腫瘍に対する内視鏡的乳頭切除術の治療戦略-手技の工夫とコツ、偶発症対策-. 第75回日本消化器内視鏡学会総会. 2008. (横浜) [一般演題 (ミニビデオシンポジウム)]
- 030 水野伸匡：膵内視鏡治療・EUS-FNA. 第75回日本消化器内視鏡学会総会. 2008. (横浜) [司会 (口演)]
- 031 山雄健次、入澤篤志：Interventional EUSの進歩. 第75回日本消化器内視鏡学会総会. 2008. (横浜) [司会 (シンポジウム)]
- 032 小林佑次、水野伸匡、澤木 明、伯耆徳之、高木忠之、山雄健次、清水泰博、細田和貴、谷田部恭、佐々木恵子：膵内分泌腫瘍 (PNET) の治療方針決定における超音波内視鏡下穿刺吸引法 (EUS-FNA) の臨床的意義. 第75回日本消化器内視鏡学会総会 第4回超音波内視鏡下生検法の診断向上のための研究会. 2008. (横浜) [口演]
- 033 高木忠之、清水泰博、山雄健次：膵疾患に対するInterventional EUSによる診断と治療. 第75回日本消化器内視鏡学会総会. 2008. (横浜) [ミニビデオシンポジウム]
- 031 高木忠之、澤木 明、伯耆徳之、水野伸匡、高山玲子、武田洋平、澤井勇悟、小林佑次、中原 修、山雄健次：胆管下部狭窄による閉塞性黄疸に対する超音波内視鏡下胆道ドレナージ術の検討. 第75回日本消化器内視鏡学会総会 第4回超音波内視鏡下生検法の診断向上のための研究会. 2008. (横浜) [ワークショップ]
- 035 山雄健次、水野伸匡、清水泰博：UPMN/MCNの疾患概念の歴史の変遷. 第20回日本肝胆膵外科学会. 2008.05.28 (山形) [教育シンポジウム]
- 036 武田和憲、山雄健次：IPMN. 第20回日本肝胆膵外科学会. 2008. (山形) [ミニシンポジウム]
- 037 清水泰博、佐野 力、小森康司、安藤公隆、二村雄次、山雄健次：切除成績からみた膵管内乳頭粘液性腫瘍 (IPMN) の手術適応の再検討-長期経過観察した症例の臨床経過を含めて-. 第20回日本肝胆膵外科学会. 2008. (山形) [ミニシンポジウム]
- 038 松本和也、山雄健次：膵疾患に対する超音波内視鏡下穿刺生検の有用性. 第49回日本臨床細胞学会総会. 2008. (東京) [ワークショップ]
- 039 山雄健次：消化器①. 第49回日本臨床細胞学会総会. 2008. (東京) [座長 (口演)]
- 040 山雄健次：IPMN由来浸潤癌の画像診断. 第9回北海道消化器画像・MIT研究会. 2008. (札幌) [特別講演]
- 041 澤木 明：第3回神戸GISTセミナー. 2008. (神戸) [特別講演]
- 042 松本和也、水野伸匡、澤木 明、原 和生、高木忠之、中村常哉、田近正洋、河合宏紀、澤井勇悟、小林佑次、杉森聖司、山北圭介、坪井順哉、山雄健次：胆管癌との識別に苦慮し、自己免疫性膵炎に伴う硬化性胆管炎と考えられた1例. 日本消化器病学会東海支部第108回例会. 2008. (岐阜) [口演]
- 043 山雄健次：肝胆膵. 第9回臨床消化器病研究会. 2008. (横浜) [司会]
- 044 安藤公隆、清水泰博、佐野 力、千田嘉毅、二村雄次、原和生、高木忠之、水野伸匡、澤木 明、山雄健次：術後6年目に腹膜播種再発を見とめた膵SPTの1例. 第9回臨床消化器病研究会. 2008. (横浜) [口演]
- 045 安藤公隆、清水泰博、佐野 力、千田嘉毅、山雄健次、澤木 明、水野伸匡、伯耆徳之、高木忠之、二村雄次：粘液癌とIPMN由来浸潤癌との鑑別が問題となった3例. 第39回日本膵臓学会大会. 2008. (横浜) [示説]
- 046 澤井勇悟、澤木 明、水野伸匡、伯耆徳之、高木忠之、高山玲子、武田洋平、中原 修、清水泰博、山雄健次：膵嚢胞性疾患に対する嚢胞液腫瘍マーカー測定および細胞診の意義. 第39回日本膵臓学会大会. 2008. (横浜) [口演]
- 047 水野伸匡、洪 繁、山雄健次、後藤秀実：自己免疫性膵炎 (AIP) および特発性慢性膵炎 (ICP) における膵内・外分泌. 第39回日本膵臓学会大会. 2008. (横浜) [ワークショップ]
- 048 高木忠之、清水泰博、山雄健次：当院における10mm以下の小膵癌の検討. 第39回日本膵臓学会大会. 2008. (横浜) [ワークショップ]

- 049 山雄健次、清水泰博：MCNとIPMNは異なる疾患.第39回日本膵臓学会大会. 2008. (横浜) [ラウンドテーブルディスカッション]
- 050 山雄健次、木村 理：「IPMNをめぐる：手術vs経過観察」. 第39回日本膵臓学会大会. 2008. (横浜) [司会 (パネルディスカッション)]
- 051 山雄健次：IPMN/MCN国際診療ガイドラインを検証する. 第39回日本膵臓学会大会. 2008. (横浜) [ランチョンセミナー講演]
- 052 高木忠之、清水泰博、山雄健次：当院における10mm以下の小膵癌の検討. 第39回日本膵臓学会大会. 2008. (横浜) [ワークショップ]
- 053 清水泰博、佐野 力、安藤公隆、二村雄次、水野伸匡、高木忠之、山雄健次：IPMNをめぐる 手術VS経過観察 膵管内乳頭粘液性腫瘍 (IPMN) の手術適応の再検討 経過観察後に切除した症例を含めて. 第39回日本膵臓学会大会. 2008. (横浜) [パネルディスカッション]
- 054 山雄健次：膵癌セッション・胆道癌セッション. 症例に学ぶ膵・胆道癌治療の実際. 2008. (京都) [総合司会]
- 055 安藤公隆、清水泰博、佐野 力、千田嘉毅、二村雄次、原和生、高木忠之、水野伸匡、山雄健次：血清CA19-9異常高値が診断の契機となった膵IPMN由来浸潤癌の1例. 第37回肝胆膵治療研究会. 2008. (名古屋) [一般演題]
- 056 澤木 明：GIST診断と治療～日本版GIST診療ガイドライン等について～. 北九州GISTセミナー. 2008. (北九州) [特別講演]
- 057 松本和也、高木忠之、水野伸匡、澤木 明、原 和生、澤井勇悟、小林佑次、杉森聖司、山北圭介、坪井順哉、清水泰博、佐野 力、千田嘉毅、安藤公隆、山雄健次：EUS-FNAが確定診断に有用であった乳頭部癌の2例. FNA club. 2008. (名古屋) [口演]
- 058 原 和生、高木忠之、澤木 明、水野伸匡、澤井勇悟、小林佑次、清水泰博、後藤秀実、山雄健次：悪性下部胆管狭窄による閉塞性黄疸に対する超音波内視鏡下胆道内瘻の検討.第44回日本胆道学会学術集会. 2008. (名古屋) [ワークショップ]
- 059 清水泰博、佐野 力、小森康司、千田嘉毅、安藤公隆、二村雄次、山雄健次：胆管非拡張型膵胆管合流異常の治療成績.第44回日本胆道学会学術集会. 2008. (名古屋) [示説]
- 060 高木忠之、原 和生、水野伸匡、澤木 明、澤井勇悟、小林佑次、松本和也、山北圭介、杉森聖司、坪井順哉、清水泰博、佐野 力、千田嘉毅、安藤公隆、山雄健次：EUS-FNAが術前診断に有用であった非露出腫瘍型乳頭部癌の1例.第44回日本胆道学会学術集会. 2008. (名古屋) [示説]
- 061 小林佑次、高木忠之、原 和生、水野伸匡、澤木 明、清水泰博、山雄健次：超音波内視鏡下胆管十二指腸吻合術 (EUS-CDS) にて、長期生存、および長期の減黄効果を得られている乳頭部癌の一例. 第44回日本胆道学会学術集会. 2008. (名古屋) [口演]
- 062 澤木 明：GIST診断と治療～日本版GIST診療ガイドライン等について～. 第1回広島GIST研究会. 2008. (広島) [特別講演]
- 063 安藤公隆、清水泰博、佐野 力、千田嘉毅、二村雄次、原和生、高木忠之、水野伸匡、澤木 明、山雄健次、細田和貴、谷田部恭、藤本正夫：粘液癌とIPMN由来浸潤癌の鑑別が問題となった膵頭部癌の1例. 第63回東海胆道研究会. 2008. (名古屋) [口演]
- 064 松本和也、澤木 明、山雄健次：局所進行膵癌に対する化学放射線療法の意義. JDDW2008. 2008. (東京) [示説]
- 065 松本和也、八島一夫、村脇義和：小胃癌・微小胃癌に対する胃内視鏡検査の有効性の検討. JDDW2008. 2008. (東京) [示説]
- 066 洪 繁、水野伸匡、後藤秀実：自己免疫性膵炎の診断・治療：ステロイド投与の意義JDDW2008.2008. (東京) [シンポジウム]
- 067 武藤俊博、清水泰博、佐野 力、水野伸匡、山雄健次、二村雄次：Osler-Weber-Rendu病に合併した膵動静脈奇形の1例. JDDW2008. 2008. (東京) [口演]
- 068 山北圭介、重川 稔、山雄健次：自己免疫性膵炎に対するステロイド治療の効果判定におけるFDG-PETの意義. JDDW2008. 2008. (東京) [シンポジウム]
- 069 澤井勇悟、水野伸匡、山雄健次：膵癌のリスクファクターとしての膵管内乳頭粘液性腫瘍 (IPMN) の検討. JDDW2008. 2008. (東京) [ワークショップ]
- 070 原 和生、清水泰博、山雄健次：悪性下部胆管狭窄に対する超音波内視鏡下胆道ドレナージ術 (EUS-BD) の検討. JDDW2008. 2008. (東京) [ビデオシンポジウム]
- 071 水野伸匡、細田和貴、山雄健次：超音波内視鏡下trucut生検 (EUS-TCB) を用いた自己免疫性膵炎 (AIP) の病理診断. JDDW2008. 2008. (東京) [ワークショップ]
- 072 河合宏紀、中村常哉、田近正洋、澤木 明、水野伸匡、高木忠之、澤井勇悟、小林佑次、山雄健次：臨床病期 I 期 (T1N0M0) 食道癌に対する非手術療法の検討. 第76回日本消化器内視鏡学会総会. 2008. (東京) [示説]
- 073 小林佑次、中村常哉、山雄健次：胃癌のスクリーニング検査としての新規血清マーカーREG4の臨床的有用性. JDDW2008. 2008. (東京) [シンポジウム]
- 074 田近正洋、谷田部恭、中村常哉、河合宏紀、横井太紀雄、澤木 明、水野伸匡、高木忠之、澤井勇悟、小林佑次、山雄健次：大腸composite adenoma-carcinoma tumorの臨床病理学的特徴. 第50回日本消化器病学会大会. 2008. (東京) [ポスター]
- 075 澤木 明：耐性GISTの治療戦略. 近畿GIST研究会. 2008. (大阪) [特別講演]
- 076 山雄健次：膵癌診断・治療の新たな展開. 第10回膵治療を考える会. 2008. (大阪) [特別講演]
- 077 安柄 九、近藤 豊、新城恵子、伊藤元一、長田啓隆、藤井万紀子、村上秀樹、平井 孝、金光幸秀、小森康司、山雄健次、澤木 明、関戸好孝：大腸癌の分子生物学的知見と治療への応用 大腸がんにおけるDNAメチル化の発がん過程への関与とその臨床応用. 第63回日本大腸肛門病学会学術集会. 2008. (東京) [口演]
- 078 安柄 九、近藤 豊、新城恵子、後藤康洋、藤井万紀子、

- 村上秀樹、長田啓隆、小森康司、山雄健次、中村常哉、澤木 明、関戸好孝：大腸がん症例の正常粘膜におけるDNAメチル化の解析。第67回日本癌学会学術総会。2008。(名古屋) [口演]
- 079 松本和也、澤木 明、河合宏紀、原 和生、水野伸匡、田近正洋、伯耆徳之、清水泰博、山雄健次：局所進行腺癌に対する化学放射線療法の意義。第46回日本癌治療学会総会。2008。(名古屋) [口演]
- 080 設楽純平、室 圭、宇良 敬、高張大亮、横田知哉、澤木 明、河合宏紀、伊藤誠二、山村義孝：Post ACTS-GS時代の再発胃癌にS-1を含む治療は標準療法となるか？第46回日本癌治療学会総会。2008。(名古屋) [口演]
- 081 山北圭介、原 和生、河合宏紀、水野伸匡、田近正洋、澤木 明、清水泰博、山雄健次：悪性下部胆管狭窄に伴う閉塞性黄疸に対する超音波内視鏡下胆道ドレナージ術の検討。第46回日本癌治療学会総会。2008。(名古屋) [口演]
- 082 澤木 明：GIST診断と治療。東北信GISTセミナー。2008。(長野) [特別講演]
- 083 山雄健次：Interventional EUSによる膵がんの診断と治療。第90回日本消化器病学会四国支部例会・第101回日本消化器内視鏡学会四国地方会。2008。(松山) [イブニングセミナー]
- 084 所 嘉朗、鈴木 緑、小林雅子、岡田恭孝、佐々木英一、細田和貴、北村淳子、山雄健次、越川 卓、谷田部恭：膵疾患に対する超音波内視鏡下穿刺吸引法の有用性。第47回日本臨床細胞学会。2008。(東京) [ワークショップ]
- 085 澤木 明：GIST診断と治療。千葉GIST Meeting 2008。2008。(千葉) [特別講演]
- 086 松本和也、田近正洋、中村常哉：当施設における直腸腫瘍に対する内視鏡治療の現状。日本消化器病学会東海支部第109回例会。2008。(名古屋) [シンポジウム]
- 087 山雄健次：膵癌の診断と治療—Up to date—。第13回東京膵臓研究会。2008。(東京) [特別講演]
- 088 澤木 明：GIST治療におけるスーテントの使用経験。スーテント適正使用講演会。2008。(熊本) [特別講演]
- 089 安田一郎、藤田直孝、真口宏介、小松 裕、長谷部修、五十嵐良典、村上晶彦、向井秀一、藤井常志、山雄健次、眞柴城兼清、辻野 武、多田知子：総胆管結石に対する内視鏡治療の短期・長期予後 Multi-center randomized controlled trial (JESEdstudy)。第70回日本臨床外科学会総会。2008。(東京) [口演]
- 090 清水泰博、佐野 力、山村義孝、平井 孝、金光幸秀、伊藤誠二、小森康司、千田嘉毅、三澤一成、安藤公隆、二村雄次、山雄健次：自然史からみた膵管内乳頭粘液性腫瘍 (IPMN)の手術適応の再検討 術後成績および長期経過観察の臨床経過から。第70回日本臨床外科学会総会。2008。(東京) [パネルディスカッション]
- 091 澤木 明：GIST診断と治療～日本版GIST診療ガイドライン等について～。名古屋非上皮性腫瘍研究会。2008。(名古屋) [特別講演]
- 092 河合宏紀、中村常哉、田近正洋、澤木 明、水野伸匡、高木忠之、原 和生、澤井勇悟、小林佑次、杉森聖司、松本和也、坪井順哉、山雄健次：内視鏡的粘膜切除術 (EMR) が困難なため内視鏡的粘膜下層剥離術 (ESD) を施行した食道扁平上皮癌の3例。第51回日本消化器内視鏡学会東海地方学会。2008。(名古屋) [口演]
- 093 山雄健次：癌治療の現状と将来—最近の進歩—愛知県がんセンター県民講座。2008。(名古屋) [司会 (県民講座)]
- 094 山雄健次：膵癌の診断と治療。伊勢地区消化器談話会特別講演会。2009。(三重) [特別講演]
- 095 山雄健次：治療EUSの現状と将来。第2回近畿超音波内視鏡研究会。2009。(大阪) [特別講演]
- 096 高木忠之、原 和生、水野伸匡、澤木 明、山雄健次、清水泰博：膵疾患の診断におけるEUS-FNAの役割。第38回肝胆膵治療研究会。2009。(名古屋) [シンポジウム]
- 097 松本和也、澤木 明、水野伸匡、田近正洋、河合宏紀、原 和生、高木忠之：当院における消化管間葉系腫瘍 (GIST)に対するスニチニブによる治療経験。第7回日本臨床腫瘍学会学術集会。2009。(名古屋) [口演]

内視鏡部

- 001 中村常哉：H.pylori と胃疾患—特に胃癌および胃MALTリンパ腫との関連—。第20回TSURUMA会。2008。(一宮) [講演]
- 002 中村常哉：一般演題 胃症例17。第94回日本消化器病学会総会。2008。(福岡) [座長]
- 003 田近正洋、河合宏紀、中村常哉：大腸腺腫に対する内視鏡的切除後のサーベイランスに関する検討。第94回日本消化器病学会総会。2008。(福岡) [シンポジウム]
- 004 中原 修、田近正洋、中村常哉：家族性大腸腺腫症の臨床徴候と術後経過に関する検討。第94回日本消化器病学会総会。2008。(福岡) [ワークショップ]
- 005 中村常哉：一般演題 胃悪性リンパ腫。第75回日本消化器内視鏡学会総会。2008。(横浜) [座長]
- 006 中原 修、田近正洋、中村常哉：家族性大腸腺腫症の術後残存下部消化管のサーベイランスにおける内視鏡の役割。第75回日本消化器内視鏡学会総会。2008。(横浜) [パネルディスカッション]
- 007 中村常哉：一般演題 胃悪性リンパ腫。第108回日本消化器病学会東海支部例会。2008。(岐阜) [座長]
- 008 坪井順哉、中村常哉、河合宏紀、田近正洋、澤木明、水野伸匡、高木忠之、澤井勇悟、小林佑次、杉森聖司、松本和也、山雄健次：食道浸潤を認め、化学療法を行ったH.pylori陰性胃MALTリンパ腫の1例。第108回日本消化器病学会東海支部例会。2008。(岐阜) [口演]
- 009 山北圭介、中村常哉、河合宏紀、田近正洋、澤木明、水野伸匡、高木忠之、澤井勇悟、小林佑次、杉森聖司、松本和也、坪井順哉、山雄健次：低分化腺癌を合併した鳥肌胃炎の1例。第108回日本消化器病学会東海支部例会。2008。(岐阜) [口演]
- 010 田近正洋、中村常哉、河合宏紀、澤木 明、水野伸匡、原 和生、高木忠之、澤井勇悟、小林佑次、松本和也、杉森

- 聖司, 山北圭介, 坪井順哉, 山雄健次: 当施設における大腸陥凹性腫瘍の頻度と特徴. 第69回大腸癌研究会、2008、(東京) [一般演題]
- 011 澤井勇悟, 中村常哉, 河合宏紀, 田近正洋, 波戸岡俊三: LSBEに発生したバレット腺癌の1例. 第59回食道色素研究会、2008、(東京) [口演]
- 012 中村常哉: H.pylori と胃疾患—特に胃癌および胃MALTリンパ腫との関連—. 第20回TSURUMA会、2008、(名古屋) [口演]
- 013 中村常哉: 消化器疾患の基礎 —食道・胃疾患. 第20回川嶋セミナー、2008、(名古屋) [講演]
- 014 小林佑次, 中村常哉, 山雄健次: 胃癌のスクリーニング検査としての新規血清マーカーREG4の臨床的有用性. 第76回日本消化器内視鏡学会総会 (JDDW)、2008、(東京) [シンポジウム]
- 015 田近正洋, 横井太紀雄, 中村常哉: 上部消化管内視鏡検査 (GIF) による早期胃癌の病巣内潰瘍 (UL) の術前診断能に関する検討. 第76回日本消化器内視鏡学会総会 (JDDW)、2008、(東京) [パネルディスカッション]
- 016 中村常哉: 一般演題 胃EUS. 第76回日本消化器内視鏡学会総会 (JDDW)、2008、(東京) [座長]
- 017 河合 宏紀, 中村 常哉, 田近 正洋, 澤木 明, 水野 伸匡、高木 忠之, 澤井 勇悟, 小林 佑次, 山雄 健次: 臨床病期I期 (T1N0M0) 食道癌に対する非手術療法の検討. 第76回日本消化器内視鏡学会総会 (JDDW)、2008、(東京) [ポスター]
- 018 田近正洋, 谷田部恭, 中村常哉, 河合宏紀, 横井太紀雄, 澤木 明, 水野伸匡, 高木忠之, 澤井勇悟, 小林佑次, 山雄健次: 大腸composite adenoma-carcinoma tumorの臨床病理学的特徴. 第50回日本消化器病学会大会、2008、(東京) [ポスター]
- 019 中村常哉: 胃癌治療の現状について. 中村区医師会講演会、2008、(名古屋) [講演]
- 020 中村常哉: 胃MALTリンパ腫の治療の現状と遺伝子解析の進展. メディカルカンファランス、2008、(名古屋) [座長]
- 021 中村常哉: H.pylori除菌療法の反応性とt(11;18)(q21;q21)転座の有無からみた胃MALTリンパ腫の病態. 病院研究所合同セミナー、2008、(名古屋) [講演]
- 022 河合宏紀, 中村常哉, 田近正洋, 澤木 明, 水野伸匡, 高木忠之, 原 和生, 澤井勇悟, 小林佑次, 杉森聖司, 松本和也, 坪井順哉, 山雄健次: 内視鏡的粘膜切除術 (EMR) が困難なため内視鏡的粘膜下層剥離術 (ESD) を施行した食道扁平上皮癌の3例. 第51回日本消化器内視鏡学会東海地方会、2008、(名古屋) [口演]
- 023 中村常哉: 食道癌ESDの適応と基本手技 (小山恒男講演). 第19回日本消化器内視鏡学会東海セミナー、2009、(名古屋) [司会]
- 024 中村常哉: Diagnosis and treatment of gastric MALT lymphoma. 第4回上級早期胃癌診断コース 早期消化器癌の診断と治療 (JICAセミナー)、2009、(東京) [講演]
- 025 河合宏紀: S-1療法が奏効した乳頭部癌術後再発の1例. 第3回消化器がん化学療法研究会、2009、(名古屋) [口演]
- 026 中村常哉: 胃MALTリンパ腫の診断と治療の進歩. 第81回日本胃癌学会総会2009、(東京) [講演]
- 027 河合宏紀, 田近正洋, 澤木 明, 水野伸匡, 高木忠之, 松本和也: 他臓器癌に対する化学放射線療法により一時的なCRを得た早期胃癌の1例. 第7回 日本臨床腫瘍学会学術大会、2009、(名古屋) [ポスター]

呼吸器内科部

- 001 *Hida T, Okamoto I, Kasbii T, Satouchi M, Ichinose Y, Kakakami N, Ando M, Kurata T, Nakagawa K, Fukuoka M*: Randomized phase III study of platinum-doublet chemotherapy followed by gefitinib versus continued platinum-doublet chemotherapy in patients (pts) with advanced non-small cell lung cancer (NSCLC) :Results of West Japan Thoracic Oncology Group trial(WJTOG0203) .ASCO,LBA8012,2008,(シカゴ),[口演]
- 002 *Morita S, Hisashima T, Hagiwara K, Hida T, Sunaga N, Sugio K, Inoue A, Yamazaki K, Mitudomi T, Nukiwa T*: Gefitinib Combined Survival Analysis of the Mutation Positives from the Prospective Phase II Trials(I-CAMP).ASCO,2008,(シカゴ),[ポスター]
- 003 *Oizumi S, Hirashima T, Kobayashi K, Hida T, Sunaga N, Sugio K, Inoue A, Yamazaki K, Mitsudomi T, Morita S, Fukuoka M, Nukiwa T*: Gefitinib(Iressa)Combined Survival Analysis of the Mutation Positives fro the Prospective Phase II Trials(I-CAMP).APSR,2008,(バンコク),[ポスター]
- 004 *Okamoto I, Hida T, Takeda K, Satouchi M, Ichinose Y, Katakami N, Ando M, Kurata T, Nakagawa K, Fukuoka M*: Randomized phase III study of platinum-doublet chemotherapy in patients with advanced non-small cell lung cancer:Results of West Japan Thoracic Oncology Group trial(WJTOG 0203).ESMO,2008,(ストックホルム) ,[ポスター]
- 005 *Yoshida K, Okamoto, I, Kobayashi K, Sunaga N, Sugio K, Inoue a, Yamazaki K, Morita S, Nukiwa T, Fukuoka M*: Comparison between cytotoxic chemotherapy and gefitinib monotherapy as 1st line setting in epidermal growth factor receptor mutation positive non-small cell lung cancer patients. E S M O, 2008, (ストックホルム) ,[ポスター]
- 006 永井英雄, 杉戸伸好, 松原秀雄, 立松義郎, 樋田豊明, 関戸好孝, 椰野正人, 二村雄次, 高橋隆, 長田啓隆: CLCP1 interacts with semaphoring 4B and regulates motility of lung cancer cells. 第67回日本癌学会, 2008, (名古屋) [ポスター]
- 007 堀尾芳嗣, 清水淳市, 長田啓隆, 樋田豊明, 関戸好孝: mRNA expression of RanBP2 is unlikely to be associated with chemosensitivity of amrubicine in lung cancer cell lines. 第67回日本癌学会, 2008 (名古屋) [ポスター]
- 008 岡坂敏樹, 松尾恵太郎, 鈴木勇史, 川瀬孝和, 谷田部恭,

- 樋田豊明、光富徹哉、田島和雄、横井香平、田中英夫：hOGGI Ser326Cys polymorphism impacts on risk of small cell lung cancer with possible interaction with smoking habit. 第67回日本癌学会,2008 (名古屋), [ポスター]
- 009 立松明子、清水淳市、堀尾芳嗣、中村栄男、樋田豊明、光富徹哉、谷田部恭：C EGFR mutation and amplification in small cell lung cancer. 第67回日本癌学会,2008 (名古屋), [ポスター]
- 010 長田啓隆、立松義郎、冨田秀太、谷田部恭、堀尾芳嗣、樋田豊明、藤井万紀子、村上秀樹、近藤 豊、関戸好孝、高橋隆：ADw1,a novel gene,is frequently inactivated in lung cancer and involved in cell-cell contact. 第67回日本癌学会,2008(名古屋) [口演]
- 011 田島 健、大橋里奈、平間未知大、嶋田奈緒子、山崎万里子、佐藤弘一、伊藤 潤、守尾嘉晃、瀬山邦明、樋田豊明、関戸好孝、高橋和久：胸膜中皮腫におけるオステオポンチンの抗がん剤耐性に対する検討.第49回日本肺癌学会,2008 (小倉), [ポスター]
- 012 清水淳市、朴智栄、朴将哲、小川紫都、堀尾芳嗣、吉田公秀、樋田豊明、谷田部恭、山本一仁：浸潤型胸腺腫の経過中に急性リンパ性白血病を発症した1例.第49回日本肺癌学会,2008 (小倉) [ポスター]
- 013 小川紫都、堀尾芳嗣、森 正一、朴智栄、朴将哲、清水淳市、吉田公秀、小林 零、片山達也、福井高幸、伊藤志門、波戸岡俊三、光富徹哉、谷田部恭、樋田豊明：小細胞肺癌化学放射線治療後5年以上経過して発症した肺腺がんの一例. 第49回日本肺癌学会,2008 (小倉) [ポスター]
- 014 岡坂敏樹、松尾恵太郎、鈴木勇史、川瀬孝和、谷田部恭、樋田豊明、光富徹哉、田島和雄、横井香平、田中英夫：hOGG1およびGST遺伝子多型と喫煙習慣の肺がんリスクにおよぼす影響：第49回日本肺癌学会,2008 (小倉), [ポスター]
- 015 片山達也、清水淳市、須田建一、小野里良一、斉藤卓也、小林 零、福井高幸、伊藤志門、波戸岡俊三、篠田雅幸、樋田豊明、谷田部恭、光富徹哉：gefitinibが抵抗性となった後にErlotinibを投与した非小細胞肺癌中枢神経転移症例の検討：第49回日本肺癌学会,2008 (小倉), [口演]
- 016 堀尾芳嗣、朴智栄、朴将哲、小川紫都、清水淳市、吉田公秀、小林 零、片山達也、福井高幸、伊藤志門、森 正一、波戸岡俊三、光富徹哉、谷田部恭、樋田豊明：同時性多発肺がんの治療：縦隔リンパ節腫脹を伴う場合を含めて：第49回日本肺癌学会,2008 (小倉) [口演]
- 017 西村尚志、片上信之、樋田豊明、岡本 勇、菓子井達彦、里内美弥子、一瀬幸人、安藤昌彦、倉田宝保、中川和彦、福岡正博：3B/4期NSCLCに対する標準治療+逐次ゲフィチニブ併用対標準治療単独の無作為化第3相比較試験 (WJTOG0203) . 第49回日本肺癌学会,2008 (小倉) [ワークショップ]
- 018 砂長即明、柳谷典子、山崎浩一、朝比奈肇、井上 彰、西條康夫、荻原弘一、小林国彦、森田智視、樋田豊明、吉田公秀、光富徹哉、岡本 勇、平島智徳、杉尾賢二、貫和敏博、福岡正博：EGFR遺伝子変異を有する進行非小細胞肺
- 癌患者を対象としたgefitinib治療prospective試験統合解析. 第49回日本肺癌学会,2008 (小倉) [ワークショップ]
- 019 新城恵子、近藤 豊、後藤康洋、横山俊彦、藤井万紀子、村上秀樹、長田啓隆、堀尾芳嗣、樋田豊明、関戸好孝：EGFR変異のない非小細胞肺癌でDNAメチルは高頻度に検出される： 第49回日本肺癌学会,2008 (小倉) [ワークショップ]
- 020 吉田公秀、谷田部恭、小川紫都、朴智栄、清水淳市、堀尾芳嗣、松尾恵太郎、光富徹哉、樋田豊明：非小細胞肺癌化学療法におけるEGFR遺伝子変異と効果・予後についての検討. 第48回日本呼吸器学会総会. 2008(福岡),[ミニシンポジウム]
- 021 吉田公秀：がん診療の現場から.名古屋学院敬愛同窓会本部総会記念講演.2008 (名古屋) [講演]
- 022 清水淳市：がん対策と薬剤師～緩和ケアの連携を考える～.東海薬剤師学術大会.2008 (名古屋)
- 023 小川紫都、堀尾芳嗣、朴智栄、朴将哲、清水淳市、吉田公秀、福本紘一、小林 零、齋藤卓也、片山達也、福井高幸、伊藤志門、波戸岡俊三、谷田部恭、光富徹哉、樋田豊明：当院における小細胞肺癌切除例の後方視的検討.第9回日本臨床腫瘍学会,2009 (名古屋) [ポスター]
- 024 堀尾芳嗣、小森康永、小川紫都、朴智栄、朴将哲、清水淳市、吉田公秀、樋田豊明：急性精神症状を呈した小細胞肺癌の4例.第7回日本臨床腫瘍学会,2009 (名古屋), [ポスター]
- 025 里内美弥子、武田晃司、岡本 勇、一瀬幸人、西村尚志、山本信之、松井 薫、中西洋一、岩本康男、海老規之、坂英雄、安藤昌彦、樋田豊明、中川和彦、福岡正博：進行非小細胞癌 (NSCLC) に対する標準治療+逐次ゲフィチニブ対標準治療単独の無作為化第3相比較試験 (WJTOG0203) .第7回日本臨床腫瘍学会,2009 (名古屋) [口演]
- 026 堀尾芳嗣、小川紫都、朴智栄、清水淳市、吉田公秀、樋田豊明：円滑な実施を目指した外来化学療法導入冊子の作成. 第48回日本呼吸器学会総会, 2008 (福岡) [ミニシンポジウム]
- 027 堀尾芳嗣、小川紫都、朴智栄、清水淳市、吉田公秀、樋田豊明：超音波気管支鏡下穿刺時のセルブロック標本で診断した子宮頸癌化学放射線治療後右肺門リンパ節転移の1例. 第31回日本呼吸器内視鏡学会総会. 2008 (大阪) [ポスター]

血液・細胞療法部

- 001 *Morishima Satoko, Ogawa Seishi, Kawase Takakazu, Matsubara Aiko, Nanya Yasubito, Kashiwase Koichi, Saji Hiroo, Inoko Hidetoshi, Kato Shunichi, Kadera Yoshibisa, Sasazuki Takehiko, Morishima Yasuo* : Impact of Highly Conserved HLA Haplotype on Acute Graft-Versus-Host Disease in Unrelated Bone Marrow Transplantation. 50th Annual Meeting of American Society of Hematology, December 2008 San Francisco USA. [口演]

- 002 *Ogawa Seishi, Matsubara Aiko, Kashiwase Koichi, Onizuka Makoto, Sanada Masashi, Kato Motobiro, Nannya Yasubito, Akatsuka Yoshiki, Kawase Takakazu, Satake Masahiro, Takita Junko, Morishima Yasuo, Chiba Shigeru, Saji Hiroo, Inoko Hidetoshi, Kodera Yoshibisa, Sasazuki Takebiko* : Genome-Wide Association Studies of Genetic Incompatibility That Is Relevant to the Development of GvHD in Unrelated Bone Marrow Transplantation. 50th Annual Meeting of American Society of Hematology, December 2008 San Francisco USA. [口演]
- 003 *Yagasaki Hiroshi, Kojima Seiji, Kato Shunichi, Kato Koji, Yabe Hiromasa, Sakamaki Hisashi, Kawase Takakazu, Tsuchida Masahiro, Kigasawa Hisato, Morishima Yasuo, Kodera Yoshibisa* : Mismatching at HLA-DPB1 Is Not Associated with Survival in Patients with Acquired Aplastic Anemia Who Receive Unrelated Bone Marrow Transplantation. 50th Annual Meeting of American Society of Hematology, December 2008 San Francisco USA. [ポスター]
- 004 *Nannya Yasubito, Kamei Michi, Torikai Hiroki, Kawase Takakazu, Taura Kenjiro, Inamoto Yoshibiro, Takahashi Taro, Yazaki Makoto, Morishima Satoko, Miyamura Koichi, Ito Tetsuya, Kodera Yoshibisa, Morishima Yasuo, Takahashi Toshitada, Kuzushima Kiyotaka, Ogawa Seishi, Akatsuka Yoshiki* : HapMap Scanning of Novel Human Minor Histocompatibility Antigens. 50th Annual Meeting of American Society of Hematology, December 2008 San Francisco USA. [ポスター]
- 005 *Kazubito Yamamoto, Kensei Tobinai, Atae Utsunomiya, Kunibiro Tsukasaki, Naokuni Uike, Kimiharu Uozumi, Masao Tomonaga, Koji Matsushima, Kenya Shitara, Shiro Akinaga, Ryuzo Ueda* : Phase I Study of KW-0761, a Defucosylated Anti-CCR4 Antibody, in Relapsed Patients (Pts) with Adult T-Cell Leukemia-Lymphoma (ATL) or Peripheral T-Cell Lymphoma (PTCL): Updated Results. 50th Annual Meeting of American Society of Hematology, December 2008 San Francisco USA. [ポスター]
- 006 *Morishima Satoko, Ogawa Seishi, Kawase Takakazu, Matsubara Aiko, Nanya Yasubito, Kashiwase Koichi, Saji Hiroo, Inoko Hidetoshi, Kato Shunichi, Kodera Yoshibisa, Sasazuki Takebiko, Morishima Yasuo* : Analysis of HLA haplotype on acute graft-versus-host disease in unrelated bone marrow transplantation: Impact of its matching and specific haplotype. 15th International Histocompatibility and Immunogenetics Workshop and Conference, Rio de Janeiro, Brazil. September 2008. [シンポジウム]
- 007 *T. Kawase, K. Kashiwase, H. Inoko, H. Saji, S. Ogawa, S. Kato, T. Sasazuki, Y. Kodera, Y. Morishima on behalf of The Japan Marrow Donor Program* : Association between HLA-matching status and reduction in relapse rate following unrelated allogeneic haematopoietic stem cell transplantation for myeloid and lymphoid malignancies. 35th Annual Meeting of the European Group for Blood and Marrow Transplantation. Göteborg, Sweden. March.2009 [シンポジウム]
- 008 *B.E. Shaw, K. Fleischbauer, E. Zino, M. Malkki, S. Spellman, Y. Morishima, T. Gooley, E. Petersdorf on behalf of the International Histocompatibility Working Group in Hematopoietic Cell Transplantation* : Significant differences in outcome following unrelated donor HCT can be better predicted using an algorithm incorporating both allele and epitope level matching for HLA-DPB1. 35th Annual Meeting of the European Group for Blood and Marrow Transplantation. Göteborg, Sweden. March.2009 [口演]
- 009 *S.-W. Kim, S.I. Mori, R. Tanosaki, T. Fukuda, M. Kami, H. Sakamaki, T. Yamashita, Y. Kodera, S. Terakura, S. Taniguchi, S. Miyakoshi, N. Usui, S. Yano, Y. Kawano, Y. Nagatoshi, M. Harada, Y. Morishima, S. Okamoto, A.M. Saito, Y. Ohashi, R. Ueda, Y. Takaue* : Busulfex (i.v. BU) and CY regimen before SCT:a phase II pharmacokinetics combined study.35th Annual Meeting of the European Group for Blood and Marrow Transplantation. Göteborg, Sweden. March.2009 [ポスター]
- 010 *H. Kato, K. Yamamoto, Y. Oki, D. Chibara, S. Ine, H. Taji, M. Seto, Y. Kagami, Y. Morishima* : Clinical value of flow cytometric immunophenotyping analyses for minimal residual disease detection in stem-cell products in patients with follicular and mantle cell lymphoma: comparison to IgH-polymerase chain reaction. 35th Annual Meeting of the European Group for Blood and Marrow Transplantation. Göteborg, Sweden. March.2009 [ポスター]
- 011 *M. Stern, A. Gratwohl, M. Malkki, Y. Morishima, S. Spellman, T. Gooley, E. Petersdorf on behalf of the International Histocompatibility Working Group in Hematopoietic Cell Transplantation* : HLA-DR15 and outcome of unrelated donor haematopoietic stem cell transplantation – An IHWG analysis. 35th Annual Meeting of the European Group for Blood and Marrow Transplantation. Göteborg, Sweden. March.2009 [ポスター]
- 012 福岡晃平、加藤春美、鏡味良豊、大木康弘、田地浩史、鍛塚八千代、谷田部恭、山本一仁、中村常哉、中村栄男、森島泰雄 : Rituximab併用化学療法が有効であった直腸MALTリンパ腫の3例。第48回日本リンパ網内系学会総会(2008.06.札幌) [ポスター]
- 013 加藤春美、鏡味良豊、大木康弘、谷田部恭、岡 聖子、鍛塚八千代、田地浩史、山本一仁、中村常哉、中村栄男、森島泰雄 : H.plyori除菌療法にて寛解し、3年後に扁桃に病変を認めた胃MALTリンパ腫の一例。第48回日本リンパ網内系学会総会(2008.06.札幌) [ポスター]
- 014 熱田由子、鈴木律朗、長村登紀子、谷口修一、高橋 聡、甲斐俊朗、坂巻 壽、香西康司、笠井正晴、福田隆浩、東 寛、高梨美乃子、岡本真一郎、土田昌宏、河 敬世、森島泰雄、小寺良尚、加藤俊一 : 成人急性白血病における非血縁者間骨髓移植と非血縁者間臍帯血移植成績の白血病型別の比較Disease-specific analyses of UR-CBT vs. UR-BMT in adults with acute leukemia. 第70回 日本血液学会総会(2008.10.京都) [プレナリー]
- 015 島田和之、末永孝生、山本一仁、村瀬卓平、市川直明、岡本昌隆、新津 望、小杉浩史、塚本憲史、三輪啓志、麻奥英毅、菊池我子、松本守生、田村和夫、佐分利能生、正木康史、柏村眞、吉田 喬、山口素子、中村栄男、直江知

- 樹、木下朝博：血管内大細胞型B細胞リンパ腫に対する rituximab併用化学療法の有用性に関する検討A retrospective analysis of IVLBCL treated with rituximab-containing chemotherapies. 第70回 日本血液学会総会 (2008.10.京都) [プレナリー]
- 016 塚崎邦弘、渡辺 隆、吉村健一、木下朝博、鏡味良豊、伊藤国明、小椋美知則、加幡晴美、山口素子、黒澤光俊、笠井正晴、飛内賢正、鈴木孝世、薄井紀子、正木康史、末岡榮三郎、張 高明、永井宏和、安藤 潔、大西一功、畑裕之、吉田 功、松田 信、前田嘉治、向井 清、中村栄男、大島孝一、堀田知光、下山正徳：多施設共同臨床試験併合解析による末梢T/NK細胞リンパ腫の新たな予後予測モデル (JCOG0108A) A new prognostic model for peripheral T/NK-cell lymphomas (PTCLS) from prospective clinical trials. 第70回 日本血液学会総会 (2008.10.京都) [プレナリー]
- 017 小林幸夫、坂巻 壽、藤澤 信、安藤 潔、山本一仁、岡田昌也、石澤賢一、永井 正、宮脇修一、泉二登志子、薄井紀子、飯田真介、谷脇雅史、魚嶋伸彦、上田享司、大野竜三：イマチニブに対し不耐容のCML及びPh+ALL患者に対するダサチニブの安全性の検討Lack of Cross Intolerance of Dasatinib to Imatinib in Patients with CML and Ph+ALL. 第70回 日本血液学会総会 (2008.10.京都) [口演]
- 018 山口素子、中村直哉、鈴木律朗、鏡味良豊、岡本昌隆、一迫、吉野 正、鈴木淳司、村瀬卓平、三浦偉久男、大島孝一、錦織桃子、田丸淳一、谷脇雅史、平野正美、森島泰雄、上田龍三、珠玖 洋、中村栄男：De novo CD5陽性びまん性大細胞型B細胞リンパ腫：120例における詳細な臨床病理学的検討の結果De novo CD5+DLBCL：Results of a detail clinicopathologic review in 120 patients. 第70回 日本血液学会総会 (2008.10.京都) [口演]
- 019 森島泰雄、小椋美知則、渡辺 隆、伊藤国明、五十嵐忠彦、堀田知光、木下朝博、大橋靖雄、飛内賢正：未治療進行期低悪性度B-NHLに対するR-CHOP療法のランダム化第Ⅱ相試験：7年追跡結果Randomized phase II study of rituximab of R-CHOP in untreated indolent B-NHL:7-year follow-up. 第70回 日本血液学会総会 (2008.10.京都) [口演]
- 020 小椋美知則、石澤賢一、飛内賢正、伊藤国明、森島泰雄、安藤 潔、山本讓司、渡辺 隆、内田俊樹、中田匡信、林正樹、堀田知光：再発・難治性indolent B-NHLに対する経口フルダラビンとリツキシマブ併用の多施設共同臨床第Ⅱ相試験Phase II study of oral fludarabine combined with rituximab in relapsed or refractory indolent B-NHL. 第70回 日本血液学会総会 (2008.10.京都) [口演]
- 021 小島勢二、谷ヶ崎博、矢部普正、加藤剛二、気賀沢寿人、坂巻 壽、土田昌宏、加藤俊一、川瀬孝和、森島泰雄、小寺良尚：再生不良性貧血に対する非血縁者間骨髄移植におけるHLA-DP抗原適合の意義 Impact of HLA-DP disparity on clinical outcomes in unrelated donor BMT for aplastic anemia. 第70回 日本血液学会総会 (2009.10.京都) [口演]
- 022 藤 重夫、金 成元、吉村健一、秋山秀樹、岡本真一郎、佐尾 浩、滝田順子、森慎一郎、小林直樹、川瀬孝和、森島泰雄、河 敬世、高上洋一、骨髄移植推進財団：非血縁者間骨髄移植における移植前 body mass index (BMI) の意義 Impact of pretransplant obesity after unrelated bone marrow transplantation. 第70回 日本血液学会総会 (2009.10.京都) [口演]
- 023 西岡百子、安部明弘、今釜静香、谷崎亮平、勝見 章、南陽介、早川文彦、山本一仁、直江知樹：Philadelphia染色体陽性急性リンパ芽球性白血病由来Imatinib耐性株の樹立とその耐性化機序の解析Establishment of Imatinib resistant Ph+ALL cell line and its mechanism of resistance. 第70回 日本血液学会総会 (2009.10.京都) [口演]
- 024 藤澤 信、森島泰雄、坂巻 壽、岡田昌也、石澤賢一、谷脇雅史、安藤 潔、飛内賢正、宇都宮與、泉二登志子、直江知樹、魚嶋伸彦、宮脇修一、薄井紀子、永井 正、大西一功、陣内逸郎、谷本光音、飯田真介、宮崎泰司、岡本真一郎、上田享司、大野竜三：ダサチニブのBCR-ABL変異を有するCML及びPh+ALLに対する有効性の検討 Efficacy of Dasatinib in patients with CML and Ph+ALL with BCR-ABL mutation. 第70回 日本血液学会総会 (2009.10. 京都) [口演]
- 025 村松秀城、小島勢二、吉見礼美、熱田由子、遠野千佳子、加藤剛二、永利義久、井上雅美、小池和俊、川瀬孝和、森島泰雄、河 敬世、嶋田博之：小児慢性骨髄性白血病に対するJMDPを介した非血縁者間骨髄移植の治療成績の解析 Unrelated bone marrow transplantation for children with chronic myeloid leukemia : a study from JMDP. 第70回 日本血液学会総会 (2009.10. 京都) [口演]
- 026 加藤春美、山本一仁、大木康弘、松尾恵太郎、田地浩史、鎌塚八千代、千原 大、井根省二、鏡味良豊、森島泰雄：自家移植後の間質性肺疾患発症に関する後方視的解析～Rituximab導入前後153症例での検討～Retrospective analyses of interstitial lung disease occurrence after autologous transplantation. 第70回 日本血液学会総会 (2009.10.京都) [口演]
- 027 谷脇雅史、坂巻 壽、石澤賢一、藤澤 信、森島泰雄、飛内賢正、宇都宮與、岡田昌也、安藤 潔、薄井紀子、谷脇修一、魚嶋伸彦、永井 正、直江知樹、泉二登志子、陣内逸郎、谷本光音、宮崎泰司、芹生 卓、大野竜三：ダサチニブの慢性期慢性骨髄性白血病に対する臨床第Ⅰ/Ⅱ相試験の長期投与成績Long term efficacy and safety of Dasatinib in Patients with Chronic Phase CML. 第70回 日本血液学会総会 (2009.10. 京都) [口演]
- 028 岡田昌也、山本一仁、坂巻 壽、小林幸夫、安藤 潔、中川靖章、大西一功、谷脇雅史、宇都宮與、上田享司、大野竜三：ダサチニブの慢性骨髄性白血病に対する臨床第Ⅱ相試験－100mg1日1回または50mg1日2回投与法の検討－Phase II Study of Dasatinib in Patients with Chronic Phase CML-100mgQD or 50mg BID-. 第70回 日本血液学会総会 (2009.10.京都) [口演]

- 029 張 高明、伊藤國明、渡辺 隆、吉村健一、木下朝博、小椋美知則、平野正美、麻奥英毅、黒澤光俊、岡本るみ子、大間知謙、森内幸美、笠井正晴、大西一功、高山信之、森島泰雄、飛内賢正、加幡晴美、山本精一郎、福田治彦、菊池昌弘、吉野 正、松野吉宏、堀田知光、下山正徳：JCOG臨床試験登録症例の病理中央診断に基づく Hodgkin Lymphoma の予後解析 (JCOG0108A) Prognostic Analysis of Hodgkin Lymphoma in JCOG Trials Based on Central Pathological Review. 第70回 日本血液学会総会 (2009.10. 京都) [口演]
- 030 浅野直子、鈴木律朗、大島孝一、鏡味良豊、石田文宏、吉野 正、森島泰雄、中村栄男：節性末梢性T細胞リンパ腫におけるケモカインレセプターおよび細胞傷害性分子の発現における関連性についてLinkage of expression of chemokine receptors and cytotoxic molecules in peripheral T-cell lymphoma.第70回 日本血液学会総会 (2009.10. 京都) [口演]
- 031 鏡味良豊、カルナン シバスダラム、森島泰雄、中村栄男、瀬戸加太：AILT腫瘍由来・HUVECおよびIL-2依存性細胞株の樹立Growth of AILT cells by HUVEC and IL-2. 第70回 日本血液学会総会 (2009.10.京都) [ポスター]
- 032 山本一仁、大木康弘、田地浩史、加藤春美、鏡味良豊、森島泰雄：愛知県がんセンター中央病院におけるimatinib抵抗性・不耐容慢性骨髄性白血病に対するdasatinibの治験成績Dasatinib in imatinib-resistant or-intolerant Japanese chronic myelogenous leukemias. 第70回 日本血液学会総会 (2009.10.京都) [ポスター]
- 033 石澤賢一、坂巻 壽、藤澤 信、岡田昌也、安藤 潔、谷脇雅史、森島泰雄、飛内賢正、薄井 紀子、宮脇修一、魚嶋伸彦、永井 正、直江知樹、泉二登志子、大西一功、飯田真介、岡本真一郎、芹生 卓、大野竜三：ダサチニブの移行性/急性期CML及びPh+ALLに対する臨床第I/II相試験の長期投与成績Long term efficacy and safety of Dasatinib in Patients with Accelerated/Blastic Phase CML and Ph+ALL. 第70回 日本血液学会総会 (2009.10.京都) [ポスター]
- 034 竹内 仁、田中淳司、松永卓也、久保恒明、三浦偉久男、岡本真一郎、谷口修一、土橋史明、磯辺泰司、泉二登志子、東原正明、岸 賢治、永井 正、塚本憲史、西村美樹、西井一浩、大西一功、森島泰雄、清井 仁、江崎幸治、金倉 譲、平岡 諒、島崎千尋、岡田昌也、中尾真二、品川克至、宮崎泰司、長藤浩司、薄井紀子：IFN- α 療法による治療経験のない慢性期CML患者に対するイマチニブ療法—国内市販後臨床試験成績—Imatinib therapy in Japanese patients with CML CP previously untreated with Interferon alfa. 第70回 日本血液学会総会 (2009.10.京都) [ポスター]
- 035 井根省二、山本一仁、千原 大、加藤春美、大木康弘、田地浩史、鏡味良豊、中村栄男、森島泰雄：自己末梢血幹細胞移植を施行した血管内大細胞型B細胞性リンパ腫症例の検討Analysis of autologous PBSCT for intravascular large B cell lymphoma 第70回 日本血液学会総会 (2009.10.京都) [ポスター]
- 036 大木康弘、山本一仁、加藤春美、鋤塚八千代、田地浩史、鏡味良豊、森島泰雄：リンパ球数低値はびまん性大細胞型B細胞リンパ腫患者の予後不良因子である Lymphocytopenia is a poor prognostic marker in patients with diffuse large B cell lymphoma. 第70回 日本血液学会総会 (2009.10.京都) [ポスター]
- 037 加藤春美、山本一仁、大木康弘、千原 大、井根省二、田地浩史、瀬戸加太、鏡味良豊、森島泰雄：造血幹細胞移植ソースにおける微小残存病変検出法に関する検討〜フローサイトメトリー法の有効性について〜. 第31回日本造血細胞移植学会総会 (2009.02.札幌) [ワークショップ]
- 038 松原亜以子、柏瀬貢一、鬼塚 真、真田 昌、加藤元博、南谷泰仁、赤塚美樹、川瀬孝和、佐竹正博、滝田順子、千葉 滋、佐治博夫、猪子英俊、森島泰雄、小寺良尚、笹月健彦、小川誠司：大規模SNP解析による全ゲノム関連解析を用いたGVHD標的遺伝子座の同定. 第31回日本造血細胞移植学会総会 (2009.02.札幌) [ワークショップ]
- 039 森島聡子、小川誠司、川瀬孝和、松原亜以子、南谷泰仁、柏瀬貢一、佐治博夫、猪子英俊、加藤俊一、小寺良尚、笹月健彦、森島泰雄：非血縁者間骨髄移植におけるHLAハプロタイプと急性GVHDへの影響. 第31回日本造血細胞移植学会総会 (2009.02.札幌) [ワークショップ]
- 040 柏瀬貢一、峯元睦子、市原孝浩、平安恒幸、屋部登志雄、内川 誠、佐竹正博、中島一格、森島泰雄：HLA-C座における高精度HLA-DNAタイピング法の検証 第31回日本造血細胞移植学会総会 (2009.02.札幌) [ポスター]
- 041 大木康弘：DNAメチル化酵素阻害剤. 第7回日本臨床腫瘍学会 (2009.03.名古屋) [シンポジウム]
- 042 大木康弘、千原 大、鏡味良豊、井根省二、加藤春美、田地浩史、山本一仁、森島泰雄：びまん性大細胞型リンパ腫寛解患者における再発パターンと定期検査の意義. 第7回日本臨床腫瘍学会学術集会 (2009.03.名古屋) [口演]
- 043 千原 大、鏡味良豊、加藤春美、井根省二、大木康弘、田地浩史、山本一仁、森島泰雄：再発・難治性濾胞性リンパ腫に対するCHASER療法の有効性. 第7回 日本臨床腫瘍学会学術集会 (2009.03.名古屋) [口演]

薬物療法部

- 001 Muro K, Boku N, Yamada Y, Nishina T, Doi T, Takiuchi H, Tajima T, Takahashi A, Fujita Y, Ohtsu A : Multicenter phase II study of RAD001 for previously treated metastatic gastric cancer (MGC) : Preliminary results. ASCO Annual Meeting, 2008, (Chicago, USA), [General Poster]
- 002 Ura T : A genotype-directed dose-finding study of irinotecan based on UGT1A1 *28 and *6 polymorphisms in Japanese patients with gastrointestinal cancer. European Association for Medical Oncology, 2008, (Stockholm, Sweden), [Poster]
- 003 Shitara K, Takabari D, Yokota T, Ura T, Muro K, Sawaki A, Kawai H, Ito S, Yamamura Y : Chemotherapy for gastric

- cancer that recurs after adjuvant chemotherapy with S-1. ASCO Gastrointestinal Cancers Symposium, 2009, (San Francisco, USA), [General Poster]
- 004 **Shitara K, Matsuo K, Takabari D, Yokota T, Ura T, Muro K**: Neutropenia during chemotherapy as a prognostic factor in patients with metastatic colorectal cancer treated with first-line FOLFOX. ASCO Gastrointestinal Cancers Symposium, 2009, (San Francisco, USA), [General Poster]
- 005 **Muro K**: Updated results in the treatment of metastatic gastric cancer: base line cytotoxic regimen and targeting agents. 第7回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2009, (名古屋), [発表]
- 006 **室 圭**: Neoadjuvant Therapy 1. 第62回日本食道学会, 2008, (東京), [司会]
- 007 **室 圭**: がん薬物療法における治療マネジメント. 第41回日本整形外科学会 骨・軟部腫瘍学術集会 長久手セミナー, 2008, (浜松), [講演]
- 008 **室 圭**: 知っておきたい消化器がん化学療法. 日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医会, 2008, (名古屋), [講演]
- 009 **室 圭**: 薬剤師のための大腸がん実践講座 進む大腸がん化学療法. 第18回医療薬学会年会, 2008, (札幌), [ランチョンセミナー]
- 010 **室 圭**: 大腸がんの内科的診断と治療 (分子標的治療). Cancer Week 2008 がんシンポジウム, 2008, (名古屋), [講演]
- 011 **室 圭**: 大腸がんの薬物療法. 第3回日本臨床腫瘍学会市民公開講座, 2008, (名古屋), [講演]
- 012 **室 圭**: 食道癌のトピックス-基礎から臨床まで-. 第67回日本癌学会学術集会, 2008, (名古屋), [司会]
- 013 **室 圭**: 胃癌化学療法の今〜均てん化とグローバル化をどう両立させるか?〜. 第46回日本癌治療学会総会, 2008, (名古屋), [ランチョンセミナー]
- 014 **室 圭**: 愛知県がんセンター中央病院における外来化学療法センターの現状と課題. 第46回日本癌治療学会総会, 2008, (名古屋), [ワークショップ]
- 015 **室 圭**: 大腸癌術後補助化学療法. 第46回日本癌治療学会総会, 2008, (名古屋), [パネルディスカッション]
- 016 **室 圭**: フッ化ピリミジン系抗がん剤治療に不応の胃癌に対するCPT-11+MMC療法の第II相臨床試験. 第46回日本癌治療学会総会, 2008, (名古屋), [パネルディスカッション]
- 017 **室 圭**: 大腸癌化学療法 ASCO2008で何が変わったか。わが国のゆくえは?。第46回日本癌治療学会総会, 2008, (名古屋), [ランチョンセミナー]
- 018 **室 圭**: 愛知県がんセンター中央病院におけるチーム医療-大腸がんの化学療法を中心に-. 第46回日本癌治療学会総会, 2008, (名古屋), [パネルディスカッション]
- 019 **設楽紘平**: Post ACTS-GC時代の再発胃癌にS-1を含む治療は標準治療となるか?。第46回日本癌治療学会総会, 2008 (名古屋), [ワークショップ]
- 020 **宇良 敬**: ベバシツマブ導入時における短時間投与方法の安全性の検討QuickBI試験. 第46回日本癌治療学会総会, 2008, (名古屋), [口演]
- 021 **宇良 敬**: 肝転移を伴う高度進行大腸がんに対する肝動注療法を全身化学療法に先行投与する治療戦略の臨床試験. 第46回日本癌治療学会総会, 2008, (名古屋), [口演]
- 022 **高張大亮**: 胃癌術後補助化学療法としてのS-1+CDDP併用療法のfeasibility試験. 第46回日本癌治療学会総会, 2008, (名古屋), [口演]
- 023 **横田知哉**: 局所高度進行頭頸部癌に対する導入化学療法としてのTRF療法の検討. 第46回日本癌治療学会総会, 2008, (名古屋), [ポスター]
- 024 **横田知哉**: 愛知県がんセンター中央病院における原発不明癌16症例の検討. 第46回日本癌治療学会総会, 2008, (名古屋), [ポスター]
- 025 **室 圭**: 大腸癌全身化学療法の現状と限界. リザーバー研究会, 2008, (福岡), [講演]
- 026 **横田知哉, 室 圭 他**: 導入化学療法としてDCF療法施行中に高度の消化器毒性をきたしたが根治手術が可能となった1例. 第13回食道癌集学的治療法検討会, 2008, (東京)
- 027 **室 圭**: 切除不能進行胃癌に対するセカンドラインについて. 第81回日本胃癌学会総会, 2009, (東京), [講演]
- 028 **設楽紘平**: Adjuvant S-1後の再発胃癌の臨床試験における取り扱いの問題点. 第81回日本胃癌学会総会, 2009, (東京), [ワークショップ]
- 029 **高張大亮**: 胃癌術後補助化学療法としてのS-1+CDDP併用療法のfeasibility試験. 第81回日本胃癌学会総会, 2009, (東京), [ワークショップ]
- 030 **設楽紘平, 室 圭**: 大腸癌セカンドラインをどうする? Bevacizumab, cetuximabのpositioningについて. 第7回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2009, (名古屋), [シンポジウム]
- 031 **横田知哉 他**: 進行・再発大腸癌におけるセツキシマブの効果予測因子としてのKRAS測定-愛知県がんセンター中央病院での取り組み. 第7回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2009, (名古屋), [口演]
- 032 **設楽紘平 他**: FOLFOX療法中の好中球減少は大腸癌患者の良好な予測因子となるか?。第7回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2009, (名古屋), [口演]
- 033 **横田知哉 他**: 大腸低分化型腺癌/印環細胞癌はFOLFOX/FOLFIRI療法に抵抗性か?。第7回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2009, (名古屋), [口演]
- 034 **宇良 敬 他**: 好中球減少Gr2におけるFOLFIRI,FOLFOX両方の投与でなにが起こったか?。第7回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2009, (名古屋), [ポスター]
- 035 **設楽紘平 他**: Performance Status 2の胃癌症例に対する化学療法の検討. 第7回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2009, (名古屋), [ポスター]
- 036 **高張大亮 他**: パクリタキセル不応進行再発胃癌に対してのドセタキセルの有効性の過渡的検討. 第7回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2009, (名古屋), [ポスター]

臨床検査部・遺伝子病理診断部

- 001 **越川 卓, 所 嘉朗, 鈴木 緑, 小林雅子, 佐々木英一,**

- 細田和貴, 北村淳子, 谷田部恭, 藤田崇史, 岩田広治, 市原 周: 画像モダリティの進歩に対応した乳腺細胞診のスコアリングシステム. 第49回日本臨床細胞学会総会(春期大会), 2008, (東京), [スライドセミナー]
- 002 尾関順子, 鈴木 緑, 所 嘉朗, 北村淳子, 細田和貴, 佐々木英一, 谷田部恭, 越川 卓: アポクリン腫瘍の一例. 第131回日本臨床細胞学会東海連合会例会, 2008, (名古屋), [症例報告]
- 003 所 嘉朗, 鈴木 緑, 小林雅子, 岡田恭孝, 佐々木英一, 細田和貴, 北村淳子, 山雄健次, 越川 卓, 谷田部恭: 痔疾患に対する超音波内視鏡下穿刺吸引法の有用性. 第47回日本臨床細胞学会秋季大会, 2008, (東京), [ワークショップ]
- 004 奥村寿崇, 玉腰利長, 木越紗和子, 尾関順子, 鈴木 緑, 所 嘉朗, 北村淳子, 細田和貴, 佐々木英一, 谷田部恭, 越川 卓: 心嚢水細胞診陽性を示した食道癌の1例. 第132回日本臨床細胞学会東海連合会例会, 2008, (名古屋), [症例報告]
- 005 所 嘉朗, 鈴木 緑, 尾関順子, 佐々木英一, 細田和貴, 北村淳子, 山雄健次, 越川 卓, 谷田部恭: 超音波内視鏡下穿刺吸引法について. 平成20年度がん検診従事者資質向上事業(細胞診従事者講習会), 2008, (岐阜), [講演]
- 006 所 嘉朗: 消化器のEUS下細胞診. 日本臨床衛生検査技師会形態部門研修会, 2009, (松本), [講演]
- 007 木越紗和子, 奥村寿崇, 玉腰利長, 尾関順子, 鈴木 緑, 所 嘉朗, 小林雅子, 岡田恭孝, 佐々木英一, 細田和貴, 北村淳子, 谷田部恭, 越川 卓: 小葉癌の細胞所見についての検討. 第28回日本臨床細胞学会東海連合会総会ならびに学術集会, 2009, (名古屋), [口演]
- 008 所 嘉朗, 越川 卓, 鈴木 緑, 尾関順子, 小林雅子, 佐々木英一, 細田和貴, 北村淳子, 谷田部恭, 岩田広治: 新報告様式による乳腺細胞診の診断成績. 愛知県細胞診従事者講習会, 2009, (名古屋), [講演]
- 010 前田孝子, 北山和代, 石田廣次, 大辻泰子: 当院ICT6年間のあゆみ~微生物検査室の立場から~, 第9回愛知県医学検査学会, 2008, (豊橋) [一般演題]
- 011 前田孝子, 有坂百合子, 栗原正喜, 谷田部恭: 菌の同定に難渋したTrichosporon debeurmannianumによる敗血症の1症例. 真菌フォーラム第10回学術集会, 2009, (名古屋), [ポスター]
- 012 岡田恭孝, 萩野真子, 菅原綾子, 濱嶋浩, 森佐代美, 田中里枝, 矢神幸子, 栗原正喜: 6カラーフローサイトメーターFACSCantoIIを用いた全血法と分離法の比較—悪性リンパ腫検出を目的とした効果と経費から見た比較—. 第47回中部医学検査学会, 2008, (富山), [口演]
- 013 Yasushi Yatabe: The TRU concept. International multidisciplinary classification of lung adenocarcinoma, 2008, (NY) [ワークショップ]
- 014 谷田部恭: 呼吸器疾患研究における新たなエンティティとテクノロジー. 第97回日本病理学会総会, 2008, (金沢) [ワークショップ]
- 015 谷田部恭: 肺癌学の最前線 - Frontiers of Lung Cancer.

- Kazusa Akademia Respiratory Forum, 2008, (木更津) [シンポジウム]
- 017 谷田部恭: 肺癌学肺腫瘍における転移の鑑別. 第13回日本外科病理学会, 2008, (新宿) [ワークショップ]
- 018 Yasushi Yatabe: Differential Diagnosis of lung cancer. Nanjing International Symposium on Cancer Treatment, 2008, (南京) [シンポジウム]
- 019 谷田部恭: EGFR遺伝子変異, KRAS遺伝子変異の差. 第49回肺癌学会総会, 2008, (小倉) [シンポジウム]
- 020 谷田部恭: 乳がんにおける分子生物学的腫瘍分類と予後予測. 第28回日本臨床細胞学会東海連合会総会, 2008, (名古屋) [教育講演]
- 021 Yasushi Yatabe: Progression of lung adenocarcinoma. IASLC pathology panel meeting, multidisciplinary classification of lung adenocarcinoma, 2009, (NY) [ワークショップ]
- 022 細田和貴, 山雄健次, 谷田部恭: 超音波内視鏡下穿刺吸引EUS-FNAによる微小検体での肺腫瘍診断の分子生物学的マーカーの有用性. 日本病理学会総会, 2008, 金沢
- 023 細田和貴, 山田健志, 杉浦英志, 谷田部恭: 右肩部腫瘍の一例. 東海骨軟部研究会, 2008, 名古屋 [口演]
- 024 立松明子, 清水淳市, 堀尾芳嗣, 中村栄男, 樋田豊明, 光富徹哉, 谷田部恭: 肺小細胞癌におけるEGFR遺伝子変異と増幅の検討. 第67回日本癌学会学術総会, 2008 (愛知県), [ポスター発表]
- 025 立松明子, 村上善子, 中村栄男, 谷田部恭: 肺小細胞癌におけるEGFR遺伝子変異. 第97回日本病理学会総会, 2008 (石川県), [一般口演]

頭頸部外科部

- 001 Hasegawa Y: Cytological Diagnosis of thyroid Cancer. 第12回日韓耳鼻咽喉科・頭頸部外科学会, 2008, (奈良), [シンポジウム]
- 002 Hirakawa H, Terada A, Hanai N, Ikeda A, Kodaira T, Hasegawa Y: Phase I/II study of concomitant postoperative administration of cisplatin and radiotherapy for high-risk squamous cell carcinoma of the head and neck. 第12回日韓耳鼻咽喉科・頭頸部外科学会, 2008, (奈良), [ポスター]
- 003 寺田聡広, 兵藤伊久夫, 花井信広, 池田篤彦, 永島義久, 梶井貴史, 平川 仁, 長谷川泰久: 切除と再建 QOL向上を目指したseamless collaboration 脈管温存に留意した頸部郭清. 第32回日本頭頸部癌学会, 2008, (東京), [シンポジウム]
- 004 齋藤清, 立花栄二, 岡田 健, 藤本保志, 亀井 謙, 高橋正克, 長谷川泰久: 頭蓋底・顔面深部へのアプローチと再建頭蓋底 脳神経外科の役割. 第32回日本頭頸部癌学会, 2008, (東京), [シンポジウム]
- 005 長谷川泰久: 耳下腺腫瘍臨床の最前線 耳下腺悪性腫瘍の検討. 第32回日本頭頸部癌学会, 2008, (東京), [シンポジウム]
- 006 平川 仁, 寺田聡広, 花井信広, 兵藤伊久夫, 永島義久, 池田篤彦, 梶井貴史, 長谷川泰久: 頭頸部癌術後合併症の関する検討. 第32回日本頭頸部癌学会, 2008, (東京), [ポスター]

- 007 伊地知圭, 小澤泰次郎, 花井信広, 村上信五: 頭頸部扁平上皮癌に対するCDDP, TS1併用療法. 第32回日本頭頸部癌学会, 2008, (東京), [ポスター]
- 008 花井信広, 長谷川泰久, 寺田聡広, 小澤泰次郎, 平川 仁, 川北大介, 丸尾貴志, 三上慎司, 兵藤伊久夫, 神山圭史: 中咽頭側壁癌の切除と再建. 第21回日本口腔・咽頭科学会, 2008, (鹿児島), [シンポジウム]
- 009 長谷川泰久: 頭頸部癌診断治療でのPET-CTとSPECT-CTの見当. 第51回日本口腔科学会中部地方会, 2008, (名古屋), [特別講演]
- 010 小澤泰次郎, 寺田聡広, 平川 仁, 川北大介, 丸尾貴志, 三上慎司, 長谷川泰久: 化学療法後に不幸な転帰をたどった, 骨髄異型性症候群合併口腔癌症例. 第7回東海頭頸部癌化学療法研究会, 2008, (名古屋), [口演]
- 011 古瀬智理, 足立 誠, 太田信介, 鳥越総一郎, 伊地知圭, 村田彰吾, 長谷川泰久, 光藤健司, 藤内 祝: 頸部がん細胞におけるドセタキセルと放射線の相乗効果分子メカニズムの検討(Molecular mechanism in the treatment schedule of docetaxel and radiation in the head and neck carcinoma cell lines)(英語). 第67回日本癌学会総会, 2008, (名古屋), [ポスター]
- 012 足立 誠, 伊地知圭, 長谷川泰久, 小川徹也, 太田信介, 光藤健司, 藤内 祝: 5-FU感受性と5-FU処理後の細胞周期の分布に関する検討(Correlation between 5-FU sensitivity and cell cycle distribution after treatment)(英語). 第67回日本癌学会総会, 2008, (名古屋), [ポスター]
- 013 鈴木秀典, 福山隆一, 長谷川泰久, 玉木恒男, 西尾正美, 立松正衛: 腫瘍の厚みと浸潤の深さとbcl-2は, 口腔扁平上皮癌において18F-2-fluorodeoxyglucose-uptakeと関係する(Tumor thickness, depth of invasion and bcl-2 expression are correlated with 18F-2-fluorodeoxyglucose-uptake in oral scc)(英語). 第67回日本癌学会総会, 2008, (名古屋), [口演]
- 014 吉野邦俊, 林隆一, 川端一嘉, 長谷川泰久, 藤本保志, 永原國彦, 松浦一登, 朝陰孝宏, 門田伸也: 下咽頭癌の喉頭温存手術における喉頭切除範囲と術後機能. 第67回日本癌学会総会, 2008, (名古屋), [口演]
- 015 依田妃呂弥, 長縄弥生, 坂井謙介, 長谷川泰久: がん治療における口腔アセスメント用紙の検討. 第3回日本歯科衛生学会, 2008, (横浜), [ポスター]
- 016 長谷川泰久: 頸部郭清術の分類と名称に関する案-平易かつ互換性のある分類を目指して-. 頸部郭清術講習会, 2008, (東京), [口演]
- 017 丸尾貴志, 寺田聡広, 花井信広, 小澤泰次郎, 平川 仁, 川北大介, 三上慎司, 長谷川泰久, 兵藤伊久夫, 神山圭史: Nodular oncocytic hyperplasiaを背景にした耳下腺oncocytomaの一例. 第135回東海地方部会連合講演会, 2008, (名古屋), [口演]
- 018 花井信広, 長谷川泰久, 寺田聡広, 小澤泰次郎, 平川 仁, 川北大介, 丸尾貴志, 三上慎司: 中・咽頭科癌における計画的頸部郭清術の検討. 第26回東海頭頸部腫瘍研究会, 2008, (名古屋), [口演]
- 019 寺田聡広, 花井信広, 小澤泰次郎, 平川 仁, 川北大介, 丸尾貴志, 三上慎司, 長谷川泰久: 頸部郭清術の基本手技. 第19回日本頭頸部外科学会, 2009, (名古屋), [ビデオセミナー]
- 020 川北大介, 寺田聡広, 花井信広, 小澤泰次郎, 平川 仁, 三上慎司, 丸尾貴志, 長谷川泰久: 甲状腺CASTLE例の検討. 第19回日本頭頸部外科学会, 2009, (名古屋), [口演]
- 021 丸尾貴志, 寺田聡広, 花井信広, 小澤泰次郎, 平川 仁, 古平毅, 矢田部恭, 長谷川泰久: 頭頸部小細胞がんの検討. 第19回日本頭頸部外科学会, 2009, (名古屋), [口演]
- 022 三上慎司, 長谷川泰久, 寺田聡広, 兵藤伊久夫, 花井信広, 小澤泰次郎, 平川 仁, 川北大介, 神谷圭史, 丸尾貴志, 杉浦英志, 山田健志: 頭頸部肉腫症例の検討. 第19回日本頭頸部外科学会, 2009, (名古屋), [口演]
- 023 伊地知圭, 欄真一郎, 村上信五, 足立 誠, 小川徹也, 長谷川泰久: 頭頸部癌細胞株による5-FU耐性機序の検討. 第136回東海地方部会連合講演会, 2009, (岐阜), [口演]
- 024 三上慎司, 長谷川泰久, 寺田聡広, 花井信広, 小澤泰次郎, 平川 仁, 川北大介, 丸尾貴志: 頭頸部癌切除後に頤下皮弁を用いて再建した3症例の経験. 第136回東海地方部会連合講演会, 2009, (岐阜), [口演]
- 025 小澤泰次郎, 長谷川泰久, 寺田聡広, 花井信広, 平川 仁, 丸尾貴志, 三上慎司, 川北大介: 当科における喉頭機能温存手術の検討. 第21回日本喉頭科学会, 2009, (群馬), [ポスター]

形成外科部

- 001 兵藤伊久夫, 長谷川泰久, 寺田聡広, 花井信広, 池田篤彦, 永島義久, 榊井貴文, 平川 仁, 杉浦英志, 山田健志, 高橋正克, 斉藤 清: 側頭骨に発生したユーイング肉腫の1例. 第18回日本頭頸部外科学会総会ならびに学術講演会, (京都) [口演]
- 002 HYODO I, HASEGAWA Y, OGAWA T, TERADA A, TORII S: Management of total parotidectomy defect with gastrocnemius muscle transfer and vascularized sural nerve grafting. 第9回日韓国際形成外科学会, (沖縄) [口演]
- 003 兵藤伊久夫, 長谷川泰久, 寺田聡広, 小川徹也, 花井信広, 鳥居修平: 頭蓋底手術における有茎広背筋皮弁の有用性. 第51回日本形成外科学会総会・学術集会, (名古屋) [口演]
- 004 HYODO I, HASEGAWA Y, TERADA A, HANAIN: End To Side Vascularized Sural Nerve Graft, 3rd European Conference On Head and Neck Oncology, (Zagreb Croatia), [口演]
- 005 兵藤伊久夫, 寺田聡広, 花井信広, 池田篤彦, 永島義久, 榊井貴文, 平川 仁, 長谷川泰久: 脈管に留意した頸部郭清~形成外科の立場から. 第29回頭頸部手術手技研究会, (東京), [シンポジウム]
- 006 兵藤伊久夫, 長谷川泰久, 小川徹也, 寺田聡広, 花井信広, 鳥居修平: 当院における舌根1/2以上切除後の、嚥下障害遷延例の検討. 第32回日本頭頸部癌学会, (東京)

[パネルディスカッション]

- 007 神山圭史、兵藤伊久夫、清水泰博、佐野 力、千田嘉毅、安藤公隆、二村雄次、亀井 譲：右胃大網動脈を用いた左肝動脈再建の1例、第52回日本形成外科学会中部支部 東海地方会、(三島)、〔口演〕
- 008 兵藤伊久夫、神山圭史、長谷川泰久、寺田聡広、花井信広、小澤泰次郎、平川 仁、川北大介、丸尾貴志、三上慎治、鳥居修平：遊離空腸弁における自動吻合器の使用経験、第35回日本マイクロサージャリー学会学術集会、(新潟)、〔口演〕
- 009 神山圭史、兵藤伊久夫、寺田聡広、花井信広、小澤泰次郎、平川 仁、川北大介、丸尾貴志、三上慎治、長谷川泰久、鳥居修平：当院における遊離皮弁を用いた頭頸部再建の術後安静度に関する検討、第35回日本マイクロサージャリー学会学術集会、(新潟)、〔口演〕

胸部外科

- 001 *Mitsudomi T*: Is adenocarcinoma of the lung one disease? 1st European Lung Cancer Conference, 2008, (Geneve), [symposium]
- 002 *Mitsudomi T*: Personalized therapy of lung cancer using EGFR-TKI. The second Asian Pacific Conference - Perspectives in Lung Cancer -, 2008, (Sapporo), [Symposium]
- 003 *Mitsudomi T*: EGFR mutations for the personalized treatment of lung cancer. Boehringer Ingelheim Oncology, Inaugural NSCLC Meeting, 2008, (Vienna), [Symposium]
- 004 *Mitsudomi T*: Targeted Therapy of Lung Cancer - Toward Personalized Treatment-. 台湾臨床腫瘍学会 Recent Advances in Target Therapy, 2009, (Taipei), [特別講演]
- 005 *Mitsudomi T*: IRESSA - right choice for Asian NSCLC patients. EGFR-TKI in Lung Cancer Symposium, 2009, (Taipei), [特別講演]
- 006 *Hatooka S, Shinoda M, Mori S, Fukui T, Mitsudomi T*: Surgery versus chemoradiotherapy in patients with resectable esophageal cancer: A single-center experience. 11th World Congress of the International Society for the Diseases of the Esophagus, 10-13 September 2008, (Budapest), [Poster session]
- 007 光富徹哉：EGFR-TKI治療の最適化をめざして。肺癌エクセレントミーティング, 2008, (徳島), [特別講演]
- 008 光富徹哉：EGFR-TKI治療の最適化をめざして。第31回富山肺癌研究会, 2008, (富山), [特別講演]
- 009 光富徹哉：肺癌分子標的治療 ～最近の展開～。北陸肺がん講演会, 2008, (金沢), [特別講演]
- 010 光富徹哉：非小細胞肺癌治療におけるEGFR遺伝子変異の意義。AZ Lung Cancer TV Symposium, 2008, (大阪), [特別講演]
- 011 光富徹哉：肺癌。がん治療認定医機構 2007年度第2回教育セミナー 2008, (千葉), [教育講演]
- 012 光富徹哉：EGFR-TKIの耐性獲得機序とその克服。第94回北海道癌談話会 春期シンポジウム, 2008, (札幌), [特別

講演]

- 013 光富徹哉：EGFR-TKI治療の最適化を目指して。第52回西四国肺癌研究会, 2008, (松山), [特別講演]
- 014 光富徹哉：EGFR-TKI治療の最適化をめざして。Tarceva Excellence Meeting in Kobe, 2008, (神戸), [特別講演]
- 015 光富徹哉：EGFR-TKI治療における耐性とその克服。旭川学術講演会, 2008, (旭川), [特別講演]
- 016 光富徹哉：EGFR-TKI治療における耐性とその克服。国療肺癌研究会 夏期講習会, 2008, (旭川), [特別講演]
- 017 光富徹哉：EGFR-TKI治療の最適化をめざして。Tarceva Excellence Meeting in Yonago, 2008, (米子), [特別講演]
- 018 *Mitsudomi T*: EGFR-targeted therapy of lung cancer. The 7th Kazusa Academia Respiratory Forum, 2008, (Kisarazu), [Symposium]
- 019 光富徹哉：EGFR-TKIの獲得耐性とその克服。第9回 兵庫肺癌フォーラム, 2008, (神戸), [特別講演]
- 020 光富徹哉：EGFR-TKI治療の最適化をめざして。第12回新潟肺癌カンファレンス (大学院特別講義), 2008, (新潟), [特別講演]
- 021 光富徹哉, 谷田部恭：シンポジウム 23: 分子標的治療における薬剤耐性とその克服。肺がんにおける上皮成長因子受容体チロシンキナーゼ阻害剤の獲得耐性のメカニズムとその克服。第67回日本癌学会総会, 2008, (名古屋), [シンポジウム]
- 022 光富徹哉：EGFR-TKI治療の最適化をめざして。Tarceva Excellence Meeting in Okayama, 2008, (岡山), [特別講演]
- 023 光富徹哉：効果予測因子としてのEGFR遺伝子変異。Astra Zeneca Symposium on Molecular Targeted Therapy in NSCLC 2008, 2008, (横浜), [シンポジウム]
- 024 光富徹哉：EGFR-TKI治療の最適化をめざして。Tarceva Excellence Meeting in Saga, 2008, (佐賀), [特別講演]
- 025 光富徹哉：EGFR-TKI治療の最適化をめざして。第153回日本肺癌学会関東部会, 2008, (東京), [特別講演(ランチョンセミナー)]
- 026 光富徹哉：肺癌。がん治療認定医機構 2008年度教育セミナー 2009, (東京), [教育講演]
- 027 光富徹哉：がん分子標的治療の進歩。福岡東医療センター第21回 臨床腫瘍カンファレンス, 2009, (福岡), [特別講演]
- 028 光富徹哉：肺癌の分子標的治療。第35回 大分県呼吸器疾患研究会, 2009, (大分), [特別講演]
- 029 光富徹哉：EGFR遺伝子変異検査の意義と解釈。臨床腫瘍セミナー, 2009, (松本), [特別講演]
- 030 光富徹哉：EGFR遺伝子変異検査の意義と解釈。第27回茨城進行肺癌研究会, 2009, (つくば), [特別講演]
- 030 光富徹哉：肺癌の分子標的治療。第340回 西部胸部疾患懇話会, 2009, (浜松), [特別講演]
- 031 光富徹哉：がん分子標的治療とバイオマーカー・・・肺癌を中心に・・・ 熊本大学 “名医に学ぶ”セミナー (大学院開講), 2009, (熊本), [教育講演]
- 032 光富徹哉：かわる外科治療。第7回 市民公開講座 がん治療最前線, 2009, (名古屋), [特別講演]
- 033 波戸岡俊三、篠田雅幸、森 正一、福井高幸、光富徹哉：

- 食道原発類基底細胞癌の診断と治療. 第62回日本食道学会, 2008, (東京), [示説]
- 034 波戸岡俊三、篠田雅幸、森 正一、福井高幸、光富徹哉：食道外科における合併症とその発生防止対策. 第63回日本消化器外科学会総会, 2008, (札幌), [一般口演]
- 035 伊藤志門、中道朝香、木村千鶴、横山 恵、宇佐美範恭、横井香平：ユニット式パスの分析による呼吸器外科診療の評価. 第9回日本クリニカルパス学会総会, 2008, (埼玉), [示説]
- 036 伊藤志門、福本紘一、小林 零、福井高幸、安部哲也、波戸岡俊三、齋藤卓也、片山達也、光富徹哉：cIA期の非小細胞肺癌において発生区域による影響は生じるか？ 第49回日本肺癌学会, 2008, (福岡), [ポスター]
- 037 伊藤志門、福本紘一、小林零、齋藤卓也、片山達也、福井高幸、安部哲也、波戸岡俊三、光富徹哉：術前7ルギン値の予後への影響. 第94回中部肺癌学会, 2009, (名古屋), [示説]
- 038 福井高幸、小林零、高坂貴行、石黒太志、片山達也、森正一、波戸岡俊三、篠田雅幸、光富徹哉：縦隔リンパ節転移を認めた小型非小細胞肺癌の検討. 第24回日本呼吸器外科学会, 2008, (宇都宮), [示説]
- 039 福井高幸：非小細胞肺癌切除例を対象とした新しいTNM分類の評価. 第27回名古屋大学胸部外科同窓会総会, 2009, (名古屋), [口演]
- 040 福井高幸：新TNM分類の紹介と評価. 第4回名古屋肺癌外科研究会, 2009, (名古屋), [特別報告]
- 041 福井高幸、小林零、齋藤卓也、片山達也、波戸岡俊三、光富徹哉：非小細胞肺癌術後再発に対するErlotinib投与症例の検討. 第7回日本臨床腫瘍学会総会, 2009, (名古屋), [示説]
- 042 片山達也、清水淳一、須田健一、小野里良一、小林零、福井高幸、伊藤志門、波戸岡俊三、樋田豊明、谷田部恭、光富徹哉：大型肺癌（50mm以上）完全切除症例の検討. 第24回日本呼吸器外科学会, 2008, (宇都宮), [示説]
- 043 片山達也、清水淳一、須田健一、小野里良一、小林零、福井高幸、伊藤志門、波戸岡俊三、樋田豊明、谷田部恭、光富徹哉：ゲフィチニブが抵抗性となった後にエルロチニブを投与した有効であった肺腺癌中枢神経転移5症例の検討. 第49回日本肺癌学会総会, (北九州), 2008, [口演]
- 044 小野里良一、高坂貴行、須田健一、谷田部恭、光富徹哉：原発性肺癌切除例におけるMET遺伝子の活性化についての検討. 第67回日本癌学会学術総会, 2008, (名古屋) [示説]
- 045 小野里良一、高坂貴行、須田健一、福本紘一、小林零、片山達也、福井高幸、伊藤志門、波戸岡俊三、篠田雅幸、谷田部恭、光富徹哉：術後再発症例におけるEGFR遺伝子変異とゲフィチニブの効果：134例の検討. 第49回日本肺癌学会総会, 2008, (北九州), [口演]
- 046 須田健一、小野里良一、高坂貴行、谷田部恭、光富徹哉：EGFR遺伝子変異：L858RとExon19バリエーションの検討. 第49回日本肺癌学会総会, 2008, (北九州), [口演]
- 047 齋藤卓也、波戸岡俊三、上嶋伸知、小林零、片山達也、石黒太志、福井高幸、伊藤志門、光富徹哉、篠田雅幸：食道癌手術患者に対する専門的口腔ケアの効果. 第51回関西胸

- 部外科学会学術集会, 2008, (富山), [ワークショップ]
- 048 齋藤卓也、伊藤志門、波戸岡俊三、福井高幸、光富徹哉、篠田雅幸：臨床プロセスチャートを併用した食道癌周術期クリニカルパス. 第9回日本クリニカルパス学会学術集会, 2008, (埼玉), [口演]
- 049 齋藤卓也、望月能成、伊藤誠二、山村義孝、中西逸夫：胃癌腹膜転移・肝転移における原発巣および転移巣のEGFR Familyの発現. 第108回日本外科学会学術集会, 2008, (長崎), [口演]
- 050 齋藤卓也、金光幸秀、小森康司、平井 孝：根治度A大腸癌症例における術後CEAモニタリングの有用性の検討. 第63回日本消化器外科学会学術集会, 2008, (札幌), [口演]
- 051 齋藤卓也、佐野力、清水泰博、千田嘉毅、安藤公隆、三澤一成、伊藤誠二、小森康司、金光幸秀、平井 孝、山村義孝、二村雄次：門脈内腫瘍栓と胆管内腫瘍栓を伴った大腸癌肝転移に傍胆管リンパ節転移を認めた1切除例. 第70回日本臨床外科学会学術集会, 2008, (東京), [ポスター]

乳腺科部

- 001 *Iwata H, Sawaki M, Sato Y, Wada M, Toyama T, Sasaki E, Yatabe Y, Imai T* : Analysis of biomarkers (P27, PTEN, and IGF-IR) after preoperative systemic treatment with the combination of docetaxel and trastuzumab in patients with locally advanced HER2-overexpressing breast cancer . 6th European Breast Cancer Conference, (2008), (Berlin.), [poster]
- 002 *Iwata H, Masuda N, Rai Y, Anan K, Takeuchi T, Kobn No, Takei H, Yanagita Y, Noguchi S* : Estradiol (E2) suppression with monthly versus 3-monthly goserelin treatment in premenopausal patients with early breast cancer. 2008 Breast Cancer Symposium, (2008), (Washington DC), [口演]
- 003 *Iwata H, Wang A, Lau K, Kakinuma K, Rowland C, Kim W, Yatabe Y, Higashimoto H, Sninsky J* : Distant-metastasis-free Survival (DMFS) in Japanese Adjuvant Hormonal-treated Node-negative (N-), Estrogen-receptor Positive (ER+) Breast Cancer Predicted With an Expression Signature. The 26th congress of the international association for breast cancer research, (2008), (Kurashiki.), [示説]
- 004 *Fujita T, Yamashita T, Hayashi H, Tsunoda N, Tsuzuki N, Horio A, Hato Y, Iwata H* : The retrospective analyses of locoregional recurrence patterns and rates after mastectomy without irradiation in 1106 primary breast cancer patients. The 26th congress of the international association for breast cancer research, (2008), (Kurashiki.), [poster]
- 005 *Yamashita T, Fujita T, Hayashi H, Tsunoda N, Tsuzuki N, Horio A, Hato Y, Iwata H* : Retrospective analysis of lymph node negative, HER2-positive, breast cancer patients, with a tumor less than or equal to 1cm in size. The 26th congress of the international association for breast cancer research, (2008), (Kurashiki.),

- [poster]
- 006 *Iwata H, Inaji H, Nakayama T, Yamamoto N, Sato Y, Tokuda Y, Noguchi S, Ikeda T* : A Phase II, Randomized, Open-label, Dose-finding Study of TAS-108, a Novel Steroidal Antiestrogen, Administered Orally in Postmenopausal Women with Advanced or Metastatic Breast Cancer. 31th San Antonio Breast Cancer Symposium, (2008),(San Antonio), [poster]
- 007 *Iwata H, Yamaguchi T, Masuda N, Toyama T, Taira N, Yamamoto Y, Saji S, Kashiwaba M* : Randomized Phase III Study of adjuvant ENDOCRINE-THERAPY with or without chemotherapy for postmenopausal breast cancer patients who responded to neoadjuvant Letrozole. St gallen Oncology conference 2009, (2009),(St Gallen), [poster session]
- 008 岩田広治：術前ホルモン療法の新展開. 外科系連合学会, (2008), (浦安), [口演]
- 009 岩田広治：どう読むか、乳癌診療ガイドライン 外科療法 2008年度版. 第5回日本乳癌学会中部地方会 教育講演 1. (2008), (金沢), [講演]
- 010 岩田広治：乳癌抗体治療の展望. 第5回日本乳癌学会中部地方会, (2008), (金沢), [ランチョンセミナー]
- 011 岩田広治：HER2乳癌における分子標的治療. 第67回日本癌学会学術集会シンポジウム 乳がん研究の新展開、基礎と臨床, (2008), (名古屋), [シンポジウム]
- 012 岩田広治：HER2陽性乳がん克服への道. 第46回日本癌治療学会総会, (2008), (名古屋), [ランチョンセミナー]
- 013 岩田広治：乳癌治療医からみた検診のいま. 第17回日本乳癌検診学会, (2008), (名古屋), [ランチョンセミナー]
- 014 岩田広治：Primary endocrine therapyの新展開. 第6回日本乳癌学会近畿地方会, (2008), (名古屋), [スポンサーードシンポジウム]
- 015 山下年成：読影の基礎、乳癌の臨床. 第1回韓国マンモグラフィ講習会, (2008), (ソウル), [口演]
- 016 山下年成、藤田崇史、林裕倫、角田伸行、都築則正、堀尾章代、波戸ゆかり、岩田広治：臨床試験におけるチーム医療. 第33回外科連合学会, (2008), (千葉), [口演]
- 017 山下年成：HFS（手足症候群）のマネージメント. JFMC37-0801試験東海エリア説明会, (2008), (名古屋), [口演]
- 018 山下年成、藤田崇史、林裕倫、角田伸行、都築則正、堀尾章代、波戸ゆかり、吉本信保、木村万里子、岩田広治：TrastuzumabによるPrimary systemic therapy後の再発症例の検討. 第16回日本乳癌学会学術総会, (2008), (大阪), [口演]
- 019 山下年成、藤田崇史、林裕倫、角田伸行、都築則正、堀尾章代、波戸ゆかり、岩田広治：乳癌術後補助療法におけるパクリタキセル毎週法（12週連続投与法）の任容性の検討. 第43回癌治療学会総会, (2008), (名古屋), [口演]
- 020 林 裕倫、吉本信保、木村万里子、都築則正、藤田崇史、山下年成、岩田広治：愛知県がんセンター中央病院におけるセンチネルリンパ節生検のobservation studyの成績. 第16回日本乳癌学会学術総会, (2008), (大阪), [口演]
- 021 林 裕倫、堀尾章代、波戸ゆかり、都築則正、藤田崇史、山下年成、岩田広治：乳癌術後骨時癌症をきたした2症例. 第5回日本乳癌学会中部地方会, (2008), (金沢), [口演]
- 022 藤田崇史、山下年成、林 裕倫、角田伸行、吉本信保、木村万里子、都築則正、佐々木英一、谷田部恭、岩田広治：Tissue maicroarray法による乳癌subtypeにおけるVEGF発現の検討. 第108回日本外科学会総会, (2008), (長崎), [口演]
- 023 藤田崇史、山下年成、林 裕倫、角田伸行、都築則正、堀尾章代、波戸ゆかり、岩田広治：新しい吸引式乳腺組織生検装置（VACORA）の使用経験. 第5回日本乳癌学会中部地方会, (2008, 2009), (金沢、長崎), [口演]
- 024 藤田崇史、山下年成、林 裕倫、角田伸行、吉本信保、木村万里子、都築則正、岩田広治：Triple negative(TN)乳癌における術後化学療法の検討. 第16回日本乳癌学会総会, (2008), (大阪), [口演]
- 025 都築則正：当院における異時性両側乳癌のbiologyの検討. 第16回日本乳癌学会総会, (2008), (大阪), [口演]
- 026 堀尾章代：壊死に陥り診断に苦慮した乳房腫瘍の一例. 第5回日本乳癌学会中部地方会, (2008), (金沢), [口演]
- 027 波戸ゆかり：定型乳房切除術を施行した乳癌の一例. 第5回日本乳癌学会中部地方会, (2008) (金沢), [口演]
- 028 波戸ゆかり：マンモグラフィで異常所見を呈さない乳癌の一例. 第18回日本乳癌検診学会総会, (2008), (名古屋), [口演]

消化器外科部

- 001 *Sano T, Shimada K, Esaki M, Sakamoto Y, Kosuge T, Shimizu Y, Nimura Y, Shimada K, Esaki M, Sakamoto Y, Kosuge T, Shimizu Y, Nimura Y* : Comparison hilar bile duct cancer with intrahepatic cholangiocarcinoma involving the hepatic hilus. Digestive Disease Week 2008, 2008. (San Diego, USA) [示説].
- 002 *Sano T, Shimada K, Esaki M, Sakamoto Y, Kosuge T, Shimizu Y, Nimura Y* : Hepatobiliary resection with inferior vena cava resection and reconstruction using an autologous patch graft for intrahepatic cholangiocarcinoma. Digestive Disease Week 2008, 2008. (San Diego USA) [示説].
- 003 *Shimizu Y, Sano T, Yamao K, Nimura Y* : Treatment Strategy for Synchronous Metastases of Colorectal Cancer: Is Hepatic Resection After An Observation Interval Appropriate?. 2008DDW (SSAT), 2008. (San Diego, USA) [示説].
- 004 *Hirai T, Kanemitsu Y, Komori K, Kato T* : The long-term results of surgery for colon cancer in Japan. 第22回Congress of International Society of University Colon and Rectal Surgeons, 2008. (San Diego) [口演].
- 005 *Sano T, Shimizu Y, Ando M, Nimura Y* : Surgical outcome of invasive ductal adenocarcinoma of the pancreas head.. The 18th World Congress of the International Association of Surgeons, Gastroenterologists and Oncologists, 2008. (Istanbul, Turkey) [示説].
- 006 *Sano T, Shimizu Y, Senda Y, Ando M, Nimura Y, Shimada K,*

- Sakamoto Y, Esaki M, Kosuge T*: Short-term outcome after pancreatoduodenectomy for periampullary tumor -Evaluation for duct-to-mucosa pancreaticojejunostomy-. The 18th World Congress of the International Association of Surgeons, Gastroenterologists and Oncologists, 2008. (Istanbul Turkey) [示説]
- 007 *Komori K, Hirai T, Kanemitsu Y, Kato T*: A Clinicopathological Study of Poorly differentiated Adenocarcinoma of the Colon and Rectum -A Comparison Between Solid and Non-Solid Types According to the 7th Edition of the General Rules for Clinical and Pathological Studies on Cancer of the Colon, Rectum and Anus (Japanese Society for Cancer of the Colon and Rectum)-. 第11回Japan- China- Korea Symposium for Colo-rectal Cancer 2008, 2008. (Tokyo) [口演]
- 008 *Yoshikawa T, Cho H, Tsuburaya A, Ito S, Iwasaki Y, Imamura H, Sano T, M.S.*: Primary surgery or primary chemotherapy? Treatment strategy for scirrhous gastric cancer with minimal peritoneal metastasis(MPM).. 第回2009 Gastrointestinal Cancers Symposium, 2009. (San Francisco) [示説].
- 009 *Mastui M, Nakanishi H, Ikebara Y, Ito S, Yamamura Y, Tatematsu M*: Successful uptake and delivery of oligomannose-courted liposomes by peritoneal macrophages of gastric cancer patients. 第81回日本胃癌学会総会, 2009. (東京) [International Session].
- 010 *Sano T, Shimizu Y, Senda Y, Ando M, Nimura Y*: Prognostic analysis for invasive ductal adenocarcinoma of the pancreas head. 第2回 The second biennial congress of the Asian-Pacific Hepato-Pancreato- Biliary Association, 2009. (Bangkok, Thailand.) [示説].
- 011 *Sano T, Shimizu Y, Senda Y, Ando M, Nimura Y*: A resected case of pancreatic endocrine carcinoma showing cystic degeneration accompanied with advanced gastric carcinoma involving esophagus.. 第2回The second biennial congress of the Asian-Pacific Hepato-Pancreato- Biliary Association, 2009. (Bangkok, Thailand.) [示説].
- 012 *Sano T, Shimizu Y, Senda Y, Ando M, Nimura Y*: Hepatobiliary resection for metastatic rectal cancer with an expandable metallic stent for obstructive jaundice. 第2回The second biennial congress of the Asian-Pacific Hepato-Pancreato- Biliary Association, 2009. (Bangkok, Thailand) [示説].
- 013 *Sano T, Shimizu Y, Senda Y, Ando M, Nimura Y*: A resected case of duodenal metastasis from ascending colon cancer. 第2回 The second biennial congress of the Asian-Pacific Hepato-Pancreato-Biliary Association, 2009. (Bangkok, Thailand) [示説].
- 014 *安藤公隆, 清水泰博, 佐野 力, 千田嘉毅, 山村義孝, 平井 孝, 金光幸秀, 伊藤誠二, 望月能成, 小森康司, 加藤知行, 二村雄次*: 大腸癌同時性肝転移に対するFOLFOX施行後肝切除の成績. 第275回東海外科, 2008. (名古屋) [口演].
- 015 *八幡和憲, 小森康司, 金光幸秀, 平井 孝, 千田嘉毅, 望月能成, 伊藤誠二, 佐野 力, 清水泰博, 山村義孝, 加藤知行*: 当院における大腸腺腫症の治療の変遷. 第275回東海外科学会, 2008. (名古屋) [口演].
- 016 *小寺泰弘, 中西速夫, 伊藤友一, 高木大志, 大橋紀文, 伊藤誠二, 中山吾郎, 小池聖彦, 藤原道隆, 山村義孝, 中尾昭公*: 胃癌の転移におけるCXCL12-CXCR4axisの役割. 第94回日本消化器病学会総会, 2008. (福岡) [口演].
- 017 *平井 孝, 金光幸秀, 小森康司, 清水泰博, 佐野 力, 伊藤誠二, 望月能成, 山村義孝, 加藤知行*: 進行下部直腸癌に対する手術と放射線療法的位置づけ—術後照射の意義—. 第108回外科学会, 2008. (長崎) [口演].
- 018 *清水泰博, 佐野 力, 山村義孝, 平井 孝, 金光幸秀, 伊藤誠二, 望月能成, 小森康司, 安藤公隆, 加藤知行, 二村雄次, 山雄健次*: 自然史からみた膵管内乳頭粘液性腫瘍(IPMN)の治療法の選択. 第108回日本外科学会定期学術集会, 2008. (長崎) [シンポジウム].
- 019 *金光幸秀, 中西速夫, 平井 孝, 小森康司, 望月能成, 伊藤誠二, 佐野 力, 清水泰博, 山村義孝, 加藤知行*: 大腸癌ultra stagingにおけるセンチネルリンパ節マッピングの問題点. 第108回日本外科学会, 2008. (長崎) [示説].
- 020 *小森康司, 平井 孝, 金光幸秀, 加藤知行, 山村義孝, 清水泰博, 佐野 力, 伊藤誠二, 望月能成*: 大腸低分化腺癌の亜分類(充実型, 非充実型)の検討. 第108回日本外科学会総会, 2008. (長崎市) [口演].
- 021 *小寺泰弘, 伊藤誠二, 望月能成, 藤原道隆, 伊藤友一, 三澤一成, 江口武彦, 中山吾郎, 小池聖彦, 山村義孝, 中尾昭公*: スキルス胃癌腹膜転移例における予後の改善. 第108回日本外科学会総会, 2008. (長崎) [デジタルポスター].
- 022 *齋藤卓也, 望月能成, 小寺泰弘, 伊藤誠二, 山村義孝, 中西速夫*: 胃癌における原発巣及び転移巣でEGFおよびRHER2の発現. 第108回日本外科学会総会, 2008. (長崎) [デジタルポスター].
- 023 *安藤公隆, 清水泰博, 佐野 力, 千田嘉毅, 小森康司, 二村雄次*: 著明な嚢胞形成を伴う浸潤性膵管癌の1例. 第20回日本肝胆膵外科学会・学術集会, 2008. (山形) [示説].
- 024 *清水泰博, 佐野 力, 小森康司, 安藤公隆, 二村雄次, 山雄健次*: 切除成績からみた膵管内乳頭粘液性腫瘍(IPMN)の手術適応の再検討—長期経過観察した症例の臨床経過を含めて—. 第20回日本肝胆膵外科学会学術集会, 2008. (山形) [シンポジウム].
- 025 *山雄健次, 水野伸匡, 清水泰博*: IPMN/MCNの疾患概念の歴史の変遷. 第20回日本肝胆膵外科学会学術集会, 2008. (山形) [シンポジウム].
- 026 *安藤公隆, 清水泰博, 佐野 力, 千田嘉毅, 小森康司, 二村雄次*: 肝胆膵外科志望者のモチベーション. 第20回日本肝胆膵外科学会学術集会, 2008. (山形) [シンポジウム].
- 027 *佐野 力, 清水泰博, 安藤公隆, 小森康司, 千田嘉毅, 二村雄次, 島田和明, 阪本良弘, 江崎 稔, 小菅智男*: がん専門施設における膵頭十二指腸切除の短期成績: mortality zeroを目指して. 第20回日本肝胆膵外科学会学術集会, 2008. (山形) [パネルディスカッション].
- 028 *木下 平, 中郡聡夫, 上坂克彦, 清水泰博, 木村 理, 今泉俊秀*: 膵癌根治術後の補助療法としての術中照射の意義について. 第20回日本肝胆膵外科学会学術集会, 2008. (山

- 029 佐野 力、清水泰博、安藤公隆、千田嘉毅、小森康司、二村雄次：肝切除後の腹水貯留に対しTransjugular intrahepatic portsystemic shunt (TIPS)を施行した1例。第20回日本肝胆膵外科学会, 2008。(山形) [示説].
- 030 八幡和憲、小森康司、金光幸秀、平井 孝、千田嘉毅、望月能成、伊藤誠二、佐野 力、清水泰博、山村義孝、加藤知行：当院における家族性大腸腺腫症の治療の変遷。第14回日本家族性腫瘍学会学術集会, 2008。(東京) [口演].
- 031 平井 孝、金光幸秀、小森康司：loop ileostomyの手技。第57回東海ストーマリハビリテーション研究会, 2008。(大垣) [パネルディスカッション].
- 032 千田嘉毅、佐野 力、清水泰博、安藤公隆、二村雄次：胆管癌が否定できずに切除を行った良性胆管狭窄の一例。第47回東海肝臓外科懇談会, 2008。(名古屋) [口演].
- 033 小森康司、平井 孝、金光幸秀、加藤知行、平井 孝、金光幸秀、加藤知行：大腸pMP癌の原発巣腫瘍浸潤様式による亜分類の意義。第69回大腸癌研究会, 2008。(横浜市) [口演].
- 034 平井 孝、小森康司、森 正一：大腸癌肺転移に対するstaging。大腸癌研究会 肺転移プロジェクト研究 2008。(東京) [その他].
- 035 平井 孝、金光幸秀、小森康司、清水泰博、佐野 力、千田嘉毅、伊藤誠二、三澤一成、山村義孝、加藤知行：結腸癌外科治療における遠隔治療成績の向上。第63回消化器外科学会, 2008。(札幌) [ワークショップ].
- 036 金光幸秀、平井 孝、小森康司、千田嘉毅、望月能成、伊藤誠二、佐野力、清水泰博、山村義孝、加藤知行：再発腫瘍の外科治療法および集学的治療方針 大腸・肛門 直腸癌局所再発切除対象例に対する術前補助療法の適応。第63回日本消化器外科学会, 2008。(札幌) [ワークショップ].
- 037 小森康司、平井 孝、金光幸秀、加藤知行、清水泰博、佐野 力、伊藤誠二、望月能成、千田嘉毅、山村義孝：大腸低分化腺癌で術前生検の病理診断を亜分類することはリンパ節転移予測に寄与できるか？。第63回日本消化器外科学会総会, 2008。(札幌市) [口演].
- 038 安藤公隆、清水泰博、佐野 力、千田嘉毅、山村義孝、金光幸秀、伊藤誠二、望月能成、小森康司、二村雄次：膵IPMN由来浸潤癌と考えられた18切除例の臨床病理学的検討。第63回日本消化器外科学会総会, 2008。(札幌) [示説].
- 039 清水泰博、佐野 力、千田嘉毅、安藤公隆、山村義孝、平井 孝、金光幸秀、小森康司、加藤知行、二村雄次：大腸癌同時性肝転移に対する治療戦略一待機による肝切除成績と今後の展望一。第63回日本消化器外科学会総会, 2008。(札幌) [シンポジウム].
- 040 佐野 力、清水泰博、安藤公隆、千田嘉毅、小森康司、伊藤誠二、金光幸秀、平井 孝、山村義孝、二村雄次：膵頭部浸潤性膵管癌の予後解析：長期生存の条件とは。第63回日本消化器外科学会総会, 2008。(札幌) [示説].
- 041 八幡和憲、平井 孝、小森康司、金光幸秀、加藤知行：大腸癌における術中洗浄細胞診の検討。第63回消化器外科学会総会, 2008。(札幌) [口演].
- 042 安藤公隆、清水泰博、佐野 力、千田嘉毅、二村雄次、原和夫、高木忠之、水野伸匡、澤木 明、山雄健次：術後6年目に腹膜播種再発を見とめた膵SPTの1例。第9回臨床消化器病研究会, 2008。(横浜) [口演].
- 043 安藤公隆、清水泰博、佐野 力、千田嘉毅、山雄健次、澤木 明、水野伸匡、伯耆徳之、高木忠之、二村雄次：粘液癌とIPMN由来浸潤癌との鑑別が問題となった3例。第39回日本膵臓学会, 2008。(横浜) [口演].
- 044 澤井勇悟、澤木 明、水野伸匡、伯耆徳之、高木忠之、高山玲子、武田洋平、中原 修、清水泰博、山雄健次：膵嚢胞性疾患に対する嚢胞液腫瘍マーカー測定および細胞診の意義。第39回日本膵臓学会, 2008。(横浜) [口演].
- 045 清水泰博、佐野 力、安藤公隆、二村雄次、水野伸匡、高木忠之、山雄健次：膵管内乳頭粘液性腫瘍 (IPMN) の手術適応の再検討一経過観察後に切除した症例を含めて一。第39回日本膵臓学会, 2008。(横浜) [パネルディスカッション].
- 046 山雄健次、清水泰博：MCNとIPMNは異なる疾患。第39回日本膵臓学会, 2008。(横浜) [ラウンドテーブル].
- 047 高木忠之、清水泰博、山雄健次：当院における10mm以下の小膵癌の検討。第39回日本膵臓学会, 2008。(横浜) [ワークショップ].
- 048 金光幸秀、平井孝、小森康司：直腸癌局所再発に対する仙骨合併切除の意義。第44回中部外科学会, 2008。(松本) [口演].
- 049 原 和夫、水野伸匡、高木忠之、澤木 明、澤井勇悟、小林佑次、松本和也、山北圭介、杉森聖司、坪井順哉、山雄健次、中村常哉、田近正洋、河合宏紀、清水泰博、佐野 力、谷田部恭、細田和貴：広範なPAN-IN病変を呈したTS1膵癌の1例。第49回日本消化器画像診断研究会, 2008。(大阪) [口演].
- 050 安藤公隆、清水泰博、佐野 力、千田嘉毅、二村雄次、原和夫、高木忠之、水野伸匡、山雄健次：血清CA19-9異常高値が診断の契機となった膵IPMN由来浸潤癌の1例。第37回肝胆膵治療研究会, 2008。(名古屋) [口演].
- 051 三澤一成、藤原道隆、小寺泰博、森健策、小池聖彦、中山吾郎、伊藤誠二、山村義孝、中尾昭公：3次元MDCT画像を使用した内視鏡外科手術シミュレーションシステム。第21回日本内視鏡外科学会, 2008。(横浜) [示説].
- 052 望月能成、藤原道隆、伊藤誠二、山村義孝、小寺泰弘、中尾昭公：早期胃癌に対する腹腔鏡補助下胃切除の前向き検討の結果。第21回日本内視鏡外科学会総会, 2008。(横浜) [示説].
- 053 清水泰博、佐野 力、小森康司、千田嘉毅、安藤公隆、二村雄次、山雄健次：胆管非拡張型膵胆管合流異常の治療成績。第44回日本胆道学会学術集会, 2008。(名古屋) [示説].
- 054 安藤公隆、佐野 力、清水泰博、千田嘉毅、小森康司、二村雄次：肝内胆管癌との術前鑑別診断が困難であった胆管内発育型肝細胞癌の1例。第44回日本胆道学会学術集会, 2008。(名古屋) [示説].
- 055 高木忠之、原 和生、水野伸匡、澤井勇悟、小林佑次、松本和也、山北圭介、杉森聖司、坪井順哉、清水泰博、佐野 力、千田嘉毅、安藤公隆、山雄健次：EUS-FNAが術前診

- 断に有用であった非露出腫瘍型乳頭部癌の1例。第44回日本胆道学会学術集会, 2008. (名古屋) [示説].
- 056 佐野 力、清水泰博、安藤公隆、千田嘉毅、小森康司、二村雄次：胆管メタリックステント留置後に肝切除、ステント遺残胆管で胆道再建を行った1例。第44回日本胆道学会学術集会, 2008. (名古屋) [示説].
- 057 安藤公隆、清水泰博、佐野 力、千田嘉毅、二村雄次、原和生、高木忠之、水野伸匡、澤木 明、山雄健次、細田和貴、谷田部恭、藤本正夫：粘液癌とIPMN由来浸潤癌の鑑別が問題となった膵頭部癌の1例。第63回東海胆道研究会, 2008. (名古屋) [口演].
- 058 清水泰博、佐野 力、小森康司：大腸癌同時性多発肝転移の治療成績—待機肝切除とFOLFOX後肝切除。第50回日本消化器病学会大会, 2008. (東京) [パネルディスカッション].
- 059 榊原 巧、平井 孝、八幡和憲、舎人 誠、安藤公隆、中村一郎、三澤一成、千田嘉毅、小森康司、伊藤誠二、金光幸秀、清水泰博、佐野 力、山村義孝：下行結腸癌に対するリンパ節郭清の意義。第276回東海外科学会, 2008. (津) [口演].
- 060 平井 孝、金光幸秀、小森康司、加藤知行：進行直腸癌に対する集学的治療法の検討—術後照射の効果—。第63回大腸肛門病学会, 2008. (東京) [シンポジウム].
- 061 金光幸秀、平井 孝、小森康司、榊原 巧、加藤知行：大腸癌肺転移の治療—大腸癌肺転移切除例の予後予測—ノモグラムの外的妥当性。第63回日本大腸肛門病学会, 2008. [ワークショップ].
- 062 小森康司、平井 孝、金光幸秀、加藤知行：直腸低分化腺癌亜分類別にみた肛門側壁内進展の意義。第63回日本大腸肛門病学会, 2008. (東京都) [パネルディスカッション].
- 063 伊藤誠二、中西速夫、小寺泰弘、山村義孝、立松正衛：Development of new genetic markers for detection of intraperitoneal tumor cells of gastric cancer using microarray. 第67回日本癌学会総会, 2008. (名古屋) [ワークショップ].
- 064 中西速夫、伊藤友一、小寺泰弘、山村義孝、立松正衛：Cancer stem cell-like phenotypic expression of CD133-positive metastatic colorectal cancer cell line.. 第67回日本癌学会, 2008. (名古屋) [ワークショップ].
- 065 中村一郎、山村義孝、伊藤誠二、三澤一成、清水泰博、佐野 力、千田嘉毅、安藤公隆、平井 孝、金光幸秀、小森康司、榊原 巧、八幡和憲、舎人 誠：膵体部腫瘍を合併した胃癌に、脾および脾動静脈を温存して、幽門側胃切除術+D2郭清+膵体尾部切除術を施行した1例。第46回日本癌治療学会, 2008. (名古屋) [示説].
- 066 小寺泰弘、中西速夫、加藤佐和子、伊藤誠二、望月能成、伊藤友一、山村義孝、中山吾郎、小池聖彦、藤原道隆、中尾昭公：胃癌におけるgefitinibの感受性予測。第46回日本癌治療学会総会, 2008. (名古屋) [パネルディスカッション].
- 067 小寺泰弘、円谷 彰、小林道也、吉川貴己、伊藤誠二、高橋正純、神垣隆、辻谷俊一、滝口伸浩、平林直樹、加藤佐和子、坂本淳一、中尾昭公：抗癌剤感受性試験—胃癌におけるPaclitaxelの感受性試験の多施設共同研究。第46回日本癌治療学会総会, 2008. (名古屋) [シンポジウム].
- 068 設楽紘平、室 圭、宇良 敬、高張大亮、横田知哉、澤木明、河合宏紀、伊藤誠二、山村義孝：進行・再発胃癌に対する標準化学療法のコセンサスは得られたかPosto ACTS-GS時代の再発胃癌にS1を含む治療は標準療法となるか?。第46回日本癌治療学会総会, 2008. (名古屋) [ワークショップ].
- 069 平井 孝、金光幸秀、小森康司、清水泰博、佐野 力、千田嘉毅、伊藤誠二、三澤一成、山村義孝、加藤知行：下行結腸癌に対する手術成績および左側結腸受動・郭清手技。第20回東海大腸外科治療研究会, 2008. (名古屋) [口演].
- 070 小森康司、平井 孝、金光幸秀：StageIII大腸癌手術症例の予後についての検討。第13回大腸癌術後フォローアップ研究会, 2008. (東京都) [シンポジウム].
- 071 平井 孝、金光幸秀、小森康司、清水泰博、佐野 力、千田嘉毅、伊藤誠二、三澤和成、山村義孝、加藤知行、金光幸秀、小森康司、清水泰博、佐野 力、千田嘉毅、伊藤誠二、三澤一成、山村義孝、加藤知行：original no touch isolationに基づく開腹D3結腸右半切除術の成績。第70回日本臨床外科学会, 2008. (東京) [ビデオシンポジウム].
- 072 小森康司、加藤知行、平井 孝、金光幸秀、清水泰博、佐野力、伊藤誠二、千田嘉毅、三澤一成、八幡和憲、山村義孝：家族性大腸腺腫症に合併した回腸囊腫の1例。第70回日本臨床外科学会総会, 2008. (東京都) [口演].
- 073 榊原 巧、平井 孝、八幡和憲、舎人誠、安藤公隆、中村一郎、三澤一成、千田嘉毅、小森康司、伊藤誠二、金光幸秀、清水泰博、佐野 力、山村義孝：直腸低位前方切除におけるリークテストの有用性の検討。第70回日本臨床外科学会総会, 2008. (東京都) [口演].
- 074 安藤公隆、清水泰博、佐野 力、千田嘉毅、山村義孝、平井 孝、金光幸秀、伊藤誠二、小森康司、三澤一成、二村雄次：膵Serous cystic neoplasm切除6例の臨床病理学的検討。第70回日本臨床外科学会総会, 2008. (東京) [示説].
- 075 佐野 力、清水泰博、安藤公隆、千田嘉毅、小森康司、伊藤誠二、三澤一成、金光幸秀、平井 孝、山村義孝、二村雄次：術前原発性十二指腸癌と診断した大腸がん十二指腸転移の1例。第70回日本臨床外科学会総会, 2008. (東京) [示説].
- 076 八幡和憲、清水泰博、佐野 力、千田嘉毅、山村義孝、平井 孝、金光幸秀、伊藤誠二、小森康司、三澤一成、安藤公隆、二村雄次：血清CA19-9異常高値が診断の契機となった膵IPMN由来浸潤癌の1例。第70回日本臨床外科学会総会, 2008. (東京) [示説].
- 077 清水泰博、佐野 力、山村義孝、平井 孝、金光幸秀、伊藤誠二、小森康司、千田嘉毅、三澤一成、安藤公隆、二村雄次、山雄健次：自然史からみた膵管内乳頭状液性腫瘍(IPMN)の手術適応の再検討—術後成績および長期経過観察例の臨床経過から—。第70回日本臨床外科学会総会, 2008. (東京) [パネルディスカッション].
- 078 佐野 力、清水泰博、安藤公隆、千田嘉毅、小森康司、伊藤誠二、三澤一成、金光幸秀、平井 孝、山村義孝、二村

- 雄次：術前原発性十二指腸癌と診断した大腸がん十二指腸転移の1例。第70回日本臨床外科学会総会, 2008。(東京) [示説].
- 079 三澤一成、伊藤誠二、中村一郎、山村義孝：アブライドメダイカル社セパレーターとロッカーシステムを利用したoptical法による安全なトロッカー挿入。第70回日本臨床外科学会総会, 2008。(東京) [示説].
- 080 藤原道隆、小寺泰弘、伊藤友一、中山吾郎、小池聖彦、三澤一成、伊藤誠二、望月能成、横山裕之、中尾昭公：早期胃癌に対する腹腔鏡下胃切除導入方法。第70回日本臨床外科学会総会, 2008。(東京) [シンポジウム].
- 081 安藤公隆、清水泰博、佐野 力、千田嘉毅、二村雄次、原和生、高木忠之、水野伸匡、澤木 明、山雄健次、細田和貴、谷田部恭、藤本正夫：粘液癌とIPMN由来浸潤癌の鑑別が問題となった膵頭部癌の1例。第50回日本消化器画像診断研究会, 2009。(沖縄県名護市) [口演].
- 082 金光幸秀、平井孝、小森康司：大腸癌術後におけるフォローアップ検査の費用対効果比較。第70回大腸癌研究会, 2009。(東京) [口演].
- 083 安藤公隆、佐野 力、清水泰博、千田嘉毅、三澤一成、小森康司、伊藤誠二、金光幸秀、平井 孝、山村義孝、二村雄次：動脈合併切除再建を伴う肝右葉切除を施行した、肝十二指腸間膜浸潤を伴う胆管癌の1例。第48回東海肝臓外科懇談会, 2009。(名古屋) [口演].
- 084 清水泰博：肝転移を手術でなおす外科治療の現状。第回愛知県がんセンター中央病院 市民公開講座, 2009。(名古屋) [講演].
- 085 安藤公隆、清水泰博、佐野 力、千田嘉毅、山村義孝、平井 孝、金光幸秀、伊藤誠二、小森康司、三澤一成、二村雄次：原発巣切除5年後に肝転移を切除し得た膵腺房細胞癌の1例。第31回愛知臨床外科学会, 2009。(名古屋) [口演].
- 086 舎人 誠、千田嘉毅、清水泰博、佐野 力、安藤公隆、山村義孝、平井 孝、金光幸秀、伊藤誠二、小森康司、三澤一成、二村雄次：通常型膵癌を併存したIPMNの1例。第31回愛知臨床外科学会, 2009。(名古屋市) [口演].
- 087 安藤公隆、清水泰博、佐野 力、千田嘉毅、山雄健次、澤木 明、水野伸匡、高木忠之、原 和生、谷田部恭、細田和貴、山本英明、中山 剛、二村雄次：胆管非拡張型膵胆管合流異常に合併した胆管癌の1例。第64回東海胆道研究会, 2009。(名古屋) [口演].
- 088 伊藤誠二、松尾恵太郎、三澤一成、山村義孝：胃癌同時性肝転移における胃切除・肝切除の意義-propensity scoreによる層別化Cox回帰を用いて。第81回日本胃癌学会総会, 2009。(東京) [示説].
- 089 三澤一成、伊藤誠二、山村義孝、中村一郎、藤原道隆、小寺泰弘、中尾昭公：操作の容易な巾着縫合器 (PSI) 用直針の開発。第81回日本胃癌学会総会, 2009。(東京) [示説].
- 090 中村一郎、山村義孝、伊藤誠二、三澤一成：ステージ3胃癌の予後因子の解析。第81回日本胃癌学会総会, 2009。(東京) [示説].
- 091 高木忠之、原 和生、水野伸匡、澤木 明、山雄健次、清

水泰博：膵疾患の診断におけるEUS-FNAの役割。第38回肝胆膵治療研究会, 2009。(名古屋) [シンポジウム].

整形外科部

- 001 杉浦英志、山田健志、小澤英史、立松明子、谷田部恭、大友克之：右脛骨骨腫瘍の1例。第62回東海骨軟部腫瘍研究会, 2008。(大阪) [口演].
- 002 荒木信人、守田哲郎、中馬広一、矢澤康男、名井 陽、片桐浩久、杉浦英志：治療ガイドライン策定に向けて。第81回日本整形外科学会学術総会, 2008。(札幌) [パネルディスカッション].
- 003 片桐浩久、高橋 満、高木辰哉、村田秀樹、杉浦英志、中西啓介：転移性骨腫瘍に対する治療体系 一予後予測と治療方針の立て方一。第81回日本整形外科学会学術総会, 2008。(札幌) [パネルディスカッション].
- 004 川井 章、上田孝文、平賀博明、生越 章、石井 猛、杉浦英志、松峯昭彦、中山富貴、下瀬省二、田仲和宏、横山良平：全国骨・軟部腫瘍登録電子化の歩みと今後の展望。第81回日本整形外科学会学術総会, 2008。(札幌) [口演].
- 005 筑紫 聡、西田佳弘、杉浦英志、中島浩敦、山田芳久、石黒直樹：胸壁発生軟部肉腫の治療成績。第81回日本整形外科学会学術総会, 2008。(札幌) [口演].
- 006 鈴木喜貴、西田佳弘、筑紫 聡、紫藤洋二、細野幸三、杉浦英志、山田芳久、中島浩敦、石黒直樹：関節温存手術を施行した膝周囲発生の骨巨細胞腫における予後因子の解析 一再発と二次性関節症について一。第81回日本整形外科学会学術総会, 2008。(札幌) [ポスター].
- 007 神山圭史、杉浦英志、山田健志、亀井譲、八木俊路朗：左前腕軟部肉腫の1例。第19回骨軟部腫瘍治療法検討会, 2008。(名古屋) [口演].
- 008 片桐浩久、高橋満、高木辰哉、村田秀樹、杉浦英志、西田佳弘、中島浩敦、山田芳久、杉山晴敏：切除不能な骨・軟部肉腫症例に対する動注化学療法と放射線治療の併用。第41回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会, 2008。(浜松) [口演].
- 009 筑紫聡、西田佳弘、細野幸三、紫藤洋二、和佐潤志、杉浦英志、松島 秀、紀ノ定保臣、石黒直樹：骨・軟部腫瘍領域におけるequivalent crossrelaxation rate imaging。第41回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会, 2008。(浜松) [口演].
- 010 新井英介、西田佳弘、杉浦英志、筑紫聡、紫藤洋二、細野幸三、浦川 浩、石黒直樹：四肢深部発生顆粒細胞腫5例の臨床および病理学的検討。第41回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会, 2008。(浜松) [口演].
- 011 山田健志、小澤英史、安藤智洋、佐藤公治、杉浦英志：病病連携による転移性脊椎腫瘍患者の手術治療。第41回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会, 2008。(浜松) [口演].

- 012 山田健志、岩田広治、小澤英史、杉浦英志：乳癌患者に見られたSAPHO症候群の3例。第41回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会、2008、(浜松)、[ポスター]
- 013 吉田雅博、西田佳弘、中島浩敦、杉浦英志、水野正昇、筑紫聡、石黒直樹：胸膜外発生solitary fibrous tumor 8例の治療成績。第41回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会、2008、(浜松)、[ポスター]
- 014 小澤英史、杉浦英志、山田健志：足部に大腸癌骨転移を来した3例。第41回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会、2008、(浜松)、[ポスター]
- 015 山田健志、杉浦英志、神山圭史、谷田部恭：縦隔腫瘍の1例。第63回東海骨軟部腫瘍研究会、2008、(名古屋)、[口演]
- 016 神山圭史、杉浦英志、山田健志：術後20年を経た膝部遺残ガーゼによる異物肉芽腫の1例。第213回整形外科集談会東海地方大会、2008、(名古屋)、[口演]
- 017 杉浦英志：骨転移に対する治療戦略。岐阜県骨転移セミナー、2008、(岐阜)、[特別講演]
- 018 杉浦英志：骨軟部腫瘍の臨床における現状。第2回伴侶動物の臨床医学研究会、2008、(岡崎)、[シンポジウム]
- 019 杉浦英志：骨病変に対する対処法。がん相談支援セミナー、2008、(名古屋)、[講演]
- 020 杉浦英志：骨悪性腫瘍切除後の骨欠損に対する加温処理骨移植術の治療経験。第46回日本癌治療学会総会、2008、(名古屋)、[口演]
- 021 山田健志：著名な腹部転移病変を伴った四肢発生粘液型脂肪肉腫の3例。第46回日本癌治療学会総会、2008、(名古屋)、[ポスター]
- 022 小澤英史、杉浦英志、田口 修：マウスの骨肉腫移植モデルにおける抗CD25単抗体の肺転移抑制効果。第67回日本癌学会学術総会、2008、(名古屋)、[ポスター]
- 023 山田健志、杉浦英志、谷田部恭、野島孝之：左橈骨腫瘍の1例。第42回日本骨軟部腫瘍研究会、2008、(福岡)、[口演]
- 024 山田健志、杉浦英志、谷田部恭：左前頭骨腫瘍の1例。第42回日本骨軟部腫瘍研究会、2008、(福岡)、[口演]
- 025 三上慎司、長谷川泰久、寺田聡広、兵藤伊久夫、花井信広、小澤泰次郎、平川 仁、川北大介、神山圭史、丸尾貴志、杉浦英志、山田健志：頭頸部肉腫症例の検討。第19回日本頭頸部外科学会総会、2009、(名古屋)、[口演]
- 026 杉浦英志：骨・軟部腫瘍の診断と治療。第6回豊明整形セミナー、2009、(豊明)、[特別講演]
- 027 杉浦英志：癌骨転移の診断と治療。肺癌骨転移講演会、2009、(名古屋)、[特別講演]
- 028 山田健志：病病連携による転移性脊椎腫瘍の手術治療。第37回八事整形会、2009、(名古屋)、[講演]
- 029 杉浦英志：日常診療における骨・軟部腫瘍の診断。第5回名城倶楽部、2009、(名古屋)、[特別講演]
- 030 杉浦英志：骨軟部腫瘍の治療～特に化学療法を中心に～、薬剤師講義、2009、(名古屋)、[口演]

泌尿器科部

- 001 小倉友二、脇田利明、平林 淳、林 宣男：2007年愛知県がんセンター泌尿器科入院手術統計。第43回三重泌尿器科医会、2008、(津) [口演]
- 002 荒瀬栄樹、石井健一郎、小倉友二、今村哲也、吉尾裕子、有馬公伸、杉村芳樹：ビスフェノールA経胎盤投与によりマウス泌尿生殖洞で発現変動した遺伝子群の探索。第17回泌尿器科分子・細胞研究会、2008、(東京) [口演]
- 003 林 宣男、脇田利明、小倉友二、田丸裕巳、古平 毅：Tomotherapyによる前立腺癌に対するIMRTの初期経験。第96回日本泌尿器科学会総会、2008、(横浜) [示説]
- 004 田丸裕巳、小倉友二、脇田利明、林 宣男、金光幸秀：右精索内腫瘍から診断された虫垂カルチノイドの1例。第240回日本泌尿器科学会東海地方会、2008、(名古屋) [口演]
- 005 小倉友二、田丸裕巳、脇田利明、林 宣男：前立腺癌に対する密封小線源治療の初期経験。第44回三重泌尿器科医会、2008、(津) [口演]
- 006 小倉友二、田丸裕巳、脇田利明、林 宣男：臨床病期C前立腺癌に対する前立腺全摘術の検討。第46回日本癌治療学会総会学術総会、2008、(名古屋) [示説]
- 007 小倉友二、田丸裕巳、脇田利明、林 宣男：前立腺癌密封小線源治療の初期経験。第58回日本泌尿器科学会中部総会、2008、(大津) [口演]

婦人科部

- 001 細野覚代、梶山広明、城所久美子、中西 透、吉川史隆：日本人女性におけるアルコール摂取と子宮内膜癌のリスクについての検討。第60回日本産科婦人科学会学術講演会、2008、(横浜)、[示説]
- 002 鈴木史朗、吉川史隆、水野公雄、山室 理、井上孝実、神谷典男、木下吉登、松澤克治、榊原克己、河井通泰、小口秀紀、岩田光正、竹田明宏、石田時一、中西 透：肉眼的に残存腫瘍を認めなかった卵巣明細胞腺癌205例の術式別予後解析。東海卵巣腫瘍研究会、2008、(名古屋)、[示説]
- 003 梶山広明、吉川史隆、水野公雄、山室 理、井上孝実、神谷典男、木下吉登、松澤克治、榊原克己、河井通泰、小口秀紀、岩田光正、竹田明宏、石田時一、中西 透：再発・再燃卵巣癌の大規模長期生存解析 633症例の4大組織型別、予後解析を通して。東海卵巣腫瘍研究会、2008、(名古屋) [示説]
- 004 中西 透：子宮頸部腺系病変の診断と治療 子宮頸部腺癌に対する当院での治療経験と成績。第44回婦人科腫瘍学会学術集会、2008、(名古屋)、[口演]
- 005 中西 透、牧野 弘、吉田憲生、水野美香、伊藤則雄：腔原発悪性黒色腫4例の治療経験。第87回日産婦愛知地方部会学術講演会、2008、(名古屋)、[口演]
- 006 伊藤則雄、丹羽慶光、水野美香、中西 透：当院におけるクリニカルパスの現状と今後の課題について。第123回東海

産科婦人科学会, 2008,(名古屋),[口演]

- 007 水野美香、吉田憲生、牧野 弘、伊藤則雄、中西 透：I、II期子宮頸部腺癌の治療成績。第46回日本癌治療学会学術集会,2008,(名古屋),[示説] Source：日本癌治療学会誌,43(2):815,2008.
- 008 中西 透、牧野 弘、吉田憲生、水野美香、伊藤則雄：子宮癌肉腫21例の検討。第88回日産婦愛知地方部会学術講演会, 2009,(名古屋),[口演]
- 009 中西 透、牧野 弘、吉田憲生、水野美香、伊藤則雄：卵巣癌治療後の経過観察に関する検討。第124回東海産科婦人科学会, 2009,(名古屋),[口演]

麻酔科部

- 001 Nakada J, Nishira M, Hosoda R, Matsura T, Inagaki Y: Prevention of remifentanyl-mediated rigidity and difficult ventilation by priming with rocuronium. ASA 2008 Annual Meeting, 2008. (Orland) [ポスター]
- 002 Nishida T, Matsura T, Nakada J, Ohta Y, Yamada K: Induction of heat shock protein 70 by polaprezinc inhibits acetaminophen-induced hepatotoxicity in mouse primary hepatocytes. 48th Annual Meeting of the Society of Toxicology. 2009. (Baltimore) [ポスター]
- 003 鳥居 圭、細田蓮子、西脇公俊：在宅疼痛診療 ①治療関係の重要性②在宅緩和診療における拠点病院との連携について。第19回日本ペインクリニック学会東海地方会 2008.(名古屋) [口演]
- 004 細田蓮子：セレクトッドポスター術後管理。日本麻酔科学会第55回学術集会, 2008. (横浜) [座長]
- 005 細田蓮子：特別講演「がん患者の呼吸困難を緩和する現場と便利わざ」「これからの緩和医療に必要な薬物治療の基礎知識」。第6回名古屋がん疼痛緩和フォーラム。 2008. (名古屋) [座長]
- 006 細田蓮子、立松三千子、鳥居 圭、向井未年子、佐藤洋造、小森康永：愛知県がんセンター中央病院での、がん医療における緩和ケアチームの取り組み「新体制紹介」疼痛緩和の日研究会, 2008. (名古屋) [講演]
- 007 立松三千子、後藤厚司、東方 都、塚本温子、笠井智代、水野靖也、澤田一美、大石和明、細田蓮子、犬飼陽子：都道府県がん診療連携拠点病院における薬剤部と保険薬局との地域連携の試み(第1報)。第2回緩和医療薬学会年会,2008, (横浜), [ポスター]
- 008 仲田純也、細田蓮子：ロクロニウムを用いたプライミングはレミフェンタニル投与時の筋硬直・換気困難を予防できるか。第28回日本臨床麻酔学会, 2008. (京都) [ポスター]
- 009 細田蓮子：がん診療に携わる医師に対する緩和ケア基本研修会。愛知緩和ケアフォーラム, 2008. (名古屋) [座長]
- 010 松浦達也、森川仁詞、西田直史、楠本智章、仲田純也、太田好次、山田一夫：マウス初代培養肝細胞におけるアセトアミノフェン障害に対するポラプレジンクの抑制効果：熱ショック蛋白誘導作用の関与。第81回日本生化学会大会,

2008. 12(神戸) [ポスター]

- 011 細田蓮子：硬膜外ポートを挿入した1例。名古屋緩和ケアカンファレンス～Nagoya-PACC～ 第2回症例検討会～「失敗例」～ 2009. (名古屋) [口演]

放射線診断・IVR部

- 001 Inaba Y, Arai Y, Yamaura H, Sato Y, Najima M, Saito H, Aramaki T, Sato M, Kumada M, Takeuchi Y: Phase II Clinical study on stent therapy for unresectable malignant colorectal stenosis (JIVROSG-0206). The 44th Annual Meeting of the American Society of Clinical Oncology, 2008, (Chicago), [Poster]
- 002 Tomozawa Y, Inaba Y, Yamaura H, Sato Y, Najima M, Sakane M, Nishio R: Clinical value of CT guided needle biopsy for retroperitoneal lesions. ISIR & JSIR 2008, 2008, (軽井沢), [口演]
- 003 Sakane M, Inaba Y, Yamamura H, Sato Y, Najima M, Tomozawa Y, Nishio R: Hepatic arterial chemoembolization in patients with unresectable liver metastases of pancreatic endocrine tumor. ISIR & JSIR 2008, 2008, (軽井沢), [口演]
- 004 Nishio R, Inaba Y, Yamaura H, Sato Y, Najima M, Tomozawa Y, Sakane M: Percutaneous radiologic gastrostomy for remnant stomach. ISIR & JSIR 2008, 2008, (軽井沢), [口演]
- 005 Inaba Y, Arai Y, Yamaura H, Sato Y, Najima M, Saito H, Aramaki T, Sato M, Kumada T, Takeuchi Y: Phase II clinical study on stent therapy for unresectable malignant colorectal stenosis. ISIR & JSIR 2008, 2008, (軽井沢), [口演]
- 006 稲葉吉隆：IVR：動注療法。第67回日本医学放射線学会, 2008, (横浜), [座長]
- 007 名嶋弥菜、稲葉吉隆、山浦秀和、佐藤洋造、友澤裕樹、坂根 誠、西尾龍太、清水泰博、佐野 力、谷田部恭：化学療法後の大腸癌肝転移切除例における術前画像診断と病理学的所見の検討。第67回日本医学放射線学会, 2008, (横浜), [口演]
- 008 佐藤洋造、稲葉吉隆、山浦秀和、名嶋弥菜、友澤裕樹、坂根 誠、西尾龍太、宇良 敬、室 圭：肝転移を主病巣とする進行・再発大腸癌に対する治療戦略。第67回日本医学放射線学会, 2008, (横浜), [口演]
- 009 佐藤洋造、稲葉吉隆、山浦秀和、名嶋弥菜：PTEGを標準治療とするための戦略。日本PTEG研究会第7回学術集会, 2008, (静岡), [口演]
- 010 稲葉吉隆：がん診療におけるIVR。第10回新都市放射線医学研究会, 2008, (東京), [講演]
- 011 稲葉吉隆：IVR診断/治療 医療機器としてのマイクロカテーテルに求める仕様を臨床上に論じる。マイクロカテーテル評価会, 2008, (京都), [パネリスト]
- 012 稲葉吉隆、山浦秀和、佐藤洋造、名嶋弥菜：がん緩和医療におけるIVR。第13回日本緩和医療学会, 2008, (静岡) [ワークショップ]
- 013 佐藤洋造、稲葉吉隆、山浦秀和、名嶋弥菜、金本高明、友

- 澤裕樹, 坂根 誠: 胆癌患者におけるDenver shunt の成績. 日本IVR学会第25回中部地方会, 2008, (福井), [口演]
- 014 坂根誠, 稲葉吉隆, 山浦秀和, 佐藤洋造, 名嶋弥菜, 金本高明, 友澤裕樹: solid-pseudopapillary tumor (SPT) の再発と考えられた1例. 日本医学放射線学会第144回中部地方会, 2008, (福井), [口演]
- 015 佐藤洋造, 稲葉吉隆, 山浦秀和, 名嶋弥菜: 胆癌患者における腹腔静脈シャント造設術 (Denver shunt) についての検討. 第46回日本癌治療学会, 2008, (名古屋), [口演]
- 016 稲葉吉隆: 画像診断 (2). 第67回日本癌学会学術総会, 2008, (名古屋), [座長]
- 017 荒井保明, 伊東和樹, 稲葉吉隆, 井隼孝司, 熊田卓, 阪口浩, 関 宏史, 曾根美雪, 高安幸生, 滝澤謙治, 竹内義人, 田中 直, 東原秀行: 切除不能大腸癌肝転移に対する肝動注化学療法 (WHF療法) の有効性に関する研究 (財) がん集学的治療研究財団 特定研究28. 第33回リザーバー研究会, 2008, (福岡), [座長]
- 018 福嶋敬子, 笹川良子, 大橋みどり, 向井未年子, 段浩美, 原田麻子, 大本美穂, 稲葉吉隆, 佐藤洋造: 肝動注リザーバー留置術クリニカルパスの改定 病棟・外来間連携の構築を目指して. 第33回リザーバー研究会, 2008, (福岡), [口演]
- 019 友澤裕樹, 稲葉吉隆, 山浦秀和, 佐藤洋造, 名嶋弥菜, 金本高明, 坂根 誠: 肝動注にて一旦消失後再発を来した肝転移の一例. 第33回リザーバー研究会, 2008, (福岡), [ポスター]
- 020 金本高明, 稲葉吉隆, 山浦秀和, 佐藤洋造, 名嶋弥菜, 友澤裕樹, 坂根 誠: 中心静脈ポートシステム破損時の造影所見について. 第33回リザーバー研究会, 2008, (福岡), [口演]
- 021 服部寿史, 米澤祐司, 流 真治, 芳賀弘好, 大橋和也, 石黒泰範, 清田 実, 堀田勝平, 稲葉吉隆, 山浦秀和, 佐藤洋造, 名嶋弥菜, 金本高明, 友澤裕樹, 坂根 誠: 動注リザーバー留置に最適な透視・撮影環境の検討. 第33回リザーバー研究会, 2008, (福岡), [口演]
- 022 坂根 誠, 稲葉吉隆, 山浦秀和, 佐藤洋造, 名嶋弥菜, 金本高明, 友澤裕樹, 倉島 衆: コアレシニードルの引き抜き抵抗についての検討. 第33回リザーバー研究会, 2008, (福岡), [口演]
- 023 佐藤洋造, 稲葉吉隆, 山浦秀和, 名嶋弥菜, 金本高明, 友澤裕樹, 坂根 誠: Long taper W-spiral catheterを用いた細径部留置法後の肝動注リザーバー再留置 co-axial systemを用いて. 第33回リザーバー研究会, 2008, (福岡), [口演]
- 024 稲葉吉隆: 肝悪性腫瘍に対する経カテーテル治療. (財) 医科学応用研究財団第54回学術講演会, 2008, (名古屋), [口演]
- 025 稲葉吉隆: IVRと保険診療. 第30回東海IVR懇話会, 2008, (名古屋), [座長]
- 026 稲葉吉隆: 肝細胞癌へのIVRによる治療. バイエル薬品(株)

オンコロジー事業部東海営業所研修会, 2009, (名古屋), [講演]

- 027 稲葉吉隆: 大腸がん肝転移に対するIVR. 市民公開講座, 2009, (名古屋), [口演]
- 028 佐藤洋造, 稲葉吉隆, 山浦秀和, 名嶋弥菜, 金本高明, 友澤裕樹, 坂根 誠: Long taper W-spiral catheterを用いた細径部留置法後の肝動注リザーバー再留置. 日本IVR学会第26回中部地方会, 2009, (名古屋), [口演]
- 029 坂根 誠, 佐藤洋造, 稲葉吉隆, 山浦秀和, 名嶋弥菜, 金本高明, 友澤裕樹: 悪性黒色腫肝転移に肝動注化学療法が有効であった一例. 日本IVR学会第26回中部地方会, 2009, (名古屋), [口演]
- 030 宇良 敬, 室 圭, 高張大亮, 横田知哉, 設楽紘平, 稲葉吉隆, 山浦秀和, 佐藤洋造, 名嶋弥菜, 金本高明: 好中球減少Gr2におけるFOLFIRI,FOLFOXの投与でなにが起こったか. 第7回日本臨床腫瘍学会, 2009, (名古屋), [口演]
- 031 稲葉吉隆: 肝胆膵がん 肝. 第7回日本臨床腫瘍学会, 2009, (名古屋), [座長]
- 032 名嶋弥菜, 稲葉吉隆, 山浦秀和, 佐藤洋造, 篠田雅幸: 食道癌化学放射線療法後の食道ステント留置に関する検討. 第7回日本臨床腫瘍学会, 2009, (名古屋), [口演]
- 033 佐藤洋造, 稲葉吉隆, 山浦秀和, 名嶋弥菜: 胆癌患者における腹腔静脈シャント造設術 (Denver shunt) についての検討. 第7回日本臨床腫瘍学会, 2009, (名古屋), [口演]

放射線治療部

- 001 *Natsuo Tomita, Takeshi Kodaira, Hiroyuki Tachibana, Tatsuya Nakamura, Rie, Nakabara, Haruo Inokuchi*: Preliminary results of dynamic conformal arx radiotherapy with rectum hollow-out technique for localized prostate cancer. 50th Annual meeting of the American Society for Therapeutic Radiation and Oncology, 2008, (Boston), [示説]
- 002 *Naoto Shikama, Masabiro Oguchi, Yoshikazu Kagami, Kouichi Isobe, Katsumasa Nakamura, Takeshi, Kodaira, Yoshio Tamaki, Masatoshi Hasegawa, Shigeru Sasaki*: What endpoints are necessary for clinical trials in elderly patients with localized aggressive lymphoma? A prospective study of 80%-CHOP followed by involved field radiotherapy (Japan Radiation Oncology Group; JAROG Study). 50th Annual meeting of the American Society for Therapeutic Radiation and Oncology, 2008, (Boston), [示説]
- 003 *Takeshi Kodaira Chairperson*: Perspective of tailored radiotherapy for breast cancer: Perspective of prevention and tailored diagnosis/treatment for breast cancer. The 13th Aichi Cancer Center International Symposium, 2008, (日本), [口演]
- 004 *Kazubisa Furutani, Ritsuko Komaki, Maria V. Korsbunova, Anderson Ryan, Juliane M. Jurgensmeier, Roy S. Herbst, Michael S. O'Reilly*: Targeted therapy against VEGFR tyrosine kinase

- signaling by vandetanib inhibits tumor growth, angiogenesis, and progression in orthotopic human small cell lung cancer models. American Association for Cancer Research, Annual Meeting ,2008, (San Diego) ,[口演]
- 005 **Jeorg J. Jacoby, Baruch Erez, Kazubisa Furutani, Maria V. Korsbunova, Lynn Kirkpatrick, Scott M. Lippman, Garth Powis, Michael S. O'Reilly, Roy S. Herbst** : HIF1- α antagonism by PX-478 inhibits progression and spread of orthotopic human small cell lung cancer and lung adenocarcinoma in mice. American Association for Cancer Research, Annual Meeting ,2008, (San Diego) ,[示説]
- 006 **Motoo Nomura, Atsushi Komemushi, Noboru Tanigawa, Minoru Kamata, Yasushige Hori, Makiko Arakawa, Masayuki Nakasuji, Mitsunori Kajimoto, Shuji Kariya, Hiroyuki Kojima, Yuzo Shomura, Takanori Tokuda, Jiro Terada, Satoshi Sawada** : To clarify spatial dose distribution of the irradiation bone cement injected to the vertebrae by Percutaneous vertebroplasty. The 10th International Symposium on Interventional Radiology & New Vascular Imaging & The 37th Annual Meeting of the Japanese Society of Interventional Radiology(ISIR & JSIR 2008),2008,(日本),[示説]
- 007 **Motoo Nomura, Atsushi Komemushi, Minoru Kamata, Noboru Tanigawa, Hiroyuki Kojima, Satoshi Sawada** : Effect of percutaneous vertebroplasty combined with intensity-modulated radiotherapy : a phantom study. Radiological Society of North America 94th Scientific Assembly And Annual Meeting,2008, (Chicago),[口演]
- 008 **古平 毅、立花弘之、中村達也、富田夏夫、中原理絵、井口治男** : 高精度放射線治療の現状と課題 Helical Tomotherapyによる高精度放射線治療. 多地点合同メディカル・カンファレンス,2008,(名古屋)[口演 (司会)]
- 009 **立花弘之、古平 毅、中村達也、富田夏夫、供田卓也、中原理絵、井口治男** : 頭頸部癌に対するCDDP・CBDCA動注化学療法併用放射線治療. 第67回日本医学放射線学会総会,2008,(横浜),[口演]
- 010 **富田夏夫、古平 毅、立花弘之、中村達也、供田卓也、中原理絵、井口治男、不破信和** : 限局期前立腺癌に対する直腸打抜き原体照射法の治療成績. 第67回日本医学放射線学会総会,2008,(横浜),[口演]
- 011 **西尾正美、玉木恒男、中村達也、古平 毅、芝本雄太** : 舌癌の放射線治療後フォローにおけるFDG-PET所見の検討. 第67回日本医学放射線学会総会,2008,(横浜),[口演]
- 012 **黒川弘晶、野村基雄、桑田さおり、藤田あすか、前原稔、大村直人、池田茂樹、澤田 敏、大江知里、坂井田紀子** : Cardiac coilを用いたMRIにおける前立腺癌病巣の描出能・病理標本との比較検討. 第67回日本医学放射線学会総会,2008,(横浜),[口演]
- 013 **米虫 敦、谷川 昇、狩谷秀治、小島博之、庄村裕三、徳田貴則、野村基雄、寺田次郎、播磨洋子、澤田 敏** : 胸郭出口症候群7例の半座位鎖骨下動脈造影の検討. 第67回日本医学放射線学会総会,2008,(横浜),[口演]
- 014 **古平 毅** : 放射線治療でがんはここまでなおる！. 関西若手放射線治療医勉強会,2008,(関西医科大学校方病院),[口演]
- 015 **野村基雄、鎌田 実、小島博之、林 謙治、澤田 敏** : 遠隔臓器転移を有する食道がん症例に対する治療戦略～原発巣に対する照射について. JROG 若手放射線治療医の会,2008, (関西医科大学校方病院),[口演]
- 016 **古平 毅** : SS-2「化学放射線療法の多角的治療戦略」同時化学放射線治療：頭頸部癌に対する同時化学放射線治療の現状と問題点. 第32回日本頭頸部腫瘍学会手術手技研究会,2008,(東京),[口演]
- 017 **中原理絵、古平 毅、立花弘之、中村達也** : 当院における下咽頭癌の化学放射線治療成績.第32回日本頭頸部腫瘍学会手術手技研究会,2008,(東京),[口演]
- 018 **古平 毅** : 正常組織を守り「がん」をたたくトモセラピー. ミーネット総会記念講演会,2008, (名古屋) ,[口演]
- 019 **立花弘之、中村達也、富田夏夫、中原理絵、井口治男、溝口信貴、高田彰憲、古平 毅、林 宣男、脇田利明、小倉友二** : 前立腺癌に対するI-125シードによる組織内照射の初期経験～ペースの遅い当院の場合～. 第10回小線源治療部会研究会,2008,(倉敷),[口演]
- 020 **古平 毅、立花弘之、中村達也、富田夏夫、中原理絵、井口治男、溝口信貴、高田彰憲** : トモセラピーを用いた頭頸部癌IMRTにおける治療経過中の線量 分布変化の検討. 日本医学放射線学会第144回中部地方会 ,2008,(福井),[口演]
- 021 **立花弘之、中村達也、富田夏夫、中原理絵、井口治男、溝口信貴、高田彰憲、古平 毅** : 前立腺癌に対するI-125シードによる組織内照射の初期経験～ペースの遅い当院の場合～.日本医学放射線学会第144回中部地方会 ,2008,(福井),[口演]
- 022 **中村達也、古平 毅、立花弘之、富田夏夫、中原理絵、井口治男、溝口信貴、高田彰憲** : 中咽頭癌の化学放射線治療の週及的解析. 日本医学放射線学会第144回中部地方会 ,2008,(福井),[口演]
- 023 **井口治男、古平 毅、立花弘之、中村達也、富田夏夫、中原理絵、高田彰憲、溝口信貴、不破信和、玉木恒男、西尾正美** : リンパ節転移を伴う頭頸部扁平上皮癌における放射線化学療法の治療効果予測－FDG/PET-CTを用いた亜部位別の検討第1報－. 日本医学放射線学会第144回中部地方会 ,2008,(福井),
- 024 **古平 毅、立花弘之、中村達也、富田夏夫、中原理絵、井口治男、溝口信貴、高田彰憲** : シンポジウム 前立腺癌に対する強度変調放射線治療の具体的な方法と治療計画 トモセラピー. 第18回日本高精度放射線外部照射研究会 ,2008,(福岡),[口演]
- 025 **狩谷秀治、谷川 昇、小島博之、米虫 敦、庄村裕三、鎌田 実、野村基雄、白石友邦、澤田 敏** : 超音波および透視ガイドによるトンネル型中心静脈カテーテル留置の成績 , 日本IVR学会第24回関西地方会,2008,(京都),[口演]
- 026 **野村基雄、米虫 敦、谷川 昇、鎌田 実、堀 泰滋、荒川真紀子、中筋正行、狩谷秀治、小島博之、庄村裕三、徳田貴則、寺田次郎、澤田 敏** : 放射線治療の空間線量分布に対して経皮的椎体形成術の骨セメントがおよぼす影響. 第4回椎体形成術研究会, 2008,(京都),[口演]

- 027 古平 毅：がん対策について・放射線治療を医療に浸透させるために必要なこと。市民公開講座,2008(名古屋),[口演]
- 028 古平 毅、立花弘之、中村達也、富田夏夫、中原理絵、井口治男、溝口信貴、高田彰憲：Tomotherapyを用いた強度変調放射線治療の実践。第21回日本放射線腫瘍学会,2008,(札幌),[シンポジウム]
- 029 古平 毅、芝本雄太、杉江愛生、小田京太、松尾政之、三村三喜男、綾川志保、中野隆史、桜井英幸：研究課題「トモセラピーの適応と最適線量分割法に関する指針の作成」。第21回日本放射線腫瘍学会,2008,(札幌),[口演]
- 030 古平 毅、立花弘之、中村達也、中原理絵、井口治男、溝口信貴、高田彰憲：トモセラピーを用いた頭頸部癌IMRT施行患者の唾液腺機能評価の検討。第21回日本放射線腫瘍学会,2008,(札幌),[口演]
- 031 立花弘之、中村達也、富田夏夫、中原理絵、井口治男、溝口信貴、高田彰憲、古平 毅：頭頸部癌に対する反復CDDP動注化学療法。第21回日本放射線腫瘍学会,2008,(札幌),[示説]
- 032 中村達也、古平 毅、立花弘之、富田夏夫、中原理絵、井口治男、溝口信貴、高田彰憲：中咽頭癌の化学放射線治療の週及的解析。第21回日本放射線腫瘍学会,2008,(札幌),[口演]
- 033 中原理絵、古平 毅、立花弘之、中村達也、富田夏夫、井口治男、溝口信貴、高田彰憲：当院における下咽頭癌の化学放射線治療成績。第21回日本放射線腫瘍学会,2008,(札幌),[口演]
- 034 井口治男、古平 毅、立花弘之、中村達也、富田夏夫、中原理絵、高田彰憲、溝口信貴、不破信和、玉木恒男：リンパ節転移を伴う頭頸部癌に対する放射線化学療法のFDG/PET-CTを用いた治療効果予測。第21回日本放射線腫瘍学会,2008,(札幌),[示説]
- 035 溝口信貴、古平 毅、立花弘之、中村達也、中原理絵、井口治男、高田彰憲：上咽頭癌に対しトモセラピーを用いた化学放射線治療後に上咽頭狭窄を来した症例報告。第21回日本放射線腫瘍学会,2008,(札幌),[示説]
- 036 清水秀年、中山雅詞、久保田隆士、大崎 光、吉本 学、立花弘之、中村達也、富田夏夫、古平 毅：Tomotherapy HI-ART Systemにおける呼吸性異動がPTVに与える影響。第21回日本放射線腫瘍学会,2008,(札幌),[口演]
- 037 橋本孝之、朝倉浩文、全田貞幹、金本彩恵、小川洋史、原田英幸、古谷和久、清水伸一、白土博樹、西村哲夫：食道癌化学放射線療法後の心毒性の検討。第21回日本放射線腫瘍学会,2008,(札幌),[口演]
- 038 金本彩恵、橋本孝之、古谷和久、原田英幸、朝倉浩文、小川洋史、藤 浩、村山重行、西村哲夫：放射線治療後の食道癌後発脳転移症例の検討。第21回日本放射線腫瘍学会,2008,(札幌),[口演]
- 039 村山重行、藤 浩、原田英幸、朝倉浩文、橋本孝之、古谷和久、小川洋史、金本彩恵、西村哲夫：末梢型I期非小細胞肺癌に対する陽子線治療成績。第21回日本放射線腫瘍学会,2008,(札幌),[口演]
- 040 藤 浩、村山重行、山下晴男、沼野真澄、朝倉浩文、原田英幸、橋本孝之、古谷和久、西村哲夫：直腸脱気管による直腸容量再現効果と前立腺変位抑制効果。第21回日本放射線腫瘍学会,2008,(札幌),[口演]
- 041 小川洋史、原田英幸、古谷和久、朝倉浩文、橋本孝之、金本彩恵、藤 浩、村山重行、水本斉志、西村哲夫：脊椎転移放射線治療後の再増悪における再照射例の検討。第21回日本放射線腫瘍学会,2008,(札幌),[口演]
- 042 朝倉浩文、金本彩恵、小川洋史、原田英幸、橋本孝之、古谷和久、藤 浩、村山重行、水本斉志、西村哲夫：肝細胞癌の上下大静脈腫瘍栓に対する放射線治療の検討。第21回日本放射線腫瘍学会,2008,(札幌),[口演]
- 043 原田英幸、西村哲夫、古谷和久、朝倉浩文、橋本孝之、小川洋史、金本彩恵、村山重行、藤 浩：肺定位放射線治療計画における計算アルゴリズムの比較。第21回日本放射線腫瘍学会,2008,(札幌),[口演]
- 044 橋井晴子、水本斉志、小川洋史、原田英幸、橋本孝之、朝倉浩文、古谷和久、藤 浩、村山重行、西村哲夫：脊椎転移に対する放射線治療の検討。第21回日本放射線腫瘍学会,2008,(札幌),[口演]
- 045 野村基雄、米虫 敦、鎌田 実、谷川 昇、小島博之、澤田 敏：経皮的椎体形成術で使用されるバリウム含有骨セメントが線量分布に及ぼす影響。第21回日本放射線腫瘍学会,2008,(札幌),[示説]
- 046 林 謙治、鎌田 実、野村基雄、小島博之、澤田 敏：初回治療で原発巣への照射を行わなかった遠隔臓器転移を有する食道がん症例に対する治療戦略。第21回日本放射線腫瘍学会,2008,(札幌),[口演]
- 047 古谷和久：頭頸部癌に対する放射線治療。がん患者の口腔合併症と歯科治療」講習会・アドバンスドコースⅡ,2008,(静岡),[口演]
- 048 米虫 敦、谷川 昇、徳田貴則、川喜多繁誠、狩谷秀治、小島博之、庄村裕三、野村基雄、寺田次郎、澤田 敏：非透析非移植腎のMRSA性腎盂腎炎からの腎出血に対して、経動脈的塞栓術を施行した一例。第18回救急放射線研究会,2008,(福島),[口演]
- 049 古平 毅、立花弘之、中村達也、富田夏夫、中原理絵、井口治男、溝口信貴、高田彰憲、中西 透、不破信和：5FU+Nedaplatinを用いた交替療法と3Dconformal extended field radiationによるhigh risk子宮頸癌に対してのphase I/II study,第46回癌治療学会,2008,(名古屋),[パネルディスカッション]
- 050 古平 毅、立花弘之、中村達也、富田夏夫、中原理絵、井口治男、溝口信貴、高田彰憲：トモセラピーによる頭頸部がんIMRT施行患者の唾液分泌機能評価。第46回癌治療会,2008,(名古屋),[ワークショップ]
- 051 中村達也、古平 毅、立花弘之、富田夏夫、中原理絵、井口治男、溝口信貴、高田彰憲：当院における中咽頭癌に対する化学放射線治療の週及的検討。第46回癌治療会,2008,(名古屋),[口演]
- 052 堅田親利、中島貴子、伊藤芳紀、石山博條、徳永伸也、池田裕子、廣中秀一、橋本孝之、宇良敬、古平 毅、藤井博文、長瀬通隆、加藤 健：臨床病期II/III食道癌に対する

- RTOGレジメンによる化学放射線療法の臨床第II相試験. 第46回癌治療会,2008,(名古屋) [口演]
- 053 横田知哉、室 圭、宇良 敬、高張大亮、設楽紘平、中村達也、立花弘之、富田夏夫、中原理絵、井口治男、溝口信貴、古平 毅：局所高度進行頭頸部癌に対する導入化学療法としてのTPF療法の検討. 第46回癌治療会,2008,(名古屋) [口演]
- 054 水本齊志、原田英幸、朝倉浩文、橋本孝之、古谷和久、橋井晴子、村田秀樹、高木辰哉、片桐浩久、高橋 満、西村哲夫：脊椎転移に対する緩和目的の放射線治療における予後・局所制御因子の解析. 第46回癌治療会,2008,(名古屋) [口演]
- 055 小島隆嗣、小野澤祐輔、朴成和、広中秀一、福富 晃、安井博史、山崎健太郎、多久佳成、町田 望、橋本孝之、古谷和久、西村哲夫、浅野理恵、上條朋之、飯田善幸、鬼塚哲郎：当院における局所進行頭頸部扁平上皮癌に対するCDDP併用化学放射線療法の治療成績. 第46回癌治療会,2008,(名古屋) [口演]
- 056 立花弘之、富田夏夫、中原理絵、井口治男、溝口信貴、高田彰憲、古平 毅：再発頭頸 部癌に対する反復CDDP動注化学療法-Phase I study-.第26回東海頭頸部腫瘍研究会,2009,(名古屋) [口演 (座長)]
- 057 古平 毅、古谷和久、立花弘之、富田夏夫、中原理絵、井口治男、溝口信貴、高田 彰憲：Tomotherapyによる頭頸部癌のIMRTの実践 —治療計画、精度管理の変遷—. 第19回日本高精度放射線外部照射研究会,2009,(名古屋) [口演]
- 058 古平 毅、古谷和久、立花弘之、富田夏夫、中原理絵、井口治男、溝口信貴、高田彰憲：Tomotherapyによる頭頸部癌のIMRTの実践 —治療計画、精度管理の変遷—. 日本医学放射線学会第145回中部地方会,2009,(名古屋) [口演]
- 059 富田夏夫、古平 毅、立花弘之、古谷和久、中原理絵、井口治男、溝口信貴、高田彰憲：I,II期MALT輪の芦生に対する放射線治療の治療成績. 日本医学放射線学会第145回中部地方会,2009,(名古屋) [口演]
- 060 中原理絵、古平 毅、古谷和久、立花弘之、富田夏夫、井口治男、溝口信貴、高田彰憲：子宮頸癌T4症例に対する放射線治療成績の検討. 日本医学放射線学会第145回中部地方会,2009,(名古屋) [口演]
- 061 井口治男、古平 毅、古谷和久、立花弘之、富田夏夫、中原理絵、溝口信貴：リンパ節転移を伴う頭頸部扁平上皮癌における放射線化学療法の治療効果予測 —第2報 計画的頸部郭清術選別の提言—. 日本医学放射線学会第145回中部地方会,2009,(名古屋) [口演]
- 062 溝口信貴、古平 毅、立花弘之、富田夏夫、中原理絵、井口治男、高田彰憲：上咽頭癌に対しトモセラピーを用いた交替療法による化学放射線治療後に上咽頭の狭窄を来した症例報告. 日本医学放射線学会第145回中部地方会,2009,(名古屋) [セッション (座長)]
- 063 西村哲夫、原田英幸、朝倉浩文、橋本孝之、古谷和久、小川洋史、金本彩恵、村山重行、藤 浩：放射線治療の国民

医療費. 日本医学放射線学会第145回中部地方会,2009,(名古屋) [口演]

064 金本彩恵、西村哲夫、原田英幸、朝倉浩文、橋本孝之、古谷和久、小川洋史、村山重行、藤 浩、吉川周佐、嵩眞佐子：Paclitaxel併用放射線治療が奏功した下肢のStewart-Treves症候群の一例. 日本医学放射線学会第145回中部地方会,2009,(名古屋) [口演]

緩和ケア部

- 001 小森康永：ディグニティ・セラピー事始め、第21回日本サイコオンコロジー学会総会、シンポジウム1「精神的苦悩を緩和する」、2008、(東京) [シンポジウム]

看護部

- 001 兵藤千草：一般演題. 第57回東海ストーマリハビリテーション研究会, 2008年,(岐阜), [口演 座長]
- 002 兵藤千草：がん医療における看護専門職への期待. 新・県大ファンファーレ シンポジウム, 2008年,(愛知), [シンポジウム]
- 003 雨森貞子、佐野雄三：浴室内での患者の安全を守る！腕時計送信機の活用！. 第3回医療の質・安全学会, 2008年,(東京), [示説]
- 004 雨森貞子：医療過誤から学ぶ防止策—医療機器の取扱い—. 第2回手術室安全性向上セミナー, 2008年,(名古屋), [口演]
- 005 雨森貞子：医療事故発生時の外部調査委員の活動の実際. 愛知県看護協会, 2009年,(名古屋), [口演]
- 006 山田佳代子、小澤洋子、高子久美：メディカルアラロマテラピー研修会～在宅緩和ケアに学ぶ. 大府市連絡協議会主催, 2008年,(大府), [口演]
- 007 新貝夫弥子：がん患者の症状マネジメントとQOL. 第39回日本看護学会「成人看護II」, 2008年,(名古屋), [口演 座長]
- 008 戸崎加奈江：R-CHOP療法を受ける患者の看護、事例を用いた看護の実際II. 造血器腫瘍患者の化学療法と看護 (日本看護協会 神戸研修センター), 2008年,(神戸), [講師][グループワーク助言者]
- 009 戸崎加奈江：大腸がん化学療法におけるベバシズマブ投与の安全で確実な実践. コメディカルのための大腸がん外来化学療法学習会 (株式会社ヤクルト本社), 2008年,(名古屋), [パネリスト]
- 010 戸崎加奈江：大腸がんの薬物療法「大腸がん治療を考える—市民の声をもとに—. 日本臨床腫瘍学会第3回市民公開講座 (日本臨床腫瘍学会), 2008年,(名古屋), [パネリスト]
- 011 高木礼子：乳腺チームにおける乳がん看護認定看護師の役割—終末期乳がん患者の症状コントロールと在宅調整—. 第5回日本乳癌学会地方会, 2008年,(金沢), [口演]

- 012 新田都子 山崎祥子(愛知県立看護大学看護実践センター) 高山裕子(東京厚生年金病院) 松野秀美(独立行政法人国立病院機構名古屋医療センター) 斉藤美智子(神戸市立医療センター中央市民病院) 村越里江子(組合立諏訪中央病院):がん性疼痛看護認定看護師に求められている役割. 第23回日本がん看護学会学術集会(日本がん看護学会), 2009年, (沖縄), [示説]
- 013 新田都子:「看護師の専門性と看護職の可能性」認定看護師の立場から. 第8回日本看護・社会・政策学会学術集会(日本看護・社会・政策学会), 2009年, (大阪), [討論会]
- 014 駒野星子, 梶原洋美, 高野真由美:HPNクリティカルパスの作成. 第13回 愛知クリニカルパス研究会, 2008年, (名古屋), [口演]
- 015 駒野星子, 梶原洋美, 高野真由美:HPNクリティカルパスの作成. 第10回 日本医療マネージメント学会, 2008年, (名古屋), [示説]
- 016 土屋大樹, 千種智之, 佐野雄三, 紙川里恵:標準予防策実施率向上に向けての取り組み~看護師の意識向上を目指して~. 第24回日本環境感染学会, 2009年, (横浜), [示説]
- 017 青山寿昭:舌癌術後の機能回復の到達点に関する研究. 日本摂食・嚥下障害リハビリテーション学会, 2008年, (幕張), [示説]
- 018 青山寿昭:摂食・嚥下機能の評価と訓練. ブラザー病院, 2008年, (名古屋), [口演]
- 019 青山寿昭:歯科衛生士のための看護. 愛知県歯科衛生専門学校, 2008年, (名古屋), [口演]
- 020 青山寿昭:食事介助と姿勢保持. 日進福祉会, 2008年, (日進), [口演]
- 021 青山寿昭:頭頸部癌術後嚥下障害への関わり. 頭頸部癌学会, 2008年, (東京), [口演]
- 022 青山寿昭:がん専門病院における摂食・嚥下障害. 神奈川摂食・嚥下障害リハビリテーション研究会, 2008年, (横浜), [口演]
- 023 青山寿昭:摂食・嚥下障害と口腔ケア. 名古屋市立中央看護専門学校, 2008年, (名古屋), [口演]
- 024 青山寿昭:摂食・嚥下障害の基礎. 愛知県立総合看護専門学校, 2008年, (名古屋), [口演]
- 025 中山衣代:継続看護を考えた内視鏡記録. 第20回 愛知県消化器内視鏡技師懇話会, 2009年, (名古屋), [口演]
- 026 辻元伸江:終末期過活動型せん妄患者の対応で感じたジレンマ. 第23回日本がん看護学会, 2009年, (沖縄), [示説]
- 027 塩田亜由美:外泊を目標にした終末期患者へのアグイレラの危機モデルによる検討. 第13回日本緩和医療学会学術大会, 2008年, (静岡), [示説]
- 028 水田恵:終末期肺がん患者の療養先選定における倫理的問題~臨床倫理4分割法を用いた3事例の検討~. 第23回日本がん看護学会, 2009年, (沖縄), [示説]
- 029 紙川理恵:標準予防策実施率向上に向けての取り組み~看護師の意識向上を目指して~. 第24回日本環境感染学会, 2009年, (横浜), [示説]
- 030 高畑知帆子:がん性疼痛のある患者の危機問題解決モデルによる分析. 第23回日本がん看護学会, 2009年, (沖縄), [示説]
- 031 高橋恵子:「再発・転移を乗り越えてきた患者・家族の危機分析」. 第39回日本看護学会(成人看護Ⅱ), 2008年, (名古屋), [示説]
- 032 佐々木照美:多発瘻孔を形成した終末期患者に対する皮膚ケアの報告. 第26回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会総会, 2009年, (青森), [示説]
- 033 多久和末緒:予後不良と告知を受けた患者の問題解決的危機看護介入を考える. 第13回日本緩和医療学会学術大会, 2008年, (静岡), [示説]
- 034 福嶋敬子, 笹川良子, 大橋みどり, 向井未年子, 段浩美, 原田麻子, 大本美穂, 稲葉吉隆, 佐藤洋造:肝動注リザーバー留置術クリニカルパスの改訂~病棟・外来間連携の構築を目指して~. 第32回リザーバー研究会, 2008年, (福岡), [口演]
- 035 兵藤千草:「看護管理」. 愛知県立総合看護専門学校, 2008年, (名古屋), [口演]
- 036 川瀬洋子:スピリチュアルケア. がん専門分野研修会(厚生労働省・愛知県医務国保課共催), 2008年, (がんセンター中央病院), [口演]
- 037 川瀬洋子:ターミナルケア. 医療法人明陽会 成田記念病院, 2008年, (豊橋), [口演]
- 038 川瀬洋子:がん看護ーホスピスと家族ケアー「全人的苦痛の理解」[スピリチュアルケアの実際]. 愛知県看護協会, 2008年, (愛看協), [口演]
- 039 新貝夫弥子:がん看護援助論「がん専門看護師の役割」. 愛知県立看護大学大学院, 2008年, (愛知), [口演]
- 040 新貝夫弥子:化学療法認定看護師養成コース「教育」. 愛知県立看護大学, 2008年, (愛知), [口演]
- 041 新貝夫弥子:臨床がん看護セミナーⅠ「がん専門看護師の役割」. 名古屋大学大学院, 2008年, (名古屋), [口演]
- 042 新貝夫弥子:がん看護学特論Ⅱ「がん専門看護師の役割」. 新潟医療福祉大学大学院, 2008年, (名古屋), [口演]
- 043 新貝夫弥子:研修、看護倫理. 社団法人愛知県看護協会, 2008年, (名古屋), [口演]
- 044 林 美子:「がんの医療サービスと社会的支援」(がん化学療法看護認定看護師教育課程). 愛知県立看護大学看護実践センター, 2008年, (名古屋), [口演]
- 045 神原由美子:創傷ケア. 愛知県立総合看護専門学校, 2008年, (名古屋), [口演]
- 046 神原由美子:ストーマケア実習インストラクター. 東海ストーマリハビリテーション講習会, 2008年, (名古屋), [口演]
- 047 神原由美子:ストーマケア. 愛知県看護協会, 2008年, (名古屋), [口演]
- 048 神原由美子:外来における皮膚・排泄ケア認定看護師の活動. 愛知県立大学臨床講義, 2008年, (愛知), [口演]
- 049 神原由美子:今まで通りの生活をめざして~ストーマケア~. 愛知県がんセンター公開講座, 2008年, (名古屋), [口演]
- 050 神原由美子:がんリハビリテーションⅠ 排泄ケア、カンファレン

- ス、愛知県がんセンター中央病院，2008年，（名古屋），
[口演]
- 051 宇佐美秀子：内視鏡検査時の看護。愛知県立看護大学，
2008年，（愛知），[口演]
- 052 戸崎加奈江：化学療法の急性反応時の対応。臨床腫瘍学セ
ミナー（愛知県がんセンター中央病院レジデント研修
会），2008年，（名古屋），[口演]
- 053 戸崎加奈江：抗がん剤治療と上手くつきあおう。平成20年
度愛知県がんセンター公開講座（愛知県がんセンター），
2008年，（名古屋），[口演]
- 054 戸崎加奈江：がん化学療法看護概論。がん化学療法に伴う
症状緩和（悪心・嘔吐）（骨髄抑制）。抗がん剤の安全な
投与。化学療法を受ける患者の意思決定。平成20年度がん
化学療法看護研修会（独立行政法人国立病院機構 名古屋
医療センター），2008年，（名古屋），[口演]
- 055 戸崎加奈江：認定看護師教育課程「がん化学療法看護」分
野 臨地実習Ⅱ実習指導。平成20年度愛知県立看護大学看
護実践センター認定看護師教育課程（愛知県立看護大
学），2008年，（名古屋），[口演]
- 056 戸崎加奈江：化学療法を受ける患者の看護。平成20年度成
人看護学内科系実習における臨床講義（愛知県立看護大
学），2009年，（名古屋），[口演]
- 057 戸崎加奈江：平成20年度認定看護師教育課程「がん化学療
法看護」臨地実習Ⅱにおける実習指導者。日本看護協会神
戸研修センター教育研修部認定教育係[がん化学療法看護]
（日本看護協会神戸研修センター），2009年，（名古屋），
[口演]
- 058 新田都子：疼痛コントロールの実際。東海中央病院，2008
年，（岐阜），[口演]
- 059 新田都子：ペインコントロール。愛知県立総合看護専門学
校，2008年，（名古屋），[口演]
- 060 新田都子：緩和ケアの実際。西区病診連携講演会，2008
年，（名古屋），[口演]
- 061 新田都子：がん看護（疼痛コントロール）。上飯田第一総
合病院，2008年，（名古屋），[口演]
- 062 新田都子：認定看護師教育課程「がん性疼痛看護」分野
「がん性疼痛を有する患者の非薬物的アプローチ」①がん
性疼痛緩和における非薬物的アプローチの方法と選択②が
ん性疼痛緩和における非薬物的アプローチの実際「リラク
ゼーション技術」。愛知県立看護大学看護実践センター
，2008年，（名古屋），[口演]
- 063 新田都子：がん看護—緩和ケアの実際と倫理的問題—「緩
和ケアの実際」。愛知県看護協会，2008年，（名古屋），
[口演]
- 064 新田都子：症状マネジメントの実際（疼痛緩和）。大垣市
民病院，2008年，（岐阜），[口演]
- 065 新田都子：在宅でのターミナルケア「がん性疼痛看護」。
名古屋市高齢者福祉事業団，2009年，（名古屋），[口
演]
- 066 川瀬洋子：がん看護におけるスピリチュアルケア—生きる
ことの意味と素晴らしさ—。瑞浪ロータリークラブ，
2008年，（岐阜），[口演]
- 067 川瀬洋子：市民フォーラム がん克服の治療最前線 2008
「あなたや あなたの大切な人が がんになったら」。が
ん克服市民フォーラム実行委員会・第67回日本癌学会共
催，2008年，（名古屋），[口演]
- 068 川瀬洋子：がん患者・家族を支える～がん相談支援室の取
り組み～。NPO法人CPFサポート，2008年，（名古屋），
[口演]
- 069 川瀬洋子：がん患者さんの在宅ターミナルケア。東海ター
ミナルケア研究会，2008年，（名古屋），[口演]
- 070 新貝夫弥子：がん薬物療法セミナー「抗がん剤の安全な投
与管理」。照林社，2008年，（京都），[口演]
- 071 新貝夫弥子：倦怠感のアセスメントとケア。第23回日本が
ん看護学会教育講演，2009年，（沖縄），[口演]

薬剤部

- 001 大石和明：「がん患者の心の扉を開くコミュニケーション術—
POSSIBLE理論」。がん診療連携拠点病院薬剤師研修会
，2008，（名古屋），[座長]
- 002 立松三千子、後藤厚司、東方 都、塚本温子、笠井智代、水
野靖也、澤田一美、大石和明、細田蓮子、犬飼陽子：都道府
県がん診療連携拠点病院における薬剤部と保険薬局との地
域連携の試み（第1報）第2回緩和医療薬学会年会，2008，
（横浜），[示説]
- 003 細田蓮子、小森康永、佐藤洋造、鳥居圭、向井未年子、立松
三千子：「愛知県がんセンター中央病院での、がん医療にお
ける緩和ケアチームの取り組み」。「疼痛緩和の日」研究会，
2008，（名古屋），[口演]
- 004 大石和明：「麻薬・向精神薬の取扱いと管理」。第1回がん専
門薬剤師研修，2009，（名古屋），[口演]
- 005 水野靖也：「オピオイドローテーション」。第1回がん専門薬剤
師研修，2009，（名古屋），[口演]
- 006 深谷幸代：「抗がん剤の臨床試験」。第1回がん専門薬剤師
研修，2009，（名古屋），[口演]

3. 学会等における研究発表テーマ調べ (研究所)

所長室

- 001 *Tajima K*: Increasing cancers associated with chronological change of dietary habits in Japanese. International Symposium on Food, Nutrition and Cancer, 2008, (Izmir, Turkey), [特別講演]
- 002 *Tajima K*: Challenges and advances in cancer control in Japan. Symposium Brazil-Japan in economy, Science and technological innovation. 2008, (Sao Paulo, Brazil), [演説]
- 003 *Tajima K*: UICC'S global initiatives in support of GAPAC. UICC World Cancer Congress, 2008 (Geneva, Switzerland), [シンポジウム]
- 004 *Tajima K*: Lymphatic leukemia: prevention strategy of HTLV-I related leukemia in Japan. UICC World Cancer Congress, 2008 (Geneva, Switzerland), [シンポジウム]
- 005 *Tajima K*: A model obesity control toward prevention of increasing cancer in Japan. 39th Interantional Symposium of the Princess Takamatsu Cancer Research Fund, 2008, (Tokyo), [シンポジウム]
- 006 *Tajima K*: Ethnoepidemiologic study on risk and protective factors for breast and colorectal cancers (KOJACH Cooperative Study), The 4th APOCP General Assembly Conference, 2008, (Beijing, China), [シンポジウム]
- 007 *Tajima K*: Time trends in colorectal cancer in Japan/Asia and its related factors. 15th Seoul Int Cancer Symposium, 2008, (Seoul, Korea), [演説]
- 008 **田島和雄**: 大規模病院疫学研究の情報構築と応用. がん予防大会2008福岡, 2008, (福岡) [シンポジウム]
- 009 **田島和雄**: 腫瘍細胞の遺伝子プロファイルの特性と分子疫学研究. 第28回日本分子腫瘍マーカー研究会, 2008, (名古屋), [特別講演]

疫学・予防部

- 001 *Niibe Y, Watanabe J, Tsunoda S, Imai M, Jobo T, Matsuo K, Unno N, Hayakawa K*: Clinical significance of HER2 expression in uterine cervical carcinoma treated with concurrent chemoradiotherapy: prospective analysis (KGROG0501). Vol.49 AACR ANNUAL MEETING 2008, 2008, San Diego, [国際学会]
- 002 *Toyooka S, Nanba K, Yamamoto H, Kobayashi N, Matsuo K, Shimizu K, Date H*: Detection of single nucleotide polymorphism in the PDCD5 gene in Japanese non-small cell lung cancer patients. Vol.49 AACR ANNUAL MEETING 2008, 2008, San Diego, [国際学会]
- 003 *Hiraki A, Matsuo K, Suzuki T, Kawase T, Hatooka S, Shinoda M, Tanaka H*: Facial flushing in response to alcohol and the risk of esophageal cancer: a case-control study based on Hospital-based

- Epidemiologic Research Program at Aichi Cancer Center (HERPACC). Vol.49 AACR ANNUAL MEETING 2008, 2008, San Diego, [国際学会]
- 004 *Matsuo K, Kanda J, Suzuki T, Hiraki A, Kawase T, Sawaki A, Yamao K, Tajima K, Tanaka H*: Alcohol Consumption Combined with Genetic Polymorphisms in Alcohol-Metabolizing Enzymes Impacts on Pancreatic Cancer Risk in Japanese. Candidate Pathways, whole Genome Scans: Reconciling Results, Looking into the Future, 2008, Arizona, [国際学会]
- 005 *Kidokoro K, Matsuo K, Ino K, Kajiyama H, Hosono S, Hirose K, Suzuki T, Kawase T, Hiraki A, Kikkawa F, Tajima K, Tanaka H*: The Relation between CYP19A1 Haplotypes and Serum Sex Hormones in Japanese. Postmenopausal WomenCandidate Pathways, whole Genome Scans: Reconciling Results, Looking into the Future, 2008, Arizona, [国際学会]
- 006 *Tanaka H, Miyamatsu A, Amagai K, Saka H, Katanoda K, Tanaka M*: Implementation of tobacco control planning for 30 cancer hospitals designated by the Japanese Ministry of Health, Labour and Welfare. UICC08 world cancer congress, 2008, Geneve, [国際学会]
- 007 *Matsuo K*: Lung Cancer: Different risk factors for adenocarcinoma with or without EGFR mutation. U I C C World Cancer Congress 2008, 2008, Geneva, [国際学会]
- 008 *Kawase T, Kasbiwase K, Yabe T, Morishima S, Saji H, Inoko H, Kodera Y, Sasazuki T, Morishima Y for the Japan Marrow Donor Program*: Association of HLA matching with reduced relapse rate in unrelated allogeneic hematopoietic stem cell transplantation for various hematological malignancies. 15th International Histocompatibility and Immunogenetics Workshop Conference, 2008, Brazil, [国際学会]
- 009 *Kawase T, Koichi K, Hidetoshi I, Hirob S, Seisbi O, Shunichi K, Takehiko S, Yoshihisa K, Yasuo M for The Japan Marrow Donor Program*: Association between HLA matching status and reduction in relapse rate following unrelated allogeneic hematopoietic stem cell transplantation for myeloid and lymphoid malignancies. 35th Annual Meeting of the European Group for Blood and Marrow Transplantation, 2009, Göteborg, [国際学会]
- 010 **鈴木勇史, 松尾恵太郎, 長谷川泰久, 川瀬孝和, 平木章夫, 田中英夫, 田島和雄**: Impact of anthropometric factors on thyroid cancer risk. 第67回日本癌学会学術総会, 2008, 名古屋, [国内学会]
- 011 **諫田淳也, 一戸辰夫, 松尾恵太郎, Benjamin RJ, Klumpp TR, Rozman P, Blumberg N, Mehta J, Sohn SK, 内山卓**: 緩和な前処置を用いた骨髄/末梢血幹細胞移植におけるABO血液型不適合の意義~多施設共同研究. 第70回日本血液学会総会, 2008, 京都, [国内学会]
- 012 **加藤春美, 山本一仁, 大木康弘, 松尾恵太郎, 田地浩史, 鍛塚八千代, 千原大, 井根省二, 鏡味良豊, 森島泰雄**: 自

- 家移植後の間質性肺疾患発症に関する後方視的解析～Rituximab導入前後153症例での検討～. 第70回日本血液学会総会, 2008, 京都, [国内学会]
- 013 田中英夫: 日本における肝細胞癌罹患率の急激な減少-C型肝癌の変化の特徴-. 第67回日本癌学会学術総会, 2008, 名古屋, [国内学会]
- 014 岡阪敏樹、松尾恵太郎、鈴木勇史、川瀬孝和、谷田部恭、樋田豊明、光富徹哉、田島和雄、横井香平、田中英夫: hOGG1遺伝子多型と喫煙習慣の肺小細胞がんリスクにおよぼす影響. 第67回日本癌学会学術総会, 2008, 名古屋, [国内学会]
- 015 川瀬孝和、松尾恵太郎、平木章夫、鈴木勇史、渡邊美貴、岩田広治、田島和雄、田中英夫: 日本人集団におけるFGFR2遺伝子多型と乳がんの発症リスクの関係. 第67回日本癌学会学術総会, 2008, 名古屋, [国内学会]
- 016 城所久美子、松尾恵太郎、井篁一彦、梶山広明、細野覚代、広瀬かおる、鈴木勇史、川瀬孝和、浜島信之、吉川史隆、田島和雄、田中英夫: 閉経後女性の血清性ホルモン濃度と生活習慣、CYP19A1の遺伝子多型の関連. 第67回日本癌学会学術総会, 2008, 名古屋, [国内学会]
- 017 細野覚代、川瀬孝和、松尾恵太郎、梶山広明、城所久美子、広瀬かおる、鈴木勇史、中西透、浜島信之、吉川史隆、田島和雄、田中英夫: 日本人におけるHuman-Leukocyte-Antigen-Aアレルと子宮頸癌リスクとの関連. 第67回日本癌学会学術総会, 2008, 名古屋, [国内学会]
- 018 松尾恵太郎、鈴木勇史、角田伸行、広瀬かおる、川瀬孝和、岩田広治、田中英夫、田島和雄: 初経年齢の乳がんリスクへの影響は、HER2・ホルモン受容体発現の有無によって異なる. 第67回日本癌学会学術総会, 2008, 名古屋, [国内学会]
- 019 田中英夫: 我が国のがん対策の現状と課題. 第67回日本公衆衛生学会総会, 2008, 福岡, [国内学会]
- 020 田中英夫: 病院における喫煙対策と禁煙支援の推進に関する研究. 第67回日本公衆衛生学会総会, 2008, 福岡, [国内学会]
- 021 城所久美子、松尾恵太郎、広瀬かおる、鈴木勇史、川瀬孝和、井篁一彦、細野覚代、浜島信之、吉川史隆、田中英夫、田島和雄: 愛知県がんセンターにおける大規模病院疫学研究参加非がん女性における初潮年齢の推移の検討. 第19回日本疫学会学術総会, 2009, 金沢, [国内学会]
- 022 広瀬かおる、松尾恵太郎、若井建志、鈴木勇史、田中英夫、田島和雄: 日本人閉経後女性における身体特性・生活習慣およびその介入の女性ホルモンレベルに与える影響. 第19回日本疫学会学術総会, 2009, 金沢, [国内学会]
- 023 尾瀬 功、松尾恵太郎、鈴木勇史、川瀬孝和、田中英夫、田島和雄: アルコール代謝酵素遺伝子ADH1B、ADH1C、ALDH2とアルコール摂取の影響は食道がんと頭頸部がんでは異なる. 第19回日本疫学会学術総会, 2009, 金沢, [国内学会]
- 024 冨田耕太郎、菱田朝陽、松尾恵太郎、後藤康幸、光田洋子、内藤真理子、若井建志、田島和雄、浜島信之: FGFR2遺伝子多型と胃がん発症リスク. 第19回日本疫学会学術総会, 2009, 金沢, [国内学会]
- 025 松尾恵太郎、鈴木勇史、川瀬孝和、渡邊美貴、田中英夫、田島和雄: 全ゲノム関連研究で同定された8q24領域遺伝子多型と大腸がんリスク. 第19回日本疫学会学術総会, 2009, 金沢, [国内学会]
- 026 岡阪敏樹、松尾恵太郎、鈴木勇史、川瀬孝和、谷田部恭、樋田豊明、光富徹哉、横井香平、田島和雄、田中英夫: 豆類摂取による肺がん予防効果と性、喫煙習慣との関連について. 第19回日本疫学会学術総会, 2009, 金沢, [国内学会]
- 027 設楽紘平、松尾恵太郎、横田知哉、高張大亮、宇良 敬、室 圭: FOLFOX療法中の好中球減少は大腸癌患者の良好な予後因子となるか?. 第7回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2009, 名古屋, [国内学会]
- 028 平川聡史、松尾恵太郎: リンパ管新生: 乳房外Paget病におけるリンパ行性転移機序. 第7回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2009, 名古屋, [国内学会]
- 029 新部 譲、渡辺 純、角田新平、新井正秀、新井 努、川口美和、上坊敏子、松尾恵太郎、海野信也、早川和重: 化学放射線同時併用療法を施行した局所進行子宮頸癌におけるHER2およびHIF-1の発現の意義. 第7回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2009, 名古屋, [国内学会]
- 030 亀井治人、梅村茂樹、松尾恵太郎、畝川芳彦、久山彰一、渡辺洋一、丸川將臣、多田敦彦、徳田佳之、上岡 博、藤原慶一、瀧川奈義夫、田端雅弘、木浦勝行、谷本光音: 非小細胞肺癌局所進展例の同時化学放射線療法におけるDOC/CDDP併用療法とMVP療法の無作為化第Ⅲ相比較試験: OLCSG 0007. 第7回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2009, 名古屋, [国内学会]
- 031 細野覚代、梶山広明、城所久美子、中西透、吉川史隆: 日本人女性におけるアルコール摂取と子宮内膜癌のリスク. 第60回日本産科婦人科学会総会・学術講演会, 2008, 横浜, [国内学会]
- 032 細野覚代、松尾恵太郎、鈴木勇史、川瀬孝和、広瀬かおる、梶山広明、中西透、浜島信之、吉川史隆、田島和雄、田中秀夫: 日本人女性における食事からのカルシウム、ビタミンD摂取と子宮頸癌リスクとの関連. 第19回日本疫学会学術総会, 2009, 金沢, [国内学会]
- 033 城所久美子、松尾恵太郎、井篁一彦、梶山広明、細野覚代、吉川史隆: 閉経期女性の血清性ホルモン濃度と生活習慣、CYP19A1の遺伝子多型の関連. 第60回日本産科婦人科学会総会・学術講演会, 2008, 横浜, [国内学会]

腫瘍病理学部

- 001 塚本徹哉、立松正衛: *Helicobacter pylori*感染と高食塩食によるN-methyl-N-nitrosourea誘発マウス腺胃発癌促進効果. がん予防大会2008福岡, 2008, (福岡), [ワークショップ]
- 002 高須伸二、塚本徹哉、曹雪源、山本昌美、豊田武士、大島正伸、立松正衛: COX-2/mPGES-1トランスジェニックマ

- ウスを用いた*N*-methyl-*N*-nitrosourea誘発胃がんの解析. 第23回発癌病理研究会, 2008, (鳥羽), [口演]
- 003 塚本徹哉、立松正衛. C3H \leftrightarrow C57BL/6-Green mouse 擬集キメラマウスを用いたdextran sulfate sodium誘発大腸潰瘍の修復過程の検討. 第19回日本消化器癌発生学会総会, 2008, (別府), [ミニシンポジウム]
- 004 高須伸二、塚本徹哉、曹雪源、豊田武士、平田暁大、酒井洋樹、柳井徳磨、柵木利昭、大島正伸、立松正衛: COX-2/mPGES-1トランスジェニックマウスにおける胃がん発症性と β -cateninの関与. 第146回日本獣医学会学術集会, 2008, (宮崎), [口演]
- 005 池原 譲、成松 久、小島直也、中西速夫: マクロファージの糖鎖認識を活用する、「腹腔内転移」に対する新規治療法. 第67回日本癌学会学術総会, 2008, (名古屋), [シンポジウム]
- 006 塚本徹哉、立松正衛: 大腸潰瘍再生過程における細胞動態-C3H \leftrightarrow C57BL/6 Green mouseキメラマウスを用いた解析. 第67回日本癌学会学術総会, 2008, (名古屋), [口演]
- 007 中西速夫、伊藤友一、小寺泰弘、伊藤誠二、松井 誠、立松正衛: CD133を発現する転移性大腸癌細胞株の癌幹細胞様形質発現の解析. 第67回日本癌学会学術総会, 2008, (名古屋), [口演]
- 008 豊田武士、塚本徹哉、高須伸二、田中卓二、立松正衛: HMG-CoA還元酵素阻害剤(ピタバスタチン)の*Helicobacter pylori*感染スナネズミ胃発癌に対する影響. 第67回日本癌学会学術総会, 2008, (名古屋), [示説]
- 009 山本昌美、塚本徹哉、湯本典夫、立松正衛: *Helicobacter pylori*感染による*N*-methyl-*N*-nitrosourea誘発マウス腺胃発癌の促進効果. 第67回日本癌学会学術総会, 2008, (名古屋), [示説]
- 010 時 亮、立松正衛、加藤光保: Ephrin-A1はApc^{min/+}マウスの腫瘍の悪性化を促進する. 第67回日本癌学会学術総会, 2008, (名古屋), [示説]
- 011 高須伸二、塚本徹哉、曹雪源、豊田武士、時 亮、平田暁大、大島正伸、立松正衛: K19-C2mEトランスジェニックマウス胃癌における β -cateninの蓄積と変異. 第67回日本癌学会学術総会, 2008, (名古屋), [示説]
- 012 原 賢康、中西速夫、池原 譲、金光幸秀、松井 誠、立松正衛: 遺伝子変異のないAPC/ β catenin経路を有し、EGFRを高発現する大腸癌細胞株のCetuximab感受性とその機構. 第67回日本癌学会学術総会, 2008, (名古屋), [示説]
- 013 伊藤誠二、中西速夫、小寺泰弘、山村義孝、立松正衛: マイクロアレーを用いた胃癌腹膜微小転移の検出に有用な新規遺伝子の探索. 第67回日本癌学会学術総会, 2008, (名古屋), [口演]
- 014 鈴木秀典、福山隆一、長谷川泰久、玉木恒男、西尾正美、立松正衛: 腫瘍の厚みと浸潤の深さとbcl-2は、口腔扁平上皮癌において18F-2-fluorodeoxyglucose-uptakeと関係する. 第67回日本癌学会学術総会, 2008, (名古屋), [口演]
- 015 成松由規、池原 譲、野々村千尋、岩崎裕子、佐藤 隆、中西速夫、成松 久: Cosmcに連携したClGalTの細胞内ダイナミクスの検討. 第67回日本癌学会学術総会, 2008, (名古屋), [口演]
- 016 尾崎秀徳、安藤秀信、佐藤 隆、松崎英樹、平林 淳、中西速夫、池原 譲、成松 久: 胃がん培養細胞株および胃がん患者由来腹腔洗浄液におけるシリアルTnキャリアタンパク質の同定. 第67回日本癌学会学術総会, 2008, (名古屋), [示説]
- 017 佐藤 隆、池原 譲、丹羽 徹、中村祥子、後藤雅式、池原早苗、清原克恵、岩井俊恵、平林 淳、中西速夫、立松正衛、成松 久: 腺窩上皮分化に伴う β 4GalNAc-T3とLDN糖鎖の発現変動. 第67回日本癌学会学術総会, 2008, (名古屋), [示説]
- 018 増本健一、坂元康晃、池田 恵、塚本徹哉、池畑広伸、黒岩有一、梅村隆志、西川秋佳、立松正衛、小野哲也、能美健彦: p53はUVB照射および非照射マウスの表皮で誘発される欠失変異を抑制する. 第67回日本癌学会学術総会, 2008, (名古屋), [示説]
- 019 丹羽透、塚本徹哉、田中晴就、森 明子、杉村 隆、立松正衛、牛島俊和: *Helicobacter pylori*除菌はスナネズミ胃粘膜における異常DNAメチル化を減少させる. 第67回日本癌学会学術総会, 2008, (名古屋), [示説]
- 020 豊田武士、塚本徹哉、高須伸二、時 亮、田中卓二、立松正衛: *Helicobacter pylori*感染動物モデルにおけるピタバスタチンの胃発癌および血清脂質動態への影響. 第25回日本毒性病理学会, 2009, (浜松), [示説]
- 021 時 亮、立松正衛、加藤光保: Ephrin-A1はApc^{min/+}マウスの腫瘍悪性化を促進する. 第25回日本毒性病理学会, 2009, (浜松), [示説]
- 022 高須伸二、塚本徹哉、曹雪源、豊田武士、時 亮、山本昌美、酒井洋樹、柳井徳磨、柵木利昭、大島正伸、立松正衛: マウス*N*-methyl-*N*-nitrosourea誘発胃がんにおける β -cateninの変異と*H. pylori*感染およびCOX-2感染が与える影響. 第25回日本毒性病理学会, 2009, (浜松), [示説]
- 023 Ikebara Y, Nakanishi H et al: A carbohydrate recognition-based drug delivery and controlled release system using intraperitoneal macrophages as a cellular vehicle. AACR Annual Meeting, 2008, (サンジエゴ USA), [Poster]
- 024 中西速夫、原 賢康 他: Cetuximabを用いた胃癌に対する分子標的治療の前臨床的研究, 日本癌転移学会, 2008, (鹿児島), [ワークショップ]
- 025 中西速夫、松井 誠 他: 胃癌・大腸がんに対するEGFRを標的とする分子標的治療の基礎的検討, 日本癌治療学会, 2008, (名古屋), [口演]
- 026 Nakanishi H, Oshima Y, Kadera Y, Matsui M, Tatematsu M: Preclinical study of lapatinid and trastuzumad por HER2 overexpressing gastric cancer cell lines, 第81回日本胃癌学会, 2009, (東京), [Oral]
- 027 Matsui M, Nakanishi H, Ikebara Y, Ito S, Tamamura Y, Tatematsu M: Successful uptake and delivery of oligomannose-cortedi liposomes by peritoneal macrophages of gastric cancer patients. 第81回日本胃癌学会, 2009, (東京), [Oral]

- 001 *Fujii M, Lyakh L, Bracken CP, Hayakawa M, Harris M, Roche KC, Perkins ND, Lechleider RJ, Roberts AB*: SNIP1 is a modifier of the transcriptional activity of c-Myc. AACR Annual meeting 2008, 2008, (米国 San Diego), [ミニシンポジウム]
- 002 *Horio Y, Fujiwara Y, Kondo M, Tamura M, Yokoyama T, Usami N, Yokoi K, Imaizumi K, Sekido Y, Hasegawa Y*: Mutational analysis of the epidermal growth factor receptor gene in the serum of resected non-small cell lung cancer patients. AACR Annual meeting 2008, 2008, (米国 San Diego), [ポスター]
- 003 *Suzuki Y, Murakami H, Kawaguchi K, Taniguchi T, Hasegawa Y, Shimokata K, Sekido Y*: Activation of PI3K/AKT signaling pathway in malignant pleural mesothelioma. AACR Annual meeting 2008, 2008, (米国 San Diego), [ポスター]
- 004 *Kawaguchi K, Murakami H, Suzuki Y, Taniguchi T, Yokoi K, Sekido Y*: Activation of receptor tyrosine kinase c-Met in malignant pleural mesothelioma cells. AACR Annual meeting 2008, 2008, (米国 San Diego), [ポスター]
- 005 *Osada H, Tomida S, Yatabe Y, Tatematsu T, Takeuchi T, Murakami H, Kondo Y, Sekido Y, Takahashi T*: Roles of ASH1 in DKK1 and E-cadherin repression and neuroendocrine differentiation in lung cancer. AACR Annual meeting 2008, 2008, (米国 San Diego), [ポスター]
- 006 *Shinjo K, Kondo Y, Goto Y, An B, Fujii M, Murakami H, Osada H, Hasegawa Y, Sekido Y*: Characteristic DNA methylation Profiling in Malignant Mesothelioma. AACR special conference in Cancer Research, Cancer Epigenetics, 2008, (米国 Boston), [ポスター]
- 007 *Kondo Y, Shen L, Cheng A, Ahmed S, Boumber Y, Sekido Y, Huang T, Issa JP*: Gene Silencing in Cancer by Histone H3 Lysine 27 Tri-methylation Independent of Promoter DNA Methylation. AACR special conference in Cancer Research, Cancer Epigenetics, 2008, (米国 Boston), [招請講演]
- 008 *Kondo Y*: Role of histone H3 lysine 27 tri-methylation in human cancers. The 2nd Shanghai Symposium of Epigenetics in Development and Diseases and The 3rd Annual Meeting of Asian Epigenome Alliance, 2008, (中国 Shanghai), [招請講演]
- 009 *Gao W, Kondo Y, Shen L, Shimizu Y, Sano T, Yamao K, Natsume A, Goto Y, Ito M, Murakami H, Osada H, Issa JP, Sekido Y*: Variable DNA Methylation Patterns Associated with Progression of Disease in Hepatocellular Carcinoma. The 2nd Shanghai Symposium of Epigenetics in Development and Diseases and The 3rd Annual Meeting of Asian Epigenome Alliance, 2008, (中国 Shanghai), [口演]
- 010 *An B, Kondo Y, Shinjo K, Ito M, Goto Y, Fujii M, Murakami H, Osada H, Hirai T, Kanemitsu Y, Komori K, Yamao K, Sawaki A, Sekido Y*: Distinct DNA Methylation Status in Proximal and Distal Colon Mucosa Derived from Colon Cancer Patients. The 2nd Shanghai Symposium of Epigenetics in Development and Diseases and The 3rd Annual Meeting of Asian Epigenome Alliance, 2008, (中国 Shanghai), [ポスター]
- 011 *Shinjo K, Kondo Y, Goto Y, Yokoyama T, Yokoi K, Ito M, An B, Fujii M, Murakami H, Osada H, Sekido Y*: DNA Methylation Is Common Event in Non-small Cell Lung Cancer without EGFR Mutation. The 2nd Shanghai Symposium of Epigenetics in Development and Diseases and The 3rd Annual Meeting of Asian Epigenome Alliance, 2008, (中国 Shanghai), [ポスター]
- 012 *Kondo Y*: Role of histone methylation in human cancers. Northeastern Asian Symposium on "Cancer Epigenetics", 2008, (韓国 Jeju), [招請講演]
- 013 *Shinjo K, Kondo Y, Sekido Y*: Global analysis of DNA Methylation in human thoracic malignancies reveals disease specific CpG island methylation. The 13th Japan-Korea Cancer Research Workshop, 2008, (韓国 Daejeon) [ポスター]
- 014 *Kondo Y*: Cross-talk of DNA Methylation and Histone Methylation in Human Cancers. Avison Biomedical Symposium, 2009, (韓国 Seoul), [招請講演]
- 015 川口晃司、村上秀樹、谷口哲朗、宇佐美範恭、横井香平、関戸好孝：悪性胸膜中皮腫における受容体チロシンキナーゼの発現と活性化の解析。第108回日本外科学会定期学術集会, 2008, (長崎), [ポスター]
- 016 新城恵子、近藤 豊、後藤康洋、安柄 九、藤井万紀子、村上秀樹、長田啓隆、関戸好孝：悪性胸膜中皮腫におけるDNAメチル化標的遺伝子の解析とその診断への応用。第2回日本エピジェネティクス研究会年会, 2008, (三島), [ポスター]
- 018 安柄 九、近藤 豊、新城恵子、伊藤元一、藤井万紀子、村上秀樹、長田啓隆、関戸好孝：大腸がん症例の正常粘膜におけるDNAメチル化様相の解析。第2回日本エピジェネティクス研究会年会, 2008, (三島), [ポスター]
- 019 藤井万紀子、谷口哲郎、村上秀樹、長田啓隆、関戸好孝：悪性中皮腫に対するTGF- β シグナルの影響。第81回日本組織培養学会大会, 2008, (つくば), [口演]
- 020 川口晃司、村上秀樹、谷口哲朗、宇佐美範恭、横井香平、関戸好孝：悪性胸膜中皮腫において、上皮成長因子受容体(EGFR)は治療のターゲットとなりうるか。第25回日本呼吸器外科学会総会, 2008, (宇都宮), [ポスター]
- 021 谷口哲朗、関戸好孝、川口晃司、宇佐美範恭、横井香平：日本人悪性胸膜中皮腫患者由来の新しい中皮腫細胞株の樹立と解析。第25回日本呼吸器外科学会総会, 2008, (宇都宮), [ポスター]
- 022 新城恵子、近藤 豊、後藤康洋、近藤征史、長谷川好規、下方 薫、関戸好孝：悪性胸膜中皮腫におけるDNAメチル化標的遺伝子とその診断への応用。第48回日本呼吸器学会学術講演会, 2008, (神戸), [ポスター]
- 023 長田啓隆：肺癌におけるmicroRNAの異常と意義。第23回日本肺癌学会ワークショップ, 2008, (名古屋), [ワークショップ]
- 024 安柄 九、近藤 豊、新城恵子、藤井万紀子、村上秀樹、長田啓隆、小森康司、金光幸秀、平井 孝、澤木 明、中村常哉、山雄健次、関戸好孝：大腸がんにおけるDNAメチル化の発がん過程への関与とその臨床応用。第63回日本大腸肛門病学会学術集会, 2008, (東京), [ワークショップ]

- 025 近藤 豊、関戸好孝：プロモーターアレイを用いたヒト腫瘍におけるDNAメチル化解析。第67回日本癌学会学術総会，2008，(名古屋)，[シンポジウム]
- 026 関戸好孝：肺がんの分子病因。第67回日本癌学会学術総会，2008，(名古屋)，[シンポジウム]
- 027 長田啓隆、立松義朗、富田秀太、谷田部恭、堀尾芳嗣、樋田豊明、藤井万紀子、村上秀樹、近藤 豊、関戸好孝、高橋 隆：新規遺伝子ADw1は上皮細胞間接着に関与し、肺癌で高頻度に発現低下する。第67回日本癌学会学術総会，2008，(名古屋)，[ワークショップ]
- 028 村上秀樹、谷口哲朗、川口晃司、藤井万紀子、近藤 豊、長田啓隆、関戸好孝：中皮腫細胞株における遺伝子発現プロファイリング。第67回日本癌学会学術総会，2008，(名古屋)，[ポスター]
- 029 藤井万紀子、谷口哲朗、村上秀樹、長田啓隆、関戸好孝：The Role of TGF-beta Signaling in Human Malignant Mesothelioma。第67回日本癌学会学術総会，2008，(名古屋)，[ポスター]
- 030 新城恵子、近藤 豊、後藤康洋、横山俊彦、伊藤元一、安柄 九、藤井万紀子、村上秀樹、長田啓隆、関戸好孝：DNAメチル化はEGFR変異のない非小細胞性肺がんを高頻度に検出される。第67回日本癌学会学術総会，2008，(名古屋)，[ワークショップ]
- 031 柳澤 聖、小西裕之、富田秀太、長田啓隆、高橋 隆：網羅的発現解析による新規ヒト肺癌転移関連遺伝子の同定と機能解析。第67回日本癌学会学術総会，2008，(名古屋)，[ワークショップ]
- 032 赤塚慎也、大原浩貴、胡茜、蔣麗、鐘毅、泉谷昌志、阿部浩一郎、中釜 斉、村上秀樹、関戸好孝、新井恵吏、金井弥栄、豊國伸哉：アレイCGHを用いた酸化ストレス誘発ラット腎癌における染色体変化の解析。第67回日本癌学会学術総会，2008，(名古屋)，[ワークショップ]
- 033 安柄 九、近藤 豊、新城恵子、伊藤元一、後藤康洋、藤井万紀子、村上秀樹、長田啓隆、小森康司、澤木 明、中村常哉、山雄健次、関戸好孝：大腸がん症例の正常粘膜におけるDNAメチル化の解析。第67回日本癌学会学術総会，2008，(名古屋)，[ポスター]
- 034 岡本泰幸、近藤 豊、澤木 明、新城恵子、安柄 九、藤井万紀子、村上秀樹、長田啓隆、片岡洋望、佐々木誠人、神谷 武、城 卓志、関戸好孝：GISTにおけるジェネティックおよびエピジェネティックな遺伝子変化の解析。第67回日本癌学会学術総会，2008，(名古屋)，[ポスター]
- 035 川口晃司、村上秀樹、谷口哲朗、藤井万紀子、近藤 豊、長田啓隆、関戸好孝：悪性胸膜中皮腫におけるMETの活性化。第67回日本癌学会学術総会，2008，(名古屋)，[ポスター]
- 036 山田忠明、矢野聖二、荻野広和、谷口哲朗、関戸好孝、曾根三郎：リゾフォスファチジン酸 (LPA) 受容体を介した悪性胸膜中皮腫細胞におけるLPAの役割。第67回日本癌学会学術総会，2008，(名古屋)，[ポスター]
- 037 永井英雅、杉戸伸好、松原秀雄、立松義朗、樋田豊明、関戸好孝、棚野正人、高橋 隆、長田啓隆：CLCP1はsemaphorin4Bと相互作用し、肺癌細胞の運動能を制御する。第67回日本癌学会学術総会，2008，(名古屋)，[ポスター]
- 038 堀尾芳嗣、清水淳市、樋田豊明、長田啓隆、関戸好孝：肺癌細胞株に於いてRanBP2遺伝子発現はトポイソメラーゼII阻害剤アムルピシンの感受性と相関しない。第67回日本癌学会学術総会，2008，(名古屋)，[ポスター]
- 039 近藤 豊：大腸がんの発生・進展に関わるエピジェネティクス異常の解析。第16回東北消化管臨床・病理研究会，2008，(秋田)，[招請講演]
- 040 関戸好孝：悪性中皮腫細胞のシグナル伝達異常。第49回日本肺癌学会総会，2008，(北九州)，[ワークショップ]
- 041 新城恵子、近藤 豊、後藤康洋、横山俊彦、藤井万紀子、村上秀樹、長田啓隆、堀尾芳嗣、樋田豊明、関戸好孝：EGFR変異のない非小細胞性肺がんではDNAメチル化は高頻度に検出される。第49回日本肺癌学会総会，2008，(北九州)，[ワークショップ]
- 042 川口晃司、村上秀樹、谷口哲朗、宇佐美範恭、関戸好孝、立山 尚、横井香平：胸腺上皮性腫瘍におけるMET/EGFRの発現。第49回日本肺癌学会総会，2008，(北九州)，[ポスター]
- 043 Trung Van The, 埴淵昌毅、兼松貴則、柿内聡司、谷口哲朗、関戸好孝、西岡安彦、曾根三郎：A novel orthotopic model of human malignant pleural mesothelioma。第49回日本肺癌学会総会，2008，(北九州)，[ポスター]
- 044 田島 健、大橋里奈、平間未知大、嶋田奈緒子、山崎万里子、佐藤弘一、伊藤 潤、守尾嘉晃、瀬山邦明、樋田豊明、関戸好孝、高橋和久：胸膜中皮腫におけるオステオポンチンの抗がん剤耐性に対する検討。第49回日本肺癌学会総会，2008，(北九州)，[ポスター]
- 045 大槻剛巳、関戸好孝、豊國伸哉：悪性中皮腫に関する基礎研究からのアプローチ。第56回日本職業・災害医学会学術大会，2008，(東京)，[シンポジウム]
- 046 長田啓隆、立松義朗、富田秀太、谷田部恭、堀尾芳嗣、樋田豊明、藤井万紀子、村上秀樹、近藤 豊、関戸好孝、高橋 隆：新規遺伝子ADw1は上皮細胞間接着に関与し、肺癌で高頻度に発現低下する。第31回日本分子生物学会，2008，(神戸)，[ポスター]

遺伝子医療研究部

- 001 *Tsuzuki S, Seto M*: Functional roles of the deletion of TEL gene in the TEL-AML1 leukemia. 第67回日本癌学会学術総会，2008，(名古屋)，[ポスター (示説)]
- 002 *Honma K, Tsuzuki S, Nakagawa M, Karnan S, Kim WS, Kim YD, Ko YH, Seto M*: Ocular adnexal marginal zone B cell lymphoma has characteristic deletion of TNFAIP3, suppressor of NF- κ B. KeyStone Symposia NF-kappaB (B6), 2008，(カナダ)，[ポスター (示説)]
- 003 *Seto M*: Genomic alterations in lymphomas. Adult T cell lymphoma leukemia; present status. 1st Molecular Biology and Cancer Pre Congress Course. 6th Peruvian Medical Oncology Congress, 2008，(ペルー，アレキパ)，[招請講演]

- 004 *Karube K, Seto M*: Identification of cell of origin (COO) in natural killer cell neoplasm by using gene expression profile. 第7回日独リンパ腫会議, 2008, (ドイツ), [Oral Presentation]
- 005 *Nakagawa, M., Nakagawa-Oshiro, A., Tsuzuki, S., Utsunomiya, A., Seto, M*: A Part of Acute-type ATLL Cases Has Genomic Imbalance in Common With Lymphoma-type ATLL. 第50回米国血液学会総会, 2008, (米国), [誌上发表]
- 006 *Masao Nakagawa, Akira Umino, Aya Nakagawa-Oshiro, Atee Utsunomiya, Sbigeo Nakamura, Ichiro Takeuchi, Koichi Obshima, Masao Seto*: Distinct genome profiles of acute and lymphoma type ATLL: an indication for two subtypes in acute type ATLL. 14th International Conference on Human Retrovirology, 2009, (ブラジル), [口演]
- 007 瀬戸加大: 悪性リンパ腫のゲノム異常: 多様性とその意義. 第2回大分がんゲノムカンファレンス. 2008, (大分県由布市), [招請講演]
- 008 瀬戸加大: 悪性リンパ腫のゲノム異常解析. 韓国血液学会. リンパ腫研究グループ教育シンポジウム. 2008, (ソウル), [招請講演]
- 009 瀬戸加大: MALTリンパ腫の分子病態. 第8回新潟胃炎・消化性潰瘍研究会. 2008, (新潟), [招請講演]
- 010 瀬戸加大: 悪性リンパ腫の分子病態とその臨床応用. Basic and Advanced Hematology Seminar 2008. 2008, (さいたま), [招請講演]
- 011 瀬戸加大: 悪性リンパ腫の分子病態. 「第48回リンパ網内系学会」ランチョンセミナー. 2008, (札幌), [招請講演]
- 012 瀬戸加大: 悪性リンパ腫の分子病態. 第6回血液・腫瘍セミナー. 2008, (津), [招請講演]
- 013 瀬戸加大: 悪性リンパ腫の分子病態とその臨床的意義. 第2回腫瘍学基盤先端セミナー. 2008, (豊明), [招請講演]
- 014 瀬戸加大: 悪性リンパ腫のゲノム異常の多様性とその意義. 2008, (名古屋 名古屋大学大学院医学系研究科), [招請講演]
- 015 瀬戸加大: 悪性リンパ腫の分子病態とその臨床的意義. 山梨血液先端セミナー. 2008, (甲府), [招請講演]
- 016 瀬戸加大: MALTリンパ腫の分子病態. 第11回「食・胃腸病変を考える会」. 2008, (広島), [招請講演]
- 017 加留部謙之輔, 中川雅夫, 都築 忍, 清水則夫, 瀬戸加大: NK/T細胞性腫瘍の遺伝子発現プロファイル. 第67回日本癌学会学術総会, 2008, (名古屋), [ワークショップ]
- 018 都築 忍, 瀬戸加大: TEL-AML1 白血病におけるTEL欠失の作用. 第67回日本癌学会学術総会, 2008, (名古屋), [ポスター]
- 019 本間圭一郎, 瀬戸加大, 都築 忍, 中川雅夫: リンパ腫発生進展におけるA20の機能解析. 第67回日本癌学会学術総会, 2008, (名古屋), [ポスター]
- 020 塚本善之, 内田智久, カルナンシバスダラム, 野口剛, 谷川雅人, 竹内一郎, 松浦恵子, 中田知里, Nguyen Tung, 泥谷直樹, 井藤久雄, 瀬戸加大, 守山正胤: 胃癌におけるゲノムコピー数異常と遺伝子発現異常の統合解析. 第67回日本癌学会学術総会, 2008, (名古屋), [ポスター]
- 021 中川雅夫, 中川 綾, 宇都宮興, 瀬戸加大: 急性型成人T細胞性白血病/リンパ腫症例の一部はリンパ腫型と同一のゲノム異常領域を持つ. 第67回日本癌学会学術総会, 2008, (名古屋), [ワークショップ]
- 022 中田知里, 松浦恵子, 塚本善之, 谷川雅人, 吉本多一郎, 泥谷直樹, 内田智久, 三股浩光, 瀬戸加大, 守山正胤: 胃癌にむけるmiRNAの網羅的発現解析. 第67回日本癌学会学術総会, 2008, (名古屋), [ポスター]
- 023 瀬戸加大: 悪性リンパ腫発症の分子機構. 第67回日本癌学会学術総会, 2008, (名古屋), [シンポジウム]
- 024 瀬戸加大: 悪性リンパ腫のゲノム異常と腫瘍化機構. 第3回大分がんカンファレンス. 2009, (由布市), [招請講演]
- 025 瀬戸加大: 悪性リンパ腫の分子機構と臨床的意義. 第59回神奈川血液研究会. 2009, (横浜市), [招請講演]
- 026 瀬戸加大: 悪性リンパ腫の分子機構とその臨床的意義. 第28回岡山免疫懇話会. 2009, (岡山市), [招請講演]
- 027 瀬戸加大: 悪性リンパ腫の多様なゲノム異常とその臨床的意義. 第9回血液腎膠原病研究会. 2009, (秋田市), [招請講演]
- 028 加留部謙之輔: NK/T細胞リンパ腫の遺伝子発現プロファイル: 疾患分類への応用. グローバルCOE第2回国内シンポジウム「がんの病態解明と新たな治療戦略」2009, (名古屋), [招請講演]
- 029 中川雅夫: アレイCGH法を用いたT細胞性リンパ腫の病態と病型分類の考察: グローバルCOE第3回プログレスリポート会議「機能分子医学への神経疾患・腫瘍の融合拠点」2009, (名古屋), [招請講演]

腫瘍免疫学部

- 001 *Ogawa S, Matsubara A, Kasbiwase K, Onizuka M, Sanada M, Kato M, Nannya Y, Akatsuka Y, Kawase T, Satake M, Takita J, Morishima Y, Chiba S, Saji H, Inoko H, Kodera Y, Sasazuki T*: Genome-wide association studies of genetic incompatibility that is relevant to the development of GvHD in unrelated bone marrow transplantation. 第50回米国血液学会総会, 2008, (サンフランシスコ), [口演]
- 002 *Nannya Y, Kamei M, Torikai H, Kawase T, Taura K, Inamoto Y, Takabashi T, Yazaki M, Morishima S, Miyamura K, Ito T, Kodera Y, Morishima Y, Takabashi T, Kuzushima K, Ogawa S, Akatsuka Y*: HapMap scanning of novel human minor histocompatibility antigens. 第50回米国血液学会総会, 2008, (サンフランシスコ), [示説]
- 003 鳥飼宏基, 亀井美智, 南谷泰仁, 川瀬孝和, 森島泰雄, 高橋利忠, 葛島清隆, 小川誠司, 赤塚美樹: Public Resourceを用いたゲノムワイド解析による新規マイナー抗原同定法の開発. 第12基盤的癌免疫研究会総会, 2008, (大宮), [口演]
- 004 堀早穂子, 西川博嘉, 平山倫子, 井口晶子, 影山慎一, 花桐武志, 安元公正, 上中明子, 中山睿一, 渡邊友紀子, 葛

- 島清隆、珠玖 洋：癌・精巢抗原NY-ESO-1に対する液性免疫応答の解析. 第12回基盤的癌免疫研究会総会, 2008, (大宮), [口演]
- 005 越智俊元、藤原 弘、末盛浩一郎、東 太地、葛島清隆、安川正貴：Aurora-Akinaseを標的とした白血病に対する免疫療法の開発. 第12回基盤的癌免疫研究会総会, 2008, (大宮), [口演]
- 006 赤塚美樹、森島泰雄：骨髄移植症例に誘導されるGVL効果の解析. 第67回日本癌学会学術総会, 2008, (名古屋), [シンポジウム]
- 007 越智俊元、藤原 弘、末盛浩一郎、谷本一史、東 太地、薬師神芳洋、葛島清隆、安川正貴：Aurora-A kinaseを標的とした白血病に対する免疫療法の開発. 第67回日本癌学会学術総会, 2008, (名古屋), [口演]
- 008 渡邊友紀子、岡村文子、森島聡子、鳥飼宏基、赤塚美樹、葛島清隆：mRNA導入抗原提示細胞によるEBNA1特異的CD4陽性T細胞の誘導. 第67回日本癌学会学術総会, 2008, (名古屋), [示説]
- 009 赤塚美樹：Minor Antigen 反応性CTLの移植医療への関与. 第31回日本造血細胞移植学会総会, 2009, (札幌), [シンポジウム]

腫瘍ウイルス学部

- 001 *Sato Y, Tsurumi T*: Expression of Epstein-Barr Virus BZLF1 Immediate-Early Protein I induces p53 Degradation Independent of MDM2, Leading to Repression of p53-mediated Transcription. ASM Conference on Manipulation of Nuclear Processes by DNA Viruses. 2008, (Charleston, USA) [ポスター]
- 002 *Murata T, Tsurumi T*: TORC Promotes EBV Reactivation from Latency by Interacting with BZLF1. ASM Conference on Manipulation of Nuclear Processes by DNA Viruses. 2008, (Charleston, USA) [ポスター]
- 003 *Isomura H, Stinski MF, Kumimoto H, Tsurumi T*: Open Reading frame 76 of human cytomegalovirus contains an internal ribosome entry site. 33th International Herpesvirus Workshop, 2008 (Estoril, Portugal) [ポスター]
- 004 *Tsurumi T, Sato Y*: Degradation of phosphorylated p53 occurs through viral protein-ECS E3 ligase complex during Epstein-Barr virus lytic replication. The 8th Awaji International Forum on Infection and Immunity. 2008 (Hyogo, Japan) [ポスター]
- 005 佐藤好隆、鶴見達也：EBウイルス溶解感染時にp53はBZLF1-ECSユビキチンリガーゼによって分解される. 第5回EBウイルス研究会, 2008, (米子), [口演]
- 006 磯村寛樹、鶴見達也：ヒトサイトメガロウイルスUL44遺伝子後期発現プロモーターのnon-canonical TATA配列の役割. 第56回日本ウイルス学会学術集会, 2008, (岡山), [口演]
- 007 中山早苗、岩堀聡子、鶴見達也：EBV BMRF1蛋白質はssDNA結合蛋白質をコードするBALF2遺伝子の発現を促進する. 第55回日本ウイルス学会学術集会, 2008, (岡山), [ポ

- スター]
- 008 佐藤好隆、西山幸廣、鶴見達也：Epstein-BarrウイルスBZLF1蛋白質は溶解感染期においてECSユビキチンE3リガーゼ複合体をリクルートしてp53を分解する. 第56回日本ウイルス学会学術集会, 2008, (岡山), [口演]
- 009 神田 輝、高田賢蔵：EBV潜伏感染複製起点配列内のリピート配列を安定に維持したEBV-BACシステムによる高効率Bリンパ球不死化. 第56回日本ウイルス学会学術集会, 2008, (岡山), [口演]
- 010 村田貴之、鶴見達也：TORC2 promotes EBV reactivation from latency by interacting with BZLF1. 第67回日本癌学会学術総会, 2008, (名古屋), [ポスター]
- 011 磯村寛樹、鶴見達也：Noncanonical TATA Sequence in the UL44 Promoter of Human Cytomegalovirus is required for late viral gene expression. 第67回日本癌学会学術総会, 2008, (名古屋), [ポスター]
- 012 佐藤好隆、鶴見達也：ECS Ubiquitin complex is recruited by Epstein-Barr virus BZLF1 protein for degradation of the p53 tumor suppressor. 第67回日本癌学会学術総会, 2008, (名古屋), [口演]
- 013 神田 輝、高田賢蔵：Efficient transgene expression in B-lymphoblastoid cell lines by means of a novel EBV-BAC system. 第67回日本癌学会学術総会, 2008, (名古屋), [ポスター]
- 014 *Murata T, Tsurumi T*: Calcineurin Promotes EBV Reactivation from Latency via TORC2. 8th International Conference on Phosphatases, 2008, (Maebashi, Japan), [口頭]
- 015 神田 輝：潜伏感染ウイルスゲノムの宿主細胞染色体付着メカニズム. 第26回染色体ワークショップ, 2009, (姫路), [ポスター]
- 016 村田貴之、鶴見達也：EBウイルスの再活性化：TORC2はBZLF1蛋白質と共同してEBウイルスの再活性化を促進する. 第6回EBウイルス研究会, 2009, (東京), [口演]
- 017 *Murata T, Tsurumi T*: TORC2 promotes EBV reactivation from latency through interaction with viral BZLF1 protein. 4th International Symposium on Nasopharyngeal Carcinoma, 2009, (Marrakech, Morocco), [ポスター]
- 018 *Ali AKM, Kanda T*: Distinctive effects of the Epstein-Barr virus family of repeats on viral latent gene promoter activity and B-lymphocyte transformation. 4th International Symposium on Nasopharyngeal Carcinoma, 2009, (Marrakech, Morocco), [口演]
- 019 磯村寛樹、鶴見達也：ヒトサイトメガロウイルスの増殖に必須なUL79遺伝子はウイルス後期遺伝子を特異的に活性化する. 第24回ヘルペスウイルス研究会, 2009, (静岡), [口演]

分子病態学部

[国際学会]

- 001 *Chen G-Y, Sakuma K, Kannagi R*: Regulation of glycosyltrans-

- ferase gene expression involved in lymphocyte homing. Sixth International Glycosyltransferase Conference (GlycoT2008), (Chaired by Richard Cummings and Michael Pierce), Atlanta, USA, May 17-21, 2008. [国際カンファレンス Invited Speaker]
- 002 **Kannagi R, Obmori K, Sakuma K, Kimura N**: Sialylated and sulfated ligands on human B-lymphocytes for CD22/Siglec2. 12th International Conference on Biology and Chemistry of Sialic Acid (SialoGlycoT2008), (Chaired by Nicolai V Bovin), Moscow-St.Petersburg, Russia, July 21-26, 2008. [国際カンファレンス Invited Speaker]
- 003 **Lim K-T, Miyazaki K, Kannagi R**: Dissection of glycotopes carried by soluble CD44-variants in sera of patients with cancers. The 36th Congress of the International Society for Oncodevelopmental Biology and Medicine (ISOBM 2008) "Development of new molecular tumor markers for diagnosis and therapy", (Chaired by K Imai and F Ito), Tokyo, October 5-9, 2008. [ポスター]
- 004 **Kannagi R, Sakuma K, Miyazaki K, Kimura N, Obmori K**: Roles of sulfated and sialylated cell-adhesion glycans in homing behavior of human T- and B-lymphocyte subsets. CREST International Symposium "Acquired Immunity and Glycobiology", (Chaired by Tsubata T), Kazusa, Kisarazu, Japan, March 23-24, 2009. [国際シンポジウム Invited Speaker]
- 005 **Sakuma K, Chen G-Y, Kimura N, Obmori K, Kannagi R**: Transcriptional regulation of GlcNAc6ST-1 and HEC-GlcNAc6ST in helper T-lymphocytes. CREST International Symposium "Acquired Immunity and Glycobiology", (Chaired by Tsubata T), Kazusa, Kisarazu, Japan, March 23-24, 2009. [ポスター]
- 006 **Kannagi R**: Roles of epigenetic gene silencing and tumor hypoxia in induction of cancer-associated carbohydrate determinants. 2nd Seminar on Functional Glycomics, "Clinical and translational research on cancer: Glycomics application", (Chaired by Paulson J and Taniguchi N), Toba, Japan, March 24-27, 2009. [国際セミナー Invited Speaker]

[国内学会]

- 007 **胡 蕊、李 剛、上條祐司、謝 聖高、王 立軒、中嶋岳郎、張 暁イ、生 暁那、青山俊文、井上晃男、野出孝一、神奈木玲児、京ヶ島守、原 厚**: 末期腎不全患者における心血管障害の発症と血清スルファチド値. 第50回日本脂質生化学年会, 6月5-6日, 徳島, 2008.[口演]
- 008 **岩田章子、佐藤ちひろ、安藤弘宗、大野ひろみ、石田秀治、木曾 真、神奈木玲児、北島 健**: 哺乳類組織におけるサイクリックシアル酸の化学的検出. 第28回日本糖質学会年会, 筑波, 8月18-20日, 2008.[ポスター]
- 009 **山口真範、安藤弘宗、石田秀治、神奈木玲児、木曾 真**: 高次生命機能解明を目的としたシアル酸構造修飾プローブの合成. 第28回日本糖質学会年会, 筑波, 8月18-20日, 2008. [ポスター]
- 010 **宮崎敬子、遊佐亜希子、木村尚子、井澤峯子、神奈木玲児**: 大腸癌細胞における硫酸トランスポーター遺伝子 DTDSTのepigenetic silencingによるシアリルLe^xの発現誘導の生理的意義. 第28回日本分子腫瘍マーカー研究会, 名古屋, 10月 27日, 2008.[口演]
- 011 **神奈木玲児**: Altered expression of cell surface adhesion molecules associated with cancer progression (癌のプログレッションにともなう細胞表面の接着分子の変化). 第67回日本癌学会総会, 名古屋, 10月 28日-30日, 2008.[シンポジウム]
- 012 **京ヶ島守、小泉恵子、村手 隆、神奈木玲児**: Importance of ceramide species and Bax/Bcl2 ratio for the induction of apoptosis in SH-SY5Y cells by ATRA (セラミド分子種及びBax/Bcl2 比は全トランスレチノイン酸による神経芽細胞腫SH-SY5Yの細胞死に重要である). 第67回日本癌学会総会, 名古屋, 10月 28日-30日, 2008.[ポスター]
- 013 **遊佐亜希子、後藤嘉子、藤井正宏、鈴木善義、宮浦修一、村手 隆、木全弘治、京ヶ島守、神奈木玲児**: Expression of NDST3 induced by apoptotic signals (NDST3の発現はアポトーシスで誘導される). 第67回日本癌学会総会, 名古屋, 10月 28日-30日, 2008.[口演]
- 014 **金森審子、山口真範、石田秀治、木曾 真、神奈木玲児**: Investigation of the mechanism of sialic acid cyclase operation for loss of selectin ligand reactivity (セレクトインリガンド活性を失わせるシアル酸シクラゼの作用機序の解析). 第67回日本癌学会総会, 名古屋, 10月 28日-30日, 2008.[口演]
- 015 **河村由紀、豊田 実、川島 麗、Vongsavanh Phongsisay、河村裕、小西文雄、斉藤幸夫、矢島知治、日比紀文、松本善之、神奈木玲児、今井浩三、土肥多恵子**: Transcriptional silencing of Sda^a carbohydrate-synthase gene by hypermethylation in ulcerative colitis and colitic cancer (潰瘍性 大腸炎およびcolitic cancerにおけるSda糖鎖合成酵素遺伝子のDNA異常メチル化による転写抑制). 第67回日本癌学会総会, 名古屋, 10月 28日-30日, 2008.[口演]
- 016 **宮崎敬子、遊佐亜希子、木村尚子、井澤峯子、神奈木玲児**: Diminished expression of sulfate transporter DTDST induces sialyl Lewis^x expression and enhanced proliferation of colon cancer cells (硫酸トランスポーターDTDSTの発現低下はシアリルLewis^x発現を誘導し大腸癌細胞の増殖を促進する). 第67回日本癌学会総会, 名古屋, 10月 28日-30日, 2008.[ポスター]
- 017 **林 啓智、宮崎敬子、木村尚子、井澤峯子、神奈木玲児**: Dissection of cancer-associated and normal glycotopes carried by soluble CD44-variants in sera of patients with cancers (患者血清中における癌関連性および正常糖鎖を結合したCD44バリエーション分子の切断フラグメントの検出). 第67回日本癌学会総会, 名古屋, 10月 28日-30日, 2008.[ポスター]
- 018 **後藤嘉子、遊佐亜希子、藤井正宏、鈴木善義、宮浦修一、村手隆、木全弘治、京ヶ島守、神奈木玲児**: Increased cell-surface expression of GlcA-GlcNH₃⁺ in heparan sulfate accompanied with apoptosis (ヘパラン硫酸のGlcA-

- GlcNH₃⁺発現はアポトーシスに伴い増強する). 第67回日本癌学会総会, 名古屋, 10月28日-30日, 2008.[ポスター]
- 019 佐久間圭一朗、陳国云、木村尚子、神奈木玲児 : Transcriptional regulation of 6-O-sulfotransferase genes in malignant cells (悪性細胞における6-硫酸基転移酵素遺伝子の転写調節機構). 第67回日本癌学会総会, 名古屋, 10月28日-30日, 2008.[ポスター]
- 020 殷軍、井澤峯子、宮崎敬子、板野直樹、神奈木玲児 : Transcriptional induction of hyaluronic acid synthase and hyaluronidase in colon cancer cells by tumor hypoxia (低酸素による大腸癌細胞のヒアルロン酸合成酵素と分解酵素遺伝子の転写誘導と低分子ヒアルロン酸フラグメントの形成). 第67回日本癌学会総会, 名古屋, 10月28日-30日, 2008.[ポスター]
- 021 佐久間圭一朗、陳国云、木村尚子、大森勝之、神奈木玲児 : ヘルパーT細胞における6-硫酸基転移酵素遺伝子の転写調節機構. 第38回日本免疫学会総会・学術集会, 京都, 12月1日-3日, 2008. [ポスター]
- 022 Taguchi O : Organs are always regenerated by bone marrow-derived cells. 第38回日本免疫学会総会・学術集会, 京都, 12月1日-3日, 2008. [演説].
- 023 Kozawa E , Sugiura H, Taguchi O : Protective efficacy of the lung metastasis of murine osteosarcoma by treatment with anti-CD25 monoclonal antibody. 第67回日本癌学会総会, 名古屋, 10月28日-30日, 2008.[ポスター]
- 024 松田理沙、須籙理、奥村美江子、田口修、Cotterill Sue、山口政光 : ショウジョウバエのDNAポリメラーゼε 58kDaサブユニットの生体内機能解析. 第31回日本分子生物学会年會・第81回日本生化学会大会・合同大会BMB2008, 神戸, 12月9日-12日, 2008.[ポスター]
- 025 金森審子、山口真範、石田秀治、木曾真、神奈木玲児 : セレクチンリガンド活性を失わせるシアル酸シクラーゼの作用機序の解析. 第31回日本分子生物学会年會・第81回日本生化学会大会・合同大会BMB2008, 神戸, 12月9日-12日, 2008.[ポスター]
- 026 岩田章子、佐藤ちひろ、安藤弘宗、石田秀治、木曾真、神奈木玲児、北島健 : 化学的検出法を用いた天然におけるサイクリックシアル酸の局在検索. 第31回日本分子生物学会年會・第81回日本生化学会大会・合同大会BMB2008, 神戸, 12月9日-12日, 2008.[ポスター]
- 027 河村由紀、豊田実、川島麗、萩原輝記、河村裕、小西文雄、斉藤幸夫、神奈木玲児、今井浩三、土肥多恵子 : 潰瘍性大腸炎では炎症により亢進したDNAメチル化がSd*糖鎖合成酵素遺伝子の転写を抑制する. 第31回日本分子生物学会年會・第81回日本生化学会大会・合同大会BMB2008, 神戸, 12月9日-12日, 2008.[口演]
- 028 萩原和美、田中広治、京ヶ島守、小泉恵子、村手隆、神奈木玲児 : セラミド分子種とBax/Bcl2の双方が全トランスレチノイン酸による神経芽細胞腫SH-SY5Yの細胞死に重要な役割を果たしている. 第31回日本分子生物学会年會・第81回日本生化学会大会・合同大会BMB2008, 神戸, 12月9日-12日, 2008.[ポスター]
- 029 神奈木玲児 : がん転移浸潤の糖鎖バイオロジーの新展開. 平成20年度がん特定研究5領域合同シンポジウム 東京, 2月2-3日, 2009.[シンポジウム]

発がん制御研究部

- 001 Enomoto M, Goto H, Ikegami Y, Kasabara K, Tomono Y, Tsujimura K, Kiyono T, Inagaki M : Chk1 phosphorylation by Cyclin-dependent kinases (Cdks). International Symposium on Chromosome Dynamics in Ise, 2008, (志摩), [ポスター]
- 002 Shiromizu T, Inoko A, Yonemura S, Kiyono T, Inagaki M : The novel keratin-binding protein trichoplein plays a role in the formation of apical junctional complex. 第60回日本細胞生物学会大会, 2008, (横浜), [ポスター]
- 003 Kasabara K, Goto H, Enomoto M, Ikegami Y, Tomono Y, Inagaki M : Autophosphorylation of Chk1 in checkpoint response. 第60回日本細胞生物学会大会, 2008, (横浜), [ポスター]
- 004 Inoko A, Sugimoto M, Shiromizu T, Nakayama M, Zou P, Yonemura S, Hayashi Y, Izawa I, Sasoh M, Uji Y, Kaibuchi K, Kiyono T, Inagaki M : The keratin-binding protein Albatross regulates the polarization of epithelial cells. 第60回日本細胞生物学会大会, 2008, (横浜), [ポスター]
- 005 Enomoto M, Goto H, Kasabara K, Ikegami Y, Tomono Y, Kiyono T, Inagaki M : Chk1 phosphorylation by Cdk1 controls mitotic entry. 第60回日本細胞生物学会大会, 2008, (横浜), [ポスター]
- 006 Goto H, Inagaki M : Chk1 phosphorylation by Cyclin-dependent kinases (Cdks). 第67回日本癌学会学術総会, 2008, (名古屋), [シンポジウム]
- 007 Inoko A, Inagaki M : Novel TPHPD proteins: keratin-binding proteins act as the regulator for the cell-cell adhesion. 第67回日本癌学会学術総会, 2008, (名古屋), [シンポジウム]
- 008 Izawa I, Hayashi Y, Inagaki M : Characterization of ERBIN palmitoylation. 第67回日本癌学会学術総会, 2008, (名古屋), [ポスター]
- 009 Kasabara K, Goto H, Enomoto M, Ikegami Y, Tomono Y, Inagaki M : Ser-296 phosphorylation of Chk1 in checkpoint response. 第67回日本癌学会学術総会, 2008, (名古屋), [ポスター]
- 010 Enomoto M, Goto H, Tomono Y, Kasahara K, Ikegami Y, Tsujimura K, Kiyono T, Inagaki M : Chk1 phosphorylation by Cdk1 promotes mitotic entry. 第31回日本分子生物学会年會・第81回日本生化学会大会 合同大会, 2008, (神戸), [ポスター]
- 011 Obmuro-Matsuyama Y, Zou P, Inoko A, Ibi M, Yonemura S, Hayashi Y, Mori D, Hirotsune S, Tamura A, Tsukita S, Inagaki M : Trichoplein, a keratin binding protein, is a functional component of centrosomes. 第31回日本分子生物学会年會・第81回日本生化学会大会 合同大会, 2008, (神戸), [ワークショップ]
- 012 Obmuro-Matsuyama Y, Zou P, Inoko A, Ibi M, Yonemura S, Hayashi Y, Mori D, Hirotsune S, Tamura A, Tsukita S, Inagaki M : Trichoplein, a keratin binding protein, is a functional compo-

- ment of centrosomes. 第31回日本分子生物学会年会・第81回日本生化学会大会 合同大会, 2008, (神戸), [ポスター]
- 013 **Goto H, Enomoto M, Tomono Y, Kasabara K, Ikegami Y, Tsujimura K, Kiyono T, Inagaki M**: Chk1 phosphorylation by Cyclin-dependent kinase 1 promotes mitotic entry. The 48th Annual Meeting of the American Society for Cell Biology, 2008, (San Francisco), [ポスター]
- 014 **Inagaki M**: Trichoplein regulates microtubule anchoring and suppresses a cilia assembly program at the mother centriole. GCOE第一回国際シンポジウム, 2009, (名古屋), [シンポジウム]
- 015 **Kasabara K**: Regulatory mechanism of Chk1 by its autophosphorylation in checkpoint response. GCOE第一回国際シンポジウム, 2009, (名古屋), [ポスター]
- 016 **Enomoto M**: Chk1 phosphorylation by Cdk1 promotes mitotic entry. GCOE第一回国際シンポジウム, 2009, (名古屋), [ポスター]
- 017 **Goto H, Enomoto M**: Chk1 phosphorylation by Cyclin-dependent kinase 1 promotes mitotic entry. Cell Cycle and Cell Architecture, 2009, (名古屋), [シンポジウム]
- 018 **Inoko A, Inagaki M**: Trichoplein, a keratin-binding protein, maker of microtubule-organization and breaker of cilia assembly. Cell Cycle and Cell Architecture, 2009, (名古屋), [シンポジウム]
- 019 **笠原広介、後藤英仁、榎本将人、池上要介、友野靖子、稲垣昌樹**: Negative feedback regulation of Chk1 by its own kinase activity. 第31回日本分子生物学会年会・第81回日本生化学会大会 合同大会, 2008, (神戸), [ワークショップ]
- 020 **笠原広介、後藤英仁、榎本将人、池上要介、友野靖子、稲垣昌樹**: Negative feedback regulation of Chk1 by its own kinase activity. 第31回日本分子生物学会年会・第81回日本生化学会大会 合同大会, 2008, (神戸), [ポスター]
- 021 **衣斐美歩、鄒鵬、猪子誠人、大室(松山)有紀、米村重信、林 裕子、森 大輔、広常真治、田村 淳、月田早智子、稲垣昌樹**: ケラチン結合タンパク質Trichopleinの中心体における機能解析. 第60回日本細胞生物学会大会, 2008, (横浜), [ポスター]
- 022 **稲垣昌樹**: GCOEと愛知県がんセンター. GCOE国内シンポジウム, 2008, (名古屋), [ポスター]
- 023 **Pastuhov SI, 花房洋、家村俊一郎、夏目徹、渋谷浩司、稲垣昌樹、松本邦弘**: パーキンソン病原因遺伝子LRRK2によるvimentin cage 形成. 第31回日本分子生物学会年会・第81回日本生化学会大会 合同大会, 2008, (神戸), [ポスター]
- 024 **榎本将人**: G2/M期におけるCdk1によるChk1の制御機構の解析. NAGOYAグローバルリトリート, 2009, (大府), [ワークショップ]
- 025 **大室(松山)有紀**: トリコプレインの中心体機能. NAGOYAグローバルリトリート, 2009, (大府), [ポスター]
- 026 **松山 誠**: ケラチン結合タンパク質トリコプレインの機能解析. NAGOYAグローバルリトリート, 2009, (大府), [ポスター]

4. 学会誌・その他誌上発表テーマ調べ（総長）

総長

- 001 *Nimura Y*: Treatment of Intrahepatic Lithiasis. In: Biliary Lithiasis. Eds. Borzellino G, Cordiano C, Springer-Verlag, Milan, 467-478, 2008.
- 002 *Nimura Y*, Nishio H: Perihilar cholangiocarcinoma. In: General Surgery (Volume 2): Principles and International Practice. 2nd Edition. Eds. Kirby I. Bland, Michael G. Sarr, Markus W. Buchler, Attila Csendes, O. James Garden, John Wong, Springer-Verlag, London, 1105-1110, 2008.
- 003 *Farnell M, Aranba GV, Nimura Y, Michelassi F*: The role of extended lymphadenectomy for adenocarcinoma of the head of the pancreas: Strength of the evidence. *Journal of Gastrointestinal Surgery*, 12:651-656, 2008.
- 004 *Nimura Y*: Staging cholangiocarcinoma by cholangioscopy. *HPB*, 10:113-115, 2008.
- 005 *Nimura Y*: Preoperative biliary drainage before resection for cholangiocarcinoma (Pro). *HPB*, 10:130-133, 2008.
- 006 *Nimura Y*: Radical surgery of left-sided Klatskin tumor. *HPB*, 10:168-170, 2008.
- 007 *Nimura Y*: Radical surgery: vascular and pancreatic resection for cholangiocarcinoma. *HPB*, 10:183-185, 2008.
- 008 二村雄次：特集：吻合法—70年の変遷から学ぶことVI. 胆管手術 胆管空腸吻合法. *外科*, 70:72-76, 2008.
- 009 二村雄次：特集：新しいがん診療体制の構築をめぐる：がん診療連携拠点病院の役割. *日本医師会雑誌*, 137:286, 2008.
- 010 二村雄次：闘魂—梶谷流名古屋道場の軌跡—。 *共済医報*, 57:114-127, 2008.
- 011 二村雄次：巻頭言 肝内胆管癌 -2008, up-to-date-. *肝胆膵*, 57:5-7, 2008.
- 012 二村雄次、濱口道成、柳野正人、小田高司、横山幸浩、國料俊男：平成16年度～平成19年度科学研究費補助金（基盤研究（A））「胆管細胞癌の網羅的遺伝子解析とそれに基づく分子標的制癌療法の開発」研究成果報告書, 2008.

5. 学会誌・その他誌上発表テーマ調べ (病院)

病院長

- 001 小澤壯治、日月裕司、田中乙雄、篠田雅幸、宇田川晴司、松原久裕、馬場秀夫、竹内裕也、小山恒男、室 圭、宇野隆、手島昭樹、沼崎穂高、山名秀明、小西俊郎：Current Organ Topics: Upper G.I.Cancer 食道・胃癌 I.食道癌 1.食道癌全国登録の再開にあたり-問題点と解決法-。癌と化学療法, 癌と化学療法社 35(9)：1497-1499,2008

消化器内科部

[原著]

- 001 *Okusaka T, Funakoshi A, Furuse J, Boku N, Yamao K, Obkawa S, Saito H* : A late phase II study of S-1 for metastatic pancreatic cancer. *Cancer Chemother Pharmacol.* 61(4):615-621, 2008.
- 002 *Yamao K, Bhatia V, Mizuno N, Sawaki A, Ishikawa H, Tajika M, Hoki N, Shimizu Y, Ashida R, Fukami N.* EUS-guided choledochoduodenostomy for palliative biliary drainage in patients with malignant biliary obstruction: results of long-term follow-up. *Endoscopy.* 40(4):340-342, 2008.
- 003 *Nishida T, Shirao K, Sawaki A, Koseki M, Okamura T, Ohtsu A, Sugiyama T, Miyakawa K, Hirota S* : Efficacy and safety profile of imatinib mesylate (ST1571) in Japanese patients with advanced gastrointestinal stromal tumors: a phase II study (ST1571B1202). *Int J Clin Oncol.* 13(3):244-251, 2008.
- 004 *Matsumoto K, Yamao K, Okubo K, Hara K, Sawaki A, Mizumoto N, Tajika M, Karwai H, Ashida R* : Endoscopic ultrasound-guided ethanol injection in the pancreas in a porcine model: a preliminary study. *J Gastroenterol Hepatol.* 23(7):1-6,2008.
- 005 *Sawaki A, Kanemitsu Y, Mizuno N, Takahashi K, Nakamura T, Ioka T, Tanaka S, Nakaizumi A, Salem AA, Ueda R, Yamao K* : Practical prognostic index for patients with metastatic pancreatic cancer treated with gemcitabine. *J Gastroenterol Hepatol.* 23(8):1292-1297, 2008.
- 006 *Matsumoto K, Nagahara T, Okano J, Murawaki Y* : The growth inhibition of hepatocellular and cholangiocellular carcinoma cells by gemcitabine and the roles of extracellular signal-regulated and checkpoint kinases. *Oncol Rep.*20(4):863-872, 2008.
- 007 *Suzuki T, Matsuo K, Sawaki A, Mizuno N, Hirai A, Kawase T, Watanabe M, Nakamura T, Yamao K, Tajima K, Tanaka H* : Alcohol drinking and one-carbon metabolism-related gene polymorphisms on pancreatic cancer risk. *Cancer Epidemiol Biomarkers.* 17(10):2742-2747, 2008.
- 008 *Gao W, Kondo Y, Shen L, Shimizu Y, Sano T, Yamao K, Natsume A, Goto Y, Ito M, Murakami H, Osada H, Zhang J, Issa JP, Sekido Y* : Variable DNA methylation patterns associated with progression of disease in hepatocellular carcinomas. *Carcinogenesis.* 29(10):1901-1910, 2008.
- 009 *Furuse J, Okusaka T, Boku N, Obkawa S, Sawaki A, Mastumoto T* : S-1 monotherapy as first-line treatment in patients with advanced biliary tract cancer : a multicenter phase II study. *Cancer Chemother Pharmacol.* 62(5):849-855, 2008.
- 010 *Shitara K, Muro K, Ura T, Takahara D, Yokota T, Sawaki A, Kawai H, Ito S, Yamamura Y* : Chemotherapy for gastric cancer that recurs after adjuvant chemotherapy with S-1. *Jpn J Clin Oncol.* 38(11):786-789, 2008.
- 011 *Kanda J, Matsuo K, Suzuki T, Kawase T, Hiraki A, Watanabe M, Mizuno N, Sawaki A, Yamao K, Tajima K, Tanaka H* : Impact of alcohol consumption with polymorphisms in alcohol-metabolizing enzymes on pancreatic cancer risk in Japanese. *Cancer Sci.* 2008.
- 012 *Catalano MF, Sabai A, Levy M, Romagnuolo J, Wiersema M, Brugge W, Freeman M, Yamao K, Canto M, Hernandez LV* : EUS-based criteria for the diagnosis of chronic pancreatitis: the Rosemont classification. *Gastrointest Endosc.* 2009.
- 013 *Hoki N, Mizuno N, Sawaki A, Tajika M, Takayama R, Shimizu Y, Bhatia V, Yamao K* : Diagnosis of autoimmune pancreatitis using endoscopic ultrasonography. *J Gastroenterol.* 44(2):154-159, 2009.
- 014 *Imaoka H, Yamao K, Bhatia V, Shimizu Y, Yatabe Y, Koshibikawa T, Kinoshita Y* : Rare pancreatic neoplasms: the utility of endoscopic ultrasound-guided fine-needle aspiration-a large single center study. *J Gastroenterol.* 44(2):146-153, 2009.
- 015 *Nakabara O, Yamao K, Bhatia V, Sawaki A, Mizuno N, Takagi T, Shimizu Y, Koshibikawa T, Yatabe Y, Baba H* : Prevalence of adenomas and carcinomas in the ileal pouch after proctocolectomy in patients with familial adenomatous polyposis. *J Gastrointest Surg.* 2009.
- 016 *Sakamoto H, Kitano M, Komaki T, Noda K, Chikugo T, Dote K, Takeyama Y, Das K, Yamao K, Kudo M* : Prospective comparative study of the EUS guided 25-gauge FNA needle with the 19-gauge trucut needle and 22-gauge FNA needle in patients with solid pancreatic masses. *J Gastroenterol Hepatol.* 24(3):384-390, 2009.
- 017 *Tajika M, Nakamura T, Nakabara O, Karwai H, Komori K, Hirai T, Kato T, Bhatia V, Baba H, Yamao K* : Prevalence of adenomas and carcinomas in the ileal pouch after proctocolectomy in patients with familial adenomatous polyposis. *J Gastrointest Surg.* 2009.

[総説、その他]

- 001 *Irisawa A, Yamao K* : Curved linear array EUS technique in the pancreas and biliary tree: focusing on the stations. *Gastrointest Endosc.* 69(2):84-89, 2009.
- 002 *Itoi T, Yamao K* : EUS 2008 working group document: evaluation of EUS-guided choledochoduodenostomy (with video). *Gas-*

- trointest Endosc. 69(2):8-12, 2009.
- 003 **Yamao K** : EUS-guided choledochoduodenostomy. Gastrointest Endosc. 69(2):194-199, 2009.
- 004 **Yamao K, Mizuno N, Takagi T, Hara K** : How i do it and when i use (and do not use) EUS-FNA. Gastrointest Endosc. 69(2) : 134-137, 2009.
- 005 **高木忠之、入澤篤志、澤木 明、水野伸匡、石川英樹、伯耆徳之、山雄健次** : 上部消化管粘膜下腫瘍に対するEUS-FNAのコツ. Gastroenterol Endosc. 50(6) : 1486-1494, 2008.
- 006 **蘆田玲子、根引浩子、山北哲也、池田克実、山崎智朗、木幡幸恵、森本謙一、山雄健次、仲田文造** : 超音波内視鏡下吸引穿刺生検 (EUS-FNA) 材料を用いた膵腫瘍の遺伝子解析. 大阪市勤務医師会研究年報. 135-140, 2008.
- 007 **高木忠之、入澤篤志、澤木 明、水野伸匡、清水泰博、山雄健次** : 膵癌に対するInterventional EUSを用いた局所治療. 胆と膵. 29(5):433-438, 2008.
- 008 **小林佑次、水野伸匡、澤木 明、伯耆徳之、高木忠之、高山玲子、武田洋平、中原 修、重川 稔、澤井勇悟、清水泰博、山雄健次** : IPMNの悪性度診断 各種画像診断法による悪性度診断. 外科. 70(5):497-502, 2008.
- 009 **高木忠之、入澤篤志、澤木 明、水野伸匡、清水泰博、山雄健次** : 膵癌に対するInterventional EUSを用いた局所治療. 胆と膵. 29(5):433-438, 2008.
- 010 **鎌田英紀、山雄健次、澤木 明、水野伸匡、石川英樹、伯耆徳之、高木忠之、中村常哉、田近正洋、河合宏紀、谷田部恭、細田和貴、内田尚仁** : 超音波内視鏡下穿刺吸引法 (EUS-FNA) の実際. 肝胆膵画像. 10(3):229-234, 2008.
- 011 **山雄健次、水野伸匡、澤木 明、高木忠之、原 和生、澤井勇悟、佐野 力、清水康博** : 手術適応-特に分枝型の (ガイドラインの再評価も含めて) IPMNの手術適応 内科側から. 肝・胆・膵. 56(6):873-878, 2008.
- 012 **水野伸匡、伯耆徳之、高木忠之、澤木 明、山雄健次** : 診断 膵腫瘍診断に対するEUS-FNA. 臨床消化器内科. 23(8):825-830, 2008.
- 013 **高木忠之、入澤篤志、澤木 明、水野伸匡、石川英樹、伯耆徳之、山雄健次** : 上部消化管粘膜下腫瘍に対するEUS-FNAのコツ. Gastroenterological Endoscopy. 50(6) : 1486-1494, 2008.
- 014 **澤木 明** : 消化管間質腫瘍 (GIST). 内科. 101 (6) : 1133-1136, 2008.
- 015 **重川 稔、山雄健次、澤木 明、水野伸匡、原 和生、高木忠之、澤井勇悟、小林佑次** : 悪性下部胆道狭窄に対するEUS下胆管十二指腸吻合術実施時のトラブルシューティング. 胆と膵. 29(7):651-656, 2008.
- 016 **澤井勇悟、山雄健次、水野伸匡、澤木 明、原 和生、高木忠之、清水泰博** : 膵嚢胞性疾患におけるEUS-FNAの役割. 消化器内視鏡. 20(7):1038-1043, 2008.
- 017 **杉森聖司、山雄健次** : 胆嚢腺筋症と胆嚢癌の関係. 日本医事新報. 4402:92-93, 2008.
- 018 **高山玲子、中村常哉、田近正洋、河合宏紀、中原 修、武田洋平、重川 稔、澤井勇悟、小林佑次、横井太紀雄、谷田部恭、山雄健次** : H.Pylori除菌にて軽快したcap polyposisの1例. Gastroenterol Endosc. 50(10) : 2705-2711, 2008.
- 019 **山雄健次、清水康博、谷田部恭、入澤篤志** : 日本における超音波内視鏡下穿刺吸引法の現況. Gastroenterological Endoscopy. 50(11):2816-2827, 2008.
- 020 **小侯政男、國土典宏、山雄健次、伊佐山浩通** : (座談会) 長期生存を目指した膵癌診療. 内科. 102(4):751-762, 2008.
- 021 **高木忠之、入澤篤志、澤木 明、水野伸匡、原 和生、中村常哉、田近正洋、河合宏紀、清水泰博、山雄健次** : 早期膵癌発見への新たなアプローチ 組織診断 EUS-FNA. 肝胆膵画像. 10(6):569-576, 2008.
- 022 **澤木 明、山雄健次** : 転移・再発GISTに対するイマチニブ治療. 臨床外科. 64(2):179-183, 2009.
- 023 **澤木 明、原 和生、高木忠之、水野伸匡、山雄健次** : 膵臓癌 分子標的薬の現状と展望 VEGFRを標的として (アキシチニブなど). 肝・胆・膵. 58(3):353-359, 2009.
- 024 **杉森聖司、山雄健次、原 和生、高木忠之、水野伸匡、澤木 明、澤井勇悟、小林佑次、松本和也、山北圭介、坪井順哉、中村常哉、田近正洋、河合宏紀** : IPMNの疾患概念の歴史の変遷. 胆と膵. 30(3):197-201, 2009.
- [症例報告]
- 001 **高山玲子、山雄健次、原 和生、澤木 明、伯耆徳之、高木忠之、武田洋平、重川 稔、清水泰博、佐野 力、細田和貴、谷田部恭** : 経口電子胆道鏡が診断に有用であった胆管コレステローシスを伴う早期胆管癌の1例. 胆道. 22(2):191-197, 2008.
- 002 **武田洋平、澤木 明、石川英樹、伯耆徳之、高木忠之、高山玲子、重川 稔、清水泰博、谷田部恭、山雄健次** : 膵胆管合流異常を合併した胆嚢管癌の1例. 胆道. 22(4) : 570-575, 2008.
- 003 **高山玲子、中村常哉、田近正洋、河合宏紀、中原 修、武田洋平、重川 稔、澤井勇悟、小林佑次、横井太紀雄、谷田部恭、山雄健次** : H.pylori除菌療法にて軽快したcap polyposisの1例. Gastroenterological Endoscopy. 50(10) : 2705-2711, 2008.
- 004 **原 和生、水野伸匡、高木忠之、澤木 明、澤井勇悟、小林佑次、松本和也、山北圭介、杉森聖司、坪井順哉、中村常哉、田近正洋、河合宏紀、清水泰博、佐野 力、谷田部恭、細田和貴、山雄健次** : State of the Art: 術前診断が困難であった serous cystadenomaの1例. 肝胆膵画像. 10(6) : 578-583, 2008.
- 005 **廣岡芳樹、伊藤彰浩、川嶋啓揮、春日井俊史、大野栄三郎、石川卓哉、松原 浩、宮原良二、大宮直木、丹羽康正、後藤秀実、竹田 伸、中尾昭公、原 和生、山雄健次、伊藤茂樹** : 術前診断された Stage I膵癌. 肝胆膵画像. 10(6):505-510, 2008.
- [分担執筆]
- 001 **Yamao K, Mizuno N, Takabashi K, Shimizu Y, Koshikawa T** : Fine-Needle Aspiration Biopsy of the Pancreas. Diseases of the

Pancreas Current Surgical Therapy. 85-95, 2008.

- 002 *Yamao K, Irisawa A, Kozu T*: Standard scanning techniques for EUS examinations with curved linear array echoendoscopes. *New Challenges in Gastrointestinal Endoscopy*. 499-505,2008.

内視鏡部

- 001 *Yamamoto H., Nakamura T., Matsuo K, Tajika M., Kawai H., Ohmiya N, Niwa Y, Goto H, Nakamura S*: Significance of CXCR3 expression in gastric low-grade B-cell lymphoma of mucosa-associated lymphoid tissue type for predicting responsiveness to Helicobacter pylori eradication. *Cancer Sci*,99:1769-73,2008
- 002 *Tajika M, Nakamura T, Nakabara O, Kawai H, Komori K, Hirai T, Kato T, Bhatia V, Baba H, Yamao K*: Prevalence of Adenomas and Carcinomas in the Ileal Pouch After Proctocolectomy in Patients with Familial Adenomatous Polyposis. *J Gastrointest Surg*, 2009
- 003 **中村常哉、田近正洋、河合宏紀、鏡味良豊、山本一仁、加藤春美、横井太紀雄、谷田部 恭、中村栄男**: 消化管follicular lymphomaの治療方針。胃と腸、43:1081-4, 2008
- 004 **高山玲子、中村常哉、田近正洋、河合宏紀、中原 修、武田洋平、重川 稔、澤井勇悟、小林祐次、横井太紀雄、谷田部 恭、山雄健次**: H.pylori除菌にて軽快したcap polyposisの1例。Gastroenterol Endosc, 50 (10) :2705-2711、2008
- 005 **田近正洋、中村常哉、河合宏紀、波戸岡俊三、篠田雅幸、古平 毅**: c-Stage II/III胸部食道癌に対する手術療法と化学放射線療法の比較検討。消化器科、46:499-505、2008
- 006 **河合宏紀**: 目でみるトレーニング、十二指腸濾胞性リンパ腫。medicina、45 (7) : 13 41-1346、2008

呼吸器内科部

[原著]

- 001 *Tatematsu A, Mizu J, Murakami Y, Horio Y, Nakamura S, Hida T, Mitsudomi M, Yatabe Y*: EGFR mutations in small cell lung cancers. *Clin Cancer Res*, 14: 6092-6096, 2008.
- 002 *Sugiura H, Yamada K, Sugiura T, Hida T, Mitsudomi T*: Predictors of survival in patients with bone metastasis of lung cancer. *Clin Orthop Relat Res.*, 466:729-736, 2008.
- 003 *Nakagawa K, Yamazaki K, Kunitoh H, Hida T, Gemba K, Shinkai T, Ichinose Y, Adachi S, Nambu Y, Saijo N, Fukuoka M*: Efficacy and safety of pemetrexed in combination with cisplatin for malignant pleural mesothelioma: a phase I/II study in Japanese patients. *Jpn J Clin Oncol.*, 38:339-346,2008.
- 004 *Shimizu J, Horio Y, Osada H, Hida T, Hasegawa Y, Shimokata K, Takabashi T, Sekido Y, Yatabe Y*: mRNA expression of RRM1, ERCC1 and ERCC2 is not associated with chemosensitivity to cisplatin, carboplatin and gemcitabine in human lung

cancer cell lines. *Respirology*,13:510-517,2008.

- 005 *Kubota K, Nishiwaki Y, Tamura T, Nakagawa K, Matsui K, Watanabe K, Hida T, Kawabara M, Katakami N, Takeda K, Yokoyama A, Noda K, Fukuoka M, Saijo N*: Efficacy and safety of erlotinib monotherapy for Japanese patients with advanced non-small cell lung cancer: a phase II study. *J Thorac Oncol.*, 3:1439-45,2008.
- 006 *Yokoyama T, Osada H, Murakami H, Tatematsu Y, Taniguchi T, Kondo Y, Yatabe Y, Hasegawa Y, Shimokata K, Horio Y, Hida T, Sekido Y*: YAP1 is involved in mesothelioma development and negatively regulated by Merlin through phosphorylation. *Carcinogenesis*,29:2139-2146,2008.

[総説]

- 007 *Hida T, Ogawa S, Park JC, Park JY, Shimizu J, Horio Y, Yoshida K*: Gefitinib for the treatment of non-small-cell lung cancer. *Expert Rev Anticancer Ther.*9: 17-35, 2009.

[総説及び単行本]

- 001 **樋田豊明**: 肺癌の腫瘍マーカー 肺癌-基礎・臨床研究のアップデート-日本臨床,66巻増刊号6:282-285,2008
- 002 **清水淳市,光富徹哉**: 非選択的治療から選択的治療へのパラダイムシフト抗がん剤の作用機序そのものを腫瘍特異的なものとする方法 EGFR作用薬 EGFR-TKI reversibleについて。Mebio Oncology(1349-2179)6巻1号12-22,2009
- 003 **細田和貴、堀尾芳嗣、谷田部恭**: 肺癌の治療による病理組織学的変化-特集: 癌の治療効果と病理組織診断。病理と診断 26: 459-465, 2008

血液・細胞療法部

- 001 *Ogawa S, Matsubara A, Onizuka M, Kasbiwase K, Sanada M, Kato M, Nannya Y, Akatsuka Y, Satake M, Takita J, Chiba S, Saiji H, Maruya E, Inoko H, Morishima Y, Kodera Y, Takebiko S*; Japan Marrow Donation Program (JMDP). Exploration of the genetic basis of GVHD by genetic association studies. *Biol Blood Marrow Transplant.* 2008 Jan;15(1 Suppl):39-41.
- 002 *Atsuta Y, Suzuki R, Nagamura-Inoue T, Taniguchi S, Takabashi S, Kai S, Sakamaki H, Kouzai Y, Kasai M, Fukuda T, Azuma H, Takanashi M, Okamoto S, Tsuchida M, Kawata K, Morishima Y, Kodera Y, Kato S*; Japan Cord Blood Bank Network. Disease-specific analyses of unrelated cord blood transplantation compared with unrelated bone marrow transplantation in adult patients with acute leukemia. *Blood.* 2009 Feb 19;113(8):1631-8. Epub 2008 Dec 22.
- 003 *Ishizawa K, Ogura M, Hamaguchi M, Hotta T, Ohnishi K, Sasaki T, Sakamaki H, Yokoyama H, Harigae H, Morishima Y*. Safety and efficacy of rasburicase (SR29142) in a Japanese phase II study. *Cancer Sci.* 2008 Dec 14. [Epub ahead of print]
- 004 *Asano N, Yamamoto K, Tamaru J, Oyama T, Ishida F, Ohshima K, Yoshino T, Nakamura N, Mori S, Yoshie O, Shimoyama Y, Morishima Y, Kinoshita T, Nakamura S*. Age-related Epstein-Barr

- virus (EBV)-associated B-cell lymphoproliferative disorders: comparison with EBV-positive classic Hodgkin lymphoma in elderly patients. *Blood*. 2009 Mar 19;113(12):2629-36.
- 005 *Nishida T, Murayama T, Hirai H, Okamoto S, Sao H, Hara M, Kanamori H, Atsuta Y, Matsuo K, Morishima Y, Koderu Y*. Phase II study of tacrolimus and methotrexate for prophylaxis of acute graft-versus-host disease after HLA-A, B, and DRB1 genotypically mismatched unrelated bone marrow transplantation among Japanese patients. *Int J Hematol*. 2009 Jan;89(1):98-105.
- 006 *Tobinai K, Watanabe T, Ogura M, Morishima Y, Hotta T, Izbizawa K, Itob K, Okamoto S, Taniwaki M, Tsukamoto N, Okumura H, Terauchi T, Nawano S, Matsusako M, Matsuno Y, Nakamura S, Mori S, Obashi Y, Hayashi M, Endo K*. Japanese phase II study of 90Y-ibritumomab tiuxetan in patients with relapsed or refractory indolent B-cell lymphoma. *Cancer Sci*. 2009 Jan;100(1):158-64.
- 007 *Kim SW, Mori SI, Tanosaki R, Fukuda T, Kami M, Sakamaki H, Yamashita T, Koderu Y, Terakura S, Taniguchi S, Miyakoshi S, Usui N, Yano S, Kawano Y, Nagatoshi Y, Harada M, Morishima Y, Okamoto S, Saito AM, Obashi Y, Ueda R, Takaue Y*. Busulfex (i.v. BU) and CY regimen before SCT: Japanese-targeted phase II pharmacokinetics combined study. *Bone Marrow Transplant*. 2009 Apr;43(8):611-7.
- 008 *Kawase T, Matsuo K, Kasbiwase K, Inoko H, Saji H, Ogawa S, Kato S, Sasazuki T, Koderu Y, Morishima Y*; Japan Marrow Donor Program. HLA mismatch combinations associated with decreased risk of relapse: implications for the molecular mechanism. *Blood*. 2009 Mar 19;113(12):2851-8.
- 009 *Kamei M, Nannya Y, Torikai H, Kawase T, Taura K, Inamoto Y, Takahashi T, Yazaki M, Morishima S, Tsujimura K, Miyamura K, Ito T, Togari H, Riddell SR, Koderu Y, Morishima Y, Takahashi T, Kuzushima K, Ogawa S, Akatsuka Y*. HapMap scanning of novel human minor histocompatibility antigens. *Blood*. 2009 May 21;113(21):5041-8.
- 010 *Demachi-Okamura A, Ito Y, Akatsuka Y, Tsujimura K, Morishima Y, Takahashi T, Kuzushima K*. Epstein-Barr virus nuclear antigen 1-specific CD4+ T cells directly kill Epstein-Barr virus-carrying natural killer and T cells. *Cancer Sci*. 2008 Aug;99(8):1633-42.
- 011 *Oki Y, Yamamoto K, Kato H, Kuwatsuka Y, Taji H, Kagami Y, Morishima Y*. Low absolute lymphocyte count is a poor prognostic marker in patients with diffuse large B-cell lymphoma and suggests patients' survival benefit from rituximab. *Eur J Haematol*. 2008 Dec;81(6):448-53.
- 012 *Yamaguchi M, Nakamura N, Suzuki R, Kagami Y, Okamoto M, Ichinobasama R, Yoshino T, Suzumiya J, Murase T, Miura I, Obshima K, Nishikori M, Tamaru J, Taniwaki M, Hirano M, Morishima Y, Ueda R, Shiku H, Nakamura S*. De novo CD5+ diffuse large B-cell lymphoma: results of a detailed clinicopathological review in 120 patients. *Haematologica*. 2008 Aug;93(8):1195-202.
- 013 *Oki Y, Kato H, Matsuo K, Kuwatsuka Y, Taji H, Yamamoto K, Kagami Y, Morishima Y*. Prognostic value of serum soluble interleukin-2 receptor level in patients with diffuse large B cell lymphoma, treated with CHOP- or RCHOP-based therapy. *Leuk Lymphoma*. 2008 Jul;49(7):1345-51.
- 014 *Torikai H, Akatsuka Y, Yatabe Y, Morishima Y, Koderu Y, Kuzushima K, Takahashi T*. Aberrant expression of BCL2A1-restricted minor histocompatibility antigens in melanoma cells: application for allogeneic transplantation. *Int J Hematol*. 2008 Jun;87(5):467-73.
- 015 *Oki Y, Younes A*. Current role of gemcitabine in the treatment of Hodgkin lymphoma. *Leuk Lymphoma*. 2008 May;49(5):883-9.
- 016 *Shimada K, Matsue K, Yamamoto K, Murase T, Ichikawa N, Okamoto M, Niitsu N, Kosugi H, Tsukamoto N, Mirwa H, Asaoku H, Kikuchi A, Matsumoto M, Saburi Y, Masaki ., Yamaguchi M, Nakamura S, Naoe T. and Kinoshita T*: A retrospective analysis of intravascular large B-cell lymphoma (IVLBCL) treated with rituximab-containing chemotherapies. *J Clin Oncol*. 2008 Jul 1;26(19):3189-95.
- 017 *Shimoyama Y, Yamamoto K, Asano N, Oyama T, Kinoshita T, Nakamura S*: Age-related Epstein-Barr virus-associated B-cell lymphoproliferative disorders: A review with a special reference to lymphomas surrounding this newly recognized clinicopathologic disease. *Cancer Sci*. 2008 Jun;99(6):1085-91.
- 018 森島泰雄：造血幹細胞移植におけるNKレセプターとHLAの適合性. *臨床免疫・アレルギー科* 50(1):98-107, 2008.
- 019 川瀬孝和, 森島泰雄：GVHDハイリスクとなるHLAミスマッチ. *血液・腫瘍科* 57(1):114-121, 2008
- 020 加藤春美, 森島泰雄：外来化学療法の実例 造血器腫瘍臨牀と研究 85(3):353-359, 2008.
- 021 山本一仁, 鍛塚八千代：《悪性リンパ腫を極める：各病理組織型に基づく治療法》マントル細胞リンパ腫. 特集：悪性リンパ腫診療update in 2008-最新のエビデンスに基づく診断と治療 *内科102*(2):300-305, 2008.
- 022 大木康弘：DNAメチル化酵素阻害剤による造血器腫瘍の治療 *血液フロンティア* 18(11)53-62, 2008
- 023 森島泰雄：HLA不一致の急性GVHDに対する影響. *Annual Review 血液* 2009. p36-p42. 中外医学社 2009年1月

薬物療法部

[原著]

- 001 *Takashima A, Shirao K, Hirashima Y, Takahari D, Okita N, Akatsuka S, Nakajima TE, Matsubara J, Yasui H, Asakawa T, Kato K, Hamaguchi T, Muro K, Yamada Y, Shimada Y*: Chemosensitivity of patients with recurrent esophageal cancer receiving perioperative chemotherapy. *Dis Esophagus* 21,607-611,2008.
- 002 *Shitara K, Muro K, Ura T, Takahari D, Yokota T, Sawaki A, Kawai S, Yamamura Y*: Chemotherapy for Gastric Cancer that

Recurs After Adjuvant Chemotherapy with S-1.Jpn J Clin oncol 38(11),786-789,2008.

- 003 *Nakajima ET, Ura T, Ito Y, Kato K, Miniasbi K, Nibei K, Hironaka S, Boku N, Kagami Y, Muro K*: A Phase I Trial of 5-Fluorouracil with Cisplatin and Concurrent Standard-dose Radiotherapy in Japanese Patients with Stage II/III Esophageal Cancer.Jpn J Clin Oncol 39,37-42,2009.
- 004 *Muro K, Yoshino T, Doi T, Shirao K, Takiuchi H, Hamamoto Y, Watanabe H, Yan B, Asabi D*: A Phase 2 Clinical Trial of Panitumumab Monotherapy in Japanese Patients with Metastatic Colorectal Cancer.Jpn J Clin Oncol 39(5),321-326, 2009.
- 005 **横田知哉、谷田部 恭**: セツキシマブの効果予測因子としてのKRAS遺伝子測定における検体の取扱い.医学のあゆみ,第228巻13号,医歯薬出版: 1237-1241, 2009 3月.

[総説]

- 006 **室 圭**: 切除不能大腸癌の化学療法.外科治療,Vol.98 Suppl.,永井書店: 136-144,2008.
- 007 **高張大亮、室 圭**: 1. 食道がんの化学療法.化学療法の領域,Vol.24 No.8,医薬ジャーナル社: 21-27,2008.
- 008 **宇良 敬、室 圭**: 結腸・直腸がんの疫学・診断および治療戦略.Oncology Nursing,Vol.2 No.3,先端医学:1-3,2008.
- 009 **設楽紘平、室 圭**: 総論: 食道癌の化学療法.日本臨牀,Vol 67 Suppl 1,日本臨牀社: 583-588,2009.

[執筆]

- 010 **宇良 敬**: 9.イリノテカンによる有害事象対策:FOLFIRI医学のあゆみ,225(1),医歯薬出版: 56-60,2008.
- 011 **室 圭**: 大腸がんに対する化学療法と分子標的治療薬の最新展開.成人病と生活習慣病,38巻6号,東京医学社: 681-687,2008.
- 012 **宇良 敬、室 圭**: 術前・術後補助療法の最新化学療法—抗体療法の臨床的意義.大腸癌Frontier,Vol.1 No.3,メディカルレビュー社: 28-31,2008.
- 013 **小澤壯治、日月裕司、田中乙雄、篠田雅幸、宇田川晴司、松原久裕、馬場秀夫、竹内裕也、小山恒男、室 圭、ほか**: 1.食道癌全国登録の再開にあたり一問題点と解決法—癌と化学療法.35巻9号,癌と化学療法社: 1497-1499,2008.
- 014 **高張大亮、室 圭**: 食道がんに対する補助化学療法.腫瘍内科,2 (6),科学評論社: 464-470,2008.
- 015 **設楽紘平、室 圭**: 食道癌における根治的放射線療法.臨床腫瘍プラクティス,Vol5.No1,ヴァンメディカル: 32-38,2009.
- 016 **高張大亮、室 圭**: 大腸癌における抗EGFR抗体医薬の臨床試験: セツキシマブ.医学のあゆみ,第228巻13号,医歯薬出版: 1220-1225,2009.
- 017 **宇良 敬**: 消化管がん分子標的治療薬最新のエビデンス4)HER2阻害剤(トラスツズマブ,ラパチニブ).腫瘍内科,3 (2),科学評論社: 195-199,2009.

臨床検査部・遺伝子病理診断部

[原著]

- 001 **柴田典子、所 嘉朗、石田廣次、谷田部恭**: 生検検体、胸水、リンパ節穿刺液等微量検体からのRNA抽出の検討.医学検査, 57(968-974), 2008.
- 002 **Yamada K, Yatabe Y, Sugiura H**. Osteosarcoma with skeletal muscle metastasis. Arch Orthop Trauma Surg. 128: 695-9, 2008.
- 003 **Toyooka S, Takano T, Kosaka T, Hotta K, Matsuo K, Ichibara S, Fujiwara Y, Sob J, Otani H, Kiura K, Aoe K, Yatabe Y, Obe Y, Mitsudomi T, Date H**. Epidermal growth factor receptor mutation, but not sex, smoking, is independently associated with favorable prognosis of gefitinib-treated patients with lung adenocarcinoma. Cancer Sci. 99: 303-8, 2008.
- 004 **Torikai H, Akatsuka Y, Yatabe Y, Morishima Y, Kodera Y, Kuzushima K, Takahashi T**. Aberrant expression of BCL2A1-restricted minor histocompatibility antigens in melanoma cells: application for allogeneic transplantation. International journal of hematology. 87: 467-73, 2008.
- 005 **Terada A, Hasegawa Y, Yatabe Y, Hyodo I, Ogawa T, Hanai N, Ikeda A, Nagashima Y, Masui T, Hirakawa H, Nakashima T**. Intraoperative diagnosis of cancer metastasis in sentinel lymph node of oral cancer patients. Oral oncology. 44: 838-43, 2008.
- 006 **Tatematsu A, Shimizu J, Murakami Y, Horio Y, Nakamura S, Hida T, Mitsudomi T, Yatabe Y**. Epidermal growth factor receptor mutations in small cell lung cancer. Clin Cancer Res. 14: 6092-6, 2008.
- 007 **Shimizu J, Horio Y, Osada H, Hida T, Hasegawa Y, Shimokata K, Takahashi T, Sekido Y, Yatabe Y**. mRNA expression of RRM1, ERCC1, ERCC2 is not associated with chemosensitivity to cisplatin, carboplatin, gemcitabine in human lung cancer cell lines. Respiriology. 13: 510-7, 2008.
- 008 **Sakakura N, Mori S, Okuda K, Fukui T, Hatooka S, Shinoda M, Matsuo K, Yatabe Y, Yokoi K, Mitsudomi T**. Subcategorization of lung cancer based on tumor size, degree of visceral pleural invasion. The Annals of thoracic surgery. 86: 1084-90, 2008.
- 009 **Osada H, Tomida S, Yatabe Y, Tatematsu Y, Takeuchi T, Murakami H, Kondo Y, Sekido Y, Takahashi T**. Roles of achaete-scute homologue 1 in DKK1, E-cadherin repression, neuroendocrine differentiation in lung cancer. Cancer Res. 68: 1647-55, 2008.
- 010 **Okasaka T, Usami N, Mitsudomi T, Yatabe Y, Matsuo K, Yokoi K**. Stepwise examination for differential diagnosis of primary lung cancer, breast cancer relapse presenting as a solitary pulmonary nodule in patients after mastectomy. Journal of surgical oncology. 98: 510-4, 2008.
- 011 **Oka K, Hirai F, Nagakura S, Saito H, Nibei T, Yatabe Y**. Aggressive carcinoid tumors arising in the duodenum, ileum, rectum with liver metastasis: a report of three cases. Hepatogastroenterology. 55: 1660-3, 2008.
- 012 **Nakamura T, Seto M, Tajika M, Kawai H, Yokoi T, Yatabe Y, Nakamura S**. Clinical Features, Prognosis of Gastric MALT Lymphoma With Special Reference to Responsiveness to H.

- pylori Eradication, API2-MALT1 Status. *Am J Gastroenterol.* 103: 62-70, 2008.
- 013 *Moritani S, Icbihara S, Mukai K, Seki Y, Inoue S, Yasuda A, Hakiri S, Yatabe Y, Eimoto T.* Sarcomatoid carcinoma of the thymus arising in metaplastic thymoma. *Histopathology.* 52: 409-11, 2008.
- 014 *Matsuo K, Hiraki A, Ito H, Kosaka T, Suzuki T, Hirose K, Wakai K, Yatabe Y, Mitsudomi T, Tajima K.* Soy consumption reduces the risk of non-small-cell lung cancers with epidermal growth factor receptor mutations among Japanese. *Cancer Sci.* 99: 1202-8, 2008.
- 015 *Icbihara S, Ikeda T, Kimura K, Hanatate F, Yamada F, Hasegawa M, Moritani S, Yatabe Y.* Coincidence of mammary, sentinel lymph node papilloma. *Am J Surg Pathol.* 32: 784-92, 2008.
- 016 *Hara M, Nakanishi H, Tsujimura K, Matsui M, Yatabe Y, Manabe T, Tatematsu M.* Interleukin-2 potentiation of cetuximab antitumor activity for epidermal growth factor receptor-overexpressing gastric cancer xenografts through antibody-dependent cellular cytotoxicity. *Cancer Sci.* 99: 1471-8, 2008.
- 017 *Fuwa N, Daimon T, Mitsudomi T, Yatabe Y, Kodaira T, Tachibana H, Nakamura T, Kato T, Sato Y.* Identifying patients with peripheral-type early non-small cell lung cancer (T1N0M0) for whom irradiation of the primary focus alone could lead to successful treatment. *The British journal of radiology.* 81: 815-20, 2008.
- 018 *Furue H, Matsuo K, Kumimoto H, Hiraki A, Suzuki T, Yatabe Y, Komori K, Kanemitsu Y, Hirai T, Kato T, Ueda M, Isbizaki K, Tajima K.* Decreased risk of colorectal cancer with the high Natural-Killer (NK)-cell activity NKG2D genotype in Japanese. *Carcinogenesis.* 29: 316-20, 2008.
- 019 細田和貴, 堀尾芳嗣, 谷田部恭. 【癌の治療効果と病理組織診断】 肺癌の治療による病理組織学的変化. *病理と臨床.* 26: 459-465, 2008.
- 020 市原周, 森谷鈴子, 長谷川正規, 谷田部恭, 埴岡啓介, 佐久間淑子, 本間慶一. 【外科病理マニュアル】 私のこだわり・工夫 乳房温存手術のための断端評価法 ポリゴン式断端評価法. *病理と臨床.* 26: 371-376, 2008.

【症例報告】

- 001 武田洋平, 澤木 明, 石川英樹, 伯耆徳之, 高木忠之, 高山玲子, 重川 稔, 清水泰博, 谷田部恭, 山雄健次: 臍胆管合流異常を合併した胆嚢管癌の1例. *胆道.* 22: 570-575, 2008.
- 002 杉浦英志, 山田健志, 小澤英史, 立松明子, 谷田部恭, 大友克之: 右脛骨骨腫瘍の1例. *東海骨軟部腫瘍.* 20: 11-12, 2008.
- 003 小澤英史, 杉浦英志, 山田健志, 北村淳子, 谷田部恭: 比較的大きな腫瘍を形成した手部発生骨外性軟骨腫の1例. *整形・災害外科.* 51: 111-115, 2008.
- 004 小澤英史, 杉浦英志, 山田健志, 細田和貴, 谷田部恭: 左手掌軟部肉腫の1例. *東海骨軟部腫瘍.* 20: 31-32, 2008.
- 005 高山玲子, 中村常哉, 田近正洋, 河合宏紀, 中原 修, 武

- 田洋平, 重川 稔, 澤井勇悟, 小林佑次, 横井太紀雄, 谷田部恭, 山雄健次: H.pylori除菌療法にて軽快したcap polyposisの1例. *Gastroenterological Endoscopy.* 50: 2705-2711, 2008.
- 006 高山玲子, 山雄健次, 原 和夫, 澤木 明, 伯耆徳之, 高木忠之, 武田洋平, 重川 稔, 清水泰博, 佐野 力, 細田和貴, 谷田部恭: 経口電子胆道鏡が診断に有用であった胆管コレステローシスを伴う早期胆管癌の1例. *胆道.* 22: 191-197, 2008.
- 007 原和生, 水野伸匡, 高木忠之, 澤木 明, 澤井勇悟, 小林佑次, 松本和也, 山北圭介, 杉森聖司, 坪井順哉, 中村常哉, 田近正洋, 河合宏紀, 清水泰博, 佐野力, 谷田部恭, 細田和貴, 山雄健次: State of the Art 術前診断が困難であったserous cystadenomaの1例. *肝胆膵画像.* 10: 578-583, 2008.
- 008 安柄 九, 望月能成, 清水泰博, 伊藤誠二, 谷田部恭, 山村義孝, 加藤知行: 手術既往無く腸間膜および大網に発生した多発性腹腔内デスマイド腫瘍の1切除例. *日本臨床外科学会雑誌.* 69: 461-465, 2008.

【総説、その他】

- 001 長谷川泰久, 兵藤伊久夫, 岡部光邦, 寺田聡広, 古平毅, 谷田部恭: 耳下腺腫瘍臨床の最前線 耳下腺悪性腫瘍の検討. *頭頸部癌.* 34: 360-364, 2008.
- 002 中村常哉, 田近正洋, 河合宏紀, 鏡味良豊, 山本一仁, 加藤春美, 横井太紀雄, 谷田部恭, 中村栄男: 【消化管follicular lymphoma 診断と治療戦略】 消化管 follicular lymphoma の治療方針 私はこう考える. *胃と腸.* 43: 1081-1084, 2008.
- 003 谷田部恭, 立松明子, 々木英一, 細田和貴, 北村淳子. 【外科病理マニュアル】 各論 気管、気管支、肺(腫瘍性疾患)、胸膜. *病理と臨床.* 26: 196-200, 2008.
- 004 谷田部恭, 柴田典子. 【分子病理診断の現状】 肺癌における分子標的療法に関する診断の現状. *病理と臨床.* 26: 665-670, 2008.
- 005 谷田部恭: 2つのAddiction. *病理と臨床.* 26: 306-307, 2008.
- 006 谷田部恭: 肺癌の分子生物学的腫瘍分類. *呼吸器科.* 13: 174-178, 2008.
- 007 谷田部恭: パラフィン包埋標本を用いたがんの遺伝子診断. *細胞.* 40: 337-341, 2008.
- 008 谷田部恭: 【肺癌 基礎・臨床研究のアップデート】 疫学・基礎研究 病態 肺癌とterminal respiratory unit 肺癌の分子生物学的分類を通して見えてきたもの. *日本臨床.* 66: 106-112, 2008.
- 009 谷田部恭: 免疫組織化学染色による病理診断. *現代医学.* 56: 209-215, 2008.
- 010 光富徹哉, 高坂貴行, 小野里良一, 谷田部恭. 診断・治療技術講座 ASCOのEducational Sessionに学ぶ 非喫煙者の肺癌. *癌の臨床.* 54: 555-560, 2008.
- 011 鎌田英紀, 山雄健次, 澤木 明, 水野伸匡, 石川英樹, 伯耆徳之, 高木忠之, 中村常哉, 田近正洋, 河合宏紀, 谷田部恭, 細田和貴, 内田尚仁: 【Interventional US】 超音

波内視鏡下穿刺吸引法(EUS-FNA)の実際. 肝胆膵画像. 10 : 229-234, 2008.

頭頸部外科部

- 001 *Terada A, Hasegawa Y, Yatabe Y, Hyodo I, Ogawa T, Hanai N, Ikeda A, Nagashima Y, Masui T, Hirakawa H* : Intraoperative diagnosis of cancer metastasis in sentinel lymph node of oral cancer patients. *Oral Oncology*, 44:838-843, 2008.
- 002 *Suzuki H, Hasegawa Y, Terada A, Ogawa T, Hyodo I, Suzuki M, Nakashima T, Tamaki T, Nishio M* : Limitations of FDG-PET and FDG-PET/CT for detecting synchronous cancer. *Arch Otolaryngol Head Neck Surg*, 134: 1191-1195, 2008.
- 003 *Suzuki T, Matsuo K, Hasegawa Y, Hiraki A, Kawase T, Tanaka H, Tajima K* : Anthropometric factors at age 20 years and risk of thyroid cancer *Cancer Causes Control*. 19(10): 1233-42, 2008.
- 004 *Adachi M, Ijichi K, Hasegawa Y, Ogawa T, Nakamura H, Ysui Y, Fukushima M, Ishizaki K* : Hypersensitivity to cisplatin after hRev3mRNA knockdown in head and neck squamous cell carcinoma cells. *Molecular Medicine Reports*, 1: 695-698, 2008.
- 005 *Ijichi K, Adachi M, Hasegawa Y, Ogawa T, Nakamura H, Kudoh A, Yasui Y, Murakami S, Ishizaki K* : Pretreatment with 5-FU enhances cisplatin cytotoxicity in head and neck squamous cell carcinoma cells. *Cancer Chemother Pharmacol*, 62(5): 745-52, 2008.
- 006 *Yamada H, Hasegawa Y, Koshikawa T, Nakashima T, Yatabe Y* : Simultaneous comparison of multiple molecules using tissue array analysis thyroid neoplasm. *Asia-Pacific Journal of Clinical Oncology*, 4:233-238, 2008.
- 007 *Furue H, Kumimoto H, Matsuo K, Suzuki T, Hasegawa Y, Shinoda M, Sugimura T, Mitsudo K, Tobnai I, Ueda M, Tajima K, Ishizaki K* . Opposite impact of NKG2D genotype by lifestyle exposure to risk of aerodigestive tract cancer among Japanese. *Int J Cancer*, 123(1):181-6,2008.
- 008 長谷川泰久 : 頭頸部腫瘍の診かた - 痛を見落とさないために 頭頸部リンパ節由来の腫瘍. *JOHNS*, 24(4) : 625-628, 2008.
- 009 長谷川泰久 : 頭頸部腫瘍 がん治療認定医. 教育セミナーテキスト, p129-134, 2008.
- 010 池田篤彦, 寺田聡広, 花井信広, 兵藤伊久夫, 長谷川泰久 : シリーズ DPCに対応したクリニカルの実際 - 悪性腫瘍 ⑥頸部郭清術. *耳鼻咽喉科・頭頸部外科*, 80(7): 491-497, 2008.
- 011 小澤泰次郎, 長谷川泰久 : シリーズ DPCに対応したクリニカルの実際 - 悪性腫瘍 ⑦甲状腺 papillary carcinomaの症例. *耳鼻咽喉科・頭頸部外科*, 80(7): 565-570, 2008.
- 012 寺田聡広, 兵藤伊久夫, 長谷川泰久, 花井信広, 小澤泰次郎, 平川 仁, 川北大介, 三上慎司, 丸尾貴志, 神山圭史 : 脈管温存に留意した頸部郭清. *頭頸部腫瘍*, 34(3): 241-244, 2008.
- 013 長谷川泰久, 兵藤伊久夫, 岡部光邦, 寺田聡広, 古平

毅, 矢田部恭 : 耳下腺悪性腫瘍の検討. *頭頸部腫瘍*, 34(3): 360-364, 2008.

- 014 花井信広, 寺田聡広, 小澤泰次郎, 平川 仁, 川北大介, 丸尾貴志, 三上慎司, 長谷川泰久 : 中咽頭側壁癌の切除と再建. *口腔・咽頭科*, 22(1): 11-15, 2009.

形成外科部

- 001 長谷川泰久, 兵藤伊久夫, 岡部光邦, 寺田聡広, 古平毅, 谷田部恭 : 耳下腺腫瘍臨床の最前線 耳下腺悪性腫瘍の検討頭頸部腫瘍 34巻3号 Page360-364(2008.10)
- 002 寺田聡広, 兵藤伊久夫, 長谷川泰久, 花井信広, 小澤泰次郎, 平川仁, 川北大介, 三上慎司, 丸尾貴志, 神山圭史 : 切除と再建 QOL向上を目指したseamless collaboration 脈管温存に留意した頸部郭清頭頸部腫瘍34巻3号 Page241-244(2008.10)

胸部外科部

001. *Yatabe Y, Takahashi T, Mitsudomi T* . Epidermal growth factor receptor gene amplification is acquired in association with tumor progression of EGFR-mutated lung cancer. *Cancer Res*. 68: 2106-11, 2008
002. *Yano S, Wang W, Li Q, Matsumoto K, Sakurama H, Nakamura T, Ogino H, Kakiuchi S, Hanibuchi M, Nishioka Y, Uehara H, Mitsudomi T, Yatabe Y, Nakamura T, Sone S* . Hepatocyte growth factor induces gefitinib resistance of lung adenocarcinoma with epidermal growth factor receptor-activating mutations. *Cancer Res*. 68: 9479-87, 2008
003. *Toyooka S, Takano T, Kosaka T, Hotta K, Matsuo K, Ichihara S, Fujiwara Y, Sob J, Otani H, Kiura K, Aoe K, Yatabe Y, Obe Y, Mitsudomi T, Date H* . Epidermal growth factor receptor mutation, but not sex and smoking, is independently associated with favorable prognosis of gefitinib-treated patients with lung adenocarcinoma. *Cancer Sci*, 99: 303-8, 2008
004. *Tatematsu A, Shimizu J, Murakami Y, Horio Y, Nakamura S, Hida T, Mitsudomi T, Yatabe Y* . Epidermal growth factor receptor mutations in small cell lung cancer. *Clin Cancer Res*, 14: 6092-6, 2008
005. *Sugiura H, Yamada K, Sugiura T, Hida T, Mitsudomi T* . Predictors of survival in patients with bone metastasis of lung cancer. *Clin Orthop Relat Res*, 466: 729-36, 2008
006. *Sakakura N, Mori S, Okuda K, Fukui T, Hatoaka S, Shinoda M, Matsuo K, Yatabe Y, Yokoi K, Mitsudomi T* . Subcategorization of lung cancer based on tumor size and degree of visceral pleural invasion. *Ann. Thorac. Surg*, 86: 1084-90, 2008
007. *Sakakura N, Mori S, Ishiguro F, Fukui T, Hatoaka S, Shinoda M, Yokoi K, Mitsudomi T* . Subcategorization of resectable non-small cell lung cancer involving neighboring structures. *Ann. Thorac. Surg*. 86: 1076-83;

008. **Okasaka T, Usami N, Mitsudomi T, Yatabe Y, Matsuo K, Yokoi K.** Stepwise examination for differential diagnosis of primary lung cancer and breast cancer relapse presenting as a solitary pulmonary nodule in patients after mastectomy. *J. Surg. Oncol.* 98: 510-4, 2008
009. **Matsuo K, Hiraki A, Ito H, Kosaka T, Suzuki T, Hirose K, Wakai K, Yatabe Y, Mitsudomi T, Tajima K.** Soy consumption reduces the risk of non-small-cell lung cancers with epidermal growth factor receptor mutations among Japanese. *Cancer Sci*, 99: 1202-8, 2008
010. **Kunitoh H, Kato H, Tsuboi M, Shibata T, Asamura H, Ichinose Y, Katakami N, Nagai K, Mitsudomi T, Matsumura A, Nakagawa K, Tada H, Saijo N.** Phase II trial of preoperative chemoradiotherapy followed by surgical resection in patients with superior sulcus non-small-cell lung cancers: report of Japan Clinical Oncology Group trial 9806. *J Clin Oncol*, 26: 644-9, 2008
011. **Kunitoh H, Kato H, Tsuboi M, Asamura H, Tada H, Nagai K, Mitsudomi T, Koike T, Nakagawa K, Ichinose Y, Okada M, Shibata T, Saijo N.** A randomised phase II trial of preoperative chemotherapy of cisplatin-docetaxel or docetaxel alone for clinical stage IB/II non-small-cell lung cancer results of a Japan Clinical Oncology Group trial (JCOG 0204). *Brit J Cancer*. 99: 852-7, 2008
012. **Kawaguchi K, Mori S, Usami N, Fukui T, Mitsudomi T, Yokoi K.** Preoperative evaluation of the depth of chest wall invasion and the extent of combined resections in lung cancer patients. *Lung Cancer*, 2008
013. **Fuwa N, Daimon T, Mitsudomi T, Yatabe Y, Kodaira T, Tachibana H, Nakamura T, Kato T, Sato Y.** Identifying patients with peripheral-type early non-small cell lung cancer (T1N0M0) for whom irradiation of the primary focus alone could lead to successful treatment. *Brit J Radiol*. 81: 815-20, 2008
014. **Fukui T, Mori S, Hatooka S, Shinoda M, Mitsudomi T.** Prognostic evaluation based on a new TNM staging system proposed by the International Association for the Study of Lung Cancer for resected non-small cell lung cancers. *J. Thorac. Cardiovasc. Surg.* 136: 1343-8, 2008
015. **Fukui T, Mitsudomi T.** Mutations in the epidermal growth factor receptor gene and effects of EGFR-tyrosine kinase inhibitors on lung cancers. *Gen. Thorac. Cardiovasc. Surg.* 56: 97-103, 2008
016. **Bell DW, Brannigan BW, Matsuo K, Finkelstein DM, Sordella R, Settleman J, Mitsudomi T, Haber DA.** Increased prevalence of EGFR-mutant lung cancer in women and in East Asian populations: analysis of estrogen-related polymorphisms. *Clin Cancer Res*, 14: 4079-84, 2008
017. **Onozato R, Kosaka T, Kuwano H, Sekido Y, Yatabe Y, Mitsudomi T.** Activation of MET by Gene Amplification or by Splice Mutations Deleting the Juxtamembrane Domain in Primary Resected Lung Cancers. *J Thorac Oncol*, 4, 5-11, 2009
018. **Suda K, Onozato R, Yatabe Y, Mitsudomi T.** EGFR T790M Mutation: A Double Role in Lung Cancer Cell Survival? *J Thorac Oncol*, 4, 1-4, 2009.
019. **高坂貴行, 小野里良一, 光富徹哉** : EGFR阻害剤耐性のメカニズム. *Annual Review 呼吸器* 東京: 中外医学社; 2008. p. 44-51.
020. **遠藤秀紀, 光富徹哉** : EGFR遺伝子変異とEGFR-TKI阻害剤の感受性. *呼吸器科*, 13: 246-50, 2008
021. **片山達也, 高坂貴行, 小野里良一, 光富徹哉** : EGFR-TKI (ゲフィチニブ, エルロチニブ) の基礎 —効果, 副作用規定因子—. *最新医学*, 63: 14-21, 2008
022. **清水淳市, 光富徹哉** : EGFRチロシンキナーゼ阻害薬の現状. *医学のあゆみ*, 224: 45-50, 2008
023. **浦本秀隆, 光富徹哉** : 非小細胞肺癌 Molecular predictive factorを用いた薬物治療の実用性は?. *EBM 呼吸器疾患の治療* 2008-2009: 386-90, 2008
024. **森正一, 光富徹哉** : 外科的手術 —今後の展望. *医学のあゆみ*, 224: 1069-73, 2008
025. **光富徹哉** : EGFR変異の生物学. *MOOK 肺がんの臨床* 2008-2009: 77-85, 2008
026. **波戸岡俊三, 篠田雅幸** : 肺損傷—特集 食道(癌)手術における術中トラブル対処法. *手術*, 62(7),917-923, 2008
027. **伊藤志門, 光富徹哉, 谷田部恭** : 画像診断Q&A: 胸部外科, 62, 404-8, 2009
028. **小野里良一, 須田健一, 高坂貴行, 光富徹哉** : METの増幅, 変異, 多型. *がん分子標的治療*, 7, 117-123, 2009
029. **須田健一, 小野里良一, 高坂貴行, 光富徹哉** : EGF受容体遺伝子変異を有する肺癌. *別冊日本臨床: 呼吸器症候群 (第2版) III—その他の呼吸器疾患を含めて*, 5-8, 2009.
030. **片山達也** : EGFRチロシンキナーゼ阻害剤 (ゲフィチニブ, エルロチニブ) の作用機序. *バイオ医薬の開発技術とシーズ* 2009
031. **石黒太志, 片山達也, 奥田勝裕, 坂倉範昭, 福井高幸, 波戸岡俊三, 篠田雅幸, 光富徹哉** : 非小細胞肺癌に対する術前化学療法施行症例の治療効果判定における腫瘍マーカー (CEA) の意義. *肺癌*, 48: 26-32, 2008

乳腺科部

- 001 **Toi M, Nakamura S, Kuroi K, Iwata H, Obno S, Masuda N, Kusama M, Yamazaki K, Hisamatsu K, Sato Y, Kashiwaba M, Kaise H, Kurosumi M, Tsuda H, Akiyama F, Ohashi Y, Takatsuka Y** : Phase II study of pre-operative sequential FEC and docetaxel predicts of pathological response and disease free survival. *Breast Cancer Research & Treatment*, 110, 篠原出版新社: (531-539), (2008)
- 002 **Matsushima S, Nishiofuku H, Iwata H, Era S, Inaba Y, Kinoshita Y** : Equivalent cross-relaxation rate imaging of axillary lymph nodes in breast cancer. *J. Magn. Reson. Imaging*, 27, 日本放射線技術学会雑誌: (1278-1283), (2008)
- 003 **Hayashi H, Kimura M, Yoshimoto M, Ibuzuki N, Tsunoda N, Fujita T, Yamashita T, Iwata H** : A case of HER2-positive male breast cancer with lung metastases showing a good response to trastuzumab and paclitaxel treatment. *Breast Cancer*, 16

- (No.2),informa: (136-140), (2009)
- 004 岩田広治: がん分子標的治療の最先端: 抗HER2抗体療法 - 乳癌の現状と将来展望. 医学のあゆみ, 224 (1), 医歯薬出版株式会社: (5-10), (2008)
- 005 岩田広治: 国際共同臨床試験の現状と課題3) 乳がん. 腫瘍内科, 2 (3), 科学評論社: (205-211), (2008)
- 006 岩田広治: 乳がんに対する術前ホルモン療法の新潮流. Mebio, 26, メジカルビュー社: (6-12), (2008)
- 007 角田伸行, 岩田広治: 乳癌診療における血中遊離癌細胞 (CTC:Circulating Tumor Cell)測定の意義. 乳癌の臨床, 23 (5), 篠原出版新社: (385-392), (2008)
- 008 山下年成, 岩田広治: 転移・再発乳癌の治療 (分子標的薬). FOCUS on ONCOLOGY, 9, Yakult, (10-11), (2008)
- 009 山下年成: リンパ浮腫はどうして起こるのでしょうか? 乳がん. イラストでみるリンパ浮腫の予防と治療, へるす出版: (21-24), (2009)
- 010 山下年成, 岩田広治: 再発乳癌に対するカペシタビン単剤療法vsドセタキセルとの併用療法-ドセタキセルとの併用療法を推奨する立場から. CANCER BOARD 乳癌, 2 (No.1), メディカルレビュー社: (50-55), (2009)
- 011 林 裕倫, 堀尾章代, 波戸ゆかり, 藤田崇史, 安藤由明, 山下年成, 岩田広治: 乳癌術後Leukoerythroblastosisを契機に骨髓癌症の診断に至った2症例. 乳癌の臨床, 24 (2), 篠原出版新社: (245-249), (2009)
- 012 林 裕倫, 岩田広治: ホルモン治療の現状と展望. Pharma Medica, 27 (No.2), メディカルレビュー社: (41-45), (2009)

消化器外科部

[原著]

- 001 *Shimizu Y, Yasui K, Sano T, Hirai T, Kanemitsu Y, Komori K, Kato K*: Validity of observation interval for synchronous hepatic metastases of colorectal cancer: changes in hepatic and extrahepatic metastatic foci. *Langenbecks Arch Surg* 393, 181-184, 2008.
- 002 *Gao W, Kondo Y, Shen L, Shimizu Y, Sano T, Yamao K, Natsume A, Goto Y, Ito M, Murakami H, Osada H, Zhang J, Jean-Pierre J. Issa, Sekido Y*: Variable DNA methylation patterns associated with progression of disease in hepatocellular carcinomas. *Carcinogenesis*, 29, 1901-1910, 2008.
- 003 *Yamao K, Bhatia V, Mizuno N, Sawaki A, Isbikawa H, Tajika M, Hoki N, Shimizu Y, Ashida R, Fukami N, Bhatia V, Mizuno N, Sawaki A, Isbikawa H, Tajika M, Hoki N, Shimizu Y, Ashida R, Fukami N*: EUS-guided choledochoduodenostomy for palliative biliary drainage in patients with malignant biliary obstruction: results of long-term follow-up. *Endoscopy* 40, 340-342, 2008.
- 004 *Kanemitsu Y, Kato T*: Prognostic models for predicting death after hepatectomy in individuals with hepatic metastases from colorectal cancer. *World Journal of Surgery* 32(6),1097-1107, 2008.
- 005 *Sawaki A, Kanemitsu Y, Mizuno N, Takahashi K, Nakamura T, Ioka T, Tanaka S, Nakaizumi A, Salem AA, Ueda R, Yamao K*: Practical prognostic index for patients with metastatic pancreatic cancer treated with gemcitabine. *J Gastroenterol Hepatol* 23(8), 1292-7, 2008
- 006 *Sano T, Shimada K, Nara S, Sakamoto Y, Kosuge T*: Reconstruction of hepatic venous tributaries using a Y-shaped left portal vein graft harvested from a resected left liver. *Hepato-Gastroenterology* 55, 228-230, 2008.
- 007 *Sano T, Shimada K, Sakamoto Y, Ojima H, Esaki M, Kosuge T*: Prognosis of perihilar cholangiocarcinoma; hilar bile duct cancer versus intrahepatic cholangiocarcinoma involving the hepatic hilus.. *Ann Surg Oncol* 15, 590-599, 2008.
- 008 *Sano T, Shimada K, Nara S, Esaki M, Sakamoto Y, Kosuge T*: Hepatobiliary resection with inferior vena cava resection and reconstruction using an autologous patch graft for intrahepatic cholangiocarcinoma.. *Langenbeck's Arch Surg* 393, 599-603, 2008.
- 009 *Nara S, Sano T, Ikeda M, Morizane C, Esaki M, Sakamoto Y, Shimada K, Kosuge T*: Liver cryptococcosis presenting with obstructive jaundice in an immunocompetent young male: Report of a Case. *Surg Today*, 38, 271-274, 2008.
- 010 *Tsuboi K, Kadera Y, Nakanishi H, Ito S, Mochizuki Y, Nakayama G, Koike M, Fujiwara M, Yamamura Y, Nakao A*: Expression of CXCL12 and CXCR4 in pT3-stage gastric cancer does not correlate with peritoneal metastasis. *Oncol Rep.* 20,1117-1123, 2008.
- 011 *Kodera Y, Ito S, Mochizuki Y, Yamamura Y, Misawa K, Obashi N, Nakayama G, Koike M, Fujiwara M, Nakao A*: The number of metastatic lymph nodes is a significant risk factor for bone metastasis and poor outcome after surgery for linitis plastica-type gastric carcinoma. *World J Surg* 32, 2015-2020, 2008.
- 012 *Hara M, Kanemitsu Y, Hirai T, Komori K, Kato T*: Negative serum carcinoembryonic antigen has insufficient accuracy for excluding recurrence from patients with Dukes C colorectal cancer: analysis with likelihood ratio and posttest probability in a follow-up study. *Dis Colon Rectum* 51(11): 1675-80, 2008.
- 013 *Yamao K, Bhatia V, Mizuno N, Sawaki A, Shimizu Y, Irisawa A*: Interventional endoscopic ultrasonography. *J Gastroenterol Hepatol* 24, 4-, 2009.
- 014 *Ojima H, Kanai Y, Iwasaki M, Hiraoka N, Shimada K, Sano T, Sakamoto Y, Esaki M, Kosuge T, Sakamoto M, Hirohashi S*: Intraductal carcinoma component as a favorable prognostic factor in biliary tract carcinoma. *Cancer Sci* 100 62-70, 2009.
- 015 *Nara S, Onaya H, Hiraoka N, Shimada K, Sano T, Sakamoto Y, Esaki M, Kosuge T*: Preoperative evaluation of invasive and non-invasive intraductal papillary-mucinous neoplasms of the pancreas: clinical, radiological, and pathological analysis of 123 cases. *Pancreas*38, 8-15, 2009.
- 016 山雄健次、水野伸匡、澤木 明、清水泰博、Ckenneth J

Chang、水野伸匡、澤木 明、Kenneth J Chang：膵癌のリスクファクターと早期診断法。日本消化器病学会誌,105(8),8-15,2008.

- 017 山村義孝、伊藤誠二、三澤一成、中村一郎：【胃手術における術中トラブル その対処法と予防策】胃の静脈系（とくに、左胃静脈、脾静脈、門脈）の損傷に対する対処法とその予防策。手術62(10), 1369-1374, 2008.
- 018 平井 孝：直腸癌D2, D3郭清の要点。コンセンサス癌治療,47(7),76-79,2008.
- 019 平井 孝、加藤知行：骨盤内手術—出血防止の工夫と出血時の対応—。日本外科学会雑誌, 109, 232-236, 2008.
- 020 望月能成、伊藤誠二、小寺泰弘、三澤一成、山村義孝：【根治切除不能胃癌に対する治療戦略 外科的治療の意義とタイミング】腹膜転移陽性スキルス胃癌に対する非切除方針の妥当性の検討。がんの臨床54 (11), 911-915, 2008.
- 021 森 正一、平井 孝：肺切除の適応と術式。外科,70,854-859,2008.
- 022 平井 孝、金光幸秀、小森康司、加藤知行：大腸癌の遠隔及び再発リンパ節転移の治療方針。大腸癌フロンティア,1,301-305,2008.
- 023 山雄健次、水野伸匡、澤木 明、高木忠之、原 和夫、澤井勇悟、佐野 力、清水泰博：IPMNの手術適応—内科側から。肝胆脾, 56, 873-878, 2008.
- 024 伊藤誠二、望月能成、山村義孝、小寺泰弘：【胃癌 基礎・臨床研究のアップデート】治療 現状・動向・評価 各論 胃癌治療法 現状・動向・評価 併用療法 Taxane系の療法 Weekly paclitaxel療法。日本臨床学会雑誌,66(5),405-408,2008.
- 025 金光幸秀、平井 孝、小森康司、加藤知行：大腸癌局所再発に対する治療—直腸癌。大腸疾患Now 2009, 105-115, 2009.

[総説]

- 001 平井 孝、加藤知行、金光幸秀：大腸癌血行性転移の治療-肝・肺転移-。大腸癌フロンティア,1,34-37,2008.
- 002 伊藤誠二、笹子三津留：Upper G.I.Cancer食道・胃癌 胃癌 胃癌術後補助療法の新たな展開。癌と化学療法,35,1501-1511.

[症例報告]

- 001 伊藤聡子、水野伸匡、澤木 明、伯耆徳之、高木忠之、清水泰博、山雄健次：IPMNの長期経過観察。消化器科,46,341-345,2008.
- 002 安藤公隆、清水泰博、佐野 力、千田嘉毅、二村雄次、山雄健次：画像所見上2年間の経過が観察できた胆管内発育型肝内胆管癌の1例。胆道癌診療の最前線,762-2008.
- 003 武藤俊博、清水泰博、佐野 力、水野伸匡、山雄健次、二村雄次、清水泰博、佐野 力、水野伸匡、山雄健次、二村雄次：Osler-Weber-Rendu病に合併した臍動静脈奇形の1例。日本消化器病学会誌,105,719-724,2008.
- 004 高山玲子、山雄健次、原 和生、澤木 明、伯耆徳之、高木忠之、武田洋平、重川 稔、清水泰博、佐野 力、細田

和貴、谷田部恭、山雄健次、原 和生、澤木 明、伯耆徳之、高木忠之、武田洋平、重川 稔、清水泰博、佐野 力、細田和貴、谷田部恭：経口電子胆道鏡が診断に有用であった胆管コレステローシスを伴う早期胆管癌の1例。胆道,22,191-197,2008.

- 005 武田洋平、澤木 明、石川英樹、伯耆徳之、高木忠之、高山玲子、重川 稔、清水泰博、谷田部 恭、山雄健次、澤木 明、石川英樹、伯耆徳之、高木忠之、高山玲子、重川 稔、清水泰博、谷田部恭、山雄健次：膵胆管合流異常を合併した胆嚢管癌の1例。胆道,22,570-575,2008.
- 006 安 炳九、望月能成、伊藤誠二、谷田部恭、山村義孝、加藤知行：手術既往無く腸間膜および大網に発生した多発性腹腔内デスマイト腫瘍の1切除例。日本臨床外科学会誌,69,461-465,2008.
- 007 武藤俊博、清水泰博、細田和貴、佐野 力、水野伸匡、谷田部恭、山雄健次、柳澤昭夫：IPMN由来浸潤癌とIPMNに並存した通常型膵癌との鑑別に苦慮した1切除例—遺伝子学的検索の導入—。膵臓,24(2),147-154,2009.
- 008 齋藤卓也、佐野 力、清水泰博、安藤公隆、千田嘉毅、佐々木英一、谷田部恭、二村雄次：門脈内腫瘍栓と胆管内腫瘍栓を伴った大腸癌肝転移に傍胆管リンパ節転移を認めた1切除例。日消外会誌,42(3),293-298,2009.

[分担執筆]

- 001 清水泰博、二村雄次：門脈枝結紮と肝ミトコンドリア機能。胆道外科の要点と盲点 第2版,250-2009.
- 002 佐野 力：腫瘍外科の基本手技 V.肝・胆・脾 5.術後合併症・トラブル対策。腫瘍外科の基本手技,197-201,2008.
- 003 平井 孝、金光幸秀、小森康司：骨盤内臓全摘術。直腸・肛門外科手術,(0)渡邊昌彦,メジカルビュー,東京,166-181,2009.
- 004 清水泰博、二村雄次：PPPDにおける右胃動脈温存の術式と意義。胆道外科の要点と盲点 第2版,二村雄次,文光堂,東京,283-2009.

整形外科部

- 001 Sugiura H, Yamada K, Sugiura T, Hida Y, Mitsudomi T: Predictors of Survival in Patients With Bone Metastasis of Lung Cancer. Clin Orthop Relat Res, 466:729-736, 2008.
- 002 Tsukushi S, Nishida Y, Sugiura H, Nakashima H, Ishiguro N: Results of Limb-Salvage Surgery With Vascular Reconstruction For Soft Tissue Sarcoma in the Lower Extremity: Comparison Between Only Arterial and Arterovenous Reconstruction. Journal of Surgical Oncology, 97:216-220,2008.
- 003 Yamada K, Yatabe Y, Sugiura H: Osteosarcoma with skeletal muscle metastasis. Arch Orthop Trauma Surg, 128: 695-699, 2008.
- 004 小澤英史、杉浦英志、山田健志、北村淳子、谷田部恭：比較的大きな腫瘍を形成した手部発生骨外性軟骨腫の1例。整形・災害外科, 51(1):111-115,2008.

- 005 杉浦英志、山田健志、小澤英史、立松明子、谷田部恭、大友克之：右脛骨骨腫瘍の1例。東海骨軟部腫瘍、20:11-12,2008.
- 006 小澤英史、杉浦英志、山田健志、細田和貴、谷田部恭：左手掌軟部肉腫の1例。東海骨軟部腫瘍、20:31-32,2008.
- 007 西田佳弘、山田芳久、中島浩教、杉浦英志、筑紫聡、石黒直樹：上腕・前腕発生軟部肉腫に対する治療成績。別冊整形外科、54:222-225,2008.

泌尿器科部

- 001 Kanai M, Ishii K, Kanda H, Ogura Y, Kise H, Arima K. and Sugimura Y : Improvement to predict tumorigenic phenotype of androgen-insensitive human LNCaP prostatic cancer cell subline in recombination with rat urogenital sinus mesenchyme. Cancer Science 99(12) : 2435~2443, 2008.
- 002 Kanda H, Ishii K, Ogura Y, Imamura T, Kanai M, Arima K. and Sugimura Y : Naftopidil a selective α -1 adrenoceptor antagonist, inhibits growth of human prostate cancer cells by G1 cell cycle arrest. Int J Cancer 122 : 444-451, 2008.
- 003 平林 淳、小倉友二、脇田利明、林 宣男：腎Solitary fibrous tumorの1例。泌尿器紀要、2008:54(3):357-359。
- 004 山田泰司、田丸裕巳、加藤 学、西川昇平、長谷川嘉弘、曾我倫久人、木瀬英明、有馬公伸、杉村芳樹：鼻腔転移を契機に発見された腎細胞癌の1例。西日本泌尿器科 70(6) : 322-324, 2008。

婦人科部

- 001 Katsumata N, Fujiwara Y, Kamura T, Nakanishi T, Hatae M, Aoki D, Tanaka K, Tsuda H, Kamiura S, Takebara K, Sugiyama T, Kigawa J, Fujiwara K, Ochiai K, Ishida R, Inagaki M, Noda K : Phase II clinical trial of pegylated liposomal doxorubicin (JNS002) in Japanese patients with mullerian carcinoma (epithelial ovarian carcinoma, primary carcinoma of fallopian tube, peritoneal carcinoma) having a therapeutic history of platinum-based chemotherapy: a Phase II Study of the Japanese Gynecologic Oncology Group. Jpn J Clin Oncol, 38(11):777-85, 2008.
- 002 Hosono S, Matsuo K, Kajiyama H, Hirose K, Suzuki T, Hiraki A, Kawase T, Kidokoro K, Nakanishi T, Hamajima N, Kikkawa F, Tajima K, Tanaka H : Reduced risk of endometrial cancer from alcohol drinking in Japanese. Cancer Sci, 99(6):1195-201, 2008.
- 003 中西 透：【婦人科がん 最新情報】婦人科がん化学療法にエリスロポエチンは有用か？産科と婦人科、75(12)1799-1804, 2008.
- 004 中西 透：【産婦人科臨床の難題を解く 私はこうしている】婦人科癌治療 【子宮頸癌】子宮頸癌における円錐切除の限界は？臨床婦人科産科、62(4)545-549, 2008.
- 005 中西 透：子宮頸部腺系病変の診断と治療 子宮頸部腺癌

の当院での治療経験と成績。日本婦人科腫瘍学会雑誌、27(1) : 42-46, 2008.

- 006 伊藤則雄、中西 透、牧野 弘、吉田憲生、水野美香：子宮頸癌 FIGO IB 2期の検討。東海産科婦人科学会雑誌、45 : 135-140, 2008.

麻酔科部

[原著]

- 001 Nakada J, Nagai S, Nishira M, Hosoda R, Matsura T, Inagaki Y. : Sealing of a tracheo-esophageal fistula using a Sengstaken-Blakemore tube for mechanical ventilation during general anesthesia. Anesth Analg. 106:1218-1219, 2008.

[誌上発表]

- 002 渡辺 正、安藤雄一、北折健次郎、近藤 健、細田蓮子、丸山文夫：今後の緩和ケアのあり方と医療用麻薬の適正な使用拡大を実現するためには。PROGRESS In MEDICINE 28:2689-2695, 2008.

放射線診断・IVR部

- 001 Iguchi T, Arai Y, Inaba Y, Yamaura H, Sato Y, Miyazaki M, Shimamoto H : Hepatic arterial infusion chemotherapy through a port-catheter system as preoperative initial therapy in patients with advanced liver dysfunction due to synchronous and unresectable liver metastases from colorectal cancer. Cardiovasc Intervent Radiol. 2008 ; 31 : 86-90
- 002 Matsubima S, Nishiofuku H, Iwata H, Era S, Inaba Y, Kinoshita Y : Equivalent cross-relaxation rate imaging of axillary lymph nodes in breast cancer. J Magn Reson Imaging 2008 ; 27 : 1278-83
- 003 Tabara M, Shirao K, Boku N, Yamaguchi K, Inaba Y, Arai T, Mizunuma N, Satoh T, Takiuchi H, Nishina T, Sakata Y : Multi-center Phase II Study of cetuximab plus irinotecan in metastatic colorectal carcinoma refractory to irinotecan, oxaliplatin and fluoropyrimidines. Jpn J Clin Oncol 2008 Nov;38(11):762-9. Epub 2008 Oct 4
- 004 稲葉吉隆、山浦秀和、佐藤洋造、名嶋弥菜：皮下埋め込み型中心静脈リザーバー（CVポート）の造設方法と合併症対策。看護技術、メヂカルフレンド社、Vol.54 No.4 348-351 2008
- 005 荒井保明、森田莊二郎、竹内義人、稲葉吉隆、新禎剛：中心静脈ポートの使い方（安全挿入・留置・管理のために）。南江堂、2008
- 006 佐藤洋造、稲葉吉隆、山浦秀和、名嶋弥菜：血管造影の役割。Cancer Treatment Navigator, メディカルレビュー社、64-65 2008
- 007 佐藤洋造、稲葉吉隆、山浦秀和、名嶋弥菜、友澤裕樹、坂根 誠、西尾龍太：肝術後難治性腹水に対しTIPSを施行した1例。IVR会誌、メディカル教育研究社、Vol. 24 6-7

2009

- 008 稲葉吉隆, 山浦秀和, 佐藤洋造, 名嶋弥菜, 金本高明, 友澤裕樹, 坂根 誠: 体腔内液体貯留に対する経皮的ドレナージ. IVR会誌, メディカル教育研究社, Vol.24 別刷 61-65 2009
- 009 名嶋弥菜: ウォーターフォールプロット解析. 腫瘍内科, 科学評論社, Vol.3 No.1 111-116 2009

放射線治療部

[原著]

- 001 *Toita T, Kodaira T, Shinoda A, Uno T, Akino Y, Mitsumori M, Teshima T*: Patterns of Radiotherapy Practice for Patients with Cervical Cancer (1999-2001) Patterns of Care Study in Japan. *Int J Radiat Oncol Biol Phys*, 70(3)788-94, 2008.
- 002 *Toita T, Kodaira T, Uno T, Shinoda A, Akino Y, Mitsumori M, Teshima T*: Patterns of Pretreatment Diagnostic Assessment and Staging for Patients with Cervical Cancer (1999-2001) Patterns of Care Study in Japan. *Jpn J Clin Oncol*, 38:26-30, 2008.
- 003 *Fuwa N, Kodaira T, Furutani K, Tachibana H, Nakamura T, Nakahara R, Tomoda T, Inokuchi H, Daimon T*: Intra-arterial chemoradiotherapy for locally advanced oral cavity cancer: analysis of therapeutic results in 134 cases. *Br J Cancer* 98(6) 1039-45, 2008
- 004 *Fuwa N, Kodaira T, Furutani K, Tachibana H, Nakamura T*: A new method of selective intra-arterial infusion therapy via the superficial temporal artery for head and neck cancer. *Oral Surg Oral Med Oral Pathol Oral Radiol Endod*, 105(6)783-9, 2008.
- 005 *Nakamura K, Kodaira T, Shikama N, Kagami Y, Ishikura S, Shibata T, Hiraoka M*: Accelerated Fractionation versus Conventional Fractionation Radiation Therapy for Glottic Cancer of T1-2N0M0 Phase III Study. Japan Clinical Oncology Group Study (JCOG 0701) *Jpn J of Clin Oncol*, 38(5) 387-9, 2008.
- 006 *Fuwa N, Kodaira T, Furutani K, Tachibana H, Nakamura T, Nakahara R, Tomoda T, Inokuchi H, Daimon T*: Arterial chemoradiotherapy for locally advanced tongue cancer: analysis of retrospective study of therapeutic results in 88 patients. *Int J Radiat Oncol Biol Phys*, 72(4)1090-1100, 2008.
- 007 *Fuwa N, Kodaira T, Furutani K, Tachibana H, Nakamura T*: Treatment results of continuous intra-arterial CBDCA infusion chemotherapy in combination with radiation therapy for locally advanced tongue cancer. *Oral Surgery, Oral Medicine, Oral Pathology, Oral Radiology, and Endodontology*, 105(6) 714-9, 2008
- 008 *Fuwa N, Suzuki M, Sakurai Y, Nagata K, Kinashi Y, Masunaga S, Maruhashi A, Imahori Y, Kodaira T, Tachibana H, Nakamura T, Ono K*: Treatment results of boron neutron capture therapy (BNCT) using intra-arterial administration of boron compounds for recurrent head and neck cancer. *Br J Radiol*, 1(969)749-52, 2008.
- 009 *Fuwa N, Daimon T, Mitsudomi T, Yatabe Y, Kodaira T, Tachibana H, Nakamura T, Kato T, Sato Y* Identifying patients with peripheral-type early non-small cell lung cancer (T1N0M0) for whom irradiation of the primary focus alone could lead to successful treatment. *Br J Radiol*, 81 (970) 815-20, 2008.
- 010 *Fuwa N, Kodaira T, Tachibana H, Nakamura T, Tomita N, Daimon T*: Long term observation of 64 patients with roentgenographically occult lung cancer treated with external irradiation and intraluminal irradiation using low-dose-rate iridium. *Jpn J of Clin Oncol*, 38(9) 581-8, 2008.
- 011 *Nakamura T, Kodaira T, Tachibana H, Tomita N, Tomoda T, Nakahara R, Inokuchi H, Mizoguchi N, Takada A, Fuwa N*: Chemoradiotherapy for Locally Recurrent Nasopharyngeal Carcinoma Treatment Outcome and Prognostic Factors. *Jpn J of Clin Oncol*, 38(12)803-9, 2008.
- 012 *Tomita N, Kodaira T, Tachibana H, Nakamura T, Nakahara R, Inokuchi H, Shibamoto Y*. Helical tomotherapy for brain metastases: dosimetric evaluation of treatment plans and early clinical results. *Technol Cancer Res Treat* 7 (6) 417 - 24, 2008.
- 013 *Mizumoto M, Harada H, Asakura H, Hashimoto T, Furutani K, Hashii H, Takagi T, Katagiri H, Takahashi M, Nishimura T*: Prognostic factors and a scoring system for survival after radiotherapy for metastases to the spinal column: a review of 544 patients at Shizuoka Cancer Center Hospital. *Cancer*. 15;113(10)2816-22, 2008.
- 014 *Ariji Y, Fuwa N, Kodaira T, Tachibana H, Nakamura T, Satoh Y, Ariji E*: False-positive positron emission tomography appearance with 18F-fluorodeoxyglucose after definitive radiotherapy for cancer of the mobile tongue. *Br J Radiol*, 82 (973) e3-7, 2009.
- 015 *Tomita N, Kodaira T, Tachibana H, Nakamura T, Mizoguchi N, Takada A*: Favorable outcomes of radiotherapy for early-stage mucosa-associated lymphoid tissue lymphoma. *Radiation Oncol*, 90(2) 231-235, 2009.
- 016 *Nakamura T, Hatoooka S, Kodaira T, Tachibana H, Tomita N, Nakahara R, Inokuchi H, Mizoguchi N, Takada A, Shinoda M, Fuwa N*: Determination of the Irradiation Field for Clinical T1-T3N0M0 Thoracic/Abdominal Esophageal Cancer Based on the Postoperative Pathological Results. *Jpn J of Clin Oncol*, 39(2)86-91, 2009.
- 017 *Kodaira T, Fuwa N, Nakanishi T, Tachibana H, Nakamura T, Tomita N, Nakahara R, Inokuchi H*: Prospective study of alternating chemoradiotherapy consisted of extended-field dynamic conformal radiotherapy and systemic chemotherapy using 5FU and Nedaplatin for patients with high-risk group of cervical carcinoma. *International Journal of Radiation Oncology, Biology, Physics*, 73 (1)251-258, 2009.
- 018 *Kodaira T, Tomita N, Tachibana H, Nakamura T, Nakahara R, Inokuchi H, Fuwa N*: Aichi Cancer Center initial experience of intensity modulated radiation therapy for nasopharyngeal cancer using helical tomotherapy. *International Journal of Radiation Oncology, Biology, Physics*, 73 (4)1135-1140, 2009.
- 019 古平 毅: 画像情報利用した高精度の放射線治療. 切らない癌治療 東海最先端ガイド 1章がんの放射線治療最前線

トモセラピー.中日新聞社,95-101,2008.

- 020 古平 毅：新時代の高精度治療装置 トモセラピー.病院設備,50(1):60-67,2008.
- 021 古平 毅：低侵襲化をめざした放射線治療の現況と展望「放射線化学療法」.Biotherapy, 22 (3) :166-175,2008.
- 022 古平 毅：質疑応答 前立腺癌のトモセラピーの適応.週間日本医事新報,4393:94-95, 2008.
- 023 古平 毅：頭頸部の診断と治療update 1.総論 化学療法との併用.臨床放射線,53(11):1570—1577,2008.
- 024 古平 毅：シンポジウム 化学放射線療法の適応 同時化学放射線療法 頭頸部がんに対する同時化学放射線療法の現状と問題点.頭頸部癌,34(3): 249-253, 2008.
- 025 古平 毅：特集いまさら聞けない!? 放射線治療のQ&A IMRTて何?どんな装置があればできるの?何に使うの?全部IMRTにしないの?保険点数は?トモセラピーって新しい治療? .Rad Fan, 6(11): 66-68,2008.
- 026 古平 毅、不破 信和：特集 注目される放射線治療の課題と展望 トモセラピーによる前立腺癌強度変調放射線治療—他の機器との比較を含め—新医療, 35(12):71-74,2008.
- 027 立花弘之、不破信和、古平 毅、中村達也、佐藤義高、供田卓也、中原理絵、井口治男、久保田隆志、清水秀年：前立腺癌の放射線治療におけるフラクシオン間の前立腺移動に関するMVCTを用いた検討.臨床放射線,53 (2) : 329-334,2008.
- 028 田近正洋、中村常哉、河合宏紀、波戸岡俊三、篠田雅幸、古平 毅：特集I 進行食道癌に対する治療法の選択 c-Stage II/III胸部食道癌に対する手術療法と化学放射線療法の比較検討.消化器科,46(5): 499-505, 2008.
- 029 長谷川泰久、兵藤伊久夫、岡部光邦、寺田聡広、古平 毅、谷田部恭：耳下腺悪性腫瘍の検討.頭頸部癌 34(3):360-364, 2008.
- 030 原田英幸、西村哲夫、永田 晋、古谷和久、朝倉浩文、橋本孝之、水本齊志、高橋 満、片桐浩久、高木辰哉、村田秀樹：転移性脊椎腫瘍のIMRTによる再照射の初期経験.臨床放射線,53(12):1739-1745,2008.
- 031 藤 浩、石田裕二、村山重行、山下晴男、橋本孝之、原田英幸、朝倉浩文、古谷和久、西村哲夫：小児腫瘍に対する陽子線治療の実現可能性評価.日本放射線腫瘍学会誌, 20(4):143-149,2008.

緩和ケア部

- 001 小森康永：緩和医療におけるナラティヴ・セラピー、緩和医療学10(1):43-48, 2008
- 002 小森康永：緩和時間、私の考える精神腫瘍学、こころの健康、(10):1-11, 2008
- 003 小森康永：書評『喪失と悲嘆の心理療法』、臨床心理学 8(1):163-4, 2008
- 004 小森康永：書評『ナラティヴ・セラピーの理論と応用』、家族療法研究25(2):200-201, 2008
- 005 小森康永：Review of Books abroad, “Yalom: Staring at the

sun”, 精神療法、34(5):629-630, 2008

- 006 小森康永：計報『マイケル、雲を抜ける』、家族療法研究 25(2):205-206, 2008
- 007 小森康永：書評『太陽を見つめて』、JPOSニューズレター、No.53, 2008
- 00 小森康永：チョチノフ教授、医療に携わる専門家としての心得を語る、JPOSニューズレター、No.54, 2008
- 009 小森康永：書評『ウィリアム・カーロス・ウィリアムズ自叙伝』、JPOSニューズレター、No.55, 2008
- 010 小森康永：デイグニティ・セラピーという物語、伊藤義美編『ヒューマニスティック・サイコセラピー・ケースブック2』ナカニシヤ出版、2008 所収 小森康永：ナラティヴ 実践再訪、金剛出版、2008

看護部

[雑誌投稿]

- 001 山田佳代子：リフレッシュ研修・フォロー研修プログラム. 日総研, 看護人材教育 実践力を高める!シミュレーション教育2008-2009 12月・1月号 P64-70, 2008年・2009年
- 002 川瀬洋子：現場で出会った方とのスピリチュアルケア. 南江堂, がん看護 第13巻第4号(通巻73号), 13: 458-13: 460, 2008年
- 003 新貝夫弥子：チームで行うがん化学療法「婦人科がん化学療法の看護」. 日本看護協会, ナーシングトゥデイ10月臨時増刊号, 147-152, 2008年
- 004 新貝夫弥子：FEC療法とDOC療法併用による術前化学療法を受ける乳がん患者の栄養状態の変化. 日本がん看護学会, 日本がん看護学会誌22 (1), 43-54, 2008年
- 005 新貝夫弥子：がん化学療法・バイオセラピー. 医学書院, 看護実践ガイドライン「二次性悪性腫瘍」, 290-298, 2009年
- 006 久保 知：放射線治療の看護. メディカ出版, ポケットブック p30頁分, 2009年

6. 学会誌・その他誌上発表テーマ調べ (研究所)

所長室

- 001 *Suzuki T, Matsuo K, Hirose K, Hiraki A, Kawase T, Watanabe M, Yamashita T, Iwata H, Tajima K*: One-carbon metabolism-related gene polymorphisms and risk of breast cancer. *Carcinogenesis*, 29: 356-362, 2008.
- 002 *Suzuki T, Matsuo K, Tsunoda N, Hirose K, Hiraki A, Kawase T, Yamashita T, Iwata H, Tanaka H, Tajima K*: Effect of soybean on breast cancer according to receptor status: a case-control study in Japan. *Int J Cancer*, 123: 1674-1680, 2008.
- 003 *Gao CM, Takezaki T, Wu JZ, Chang XM, Cao HC, Ding JH, Liu YT, Li SP, Cao J, Matsuo K, Hamajima N, Tajima K*: Polymorphisms of alcohol dehydrogenase 2 and aldehyde dehydrogenase 2 and colorectal cancer risk in Chinese males. *WJ Gastroenterol*, 14: 5078-5083, 2008.
- 004 田島和雄: がんの一次予防と二次予防. *最新医学*, 63(6): 76-84, 2008
- 005 田島和雄: 生活習慣病のゲノム疫学 —がんのリスク評価とオーダーメイド予防—. *現代医学*, 56(1): 43-50, 2008.
- 006 田島和雄: がんと糖尿病. *さかえ*, 48(10): 10-15, 2008.
- 007 田島和雄: がん看護領域における疫学・予防の基本情報. *日本がん看護学会誌*, 22(2): 63-70, 2008.
- 008 宮崎 滋、渥美義仁、川村 功、田島和雄: がん —肥満・糖尿病との関係. *肥満と糖尿病*, 8 (3) : 320-332, 2009.
- 009 広瀬かおる、田島和雄: 肥満と乳がんの関係は? 肥満と乳がんの関係について教えて下さい. *8(3):342-344*, 2009.

疫学・予防部

- 001 *Furue H, Kumimoto H, Matsuo K, Suzuki T, Hasegawa Y, Shinoda M, Mitsudo K, Tobnai I, Ueda M, Tajima K, Ishizaki K*: Opposite impact of NKG2D genotype by lifestyle exposure to risk of aerodigestive tract cancer among Japanese. *Int J Cancer*, 123(1): 181-186, 2008.
- 002 *Matsuo K, Hiraki A, Ito H, Kosaka T, Suzuki T, Kaoru H, Wakai K, Yatabe Y, Mitsudomi T, Tajima K*: Soy consumption reduces the risk of non-small-cell lung cancers with Epidermal Growth Factor Receptor (EGFR) mutations among Japanese. *Cancer Sci*, 99(6): 1202-1208, 2008.
- 003 *Hosono S, Matsuo K, Kajiyama H, Hirose K, Suzuki T, Hiraki A, Kawase T, Kidokoro K, Nakanishi T, Nobuyuki H, Kikkawa F, Tajima K, Tanaka H*: Reduced risk of endometrial cancer by alcohol drinking in Japanese. *Cancer Sci*, 99(6): 1195-1201, 2008.
- 004 *Suzuki T, Matsuo K, Tsunoda N, Hirose K, Hiraki A, Kawase T, Yamashita T, Iwata H, Tanaka H, Tajima K*: Effect of soybean on breast cancer according to receptor status: a case-control study

in Japan. *Int J Cancer*, 123(7): 1674-1680, 2008.

- 005 *Suzuki T, Matsuo K, Hirose K, Hiraki A, Kawase T, Watanabe M, Yamashita T, Iwata H, Tajima K*: One-carbon metabolism-related gene polymorphisms and risk of breast cancer. *Carcinogenesis*, 29: 356-362, 2008.
- 006 *Yanada, M., Takeuchi, J., Sugimura, I., Akiyama, H., Usui, N., Yagasaki, F., Nishii, K., Ueda, Y., Takeuchi, M., Miyawaki, S., Maruta, A., Narimatsu, H., Miyazaki, Y., Obtake, S., Jimnai, I., Matsuo, K., Naoe, T., Obno, R.*: Karyotype at diagnosis is the major prognostic factor predicting relapse-free survival for patients with Philadelphia chromosome-positive acute lymphoblastic leukemia treated with imatinib-combined chemotherapy. *Haematologica*, 93 : 287-290, 2008.
- 007 *Yabe, T., Matsuo, K., Hirayasu, K., Kasbiwase, K., Kawamura-Isbii, S., Tanaka, H., Ogawa, A., Takanashi, M., Satake, M., Nakajima, K., Tokunaga, K., Inoko, H., Saji, H., Ogawa, S., Fuji, T., Sasazaki, T., Kodera, Y., Morishima, Y.*: Donor activating killer immunoglobulin-like receptor (KIR) genotype and the prophylactic ATG pre-administration are the critical factors for the adverse effect of the HLA-C-KIR ligand mismatch on acute graft-versus host disease (aGVHD) in unrelated T cell-replete HLA-A,-B,-DR-matched bone marrow transplantation. *Biol Blood Marrow Tr*, 14: 75-87, 2008.
- 008 *Willett, E. V., Morton, L. M., Hartge, P., Becker, N., Bernstein, L., Boffetta, P., Bracci, P., Cerhan, J., Chiu, B. C., Cocco, P., Dal Maso, L., Davis, S., De Sanjose, S., Ekstrom-Smedby, K., Ennmas, M. G., Foretova, L., Holly, E. A., La Vecchia, C., Matsuo, K., Maynadie, M., Melbye, M., Negri, E., Nieters, A., Severson, R., Slager, S., Spinelli, J., Staines, A., Talamaini, R., Vornanen, M., Weisenburger, D., Roman, E.*: Non-Hodgkin lymphoma and Obesity: a pooled analysis from the InterLymph consortium. *Int J Cancer*, 122: 2062-2070, 2008.
- 009 *Toyooka, S., Takano, T., Kosaka, T., Hotta, K., Matsuo, K., Ichihara, S., Fujiwara, Y., Sob, J., Otani, H., Kiura, K., Aoe, K., Yatabe, Y., Ohe, Y., Mitsudomi, T., Date, H.*: EGFR mutation, but not sex and smoking, is independently associated with favorable prognosis of gefitinib-treated patients with lung adenocarcinoma. *Cancer Sci*, 99: 303-308, 2008.
- 010 *Niibe, Y., Tsunoda, S., Jobo, T., Imai, M., Arai, M., Arai, T., Kawaguchi, M., Futai, M., Hamada, Y., Yago, K., Matsuo, K., Matsunaga, K., Unno, N., Hayakawa, K.*: Phase II study of radiation therapy combined with weekly nedaplatin in locally advanced uterine cervical carcinoma: Kitasato Gynecologic Radiation Oncology Group (KGROG0501)-Initial analysis. *EUR J GYNAECOL ONCOL*, 29: 222-224, 2008.
- 011 *Furue, H., Matsuo, K., Kumimoto, H., Hiraki, A., Suzuki, T., Yatabe, Y., Komori, K., Kanemitsu, Y., Hirai, T., Kato, T., Ueda, M., Ishizaki, K., Tajima, K.*: Decreased risk of colorectal cancer with the high Natural-Killer (NK)-cell activity NKG2D geno-

- type in Japanese. *Carcinogenesis*, 29(2): 316-320, 2008.
- 012 *Sugimoto, K., Narimatsu, H., Kawase, T., Iida, H., Watanabe, M., Kobno, A., Kuwatsuka, Y., Uchida, T., Hamaguchi, M., Terakura, S., Naoe, T., Matsuo, K., Murata, M., Sawa, M., Miyamura, K., Morishita, Y.* : Chronic graft-versus-host disease following umbilical cord blood transplantation is mild and has a graft-versus-malignancy effect. *BONE MARROW TRANSPL*, 41: 729-736, 2008.
- 013 *Hiraki, A., Matsuo, K., Suzuki, T., Kawase, T., Tajima, K.* : Teeth loss and the risk of cancer at 14 common sites in Japanese. *Cancer Epidemiol Biomarker Prev*, 17: 1222-1227, 2008.
- 014 *Mizoue, T., Inoue, M., Wakai, K., Nagata, C., Shimazu, T., Otaniti, T., Tanaka, K., Matsuo, K., Tamakoshi, A., Sasazuki, S., Tsugane, S.* : Alcohol drinking and colorectal cancer in Japanese: a pooled analysis of results from five cohort studies. *Am J Epidemiol*, 167: 1397-1406, 2008.
- 015 *Bell, DW., Brunningan, BW., Matsuo, K., KFinkelstein, DM., Sordella, R., Settleman, J., Mitsudomi, T., Haber, DA.* : Increased prevalence of EGFR-mutant lung cancer in women and in East-Asian populations: analysis of estrogen-related polymorphisms. *Clin Cancer Res*, 14: 4079-4084, 2008.
- 016 *Suzuki, T., Matsuo, K., Hasegawa, Y., Hiraki, A., Kawase, T., Tanaka, H., Tajima, K.* : Anthropometric factors at age 20 years and risk of thyroid cancer. *Cancer Causes Control*, 19: 1233-42, 2008.
- 017 *Suzuki, T., Matsuo, K., Sawaki, A., Mizuno, N., Hiraki, A., Kawase, T., Watanabe, M., Nakamura, T., Yamao, K., Tajima, K., Tanaka, H.* : Alcohol drinking and one-carbon metabolism-related gene polymorphisms on pancreatic cancer risk. *Cancer Epidemiol Biomarkers Prev*, 17: 2742-2747, 2008.
- 018 *Kanda, J., Mizumoto, C., Kawabata, H., Tsuchida, H., Tomosugi, N., Matsuo, K., Uchiyama, T.* : Serum level of hepcidin and erythropoietic activity after haematopoietic stem cell transplantation. *Haematologica*, 93(10): 1550-1554, 2008.
- 019 *Kobayashi, N., Toyooka, S., Ichimura, K., Sob, J., Yamamoto, H., Matsuo, K., Otani, H., Jida, M., Kubo, T., Tsukuda, K., Kiura, K., Sano, Y., Date, H.* : Non-BAC component but not epidermal growth factor receptor gene mutation is associated with poor outcomes in small adenocarcinoma of the lung. *J Thorac Oncol*, 3: 704-710, 2008.
- 020 *Yanada, M., Sugiura, I., Takeuchi, J., Akiyama, H., Maruta, A., Ueda, Y., Usui, N., Yagasaki, F., Yujiri, T., Takeuchi, M., Nishii, K., Kimura, Y., Miyawaki, S., Narimatsu, H., Miyazaki, Y., Ohtake, S., Jinnai, I., Matsuo, K., Naoe, T., Ohno, R.* : Prospective monitoring of BCR-ABL transcript levels in patients with Philadelphia chromosome-positive acute lymphoblastic leukaemia undergoing imatinib-combined chemotherapy. *Brit J Haematol*, 143(4): 503-510, 2008.
- 021 *Kim, SW., Matsuo, K., Fukuda, T., Hara, M., Matsue, K., Tani-guchi, S., Eot, T., Tanimoto, M., Wake, A., Hatanaka, K., Nakao, S., Isbida, Y., Harada, M., Utsunomiya, A., Imamura, M., Kanda, Y., Sunami, K., Kawano, F., Takaue, Y., Teshima, T.* : Reduced-intensity unrelated donor bone marrow transplantation for hematologic malignancies: a Japanese experience. *Int J Hematol*, 88(3):324-30, 2008.
- 022 *Oki, Y., Kato, H., Matsuo, K., Kuwatsuka, Y., Taji, H., Yamamoto, K., Kagami, Y., Morishima, Y.* : Prognostic value of serum soluble IL2 receptor level in patients with diffuse large B cell lymphoma, treated with CHOP or RCHOP based therapy. *Leuk Lymphoma*, 49: 1345-1351, 2008.
- 023 *Hayashino, Y., Fukubara, S., Okamura, T., Yamato, H., Tanaka, H., Tanaka, T., Kadowaki, T., Ueshima, H.* : For The HIPOP-OHP Research Group. A prospective study of passive smoking and risk of diabetes in a cohort of workers: the High-Risk and Population Strategy for Occupational Health Promotion (HIPOP-OHP) study. *Diabetes Care*, 31: 732-734, 2008.
- 024 *Tanaka, H., Imai, Y., Hiramatsu, N., Ito, Y., Imanaka, K., Oshita, M., Hijioka, T., Katayama, K., Yabuuchi, I., Yoshibara, H., Inoue, A., Kato, M., Takehara, T., Tamura, S., Kasahara, A., Hayashi, N., Tsukuma, H.* : Declining incidence of hepatocellular carcinoma in Osaka, Japan, from 1990 to 2003. *Ann Intern Med*, 148: 820-826, 2008.
- 025 *Isibara, R., Tanaka, H., Iishi, H., Takeuchi, Y., Higashino, K., Uedo, N., Tatsuta, M., Yano, M., Isbiguro, S.* : Long-term outcome of esophageal mucosal squamous cell carcinoma without lymphovascular involvement after endoscopic resection. *Cancer*, 112: 2166-2172, 2008.
- 026 *Sakakura, N., Mori, S., Okuda, K., Fukui, T., Hatooka, S., Shinoda, M., Matsuo, K., Yatabe, Y., Yokoi, K., Mitsudomi, T.* : Subcategorization of lung cancer based on tumor size and degree of visceral pleural invasion. *Ann Thorac Surg*, 86(4): 1084-90, 2008.
- 027 *Hung, RJ., Christiani, DC., Risch, A., Popanda, O., Haugen, A., Zienoloddiny, S., Benbamou, S., Bouchardy, C., Lan, Q., Spitz, MR., Wichmann, HE., Le, Marchand L., Vineis, P., Matullo, G., Kiyohara, C., Szeszenia-Dabrowska, N., Zaridze, D., Lissowska, J., Rundai, P., Fabianova, E., Mate, D., Foretova, L., Janout, V., Bencko, V., Caporaso, N., Chen, C., Duel, EJ., Goodman, G., Field, JK., Houlston, RS., Schwartz, G., Shen, H., Stucker, I., Tajima, K., Matsuo, K., Thun, M., Yang, P., Wiencke, J., Andrew, AS., Monnier, S., Boffetta, P., Brennan P.* : International Lung Cancer Consortium: Pooled analysis of sequence variants in DNA repair and cell cycle pathways. *Cancer Epidemiol Biomarker Prev*, 17: 3081-3089, 2008.
- 028 *Gao, CM., Takezaki, T., Wu, JZ., Chang, XM., Cao, HC., Ding, JH., Liu, YT., Li, SP., Cao, J., Matsuo, K., Hamajima, N., Tajima, K.* : Polymorphisms of alcohol dehydrogenase 2 and aldehyde dehydrogenase 2 and colorectal cancer risk in Chinese males. *WJ Gastroenterol*, 14: 5078-5083, 2008.
- 029 *Okasaka, T., Usami, N., Mitsudomi, T., Yatabe, Y., Matsuo, K., Yokoi, K.* : Stepwise examination for differential diagnosis of primary lung cancer and breast cancer relapse presenting as a solitary pulmonary nodule in patients after mastectomy. *J Surg*

- Oncol, 98: 510-514, 2008.
- 030 *Hiramatsu, Y., Maeda, Y., Fujii, N., Saito, T., Nawwa, Y., Hara, M., Yano, T., Asakura, S., Sunami, K., Tabayashi, T., Miyata, A., Matsuoka, KI., Shinagawa, K., Matsuo, K., Tanimoto, M.* : Use of Micafungin versus Fluconazole for Antifungal Prophylaxis in Neutropenic Patients Receiving Hematopoietic Stem Cell Transplantation. *Int J Hematol*, 88: 588-595, 2008.
- 031 *Toyooka, S., Matsuo, K., Gazdar, AF.* : DNA methylation in lung cancer. *N Engl J Med*, 358:2513, 2008.
- 032 *Hotta, K., Kiura, K., Takigawa, N., Matsuo, K., Tabata, M., Fujiwara, Y., Tanimoto, M.* : Paradoxical Clinical Effects of EGFR Tyrosine Kinase Inhibitors for Acute Myelogenous Leukemia. *J Clin Oncol*, 26: 5826-5827, 2008.
- 033 *Boccia S, Boffetta P, Brennan P, Ricciardi G, Gianfagna F, Matsuo K, van Duijn, Hung RJ.* : Meta-analysis of the Methylenetetrahydrofolate reductase C677T and A1298C polymorphisms and risk of head and neck and lung cancer. *Cancer Lett*, 273(1):55-61, 2008
- 034 *Langevin S, Lin D, Matsuo K, Gao CM, Takezaki T, Stolzenberg-Solomon RZ, Moban V, Hasan Q, Taioli E.* : Review and pooled analysis of studies on MTHFR C677T polymorphism and esophageal cancer. *Toxicol Lett*30;184(2):73-80, 2008
- 035 *Nishida T, Murayama T, Hirai H, Okamoto S, Sao H, Hara M, Kanamori H, Atsuta Y, Matsuo K, Morishima Y, Kodera Y.* : Phase II study of tacrolimus and methotrexate for prophylaxis of acute graft-versus-host disease after HLA-A, B, and DRB1 genotypically mismatched unrelated bone marrow transplantation among Japanese patients. *Int J Hematol*89(1):98-105, 2008
- 036 *Kidokoro K, Ino K, Hirose K, Kajiyama H, Hosono S, Suzuki T, Kawase T, Hiraki A, Hamajima N, Tanaka H, Tajima K, Kikawa F, Matsuo K.* : Association between CYP19A1 polymorphisms and sex hormones in postmenopausal Japanese women. *J Hum Genet*54(2):78-85, 2008
- 037 *Hishida A, Matsuo K, Goto Y, Mitsuda Y, Hiraki A, Naito M, Wakai K, Tajima K, Hamajima N.* : Toll-like receptor 4 (TLR4) +3725 G/C polymorphism, *Helicobacter pylori* seropositivity and the risk of gastric atrophy and gastric cancer in Japanese. *Helicobacter*14(1):47-53, 2008
- 038 *Kanda J, Matsuo K, Suzuki T, Kawase T, Hiraki A, Watanabe M, Mizuno N, Sawaki A, Yamao K, Tajima K, Tanaka H* : Impact of alcohol consumption with polymorphisms in alcohol-metabolizing enzymes on pancreatic cancer risk in Japanese. *Cancer Sci*100(2):296-302, 2008
- 039 *Hotta K, Fujiwara Y, Matsuo K, Kiura K, Takigawa N, Tanimoto M.* : Time to progression as a surrogate marker for overall survival in patients with advanced non-small-cell lung cancer. *J Thorac Oncol*4(3):311-7, 2008
- 040 *Kawase T, Keitaro M, Koichi K, Hidetoshi I, Hirob S, Seishi O, Shunichi K, Takehiko S, Yoshibisa K, Yasuo M* : HLA mismatch combinations associated with decreased risk of relapse : implications for the molecular mechanism. *BLOOD*113(12) : 2851-2858, 2008
- 041 *田中政宏, 田中英夫, 幸谷安恵, 伊藤ゆり, 青木厚子, 若林榮子, 淡田修久* : がん専門診療施設を利用した入院患者の満足度～平成19年度調査結果と6年間の変化の考察～. *全国自治体病院協議会雑誌*48(1):1-13, 2008
- 042 *田中英夫* : 禁煙治療・指導. *治療学*43(2):115-118, 2008
- 043 *田中政宏, 谷内佳代, 杉本 聡, 田中英夫, 松尾茂子, 久利通興, 若林榮子* : 医療機関職員の喫煙状況調査. *公衆衛生*73:154-158, 2008

腫瘍病理学部

- 001 *Hara M, Nakanishi H, Tsujimura K, Matsui M, Yatabe Y, Manabe T, Tatematsu M:* Interleukin-2 potentiation of cetuximab antitumor activity for epidermal growth factor receptor-overexpressing gastric cancer xenografts through antibody-dependent cellular cytotoxicity. *Cancer Sci.*, 99: 1471-1478, 2008.
- 002 *Narimatsu Y, Ikebara Y, Iwasaki H, Nonomura C, Sato T, Nakanishi H, Narimatsu H:* Immunohistochemical analysis of intracellular dynamics of C1GalT associated with molecular chaperone, Cosmc. *Biochem. Biophys. Res. Commun.*, 366: 199-205, 2008.
- 003 *Ikebara Y, Shiuchi N, Ikebara S, Nakanishi H, Yokoyama N, Takagi H, Takahashi T, Tsujimura K, Kojima N:* Effective induction of anti-tumor immune responses with oligomannose-coated liposome targeting to intraperitoneal phagocytic cells. *Cancer Lett.*, 260: 137-145, 2008.
- 004 *Tsuboi K, Kodera Y, Nakanishi H, Ito S, Mochizuki Y, Nakayama G, Koike M, Fujiwara M, Yamamura Y, Nakao A:* Expression of CXCL12 and CXCR4 in pT3-stage gastric cancer does not correlate with peritoneal metastasis. *Oncol. Rep.*, 20: 1117-1123, 2008.
- 005 *Koyama Y, Naruo H, Yoshitomi Y, Munesue S, Kiyono S, Kusano Y, Hashimoto K, Yokoi T, Nakanishi H, Shimizu S, Okayama M, Oguri K:* Matrix metalloproteinase-9 associated with heparan sulphate chains of GPI-Anchored cell surface proteoglycans mediates motility of murine colon adenocarcinoma cells. *J. Biochem.*, 143: 581-592, 2008.
- 006 *Sbi L, Itoh F, Itoh S, Takahashi S, Yamamoto M, Kato M:* Ephrin-A1 promotes the malignant progression of intestinal tumors in Apc(min/+) mice. *Oncogene*, 27: 3265-3273, 2008.
- 007 *Cao X, Tsukamoto T, Seki T, Tanaka H, Morimura S, Cao L, Mizoshita T, Ban H, Toyoda T, Maeda H, Tatematsu M:* 4-Vinyl-2,6-dimethoxyphenol (canolol) suppresses oxidative stress and gastric carcinogenesis in *Helicobacter pylori*-infected carcinogen-treated Mongolian gerbils. *Int. J. Cancer*, 122: 1445-1454, 2008.
- 008 *Takasu S, Tsukamoto T, Cao X, Toyoda T, Hirata A, Ban H, Yamamoto M, Sakai H, Yanai T, Masegi T, Oshima M, Tatematsu M:* Roles of cyclooxygenase-2 and microsomal prostaglandin E

- synthase-1 expression and beta-catenin activation in gastric carcinogenesis in *N*-methyl-*N*-nitrosourea-treated K19-C2mE transgenic mice. *Cancer Sci.*, 99: 2356-2364, 2008.
- 009 **Li GQ, Xia HH, Chen MH, Tsukamoto T, Tatematsu M, Gu Q, Qiao L, Cho CH, So WH, Yuen MF, Hu PJ, Liang YJ, Lin HL, Chan AO, Wong BC:** Effects of aspirin on the development of *Helicobacter pylori*-induced gastric inflammation and heterotopic proliferative glands in Mongolian gerbils. *Helicobacter*, 13: 20-29, 2008.
- 010 **Cao L, Mizoshita T, Tsukamoto T, Takenaka Y, Toyoda T, Cao X, Ban H, Nozaki K, Tatematsu M:** Development of carcinoid tumors of the glandular stomach and effects of eradication in *Helicobacter pylori*-infected Mongolian gerbils. *Asian Pac. J. Cancer Prev.*, 9: 25-30, 2008.
- 011 **Hirata A, Tsukamoto T, Sakai H, Takasu S, Ban H, Imai T, Tot-suka Y, Nishigaki R, Wakabayashi K, Yanai T, Masegi T, Tatematsu M:** Carcinogenic risk of heterocyclic amines in combination - Assessment with a liver initiation model. *Food Chem. Toxicol.*, 46: 2003-2009, 2008.
- 012 **Cao X, Tsukamoto T, Seki T, Tanaka H, Morimura S, Cao L, Mizoshita T, Ban H, Toyoda T, Maeda H, Tatematsu M:** 4-Vinyl-2,6-dimethoxyphenol (Canolol) suppresses oxidative stress and gastric carcinogenesis in *Helicobacter pylori*-infected carcinogen-treated Mongolian gerbils. *Int. J. Cancer*, 122: 1445-1454, 2008.
- 013 **Toyoda T, Tsukamoto T, Hirano N, Mizoshita T, Kato S, Takasu S, Ban H, Tatematsu M:** Synergistic upregulation of inducible nitric oxide synthase and cyclooxygenase-2 in gastric mucosa of Mongolian gerbils by a high-salt diet and *Helicobacter pylori* infection. *Histol. Histopathol.*, 23: 593-599, 2008.
- 014 **Stewart CJ, Junckerstorff R, Tsukamoto T:** Ovarian mucinous tumor arising in mature cystic teratoma associated with pseudomyxoma peritonei: a case with possible respiratory epithelial differentiation. *Int. J. Gynecol. Pathol.*, 27: 41-43, 2008.
- 015 **Hatai H, Ochiai K, Murakami M, Imanishi S, Tomioka Y, Toyoda T, Ohashi K, Umemura T:** Prevalence of fowl glioma-inducing virus in chickens of zoological gardens in Japan and nucleotide variation in the *env* gene. *J. Vet. Med. Sci.*, 70: 469-474, 2008.
- 016 **Kuriki K, Mutob M, Tajima K, Wakabayashi K, Tatematsu M:** Relationships between intestinal polyp formation and fatty acid levels in plasma, erythrocytes, and intestinal polyps in Min mice. *Cancer Sci.*, 99: 2410-2416, 2008.
- 017 **Iwatsuki M, Fukagawa T, Mimori K, Nakanishi H, Ito S, Ishii H, Yokobori T, Sasako M, Baba H, Mori M:** Bone marrow and peripheral blood expression of ID1 in human gastric carcinoma patients is a bona fide indicator of lymph node and peritoneal metastasis. *Br. J. Cancer*, 100: 1937-1942, 2009.
- 018 **Ogasawara N, Tsukamoto T, Mizoshita T, Inada KI, Ban H, Kondo S, Takasu S, Ushijima T, Ito K, Ito Y, Ichinose M, Ogawa T, Job T, Tatematsu M:** RUNX3 expression correlates with chief cell differentiation in human gastric cancers. *Histol. Histopathol.*, 24: 31-40, 2009.
- 019 **Zhang X, Tsukamoto T, Mizoshita T, Ban H, Suzuki H, Toyoda T, Tatematsu M:** Expression of osteopontin and CDX2: Indications of phenotypes and prognosis in advanced gastric cancer. *Oncol. Rep.*, 21: 609-613, 2009.
- 020 **Ando T, Yoshida T, Enomoto S, Asada K, Tatematsu M, Ichinose M, Sugiyama T, Ushijima T:** DNA methylation of microRNA genes in gastric mucosae of gastric cancer patients: its possible involvement in the formation of epigenetic field defect. *Int. J. Cancer*, 124: 2367-2374, 2009.
- 021 **Hirata Y, Mizoshita T, Mizushima T, Shimura T, Mori Y, Kubota E, Wada T, Ogasawara N, Tanida S, Kataoka H, Sasaki M, Kamiya T, Tsukamoto T, Tatematsu M, Job T:** Gastric-and-intestinal mixed endocrine cell phenotypic expression of carcinoid tumors in the rectum. *Oncol. Rep.*, 21: 107-112, 2009.
- 022 **Toyoda T, Tsukamoto T, Takasu S, Shi L, Hirano N, Ban H, Kumagai T, Tatematsu M:** Anti-inflammatory effects of caffeic acid phenethyl ester (CAPE), a nuclear factor- κ B inhibitor, on *Helicobacter pylori*-induced gastritis in Mongolian gerbils. *Int. J. Cancer*, in press
- 023 **Toyoda T, Tsukamoto T, Takasu S, Hirano N, Ban H, Shi L, Kumagai T, Tanaka T, Tatematsu M:** Pitavastatin fails to lower serum lipid levels or inhibit gastric carcinogenesis in *Helicobacter pylori*-infected rodent models. *Cancer Prev. Res.*, in press
- 024 **Toyoda T, Cao X, Takasu S, Mizoshita T, Shi L, Tatematsu M, Tsukamoto T:** Chemoprevention of gastric cancer: lessons from an animal model. *Current Research in Cancer, Research Media (India):* in press
- 025 **Yoshizawa N, Yamaguchi H, Yamamoto M, Shimizu N, Furibata C, Tatematsu M, Seto Y, Kaminishi M:** Gastric carcinogenesis by *N*-Methyl-*N*-Nitrosourea is enhanced in db/db diabetic mice. *Cancer Sci.*, in press
- 026 **Tsuboi K, Kodera Y, Nakanishi H, Ito S, Mochizuki Y, Nakayama G, Koike M, Fujiwara M, Yamamura Y, Nakao A:** Expression of CXCL12 and CXCR4 in pT3-stage gastric cancer does not correlate with peritoneal metastasis. *Oncol. Rep.* 20(5):1117-23. 2008
- 027 **Nakanishi H, Kodera Y, Hara K, Yokoyama H, Matsui M, Tatematsu M, Ikehara Y:** HER signaling as multiple therapeutic targets in gastric cancers. (Review), Targeted Proteins database (TPdb), Current Biodata Ltd., [22640].10.2970/tbdb.2009.219, 2008.
- 028 **Kodera Y, Nakanishi H, Ito S, Mochizuki Y, Nakayama G, Koike M, Fujiwara M, Yamamura Y, Nakao A:** Expression of L1 Cell Adhesion Molecule is a Significant Prognostic Factor in pT3-stage Gastric Cancer. *AntiCancer Res.* in press, 2009
- 029 **Nakanishi H, Ito S, Matsui M, Kodera Y,** Non-invasive and real-time fluorescence imaging of peritoneal metastasis in nude mice. In *in Vivo Imaging: Methods and Protocols. Methods in Molecular Biology series.* [Hoffman, R. M.,ed.], Humana Press, Totowa, NJ. in press, 2009
- 030 **豊田武士, 立松正衛:** スナネズミモデルによる *H. pylori* 関連胃癌発生機構の解明. *医学のあゆみ*, 224 : 711-714,

- 2008.
- 031 豊田武士、立松正衛：実験病理学からみた消化器癌化学予防と今後の展望。臨牀消化器内科，23：1635-1641，2008.
- 032 豊田武士、塚本徹哉、立松正衛：除菌後胃癌の発生を少なくするには？(1) 基礎より。GI Forefront，4：24-27，2008.
- 033 立松正衛、塚本徹哉、豊田武士：胃癌の発生と進展：組織発生。消化器外科，31：575-580，2008.
- 034 高須伸二、塚本徹哉、豊田武士、立松正衛：ヘリコバクター感染と胃発がん。分子細胞治療，8：171-174，2009.
- 035 高須伸二、塚本徹哉、豊田武士、立松正衛：食塩と胃発癌(2)食塩とH.pylori胃発癌。臨牀消化器内科，24：418-422，2009.
- 036 豊田武士、塚本徹哉、立松正衛：動物実験の立場からみた*Helicobacter pylori*感染と胃癌。胃と腸，in press
- 037 中西速夫：“微小転移の検出I”免疫組織学および分子生物学的検出法、がん転移研究の実験手法、金芳、283-290，2008.
- 038 中西速夫、池原 譲：“胃癌のバイオマーカー”糖鎖バイオマーカーの開発-糖鎖機能の解明とその応用：成松 久編、遺伝子医学MOOK，11，278-284，2008.
- 039 池原 譲、中西速夫：“糖鎖関連バイオマーカーの医療応用：糖鎖機能を活用した癌腹腔内転移治療技術の開発とその応用” 遺伝子医学MOOK，11，226-233，2008

分子腫瘍学部

[原著]

- 001 *Boumber YA, Kondo Y, Chen X, Shen L, Guo Y, Tellez C, Estecio MR, Ahmed S, Issa JP*: An Sp1/Sp3 binding polymorphism confers methylation protection. *PLoS Genet*, 4: e1000162, 2008. (PMID: 18725933)
- 002 *Gao W, Kondo Y, Shen L, Shimizu Y, Sano T, Yamao K, Natsume A, Goto Y, Ito M, Murakami H, Osada H, Zhang J, Issa JPJ, Sekido Y*: Variable DNA methylation patterns associated with progression of disease in hepatocellular carcinomas. *Carcinogenesis*, 29: 1901-1910, 2008. (PMID: 18632756)
- 003 *Kondo Y, Shen L, Cheng A, Ahmed S, Boumber Y, Charo C, Yamochi T, Urano T, Furukawa K, Kwabi-Addo B, Gold D, Sekido Y, Huang T, Issa JP*: Gene silencing in cancer by histone H3 lysine 27 tri-methylation independent of promoter DNA methylation. *Nat Genet*, 40: 741-750, 2008. (PMID: 18488029)
- 004 *Kondo Y, Shen L, Ahmed S, Boumber Y, Sekido Y, Haddad BR, Issa JP*: Downregulation of histone H3 lysine 9 methyltransferase G9a induces centrosome disruption and chromosome instability in cancer cells. *PLoS One*, 3: e2037, 2008. (PMID: 18446223)
- 005 *Natsume A, Wakabayashi T, Tsujimura K, Shimato S, Ito M, Kuzushima K, Kondo Y, Sekido Y, Kawatsura H, Narita Y, Yoshida J*: The DNA demethylating agent 5-aza-2'-deoxycytidine activates NY-ESO-1 antigenicity in orthotopic human glioma. *Int J Cancer*, 122: 2542-2553, 2008. (PMID: 18240144)
- 006 *Oi S, Natsume A, Wakabayashi T, Ito M, Kondo Y, Shimato S, Maeda Y, Saito K, Yoshida J*: Synergistic induction of NY-ESO-1 antigen expression by a novel histone deacetylase inhibitor, valproic acid with 5-aza-2'-deoxycytidine, in glioma cells. *J Neurooncol*, 109: 117-122, 2008. (PMID: 19030781)
- 007 *Osada H, Tomida S, Yatabe Y, Tatematsu Y, Takeuchi T, Murakami H, Kondo Y, Sekido Y, Takahashi T*: Roles of achaete-scute homologue 1 in DKK1 and E-cadherin repression and neuroendocrine differentiation in lung cancer. *Cancer Res*, 68: 1647-1655, 2008. (PMID: 18339843)
- 008 *Shimizu J, Horio Y, Osada H, Hida T, Hasegawa Y, Shimokata K, Takahashi T, Sekido Y, Yatabe Y*: mRNA expression of RRM1, ERCC1 and ERCC2 is not associated with chemosensitivity to cisplatin, carboplatin and gemcitabine in human lung cancer cell lines. *Respirology*, 13: 510-517, 2008. (PMID: 18494946)
- 009 *Suehiro Y, Wong CW, Chirieac LR, Kondo Y, Shen L, Webb CR, Chan YW, Chan AS, Chan TL, Wu TT, Rashid A, Hamanaka Y, Hinoda Y, Shannon RL, Wang X, Morris J, Issa JP, Yuen ST, Leung SY, Hamilton SR*: Epigenetic-Genetic Interactions in the APC/WNT, RAS/RAF, and P53 Pathways in Colorectal Carcinoma. *Clin Cancer Res*, 14: 2560-2569, 2008. (PMID: 18451217)
- 010 *Yamada H, Yanagisawa K, Tokumaru S, Taguchi A, Nimura Y, Osada H, Nagino M, Takahashi T*: Detailed characterization of a homozygously deleted region corresponding to a candidate tumor suppressor locus at 21q11-21 in human lung cancer. *Genes Chromosomes Cancer*, 47: 810-818, 2008. (PMID: 18523997)
- 011 *Yamada T, Yano S, Ogino H, Ikuta K, Kakiuchi S, Hanibuchi M, Kanematsu T, Taniguchi T, Sekido Y, Sone S*: Lysophosphatidic acid stimulates the proliferation and motility of malignant pleural mesothelioma cells through lysophosphatidic acid receptors, LPA1 and LPA2. *Cancer Sci*, 99:1603-1610, 2008. (PMID: 18754873)
- 012 *Yamamoto E, Toyota M, Suzuki H, Kondo Y, Sanomura T, Murayama Y, Obe-Toyota M, Maruyama R, Nojima M, Asbida M, Fujii K, Sasaki Y, Hayashi N, Mori M, Imai K, Tokino T, Shinomura Y*: LINE-1 Hypomethylation Is Associated with Increased CpG Island Methylation in *Helicobacter pylori*-Related Enlarged-Fold Gastritis. *Cancer Epidemiol Biomarker Prev*, 17: 2555-2564, 2008. (PMID: 18842996)
- 013 *Yokoyama T, Osada H, Murakami H, Tatematsu Y, Taniguchi T, Kondo Y, Yatabe Y, Hasegawa Y, Shimokata K, Horio Y, Hida T, Sekido Y*: YAP1 is involved in mesothelioma development and negatively regulated by Merlin through phosphorylation. *Carcinogenesis*, 29: 2139-2146, 2008. (PMID: 18725387)

[総説]

- 001 *Sekido Y*. Molecular biology of malignant mesothelioma. *Environ Health Prev Med* 13: 65-70, 2008. (PMID : 19568883)

[原著]

- 001 **Honma K, Tsuzuki S, Nakagawa M, Karnan S, Aizawa Y, Kim WS, Kim YD, Ko YH, Seto M:** TNFAIP3 is the target gene of chromosome band 6q23.3-q24.1 loss in cular. Adnexal marginal zone B cell lymphoma. *Genes Chrom. Cancer*, 47:1-7, 2008.
- 002 **Nakamura T, Seto M, Tajima M, Kawai H, Yokoi T, Yatabe Y, Nakamura S:** Clinical features and prognosis of gastric MALT lymphoma with special reference to responsiveness to H. pylori eradication and API2-MALT1 status. *Am J Gastroenterol*, 103:62-70, 2008.
- 003 **Hashino S, Morita L, Takabata M, Onozawa M, Nakagawa M, Kawamura T, Fujisawa F, Kabata K, Izumiyama K, Yonezumi M, Chiba K, Kondo T, Asaka M:** Administration of micafungin as prophylactic antifungal therapy in patients undergoing allogeneic stem cell transplantation. *Int J Hematol.*, 87:91-97, 2008.
- 004 **Hong D, Gupta R, Ancliff P, Atzberger A, Brown J, Sonjei S, Green J, Colman S, Piacibello W, Buckle V, Tsuzuki S, Greaves M, Enver T:** Initiating and cancer-propagating cells in TEL-AML1-associated childhood leukemia. *Science*, 319:336-339, 2008
- 005 **Karube K, Ying G, Tagawa H, Niino D, Aoki R, Kimura Y, Hashikawa K, Suefuji N, Sugita Y, Nomura Y, Shimizu K, Yoshida S, Seto M, Ohshima K:** BCL6 gene amplification/3q27 gain is associated with unique clinicopathological characteristics among follicular lymphoma without BCL2 gene translocation. *Mod Pathol.*, 21:973-978, 2008.
- 006 **Tsukamoto Y, Uchida T, Karnan S, Noguchi T, Nguyen LT, Tanigawa M, Takeuchi I, Matsuura K, Hijiya N, Nakada C, Kishida T, Ito H, Murakami K, Fujioka T, Seto M, Moriyama, M:** Genome-wide analysis of DNA copy number alterations and gene expression in gastric cancer. *J Pathol.*, 216:471-482, 2008.
- 007 **Nakada C, Matsuura K, Tsukamoto Y, Tanigawa M, Yoshimoto T, Narimatsu T, Nguyen LT, Hijiya N, Uchida T, Sato F, Mimata H, Seto M, Moriyama M.** Genome-wide microRNA expression profiling in renal cell carcinoma: significant downregulation of miR-141 and miR-200c. *J Pathol.*, 216:418-427, 2008.
- 008 **Nomura Y, Yoshida S, Karube K, Takeshita M, Hirose S, Nakamura S, Yoshino T, Kikuchi M, Ohshima K.** Estimation of the relationship between caspase-3 expression and clinical outcome of Burkitt's and Burkitt-like lymphoma. *Cancer Sci.*, 99:1564-1569, 2008.
- 009 **Scheern FA, Diehl SA, Smit LA, Beaumont T, Naspetti M, Bende RJ, Blom B, Karube K, Ohshima K, van Noesel CJ, Spits H.** IL-21 is expressed in Hodgkin Lymphoma and activates STAT5; evidence that activated STAT5 is required for Hodgkin Lymphomagenesis. *Blood*. 111: 4706-4715, 2008.
- 010 **Karube K, Aoki R, Sugita Y, Yoshida S, Nomura Y, Shimizu K, Kimura Y, Hashikawa K, Takeshita M, Suzumiya J, Utsunomiya A, Kikuchi M, Ohshima K.** The relationship of FOXP3 expression and clinicopathological characteristics in adult T cell

leukemia/lymphoma. *Mod Pathol.*, 21:617-625, 2008.

- 011 **Nakagawa M., Nakagawa-Oshiro A, Karnan S, Tagawa H, Utsunomiya A, Nakamura S, Takeuchi I, Ohshima K, Seto, M.** Array CGH analysis of PTCL-U reveals a distinct subgroup with genetic alterations similar to lymphoma-type ATLL. *Clin Cancer Res.*, 15:30-38, 2009.
- 012 **Takeuchi I, Tagawa H, Tsujikawa A, Nakagawa M, Katayama-Suguro M., Guo Y, Seto M.** The potential of copy number gains and losses, detected by array-based comparative genomic hybridization, for computational differential diagnosis of B-cell lymphomas and genetic regions involved in lymphomagenesis. *Haematologica*, 94:61-69, 2009.
- 013 **Lee S-Y, Kumano K, Nakazaki K, Sanada M, Matsumoto A, Yamamoto G, Nannya Y, Suzuki R, Ota Satoshi, Ota Y, Izutsu K, Sakata-Yanagimoto M, Hangaishi A, Yagita H, Fukayama M, Seto M, Kurokawa M, Ogawa S, Chiba S.** Gain-of-function mutations and copy number increases of Notch2 in diffuse large B-cell lymphoma. *Cancer Science*, 100:920-926, 2009.
- 014 **Honma K, Tsuzuki S, Nakagawa M, Tagawa H, Nakamura S, Morishima Y, Seto M.** TNFAIP3/A20 functions as a novel tumor suppressor gene in several subtypes of non-Hodgkin lymphomas. *Blood*, in press.

[総説および単行本]

- 001 **加留部謙之輔、田川博之、瀬戸加大、竹下盛重、大島孝一:** B細胞リンパ腫治療の新展開～濾胞性リンパ腫とマントル細胞リンパ腫を中心に～ 1. 疾患概念と病態 血液フロンティア, 18: 1097-1103, 2008.
- 002 **加留部謙之輔、荒川文子、田川博之、瀬戸加大、竹下盛重、大島孝一:** 濾胞性リンパ腫の分子病態とその臨床的意義. 血液・腫瘍科, 56: 596-602, 2008.
- 003 **加留部謙之輔、荒川文子、田川博之、瀬戸加大、竹下盛重、大島孝一:** 濾胞性リンパ腫の臨床病態・分子病態. 臨床血液, 49: 159-164, 2008.
- 004 **瀬戸加大:** 悪性リンパ腫の基礎. 発症機序(遺伝子異常) 日本内科学会雑誌, 97: 1524-1530, 2008.
- 005 **瀬戸加大:** アレイCGHによる腫瘍ゲノム解析. *BIO Clinica*, 23:47-52, 2008.
- 006 **中川雅夫、本間圭一郎、瀬戸加大:** (11;18)転座型MALTリンパ腫の分子病態. *Hematology & Oncology Jan.* (血液・腫瘍科), 58: 49-56, 2009.
- 007 **加留部謙之輔、瀬戸加大:** WHO分類第4版改訂のポイント. 血液・腫瘍科.58:531-536,2009.
- 008 **本間圭一郎、中川雅夫、瀬戸加大:** びまん性大細胞型B細胞リンパ腫におけるNF- κ BとJAK-STAT経路のクロストーク. 血液・腫瘍科 (科学評論社) 58: 182-188, 2009.

腫瘍免疫学部

[原著]

- 001 *Demachi-Okamura A, Ito Y, Akatsuka Y, Tsujimura K, Morishima Y, Takahashi T, Kuzushima K*: Epstein-Barr virus nuclear antigen 1-specific CD4+ T cells directly kill Epstein-Barr virus-carrying natural killer and T cells. *Cancer Sci*, 99: 1633-1642, 2008.
- 002 *Torikai H, Akatsuka Y, Yatabe Y, Morishima Y, Koderu Y, Kuzushima K, Takahashi T*: Aberrant expression of BCL2A1-restricted minor histocompatibility antigens in melanoma cells: application for allogeneic transplantation. *Int J Hematol*, 87: 467-73, 2008.
- 003 *Watanabe K, Suzuki S, Kamei M, Toji S, Kawase T, Takahashi T, Kuzushima K, Akatsuka Y*: CD137-guided isolation and expansion of antigen-specific CD8 cells for potential use in adoptive immunotherapy. *Int J Hematol*, 88: 311-320, 2008.
- 004 *Lu X, Kondo Y, Takamatsu H, Obata K, Yamazaki H, Takami A, Akatsuka Y, Nakao S*: CD16+ CD56- NK cells in the peripheral blood of cord blood transplant recipients: a unique subset of NK cells possibly associated with graft-versus-leukemia effect. *Eur J Haematol*, 81: 18-25, 2008.
- 005 *Natsume A, Wakabayashi T, Tsujimura K, Shimato S, Ito M, Kuzushima K, Kondo Y, Sekido Y, Kawatsura H, Narita Y, Yoshida J*: The DNA demethylating agent 5-aza-2'-deoxycytidine activates NY-ESO-1 antigenicity in orthotopic human glioma. *Int J Cancer*, 122(1): 2542-53, 2008
- 006 *Shimato S, Natsume A, Tsujimura K, Nakabara N, Wakabayashi T, Ishii J, Ito M, Akatsuka Y, Kuzushima K, Yoshida J*: Identification of an HLA-A24-restricted T-cell epitope derived from a glioma-associated antigen, interleukin 13 receptor $\alpha 2$ chain. *J Neurosurg*, 109(1): 117-22, 2008.
- 007 *Akamatsu T, Watanabe N, Kido M, Saga K, Tanaka J, Kuzushima K, Nishio A, Chiba T*: Human TSLP directly enhances expansion of CD8+ T cells. *Clin Exp Immunol*, 154(1): 98-106, 2008.
- 008 *Taniguchi K, Shimazaki C, Ochiai N, Maruya E, Akatsuka Y, Ashihara E, Maekawa T, Taniguchi M, Saji H*: Modified ELISPOT assay may predict T-cell hyporesponsiveness to non-inherited maternal antigens. *Int J Lab Hematol*, 2008 Nov 17. [Epub ahead of print].
- 009 *Ogawa S, Matsubara A, Onizuka M, Kashiwase K, Sanada M, Kato M, Nannya Y, Akatsuka Y, Satake M, Takita J, Chiba S, Saji H, Maruya E, Inoko H, Morishima Y, Koderu Y, Takebiko S*: Exploration of the genetic basis of GVHD by genetic association studies. *Biol Blood Marrow Transplant*, 15 (1 Suppl): 39-41, 2009.
- 010 *Ochi T, Fujiwara H, Suemori K, Azuma T, Yakushijin Y, Hato T, Kuzushima K, Yasukawa M*: Aurora-A kinase: A novel target of cellular immunotherapy for leukemia. *Blood*, 113(1): 66-74, 2009.

[総説および単行本]

- 001 **赤塚美樹**：第8章：GVL効果の発現機序；みんなに役立つ造血細胞移植の基礎と臨床（医薬ジャーナル社），2008.
- 002 **赤塚美樹**：GVHDを増強せずにGVL効果を高める治療法の可能性。臨床血液，49: 607-615, 2008.
- 003 **岡村文子, 葛島清隆**：免疫療法。EBウイルス第2版，202-207, 2008.
- 004 **赤塚美樹, 鳥飼宏基**：マイナー抗原を標的とした造血器腫瘍に対する免疫療法。血液フロンティア，19: 559-566, 2009.

腫瘍ウイルス学部

[原著]

- 001 *Isomura H, Stinski MF, Kudoh A, Nakayama S, Murata T, Sato Y, Iwabori S, Tsurumi T*: A cis element between the TATA Box and the transcription start site of the major immediate-early promoter of human cytomegalovirus determines efficiency of viral replication. *J Virol*, 82(2):849-58, 2008
- 002 *Isomura H, Stinski MF, Kudoh A, Murata T, Nakayama S, Sato Y, Iwabori S, Tsurumi T*: Noncanonical TATA sequence in the UL44 late promoter of human cytomegalovirus is required for the accumulation of late viral transcripts. *J Virol*, 82(4):1638-46, 2008
- 003 *Ijichi K, Adachi M, Hasegawa Y, Ogawa T, Nakamura H, Kudoh AI, Yasui Y, Murakami S, and Ishizaki K*: Pretreatment with 5-FU enhances cisplatin cytotoxicity in head and neck squamous cell carcinoma cells. *Cancer Chemother Pharmacol*, 62(5) : 745-752, 2008
- 004 *Iwabori S, Yasui Y, Kudoh A, Sato Y, Nakayama S, Murata T, Isomura H, Tsurumi T*: Identification of phosphorylation sites on transcription factor Sp1 in response to DNA damage and its accumulation at damaged sites. *Cell Signal*, 20(10):1795-803, 2008
- 005 *Murata T, Sato Y, Nakayama S, Kudoh A, Iwabori S, Isomura H, Tajima M, Hisbiki T, Ohshima T, Hijikata M, Shimotohno K, Tsurumi T*: TORC2, a coactivator of cAMP-response element-binding protein, promotes Epstein-Barr virus reactivation from latency through interaction with viral BZLF1 protein. *J Biol Chem*, 284(12):8033-41, 2009
- 006 *Sato Y, Shirata N, Kudoh A, Iwabori S, Nakayama S, Murata T, Isomura H, Nishiyama Y, Tsurumi T*: Expression of Epstein-Barr virus BZLF1 immediate-early protein induces p53 degradation independent of MDM2, leading to repression of p53-mediated transcription. *Virology*, 388(1):204-11, 2009
- 007 *Kudoh A, Iwabori S, Sato Y, Nakayama S, Isomura H, Murata T, Tsurumi T*: Homologous recombinational repair factors are recruited and loaded onto the viral DNA genome in Epstein-Barr virus replication compartments. *J Virol*, 83(13):6641-51, 2009
- 009 *Murata T, Isomura H, Yamashita Y, Toyama S, Sato Y, Nakayama S, Kudoh A, Iwabori S, Kanda T, Tsurumi T*: Efficient production of infectious viruses requires enzymatic activity of Epstein-Barr virus protein kinase. *Virology*, 389(1-2) : 75-81, 2009

- 010 *Iwabori S, Murata T, Kudoh A, Sato Y, Nakayama S, Isomura H, Kanda T, Tsurumi T*: Phosphorylation of p27Kip1 by Epstein-Barr Virus Protein Kinase Induces Its Degradation through SCF^{Skp2} Ubiquitin Ligase Actions during Viral Lytic Replication. *J Biol Chem*, 284(28):18923-31, 2009
- 011 *Maruo S, Wu Y, Ito T, Kanda T, Kieff ED, Takada K*: Epstein-Barr virus nuclear protein EBNA3C residues critical for maintaining lymphoblastoid cell growth. *Proc Natl Acad Sci USA*, 106: 4419-4424, 2009.
- 012 *Nakayama S, Murata T, Murayama K, Yasui Y, Sato Y, Kudoh A, Iwabori S, Isomura H, Kanda T, Tsurumi T*: Epstein-Barr virus polymerase processivity factor enhances BALF2 promoter transcription as a coactivator for the BZLF1 immediate-early protein. *J Biol Chem*, 284 : 21557-21568, 2009.
- 013 *Ali AK, Saito S, Shibata S, Takada K, Kanda T*: Distinctive Effects of the Epstein-Barr Virus Family of Repeats on Viral Latent Gene Promoter Activity and B-lymphocyte Transformation. *J Virol*, 83 : 9163-9174, 2009.
- 014 *Sato Y, Kamura T, Shirata N, Murata T, Kudoh A, Iwabori S, Nakayama S, Isomura H, Nishiyama Y, Tsurumi T*: Degradation of phosphorylated p53 by viral protein-ECS E3 ligase complex. *PLoS Pathogens*, 5 : e1000530, 2009.
- 015 *Lasbmit P, Wang S, Li H, Isomura H, Stinski MF*: The CREB Site in the Proximal Enhancer is Critical for Cooperative Interaction with the Other Transcription Factor Binding Sites to Enhance Transcription of the MIE Early Genes in Human Cytomegalovirus Infected Cells. *J Virol*, 83 : 8893-8904, 2009.
- 016 *Murayama K, Nakayama S, Kato-Murayama M, Akasaka R, Ohbayashi N, Kamewari-Hayashi Y, Terada T, Shirouzu M, Tsurumi T, Yokoyama S*: Crystal structure of Epstein-Barr virus DNA polymerase processivity factor BMRF1. *J Biol Chem*, in press
- [総説および単行本]
- 001 *Stinski MF, Isomura H*: Role of the cytomegalovirus major immediate early enhancer in acute infection and reactivation from latency. *Med Microbiol Immunol*. 197:223-231, 2008
- 002 鶴見達也: EBウイルス複製ファクター - 感染症: ウイルス・細菌・寄生虫の感染戦略. *実験医学*, 27 : 1465-1472, 2009
- 003 *Zhang H, Yoshioka S, Miyazaki M, Kannagi R, Suzuki A*: Core 2 GlcNAc modification and megalin ligand-binding activity. *Biochim. Biophys. Acta* 1780:479-485, 2008.
- 004 *Koyama H, Kobayashi N, Harada M, Takeoka M, Kawai Y, Sano K, Fujimori M, Amano J, Ohhashi T, Kannagi R, Kimata K, Taniguchi S, Itano N*: Significance of tumor-associated stroma in promotion of intratumoral lymphangiogenesis. Pivotal role of a hyaluronan-rich tumor microenvironment. *Am. J. Pathol.* 172:179-193, 2008.
- 005 *Nonomura C, Kikuchi J, Kiyokawa N, Ozaki H, Mitsunaga K, Ando H, Kanamori A, Kannagi R, Fujimoto J, Muroi K, Furukawa Y, Nakamura M*: CD43, but not P-selectin glycoprotein ligand-1, functions as an E-selectin counter-receptor in human pre-B-cell leukemia NALL-1. *Cancer Res.* 68:790-799, 2008.
- 006 *Kawamura YI, Toyota M, Kawashima R, Hagiwara T, Suzuki H, Imai K, Shinomura Y, Tokino T, Kannagi R, Dobi T*: DNA hypermethylation contributes to incomplete synthesis of carbohydrate determinants in gastrointestinal cancer. *Gastroenterology* 135:142-151, 2008.
- 007 *Suzuki K, Yamamoto K, Kariya Y, Maeda H, Ishimaru T, Miyaura S, Fujii M, Yusa A, Joo EJ, Kimata K, Kannagi R, Kim YS, Kyogashima M*: Generation and characterization of a series of monoclonal antibodies that specifically recognize [HexA(+/-2S)-GlcNAc]_n epitopes in heparan sulfate. *Glycoconj. J.* 25:703-712, 2008.
- 008 *Kyogashima M, Tadano-Aritomi K, Aoyama T, Yusa A, Goto Y, Tamiya-Koizumi K, Ito H, Murate T, Kannagi R, Hara A*: Chemical and apoptotic properties of hydroxy-ceramides containing long-chain bases with unusual alkyl chain lengths. *J. Biochem.* 144:95-106, 2008.
- 009 *Yang Z, Wu JH, Kuo HW, Kannagi R, Wu AM*: Expression of sialyl Le^x, sialyl Le^a, Le^x and Le^y glycotopes in secreted human ovarian cyst glycoproteins. *Biochimie* 91:423-433, 2009.
- 010 *Yaomura T, Tsuboi N, Urahama Y, Hobo A, Sugimoto K, Miyoshi J, Matsuguchi T, Kannagi R, Matsuo S, Yuzawa Y*: Serine/threonine kinase, Cot/Tpl2, regulates renal cell apoptosis in ischaemia/reperfusion injury. *Nephrology* 13:397-404, 2008.
- 011 *Masago K, Fujita S, Hatachi Y, Fukubara A, Sakuma K, Ichikawa M, Kim YH, Mio T, Mishima M*: Clinical significance of pre-treatment serum amphiregulin and transforming growth factor- β , and an epidermal growth factor receptor somatic mutation in patients with advanced non-squamous, non-small cell lung cancer. *Cancer Sci.* 99:2295-2301, 2008.
- 012 *Masago K, Fujita S, Mio T, Ichikawa M, Sakuma K, Kim YH, Hatachi Y, Fukubara A, Kamiyama K, Sonobe M, Miyahara R, Date H, Mishima M*: Accuracy of epidermal growth factor receptor gene mutation analysis by direct sequencing method based on small biopsy specimens from patients with non-small cell lung cancer: analysis of results in 19 patients. *Int. J. Clin. Oncol.* 13:442-446, 2008.
- 013 *Fukushima A, Sumi T, Ishida W, Ojima A, Kajisako M, Ueno H*, cancers. *Proteomics* 8:3263-3273, 2008.

分子病態学部

[原著]

- 001 *Cben G-Y, Sakuma K, Kannagi R*: Significance of NF- κ B/GATA axis in TNF- α -induced expression of 6-sulfated cell-recognition glycans in human T-lymphocytes. *J. Biol. Chem.* 283:34563-34570, 2008.
- 002 *Lim K-T, Miyazaki K, Kimura N, Izawa M, Kannagi R*: Clinical application of functional glycoproteomics - dissection of glycotopes carried by soluble CD44 variants in sera of patients with

- Taguchi O** : Depletion of thymus-derived CD4⁺CD25⁺ T cells abrogates the suppressive effects of α -galactosylceramide treatment on experimental allergic conjunctivitis. *Allergol Int.* 57: 241-246, 2008
- 014 **Namangala B, Yokoyama N, Ikebara Y, Taguchi O, Tsujimura K, Sugimoto C, Inoue N.** Effect of CD4⁺CD25⁺ T cell-Depletion on Acute Lethal Infection of Mice with *Trypanosoma congolense*. *J Vet Med Sci.* 70: 751-759, 2008.
- 015 **Sumi T, Ishida W, Mittler RS, Yagita H, Taguchi O, Fukushima A.** Regulatory T cells participate in 4-1BB-mediated suppression of experimental allergic conjunctivitis. *Int Arch Allergy Immunol.* 148:305-310, 2008.

[総説および単行本]

- 016 **Varki A, Kannagi R, Toole BP:** Glycosylation changes in cancer, in Varki A, Cummings RD, Esko JD, et al. (eds): *Essentials of Glycobiology.* (ed 2). New York, Cold Spring Harbor Laboratory Press, 2008, pp 617-632
- 017 **Kannagi R, Yin J, Miyazaki K, Izawa M:** Current relevance of incomplete synthesis and neo-synthesis for cancer-associated alteration of carbohydrate determinants-Hakomori's concepts revisited. *Biochim. Biophys. Acta* 1780:525-531, 2008.
- 018 **Kannagi R, Kimura N:** Monoclonal antibody as a clue to structural analysis of bioactive functional glycoconjugates, in Taniguchi N, Suzuki A, Ito Y, et al. (eds): *Experimental Glycoscience, Glycochemistry.* Tokyo, Springer Japan, 2008, pp 60-63
- 019 **Kannagi R, Ohmori K:** Carbohydrate ligands for selectins in immune cell trafficking, in Taniguchi N, Suzuki A, Ito Y, et al. (eds): *Experimental Glycoscience, Glycobiology.* Tokyo, Springer Japan, 2008, pp 148-153
- 020 **Kannagi R, Seko A:** Roles of carbohydrate-mediated cell adhesion in cancer progression, in Taniguchi N, Suzuki A, Ito Y, et al. (eds): *Experimental Glycoscience, Glycobiology.* Tokyo, Springer Japan, 2008, pp 246-251
- 021 **Kannagi R, Ohmori K, Kimura N:** Anti-oligosaccharide antibodies as tools for studying sulfated sialoglycoconjugate ligands for siglecs and selectins. *Glycoconj. J.* in press 2009.
- 022 **神奈木玲児、陳 国云、佐久間圭一郎、大森勝之** : セレクチンと相互作用する糖鎖の機能と発現調節. 蛋白質核酸酵素 増刊号「糖鎖情報の独自性と普遍性」 53: 1525-1532, 2008
- 023 **神奈木玲児、殷 軍、宮崎敬子、佐久間圭一郎** : Cancer stem cellとセレクチンの糖鎖リガンド. 医学のあゆみ 225: 643-649, 2008
- 024 **神奈木玲児** : 腫瘍マーカー一覧. 日本医師会雑誌138 (特別号 がん診療update): S346-S349, 2009
- 025 **神奈木玲児** : OCT, GAT, BFP, KMO-1, シアリルSSEA-1抗原, NCC-ST-439, SPan-1. 櫻林郁之介・熊坂一成 編 "最新臨床検査項目辞典" 医歯薬出版, 東京, pp. 180, 189, 513-514, 519-522, 2008.
- 026 **大森勝之、石田敦巳、米田智也、神奈木玲児** : 糖鎖を介したT細胞のホーミングとその臨床的意義. 検査と技術 36:

161-164, 2008

- 027 **宮崎敬子、井澤峯子、神奈木玲児** : 癌関連性糖鎖抗原-CA19-9を中心に-. 臨床検査 52: 573-583, 2008.
- 028 **神奈木玲児** : 糖鎖抗原と腫瘍. "臨床検査ガイド 2009-2010". 糖鎖抗原と腫瘍. "臨床検査ガイド 2009-2010" 文光堂 東京, pp. 889-895, 2009.

発がん制御研究部

[欧文原著論文]

- 001 **Sugimoto M, Inoko A, Shiromizu T, Nakayama M, Zou P, Yonemura S, Hayashi Y, Izawa I, Sasoh M, Uji Y, Kaibuchi K, Kiyono T, Inagaki M:** The keratin-binding protein Albatross regulates polarization of epithelial cells. *J. Cell Biol.*, 183: 19-28, 2008.
- 002 **Li ZF, Wu X, Jiang Y, Liu J, Wu C, Inagaki M, Izawa I, Mizisin AP, Engvall E, Shelton GD:** Non-pathogenic protein aggregates in skeletal muscle in MLF1 transgenic mice. *J. Neurol. Sci.*, 264: 77-86, 2008.
- 003 **Toyo-oka K, Mori D, Yano Y, Shiota M, Iwao H, Goto H, Inagaki M, Hiraiwa N, Muramatsu M, Wynshaw-Boris A, Yoshiki A, Hirotsune S:** Protein phosphatase 4 catalytic subunit regulates Cdk1 activity and microtubule organization via NDEL1 dephosphorylation. *J. Cell Biol.*, 180: 1133-1147, 2008.
- 004 **Izawa I, Nishizawa M, Hayashi Y, Inagaki M:** Palmitoylation of ERBIN is required for its plasma membrane localization. *Genes Cells*, 13: 691-701, 2008.
- 005 **Lin YM, Chen YR, Lin JR, Wang WJ, Inoko A, Inagaki M, Wu YC, Chen RH:** eIF3k regulates apoptosis in epithelial cells by releasing caspase 3 from keratin-containing inclusions. *J. Cell Sci.*, 121: 2382-2393, 2008.
- 006 **Yamashiro S, Yamakita Y, Totsukawa G, Goto H, Kaibuchi K, Ito M, Hartsborne DJ, Matsumura F:** Myosin phosphatase-targeting subunit 1 regulates mitosis by antagonizing polo-like kinase 1. *Dev. Cell*, 14: 787-797, 2008.
- 007 **Kasabara K, Nakayama Y, Yamaguchi N:** v-Src and c-Src, non-palmitoylated Src-family kinases, control lysosome distribution via Rab7 in an SH2 domain-dependent manner. *Cancer Lett.*, 262: 19-27, 2008.
- 008 **Kuga T, Hoshino M, Nakayama Y, Kasabara K, Ikeda K, Obata Y, Takabashi A, Higashiyama Y, Fukumoto Y, Yamaguchi N:** Role of Src-family kinases in formation of the cortical actin cap at the dorsal cell surface. *Exp. Cell Res.*, 314 : 2040-2054, 2008.
- 009 **Ikeda K, Nakayama Y, Togashi Y, Obata Y, Kuga T, Kasabara K, Fukumoto Y, Yamaguchi N:** Nuclear localization of Lyn tyrosine kinase mediated by inhibition of its kinase activity. *Exp. Cell Res.*, 314: 3392-3404, 2008.
- 010 **Aoyama J, Akazawa Y, Kasabara K, Higashiyama Y, Kikuchi I, Fukumoto Y, Saburi S, Nakayama Y, Fukuda MN, Yamaguchi N:** Nuclear localization of magphinsins, alternative splicing products of the human trophinin gene. *J. Cell Biochem.*, 103: 765-777, 2008.

- 011 *Obmuro-Matsuyama Y, Tatsu Y*: Photocontrolled cell adhesion on a surface functionalized with a caged arginine-glycine-aspartate peptide. *Angew. Chem. Int. Ed. Engl.*, 47: 7527-7579, 2008.
- 012 *Ikegami Y, Goto H, Kiyono T, Enomoto M, Kasabara K, Tomono Y, Tozawa K, Morita A, Kobri K, Inagaki, M*: Chk1 phosphorylation at Ser286 and Ser301 occurs with both stalled DNA replication and damage checkpoint stimulation. *Biochem. Biophys. Res. Commun.*, 377: 1227-1231, 2008.
- 013 *Obmuro-Matsuyama Y, Tatsu Y*: Synthesis and Property of Caged RGD Peptide. *Peptide Science*, M. Nomizu (Ed.), 407-408, 2008.

[和文総説、単行本等]

- 001 **後藤英仁、稲垣昌樹**：Close UP実験法 特定部位の翻訳後修飾を特異的に認識する。抗体作製法—抗リン酸化（ペプチド）抗体作製法, *実験医学*, 26巻, 18号, 2965-2972, 2008.
- 002 **猪子誠人**：デスモソームと消化器癌. *Surgery Frontier*, 15(1), 78-80, 2008.
- 003 **大室（松山）有紀、稲垣昌樹**：リン酸化抗体と細胞周期. *細胞工学*, Vol.28 No.1, 秀潤社: 50-51, 2009.
- 004 **笠原広介、後藤英仁**：リン酸化によるM期制御—染色体サイクル. *ゲノムの恒常性維持、継承とダイナミックス—* 正井久雄、升方久夫、釣本敏樹、仁木宏典、篠原彰編, *蛋白質核酸酵素*, 54巻, 4号, 441-446, 2009.